

宇治市  
男女共同参画に関する  
調査結果報告書

平成 27 年 9 月

宇治市



# 目次

## 第1章 市民意識・実態調査

調査の概要 .....	1
1 調査の目的 .....	1
2 調査対象 .....	1
3 調査期間 .....	1
4 調査方法 .....	1
5 回収状況 .....	1
6 調査の精度 .....	2
7 調査結果の表示方法 .....	2
調査結果の概要 .....	3
1 回答者属性 .....	3
2 男女共同参画の意識について .....	3
3 家庭での役割について .....	5
4 教育について .....	6
5 仕事について .....	6
6 地域社会での生活と活動について .....	9
7 ドメスティック・バイオレンスについて .....	10
8 セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）について .....	11
9 高齢化社会について .....	11
10 防災について .....	12
11 ワーク・ライフ・バランスについて .....	12
12 政策・方針決定の場への参画について .....	13
13 今後の取り組みについて .....	14

調査結果 .....	15
1 回答者属性 .....	15
2 男女共同参画の意識について .....	18
3 家庭での役割について .....	47
4 教育について .....	71
5 仕事について .....	73
6 地域社会での生活と活動について .....	105
7 ドメスティック・バイオレンスについて .....	109
8 セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）について .....	115
9 高齢化社会について .....	119
10 防災について .....	122
11 ワーク・ライフ・バランスについて .....	125
12 政策・方針決定の場への参画について .....	131
13 今後の取り組みについて .....	134
自由回答 .....	136

## 第2章 事業所調査

調査の概要 .....	140
1 調査の目的 .....	140
2 調査対象 .....	140
3 調査期間 .....	140
4 調査方法 .....	140
5 回収状況 .....	140
6 調査結果の表示方法 .....	140
調査結果の概要 .....	141
調査結果 .....	144
自由回答 .....	174

### 第3章 ワークショップ

ワークショップの概要 .....	175
------------------	-----

ワークショップの意見 .....	175
------------------	-----

### 調査票

市民意識・実態調査 .....	179
-----------------	-----

事業所調査 .....	195
-------------	-----

# 第1章 市民意識・実態調査

## 調査の概要

### 1 調査の目的

宇治市男女共同参画計画（第3次UJIあさぎりプラン）に次ぐ新計画策定の基礎資料とするため実施しました。

### 2 調査対象

市民意識調査：宇治市在住の16歳以上の市民から無作為抽出

### 3 調査期間

平成27年3月19日から平成27年4月2日

### 4 調査方法

郵送による配布・回収

### 5 回収状況

	配布数	回収数	有効回収数	有効回収率
市民意識調査	4,000通	1,760通	1,754通	43.9%

## 6 調査の精度

本調査は抽出調査であるため、調査結果から母集団(宇治市在住の 16 歳以上の男女)の意向を推定する必要があります。調査結果の信頼度 95%レベルにおける信頼区間を主な標本測定値について求めると、下表のとおりとなります。この表から、例えば本調査のある回答選択肢に対して 50%の人が回答している場合、信頼区間の 1/2 幅が 2.4%であるので、100 回調査すると 95 回までは 47.6%~52.4%の間の回答が得られるということです。信頼区間の幅が最も大きい場合でも ± 2.4%にすぎないので、母集団の意向を把握する場合の精度は高いといえます。

信頼度 95%における標本測定値(%)の信頼区間 1/2 幅を求める公式

$$2 \times \sqrt{\frac{N - n}{N - 1} \times \frac{P(100 - P)}{n}}$$

N : 母集団 (16 歳以上の男女 162,376 人)  
 n : 標本数 (1,754 人)  
 P : 標本測定値 (%)

信頼度 95%における標本測定値(%)の信頼区間の 1/2 幅

標本測定値 (%)	信頼区間の 1/2 幅 (%)
50%	2.37%
60% 40%	2.33%
70% 30%	2.18%
80% 20%	1.90%
90% 10%	1.42%

## 7 調査結果の表示方法

- ・ 回答は各質問の回答者数 (N) を基数とした百分率 (%) で示してあります。また、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、内訳の合計が 100.0%にならない場合があります。
- ・ 複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が 100.0%を超える場合があります。
- ・ クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計(全体)の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。

# 調査結果の概要

## 1 回答者属性

女性の割合が 53.9%、男性の割合が 45.0%となっています。

## 2 男女共同参画の意識について

### (1) 性別役割分担意識

----「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」は40.1%----

夫は外で働き、妻は家庭を守るべきであるという考え方について、「どちらかといえば賛成」が 31.0%で最も多く、「賛成」とあわせると 40.1%になっています。

性別では、「どちらかといえば賛成」と「賛成」をあわせると女性は 35.5%、男性は 46.1%となっており、女性、男性ともに全国値よりも下回っています。

年代別では、70 歳代において「反対」と「どちらかといえば反対」をあわせると、4 割以下となっており、70 歳代以上では「どちらかといえば賛成」が最も多くなっています。

### (2) 各分野における男女の地位の平等感

----男女の平等感は「学校教育の場」では63.6%、「政治の場」で13.8%----

「家庭生活」「職場」「地域」「学校教育の場」「政治の場」「法律や制度の上」「社会通念・慣習・しきたりなど」の 7 つの分野において、男女の地位の平等感を尋ねたところ、「学校教育の場」が 63.6%と最も多く、「政治の場」が 13.8%と最も少なくなっています。なお、平成 22 年に実施した前回調査では、「社会通念・慣習」が最も少なくなっています。分野ごとにみると「地域」「政治の場」「法律や制度の上」で、「平等になっている」と感じる割合が、前回調査よりも下回っています。

各分野での「平等になっている」と感じる割合は、「家庭生活」が 31.6%、「職場」が 19.4%、「地域」が 46.2%、「法律や制度の上」が 34.1%、「社会通念・慣習・しきたりなど」が 15.0%となっています。

### (3) 社会全体における男女の地位の平等感

----男女の平等感は全体で15.2%、女性は11.4%、男性は19.6%----

社会全体における男女の地位の平等感を性別で比較すると、女性よりも男性の方が 8.2 ポイント多くなっています。

内閣府の世論調査（平成 24 年）と比較すると、宇治市の女性は 8.4 ポイント、男性は 10.4 ポイント、平等感が低くなっています。

#### ( 4 ) 相談窓口の周知度

----宇治市男女共同参画支援センターは26.8%、京都府男女共同参画センターは11.5%----

宇治市男女共同参画支援センターの周知度は、女性が 32.9%、男性が 19.6%と女性の方が男性よりも多くなっています。

京都府男女共同参画センターの周知度は、女性が 12.6%、男性が 10.3%と女性の方が男性よりも若干多くなっています。

#### ( 5 ) 男女共同参画に関する用語の認知度

----「内容まで知っている」が、「ドメスティック・バイオレンス」で62.8%、「第3次UJIあさぎりプラン」で1.0%----

男女共同参画に関する用語を 11 項目抽出し、それらの認知度を「内容まで知っている」「言葉を見たり聞いたりしたことはある」「全く知らない」の 3 段階で回答を求めたところ、「内容まで知っている」に関して回答割合が多い順で並べると、1 位「ドメスティック・バイオレンス(DV)」が 62.8%、2 位「モラル・ハラスメント」が 45.4%、3 位「男女雇用機会均等法」が 34.0%、4 位「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」が 14.7%、5 位「ジェンダー」が 14.6%、6 位「男女共同参画社会」が 9.4%、7 位「女子差別撤廃条約」が 6.0%、8 位「ポジティブ・アクション(積極的改善措置)」が 4.4%、9 位「男女共同参画社会基本法」が 4.3%、10 位「宇治市男女生き生きまちづくり条例」が 1.2%、11 位「第3次UJIあさぎりプラン」が 1.0%となっています。

#### ( 6 ) 5 年前からの進捗度

----“前進した”が、「政策・方針決定の過程への女性の進出」「市の女性の健康保持に関する支援」で2割以上----

5 年前から「前進した」「どちらかといえば前進した」を合わせた“前進した”の割合が「政策・方針決定の過程への女性の進出」が 20.2%、「市の女性の健康保持に関する支援」が 27.0%と 2 割以上となっています。一方で、「ワーク・ライフ・バランスの実現」が 9.9%と 1 割以下となっています。

### 3 家庭での役割について

#### (1) 役割分担の実態

----家事を担う女性が多く、生活費の確保や家庭における重要な決定では男性が多い----

「食事のしたく」「食事のあとかたづけ」「洗濯」「掃除」「日常の買い物」「育児」「介護」「地域における活動」「生活費の確保」「日常の家計管理」「家庭における重要な決定」の11つの項目について、家庭内の誰が主に行っているかの回答を求めたところ、「生活費の確保」「家庭における重要な決定」以外の項目において「主として妻(母)」の割合が最も多くなっています。

各項目の「主として妻(母)」の割合は、「食事のしたく」が83.2%、「食事のあとかたづけ」が70.5%、「洗濯」が80.8%、「掃除」が67.4%、「日常の買い物」が66.9%、「育児」が58.2%、「介護」が35.5%、「地域における活動」が42.3%、「生活費の確保」が9.9%、「日常の家計管理」が71.7%、「家庭における重要な決定」が10.5%となっています。

#### (2) 役割分担の理想

----「育児」「地域における活動」で「夫(父)と妻(母)で分担」が5割以上----

「食事のしたく」「食事のあとかたづけ」「洗濯」「掃除」「日常の買い物」「育児」「介護」「地域における活動」「生活費の確保」「日常の家計管理」「家庭における重要な決定」の11つの項目について、家庭内の誰がその役割をするのが理想かの回答を求めたところ、「育児」「地域における活動」の項目において「夫(父)と妻(母)で分担」の割合が特に多くなっています。

各項目の「夫(父)と妻(母)で分担」の割合は、「食事のしたく」が31.1%、「食事のあとかたづけ」が38.3%、「洗濯」が29.8%、「掃除」が39.6%、「日常の買い物」が40.6%、「育児」が54.0%、「介護」が42.7%、「地域における活動」が50.9%、「生活費の確保」が39.7%、「日常の家計管理」が37.6%、「家庭における重要な決定」が44.0%となっています。

#### (3) 理想の役割分担の理由

----理想の役割分担の理由としては、「男女がともに仕事をしている場合は、家族で役割分担すればよい」が51.3% ---

理想の役割分担の理由では「男女がともに仕事をしている場合は、家族で役割分担すればよい」が51.3%で最も多く、次いで「家庭内の仕事は、就業の有無にかかわらず家族で協力すればよいから」が46.8%となっています。

## 4 教育について

### (1) 学校教育の場における男女共同参画を推進するための方法

----「多様な選択を可能にする進路指導を実施する」が48.6%----

「多様な選択を可能にする進路指導を実施する」が最も多く、次いで「男女共同参画社会づくりに向けての教育を充実する」と「教員に男女共同参画社会づくりに向けた研修を実施する」がつづいています。

## 5 仕事について

### (1) 女性が仕事をする事について

----「結婚・出産にかかわらず仕事を続ける方がよい」が増加----

全体では、「出産後は一時家庭に入り、育児が終われば再び仕事に就く方がよい」が41.8%で最も多く、次いで「結婚・出産にかかわらず仕事を続ける方がよい」が28.2%、「結婚するまでは、仕事に就く方がよい」が5.9%となっています。

性別では、女性は「出産後は一時家庭に入り、育児が終われば再び仕事に就く方がよい」が40.1%で最も多く、次いで「結婚・出産にかかわらず仕事を続ける方がよい」が30.7%、「結婚するまでは、仕事に就く方がよい」が4.8%となっています。男性は「出産後は一時家庭に入り、育児が終われば再び仕事に就く方がよい」が44.0%で最も多く、次いで「結婚・出産にかかわらず仕事を続ける方がよい」が25.9%、「結婚するまでは仕事に就く方がよい」が7.1%となっています。

前回調査と比較すると、女性、男性ともに「結婚・出産にかかわらず仕事を続ける方がよい」が増加しています。

### (2) 働く目的について

----女性、男性ともに「生活費を得るため」が最も多い----

女性、男性ともに、「生活費を得るため」が最も多く、次いで「将来にそなえて貯蓄するため」、「自由でゆとりある生活をするため」となっています。

性別による差が大きいものは、「生活費を得るため」、「働くことで視野を広げるため」の順となっています。

### (3) 仕事上の男女格差

#### ----男女平等と感じる割合が上昇----

「採用・募集」「仕事内容」「給与・賃金」「昇格・降格」「能力・成果の評価」「研修・訓練の機会」「勤務時間」「福利厚生」「解雇」「再雇用」の10項目について、職場での男女のどちらが優遇されているか、また、男女平等となっているか回答を求めました。「男女平等」に関して回答割合が多い順で並べると、1位「福利厚生」が51.2%、2位「研修・訓練の機会」46.5%、3位「勤務時間」44.3%、4位「解雇」41.5%、5位「採用・募集」37.5%、6位「能力・成果の評価」35.3%、7位「仕事内容」34.9%、8位「再雇用」33.6%、9位「給与・賃金」33.3%、10位「昇格・降格」25.1%となっています。

性別で比較すると、女性と男性の差が最も大きい項目は「解雇」で14.6ポイント、最も小さい項目は「勤務時間」の1.4ポイントとなっています。

### (4) 仕事と家庭が両立するための要件

#### ----女性は「家族の積極的な支援や協力」が1位、男性は「家庭や職場における両立の考え方の浸透」が1位----

全体では、「家族の積極的な支援や協力」が32.0%で最も多く、次いで「家庭や職場における両立の考え方の浸透」が30.5%、「労働環境の整備」が21.3%となっています。

性別では、女性は「家族の積極的な支援や協力」が37.3%で最も多く、次いで「家庭や職場における両立の考え方の浸透」が29.2%、「労働環境の整備」が15.9%となっています。男性は「家庭や職場における両立の考え方の浸透」が32.1%で最も多く、次いで「労働環境の整備」が27.9%、「家族の積極的な支援や協力」が25.5%となっています。

### (5) 育児休業・介護休業の取得状況

#### ----育児休業・介護休業の取得状況は依然として停滞----

育児休業の取得状況では、「制度の対象になったことがない」が47.4%で最も多く、次いで「育児休業取得が必要となったことがない」が28.3%、「制度を利用したかったが、利用できなかった」が5.8%となっています。

性別では、女性は「制度を利用したことがある」が8.7%、「制度を利用したかったが、利用できなかった」が5.0%、男性は「制度を利用したことがある」が1.6%、「制度を利用したかったが、利用できなかった」が7.0%となっています。

男性よりも女性の方が「制度を利用したことがある」において多くなっています。

介護休業の取得状況では、「介護休業取得が必要となったことがない」が44.9%で最も多く、次いで「制度の対象になったことがない」が35.0%、「制度を利用したかったが、利用できなかった」が4.4%となっています。

性別では、女性は「制度を利用したことがある」が2.4%、「制度を利用したかったが、利用できなかった」が4.4%、男性は「制度を利用したことがある」が1.8%、「制度を利用したかったが、利用できなかった」が4.3%となっています。

#### (6) 育児休業・介護休業の取得が少ない理由

----「職場において取得しにくい状況があるから」が約7割----

女性、男性ともに「職場において取得しにくい状況があるから」が最も多く、「育児休業、介護休業制度が一般的に浸透していないから」と「収入が減るなど、経済的な理由から」がつづいています。

#### (7) 男性が育児休業・介護休業を取得することについて

----育児休業では62.7%、介護休業では71.4%が休業を取得した方がよいと回答----

男性の育児休業取得については、「積極的に取った方がよい」が29.5%、「どちらかといえば取った方がよい」が33.2%で、あわせて62.7%となっています。

性別では、女性は「どちらかといえば取った方がよい」が34.2%で最も多く、次いで「積極的に取った方がよい」が28.6%となっています。男性は「どちらかといえば取った方がよい」が32.1%で最も多く、次いで「積極的に取った方がよい」が30.3%となっています。

前回調査と比較すると、男性で「積極的に取った方がよい」が増加しています。

男性の介護休業取得については、「積極的に取った方がよい」が37.2%、「どちらかといえば取った方がよい」が34.2%で、あわせて71.4%となっています。

性別では、女性、男性ともに「積極的に取った方がよい」が37.0%で最も多く、次いで「どちらかといえば取った方がよい」となっています。

前回調査と比較すると、育児休業取得と同様、男性で「積極的に取った方がよい」が増加しています。

## 6 地域社会での生活と活動について

### (1) 地域活動への参加の実態・意向

----地域活動への参加意向は女性が53.2%、男性が55.3%----

地域活動への参加状況をみると「過去に参加したことがある」が41.3%で最も多く、次いで「参加したことがない」が29.6%、「現在、参加している」が25.5%となっています。

性別では、女性は「過去に参加したことがある」が43.2%、男性は「過去に参加したことがある」が39.3%となっており性別による大きな違いはみられません。

地域活動への参加意向をみると「今後も参加したい(現在参加している)」が28.7%で最も多く、次いで「今後は参加したい」が25.3%「地域活動への関心はない」が24.6%となっています。

性別では、女性は「今後は参加したい」と「今後も参加したい(現在参加している)」をあわせると53.2%、男性では55.3%となっており、男性の方が若干、参加意向が高くなっています。

### (2) 地域活動に参加する際の支障

----女性、男性ともに「仕事が忙しいこと」が1位----

全体では、「仕事が忙しいこと」が34.2%で最も多く、次いで「健康・体力に自信がないこと」が25.4%、「活動情報がないこと」が22.1%となっています。

性別では、女性は「仕事が忙しいこと」が29.0%で最も多く、次いで「健康・体力に自信がないこと」が26.8%、「活動情報がないこと」が19.9%となっています。男性は「仕事が忙しいこと」が40.8%で最も多く、次いで「活動情報がないこと」が24.6%、「健康・体力に自信がないこと」が23.3%となっています。

性別による差が大きいものは、「家事・育児・介護が忙しいこと」、「仕事が忙しいこと」、「活動場所がないこと」の順となっています。

### (3) 地域での男女格差の有無

----「会議や行事などで女性が飲食の準備や後片付けをすることが多い」が29.5%----

女性は「特にない」が47.0%で最も多く、次いで「会議や行事などで女性が飲食の準備や後片付けをすることが多い」が29.3%、「会議や行事などで女性が意見を言いにくい、意見が取り上げてもらいにくい状況がある」が5.9%となっています。男性は「特にない」が47.0%で最も多く、次いで「会議や行事などで女性が飲食の準備や後片付けをすることが多い」が29.9%、「会議や行事などで女性が意見を言いにくい、意見が取り上げてもらいにくい状況がある」が7.1%となっています。

## 7 ドメスティック・バイオレンスについて

### (1) ドメスティック・バイオレンスを受けた経験

----女性の20.6%はドメスティック・バイオレンスを受けた経験がある----

全体では、「DVの被害経験がない」が75.9%で最も多く、次いで「DVの被害経験がある」が16.0%となっています。

性別では、女性は「DVの被害経験がない」が72.9%で最も多く、次いで「DVの被害経験がある」が20.6%となっています。男性は「DVの被害経験がない」が80.1%で最も多く、次いで「DVの被害経験がある」が10.0%となっています。

### (2) ドメスティック・バイオレンスを受けたときの相談相手と理由

----「誰にも話さず、相談していない」が41.1%、「公的機関に相談した」は7.1%----

相談相手は、「家族・親族に相談した」が35.0%、「同僚や友人に相談した」が29.6%、「公的機関に相談した」が7.1%となっています。

「誰にも話さず、相談していない」は41.1%となっており、相談していない理由としては「相談しても無駄だと思ったから」「相談するほどのことではないと思ったから」が37.4%で最も高く、「人に知られたくないから」が31.3%となっています。

性別では、女性は「人に知られたくないから」が40.8%で最も多く、男性は「相談するほどのことではないと思ったから」が46.3%で最も多くなっています。

### (3) ドメスティック・バイオレンスの防止、解決のための対策

----女性、男性ともに「警察など関係機関と連携した相談体制の充実」----

女性は「警察など関係機関と連携した相談体制の充実」が41.5%で最も多く、次いで「公的相談窓口の強化」が37.9%、「緊急避難施設・一時保護施設の充実」が35.0%となっています。男性は「警察など関係機関と連携した相談体制の充実」が43.0%で最も多く、次いで「当事者同士がよく話し合い理解を深める」が42.1%、「公的相談窓口の強化」が35.7%となっています。

性別による差が大きいものは、「当事者同士がよく話し合い理解を深める」、「緊急避難施設・一時保護施設の充実」、「被害者支援のカウンセラーやサポーターの育成」の順となっています。

## 8 セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）について

### （1）セクシュアル・ハラスメントを受けた経験

----女性の36.8%、男性の18.9%がセクハラを受けた経験----

全体では、「身体に触る」が34.1%で最も多く、次いで「身体的な特徴を言う」が32.0%、「わいせつな話をする」が25.4%となっています。

性別では、女性は「身体に触る」が43.4%で最も多く、次いで「身体的な特徴を言う」が32.8%、「わいせつな話をする」が29.6%となっています。男性は「男女間のうわさをたてる」が30.9%で最も多く、次いで「身体的な特徴を言う」が28.9%、「「おじさん」「おばさん」「ちゃん」などと呼ぶ」が26.2%となっています。

### （2）セクシュアル・ハラスメントの原因と対策

----原因では「セクハラをしているという自覚の欠如」、対策では「セクハラに関する法的整備」の充実----

セクシュアル・ハラスメントの原因では、女性、男性ともに「セクハラをしているという自覚の欠如」が最も多く、「人権尊重意識の欠如」と「地位や権限の悪用」がつづいています。

セクシュアル・ハラスメントの対策では、女性、男性ともに「セクハラに関する法的整備の充実」が最も多く、「職場や地域での学習会の開催」と「相談窓口の充実」がつづいています。

## 9 高齢化社会について

### （1）高齢期に望む生活

----「自分に合った趣味や好きなことをして生き生きと暮らしたい」が、女性60.9%、男性56.4%----

全体では、「自分に合った趣味や好きなことをして生き生きと暮らしたい」が58.8%で最も多く、次いで「旅行に行くなど、第二の人生を楽しみたい」が31.5%、「できる限り長く仕事を続けたい」が21.3%となっています。

性別では、女性は「自分に合った趣味や好きなことをして生き生きと暮らしたい」が60.9%で最も多く、次いで「旅行に行くなど、第二の人生を楽しみたい」が35.4%となっています。男性は「自分に合った趣味や好きなことをして生き生きと暮らしたい」が56.4%で最も多く、次いで「旅行に行くなど、第二の人生を楽しみたい」が27.5%、「できる限り長く仕事を続けたい」が26.1%となっています。

## (2) 介護が必要になったときの望む暮らし方

----女性**は「病院・介護施設等で」、男性は「自宅で、配偶者・パートナーに」**----

全体では、「病院・介護施設等で」が43.8%で最も多く、次いで「自宅で、配偶者・パートナーに」が37.0%、「自宅で、ヘルパーなどに」が27.8%となっています。

女性は「病院・介護施設等で」が45.5%で最も多く、次いで「自宅で、ヘルパーなどに」が31.6%、「自宅で、配偶者・パートナーに」が30.9%となっています。男性は「自宅で、配偶者・パートナーに」が44.6%で最も多く、次いで「病院・介護施設等で」が42.0%、「自宅で、ヘルパーなどに」が23.4%となっています。

「自宅で、配偶者・パートナーに」は、男性の方が女性よりも13.7ポイント多くなっています。

## 10 防災について

### (1) 防災・災害復興対策における性別に配慮した対応について

----女性、男性ともに**「避難所の設備（男女別のトイレ、更衣室、洗たく干し場等）」**----

防災・災害復興対策において性別に配慮した対応が必要かについて、全体では、「思う」が63.7%で最も多く、次いで「どちらともいえない」が12.5%、「思わない」が6.6%となっています。

必要だと思う対策について、全体では「避難所の設備（男女別のトイレ、更衣室、洗たく干し場等）」が86.1%で最も多く、次いで「災害時の救援医療体制（乳幼児、高齢者、障害のある人、妊産婦へのサポート事業）」が53.1%、「避難所の設計・運営に男女がともに参画し、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること」が32.2%となっています。

## 11 ワーク・ライフ・バランスについて

### (1) 仕事、家庭生活、地域・個人の生活の優先度について

----女性**は「家庭生活を優先している」、男性は「仕事を優先している」**----

全体では、「家庭生活を優先している」が25.4%と最も多く、次いで「仕事を優先している」が21.1%、「仕事と家庭生活を両立している」が17.7%となっています。

性別では、女性は「家庭生活を優先している」が32.1%と最も多く、次いで「仕事と家庭生活を両立している」が19.8%、「仕事を優先している」が11.5%となっています。男性は「仕事を優先している」が33.0%で最も多く、次いで「家庭生活を優先している」が17.4%、「仕事と家庭生活を両立している」が15.1%となっています。

## (2) 仕事、家庭生活、地域・個人の生活の優先度での希望について

---- 女性は「家庭生活を優先したい」、男性は「仕事と家庭生活を両立したい」----

全体では、「家庭生活を優先したい」が24.0%と最も多く、次いで「仕事と家庭生活を両立したい」が22.1%、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活全てを並立させたい」が15.2%となっています。

性別では、女性は「家庭生活を優先したい」が26.7%と最も多く、次いで「仕事と家庭生活を両立したい」が20.5%、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活全てを並立させたい」が17.0%となっています。男性は「仕事と家庭生活を両立したい」が24.3%で最も多く、次いで「家庭生活を優先したい」が20.5%、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活全てを並立させたい」が13.1%となっています。

## 12 政策・方針決定の場への参画について

### (1) 政策・方針決定における女性の意見の反映について

---- 反映されていると「思う」は女性で5.3%、男性で8.9%----

全体では、「思う」が7.0%、「思わない」が7.4%、「わからない」が59.1%、「どちらともいえない」が22.3%となっています。

女性は「わからない」が60.4%で最も多く、次いで「どちらともいえない」が22.7%、「思わない」が7.4%となっています。男性は「わからない」が57.9%で最も多く、次いで「どちらともいえない」が22.1%、「思う」が8.9%となっています。

### (2) 政策・方針決定の過程に女性の参画が少ない理由

---- 「男性中心の組織運営」が5割----

女性、男性ともに「男性中心の組織運営」が最も多くなっています。次いで「女性の社会参画に対する施策が不十分」となっています。

性別による差が大きいものは、「女性自身の積極性が不十分」、「政策や方針決定に参画できる場所が少ない」の順となっています。

### (3) 政策・方針決定の場への参画意向

---- 「思う」「思わない」ともに減少----

全体では、「どちらともいえない」が30.4%で最も多く、次いで「思わない」が26.9%、「思う」が18.0%となっています。

性別では、女性は「どちらともいえない」が31.6%で最も多く、次いで「思わない」が28.4%、「思う」が12.4%となっています。男性は「どちらともいえない」が29.0%で最も多く、次いで「思わない」が25.5%、「思う」が24.5%となっています。

性別で比較すると、「思う」においては男性が女性よりも 12.1 ポイント多く、「思わない」においては女性が男性よりも 2.9 ポイント多くなっています。

前回調査と比較すると、「思う」において女性は 5.3 ポイント、男性は 7.1 ポイント減少し、「思わない」において女性は 4.8 ポイント、男性は 0.4 ポイント減少しています。

### 13 今後の取り組みについて

#### (1) 男女共同参画のまちづくりを推進するために必要な行政施策

##### ----女性、男性ともに「介護・看護サービスの充実」----

全体では、「介護・看護サービスの充実」が 52.2%で最も多く、次いで「男女平等や男女共同参画に関する教育・啓発」が 43.8%、「保育サービスの充実」が 39.7%となっています。

性別では、女性は「介護・看護サービスの充実」が 53.1%で最も多く、次いで「保育サービスの充実」が 43.1%、「雇用における男女の格差是正の推進」が 34.6%となっています。男性は「介護・看護サービスの充実」が 51.7%で最も多く、次いで「男女平等や男女共同参画に関する教育・啓発」が 49.0%、「保育サービスの充実」が 35.9%となっています。

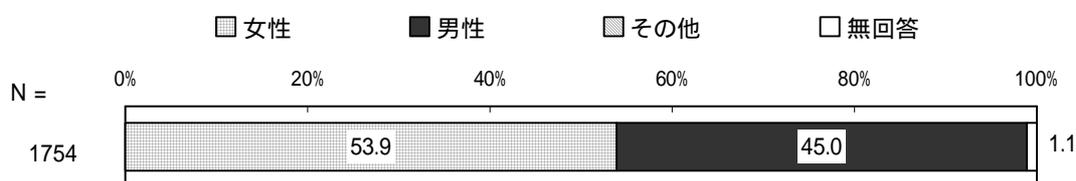
性別による差が大きいものは、「男女平等や男女共同参画に関する教育・啓発」、「保育サービスの充実」、「学童保育の充実」の順となっています。

# 調査結果

## 1 回答者属性

問1 あなたの性別をお書きください。

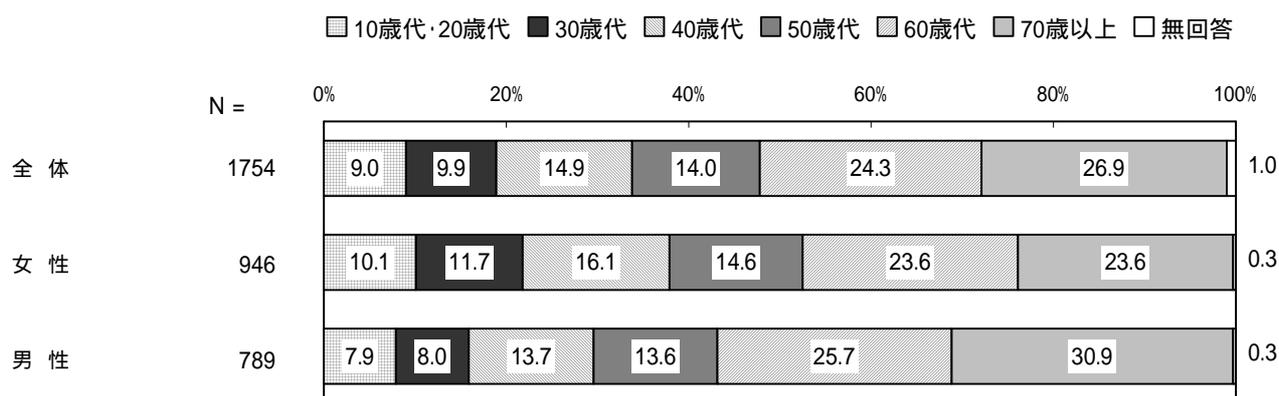
「女性」の割合が53.9%、「男性」の割合が45.0%となっています。



問2 あなたの年齢をお書きください。

「70歳以上」の割合が26.9%と最も高く、次いで「60歳代」の割合が24.3%、「40歳代」の割合が14.9%となっています。

性別でみると、女性に比べ、男性で「70歳以上」の割合が高くなっています。

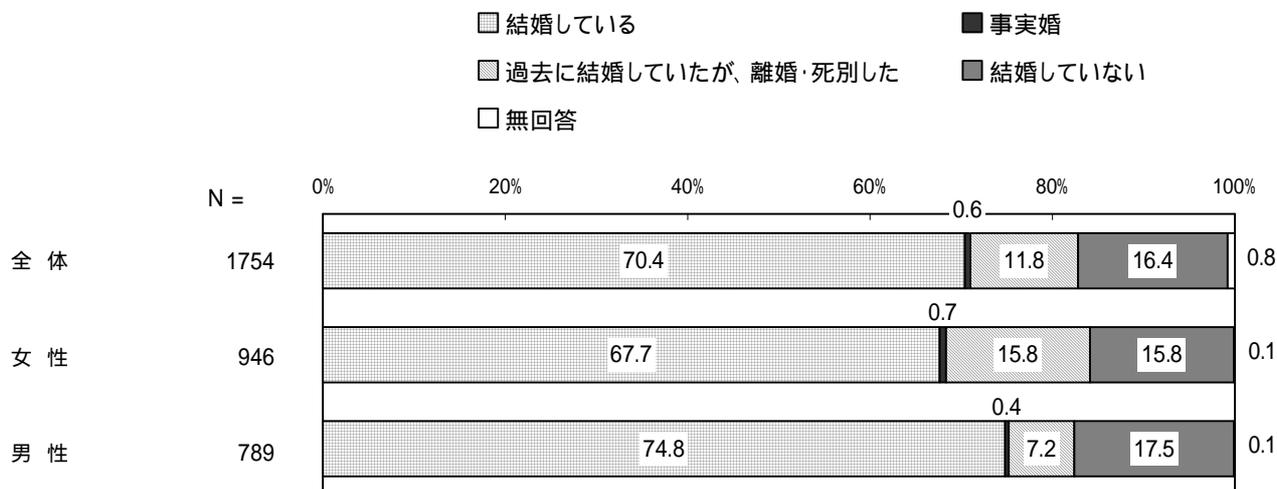


	全体	10歳代・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答
全体	100.0% 1754人	9.0% 158人	9.9% 174人	14.9% 262人	14.0% 245人	24.3% 427人	26.9% 471人	1.0% 17人
女性	100.0% 946人	10.1% 96人	11.7% 111人	16.1% 152人	14.6% 138人	23.6% 223人	23.6% 223人	0.3% 3人
男性	100.0% 789人	7.9% 62人	8.0% 63人	13.7% 108人	13.6% 107人	25.7% 203人	30.9% 244人	0.3% 2人

**問3 あなたの現在の配偶関係。(1つ選んでください)**

「結婚している」の割合が70.4%と最も高く、次いで「結婚していない」の割合が16.4%、「過去に結婚していたが、離婚・死別した」の割合が11.8%となっています。

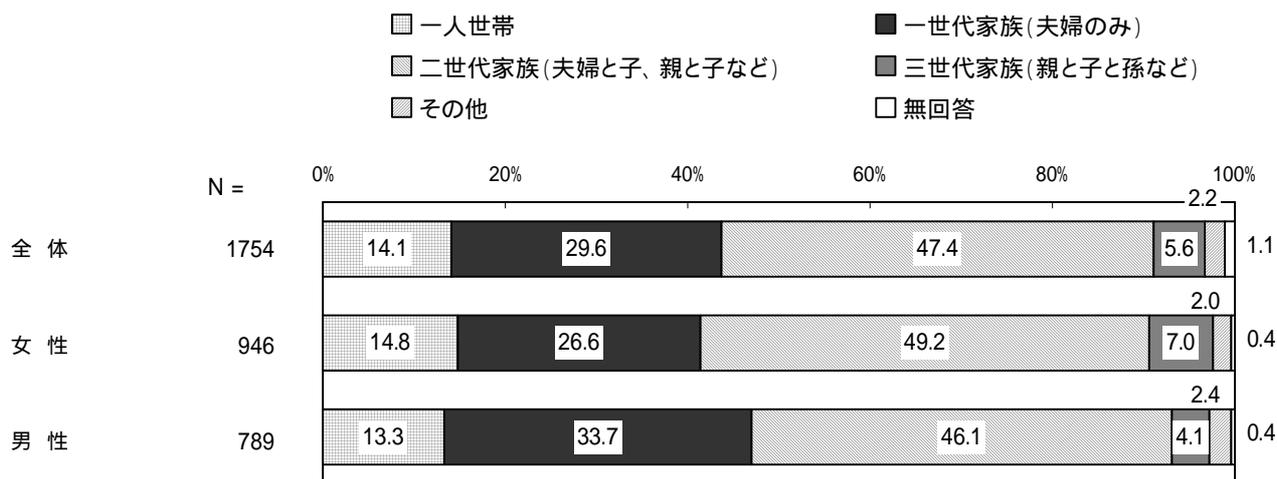
性別でみると、女性に比べ、男性で「結婚している」の割合が高くなっています。



**問4 あなたの家族構成。(1つ選んでください)**

「二世世代家族(夫婦と子、親と子など)」の割合が47.4%と最も高く、次いで「一世代家族(夫婦のみ)」の割合が29.6%、「一人世帯」の割合が14.1%となっています。

性別でみると、女性に比べ、男性で「一世代家族(夫婦のみ)」の割合が高くなっています。

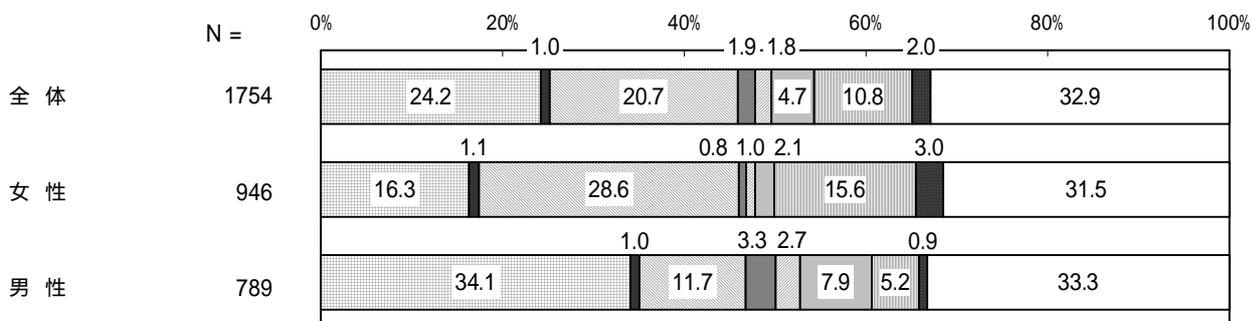


問5 あなたの職業は何ですか。(複数の場合は主なものを1つ選んでください)

「正規の職員・従業員(雇われている人)」の割合が24.2%と最も高く、次いで「パート・アルバイト・その他(雇われている人)」の割合が20.7%、「家族従業者」の割合が10.8%となっています。

性別で見ると、女性に比べ、男性で「正規の職員・従業員(雇われている人)」の割合が高く、「パート・アルバイト・その他(雇われている人)」「家族従業者」の割合が低くなっています。

- 正規の職員・従業員(雇われている人)
- 労働者派遣事業所の派遣社員(雇われている人)
- パート・アルバイト・その他(雇われている人)
- 会社などの役員
- 自営業主(雇い人あり)
- 自営業主(雇い人なし)
- 家族従業者
- 家庭内の賃仕事(内職)
- 無回答

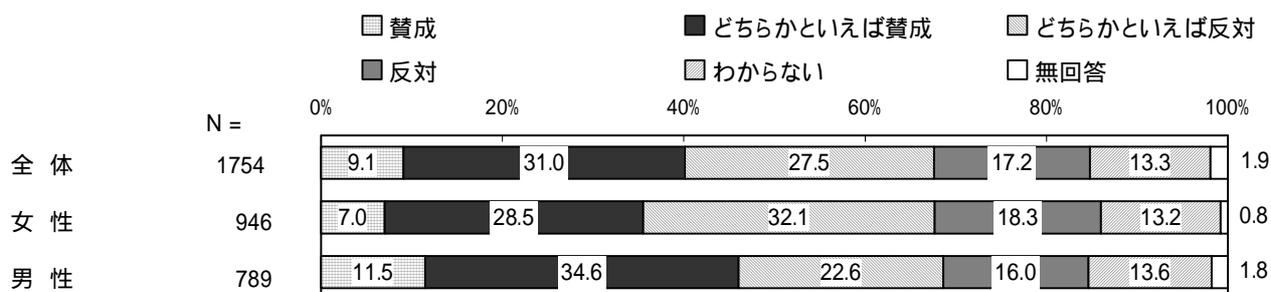


## 2 男女共同参画の意識について

問6 あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、どのように考えますか。(1つ選んでください)

「賛成」と「どちらかといえば賛成」をあわせた“賛成”の割合が40.1%、「反対」と「どちらかといえば反対」をあわせた“反対”の割合が44.7%となっています。

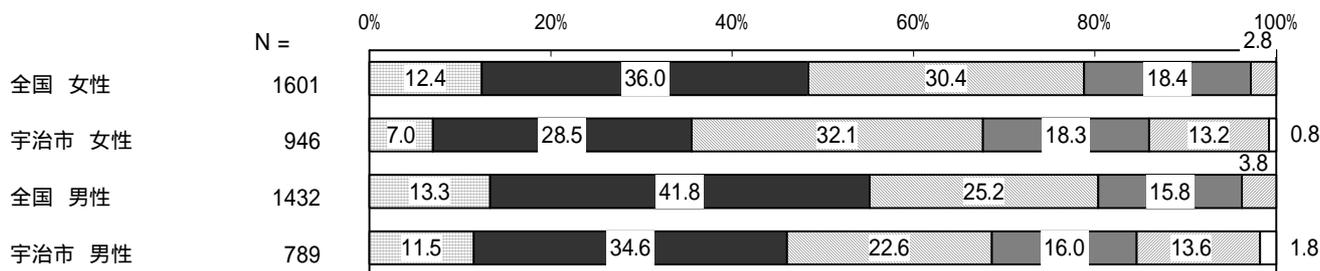
性別でみると、女性に比べ、男性で“賛成”の割合が高くなっています。



### 【内閣府調査(平成24年)】

内閣府調査と比較すると、“賛成”の割合が低くなっています。

性別でみると、女性、男性ともに“賛成”の割合が低くなっています。



### 【年代別】

年代別でみると、10歳代・20歳代、30歳代、50歳代で「反対」と「どちらかといえば反対」をあわせた“反対”の割合が高く、5割を超えています。

単位：%

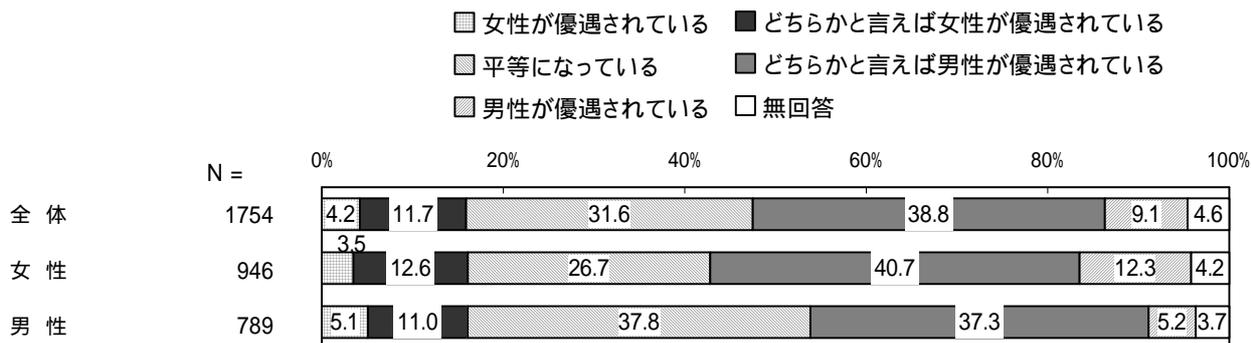
区分	有効回答数(件)	賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	わからない	無回答
全体	1754	9.1	31.0	27.5	17.2	13.3	1.9
10歳代・20歳代	158	6.3	22.8	32.3	18.4	19.6	0.6
30歳代	174	3.4	27.6	32.2	19.5	17.2	0.0
40歳代	262	5.0	32.4	29.0	13.0	20.2	0.4
50歳代	245	4.1	30.2	28.6	23.3	13.5	0.4
60歳代	427	9.8	29.3	29.3	19.2	9.6	2.8
70歳以上	471	16.6	37.4	21.7	13.8	9.3	1.3

問7 あなたは次の ~ で、男女の地位は平等になっていると思いますか。あなたの考えに最も近いものをお答えください。(それぞれ1つ選んでください)

家庭生活

“男性が優遇されている”の割合が47.9%、「平等になっている」の割合が31.6%、“女性が優遇されている”の割合が15.9%となっています。

性別でみると、男性に比べ、女性で「平等になっている」の割合が低く、“男性が優遇されている”の割合が高くなっています。



【平成22年調査】

平成22年調査と比較すると、大きな差異はみられません。



【年代別】

年代別でみると、すべての年代で“男性が優遇されている”の割合が高くなっており、40歳代、60歳代では5割を超えています。

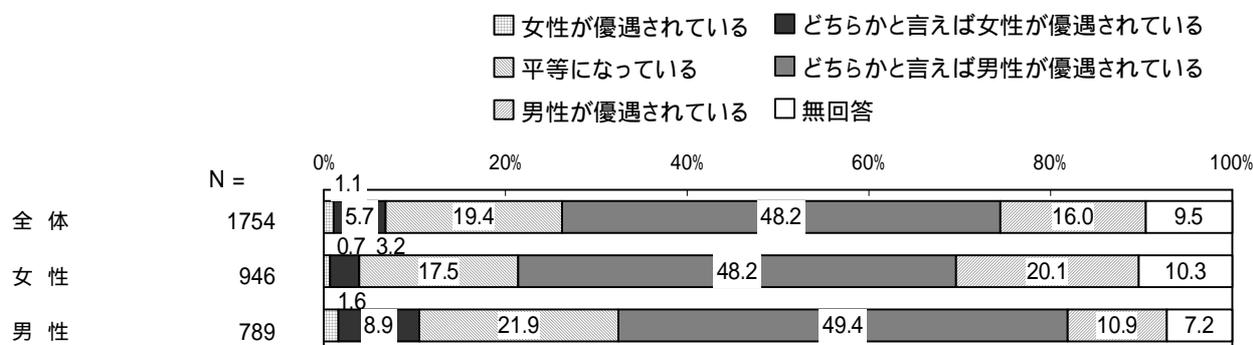
単位：%

区分	有効回答数	女性が優遇されている	どちらかと言えば女性が優遇されている	平等になっている	どちらかと言えば男性が優遇されている	男性が優遇されている	無回答
全体	1754	4.2	11.7	31.6	38.8	9.1	4.6
10歳代・20歳代	158	3.2	22.8	41.1	25.3	5.7	1.9
30歳代	174	5.2	15.5	31.6	39.1	7.5	1.1
40歳代	262	7.3	11.8	28.6	38.9	11.1	2.3
50歳代	245	4.9	14.7	27.8	37.6	11.4	3.7
60歳代	427	2.8	8.4	30.0	44.3	11.0	3.5
70歳以上	471	3.4	8.5	34.6	39.5	7.2	6.8

## 職場

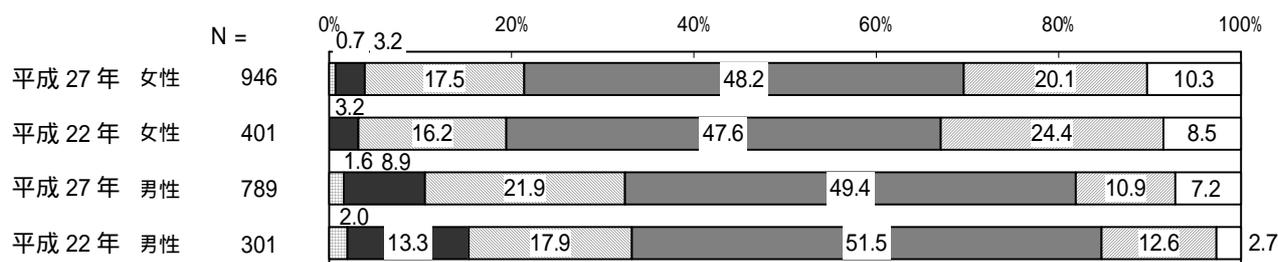
“ 男性が優遇されている ” の割合が 64.2%、「平等になっている」の割合が 19.4%、“ 女性が優遇されている ” の割合が 6.8%となっています。

性別で見ると、男性に比べ、女性で “ 男性が優遇されている ” の割合が高くなっています。また、男性で “ 女性が優遇されている ” の割合が高くなっています。



### 【平成 22 年調査】

平成 22 年調査と比較すると、大きな差異はみられません。



### 【年代別】

年代別で見ると、すべての年代で “ 男性が優遇されている ” の割合が高く、特に 30 歳代では 7 割を超えています。10 歳代・20 歳代では「平等になっている」の割合が高く、約 3 割となっています。

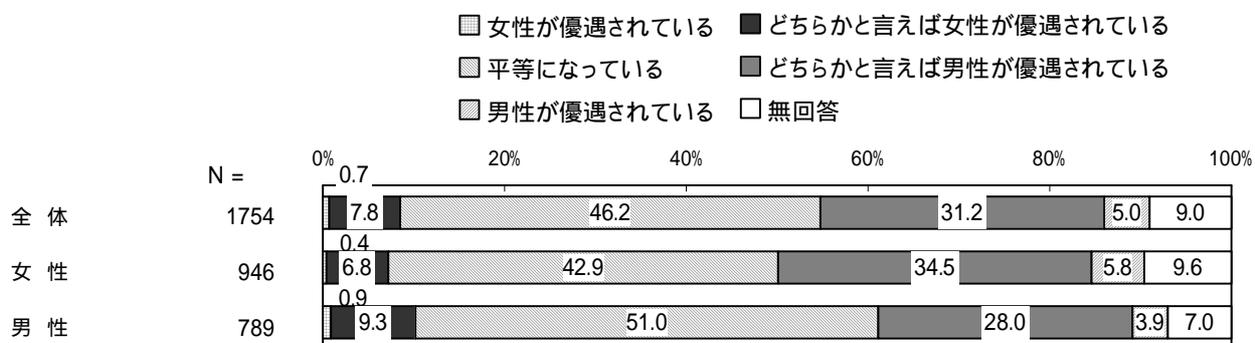
単位：%

区分	有効回答数(件)	女性が優遇されている	どちらかと言えば女性が優遇されている	平等になっている	どちらかと言えば男性が優遇されている	男性が優遇されている	無回答
全体	1754	1.1	5.7	19.4	48.2	16.0	9.5
10 歳代・20 歳代	158	0.6	7.0	32.9	41.1	15.2	3.2
30 歳代	174	2.3	8.0	18.4	51.1	20.1	0.0
40 歳代	262	1.5	10.7	17.9	50.0	16.8	3.1
50 歳代	245	2.0	6.1	22.0	45.3	20.8	3.7
60 歳代	427	0.5	3.5	19.2	51.8	16.2	8.9
70 歳以上	471	0.8	3.6	15.5	47.8	12.1	20.2

地域

「平等になっている」の割合が 46.2%、「男性が優遇されている」の割合が 36.2%、「女性が優遇されている」の割合が 8.5%となっています。

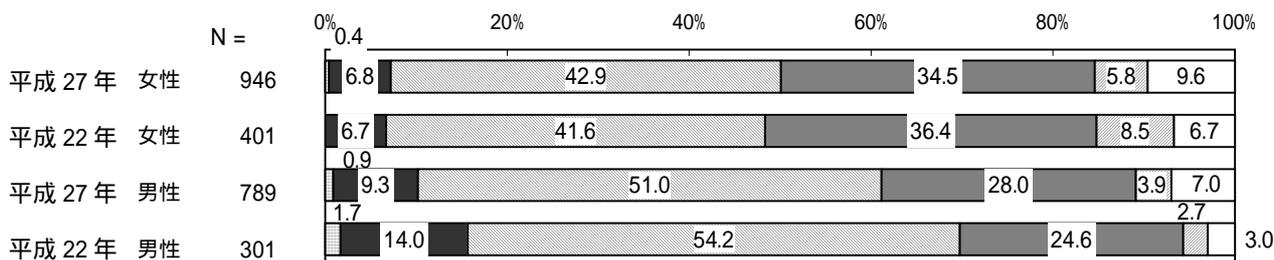
性別でみると、男性に比べ、女性で「男性が優遇されている」の割合が高くなっています。また、男性で「女性が優遇されている」の割合が高くなっています。



【平成 22 年調査】

平成 22 年調査と比較すると、大きな差異はみられません。

性別でみると、男性で「女性が優遇されている」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、年代が高くなるにつれ「男性が優遇されている」の割合が高くなる傾向となっています。一方、年齢が低くなるにつれ「平等になっている」の割合が高くなっています。

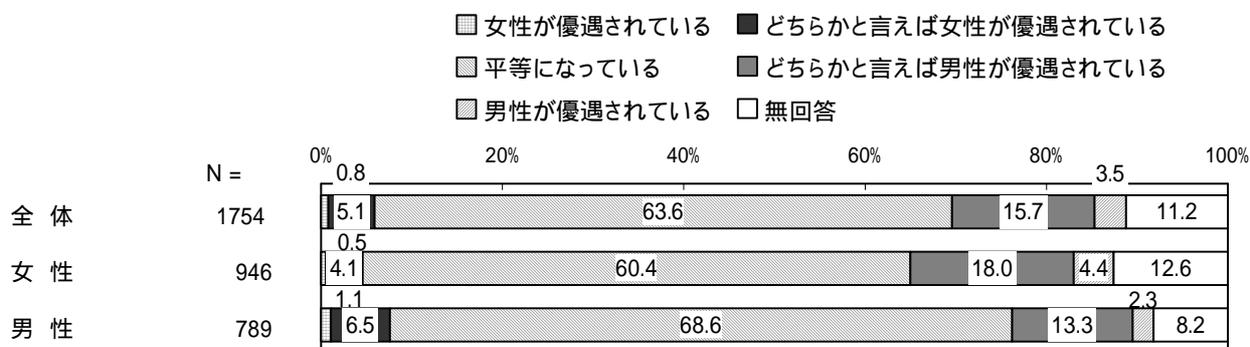
単位：%

区分	有効回答数(件)	女性が優遇されている	どちらかと言えば女性が優遇されている	平等になっている	どちらかと言えば男性が優遇されている	男性が優遇されている	無回答
全体	1754	0.7	7.8	46.2	31.2	5.0	9.0
10 歳代・20 歳代	158	0.0	13.9	66.5	12.0	5.1	2.5
30 歳代	174	1.1	8.6	55.7	30.5	0.6	3.4
40 歳代	262	1.9	13.0	48.1	29.4	4.2	3.4
50 歳代	245	0.0	6.9	43.3	33.1	10.6	6.1
60 歳代	427	0.2	4.9	44.3	39.1	4.2	7.3
70 歳以上	471	0.8	5.9	39.5	31.4	5.1	17.2

### 学校教育の場

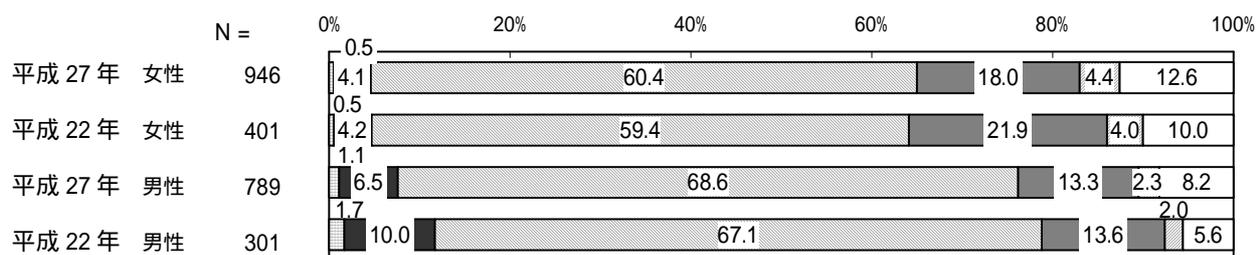
「平等になっている」の割合が 63.6%、「男性が優遇されている」の割合が 19.2%、「女性が優遇されている」の割合が 5.9%となっています。

性別でみると、男性に比べ、女性で「男性が優遇されている」の割合が高くなっています。また、男性で「平等になっている」の割合が高くなっています。



### 【平成 22 年調査】

平成 22 年調査と比較すると、大きな差異はみられません。



### 【年代別】

年代別でみると、50 歳代、60 歳代で「男性が優遇されている」の割合が高く、2 割半ばとなっています。また、年齢が低くなるにつれ「平等になっている」の割合が高くなっています。

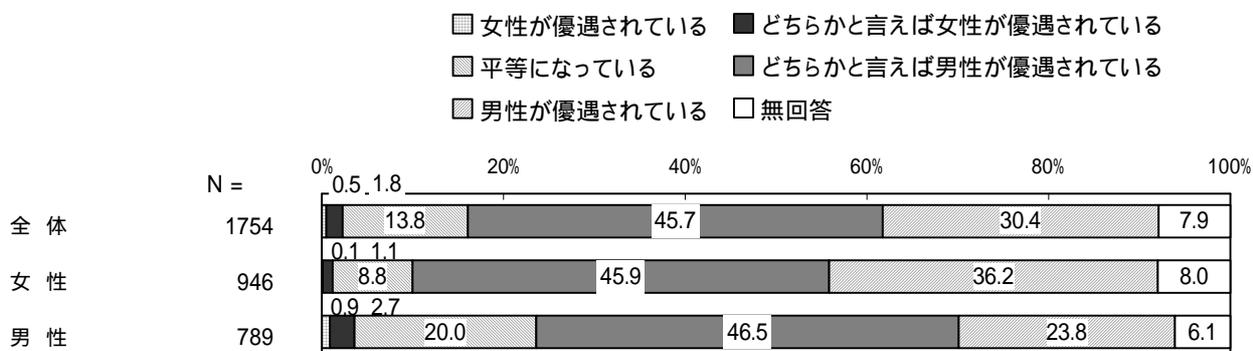
単位：%

区分	有効回答数(件)	女性が優遇されている	どちらかと言えば女性が優遇されている	平等になっている	どちらかと言えば男性が優遇されている	男性が優遇されている	無回答
全体	1754	0.8	5.1	63.6	15.7	3.5	11.2
10 歳代・20 歳代	158	2.5	10.1	74.1	8.9	3.8	0.6
30 歳代	174	0.6	6.9	77.0	11.5	0.6	3.4
40 歳代	262	1.1	5.3	73.7	13.4	1.9	4.6
50 歳代	245	0.4	4.5	66.9	19.2	4.1	4.9
60 歳代	427	0.7	4.2	58.5	20.6	4.7	11.2
70 歳以上	471	0.4	4.0	54.1	14.9	4.2	22.3

## 政治の場

“男性が優遇されている”の割合が76.1%、「平等になっている」の割合が13.8%、“女性が優遇されている”の割合が2.3%となっています。

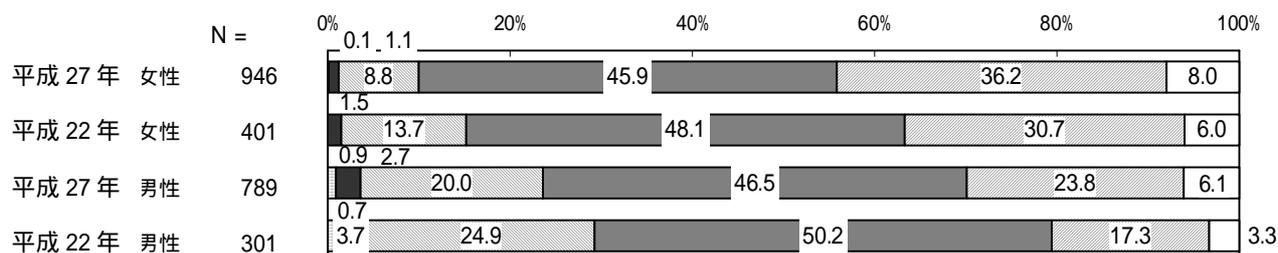
性別でみると、男性に比べ、女性で“男性が優遇されている”の割合が高くなっています。また、男性で「平等になっている」の割合が高くなっています。



## 【平成22年調査】

平成22年調査と比較すると、「平等」の割合が低くなっています。

性別でみると、大きな差異はみられません。



## 【年代別】

年代別でみると、70歳以上以外で“男性が優遇されている”の割合が高く、7割を超えています。

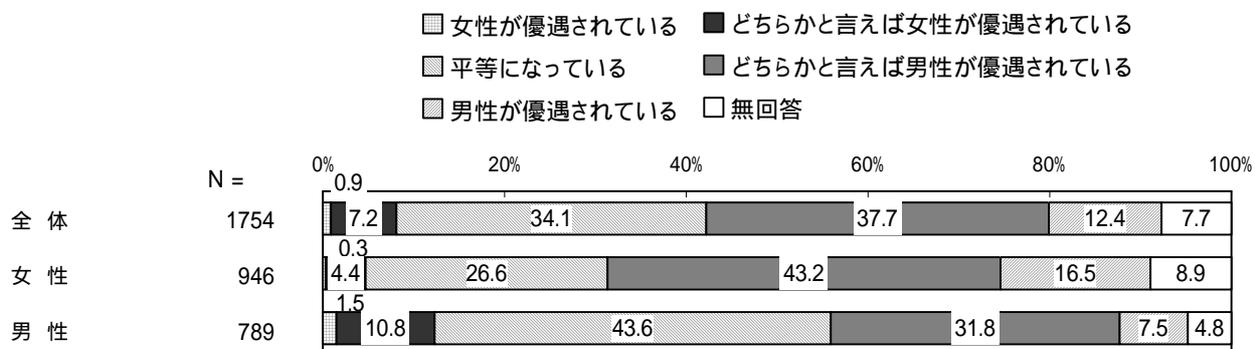
単位：%

区分	有効回答数(件)	女性が優遇されている	どちらかと言えば女性が優遇されている	平等になっている	どちらかと言えば男性が優遇されている	男性が優遇されている	無回答
全体	1754	0.5	1.8	13.8	45.7	30.4	7.9
10歳代・20歳代	158	1.3	1.3	9.5	50.6	34.2	3.2
30歳代	174	0.6	1.1	10.3	53.4	33.3	1.1
40歳代	262	0.8	2.3	14.1	46.2	32.4	4.2
50歳代	245	0.0	2.4	15.1	42.0	38.0	2.4
60歳代	427	0.5	1.9	11.9	49.9	29.5	6.3
70歳以上	471	0.2	1.5	17.8	40.3	24.4	15.7

法律や制度の上

“男性が優遇されている”の割合が50.1%、「平等になっている」の割合が34.1%、“女性が優遇されている”の割合が8.1%となっています。

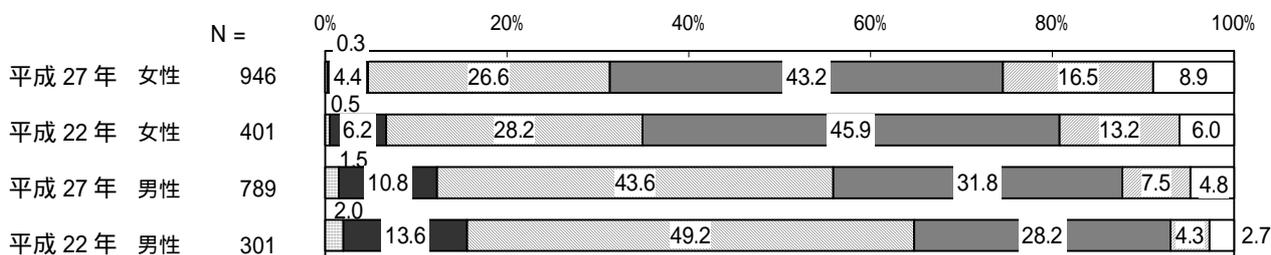
性別でみると、男性に比べ、女性で“男性が優遇されている”の割合が高くなっています。また、男性で「平等になっている」、「女性が優遇されている」の割合が高くなっています。



【平成22年調査】

平成22年調査と比較すると、大きな差異はみられません。

性別でみると、男性で「平等」の割合が低くなり、“男性が優遇されている”の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、30歳代～60歳代で“男性が優遇されている”の割合が高く、5割を超えています。

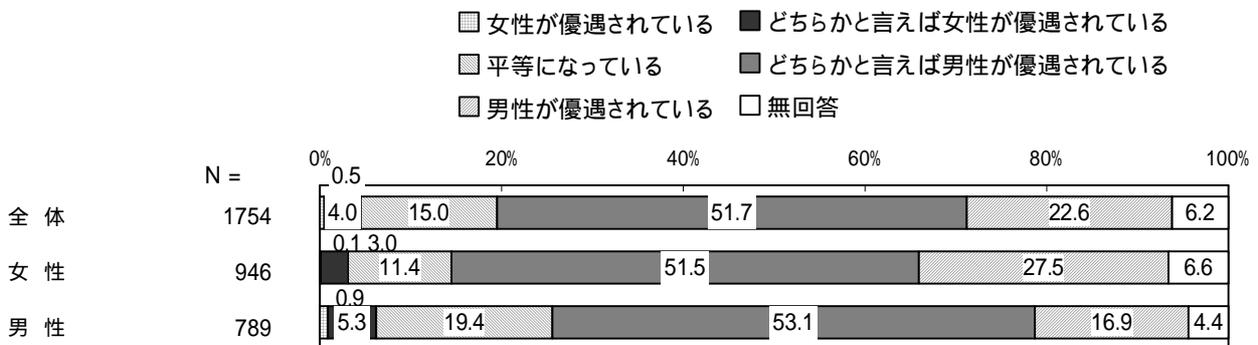
単位：%

区分	有効回答数(件)	女性が優遇されている	どちらかと言えば女性が優遇されている	平等になっている	どちらかと言えば男性が優遇されている	男性が優遇されている	無回答
全体	1754	0.9	7.2	34.1	37.7	12.4	7.7
10歳代・20歳代	158	3.2	15.2	39.2	28.5	13.3	0.6
30歳代	174	0.6	14.9	31.0	37.9	12.1	3.4
40歳代	262	1.1	9.5	30.5	43.9	11.5	3.4
50歳代	245	0.4	6.9	32.7	42.9	13.9	3.3
60歳代	427	0.7	4.4	33.7	42.2	13.1	5.9
70歳以上	471	0.4	3.4	37.8	31.4	11.5	15.5

社会通念・慣習・しきたりなど

“男性が優遇されている”の割合が74.3%、「平等になっている」の割合が15.0%、“女性が優遇されている”の割合が4.5%となっています。

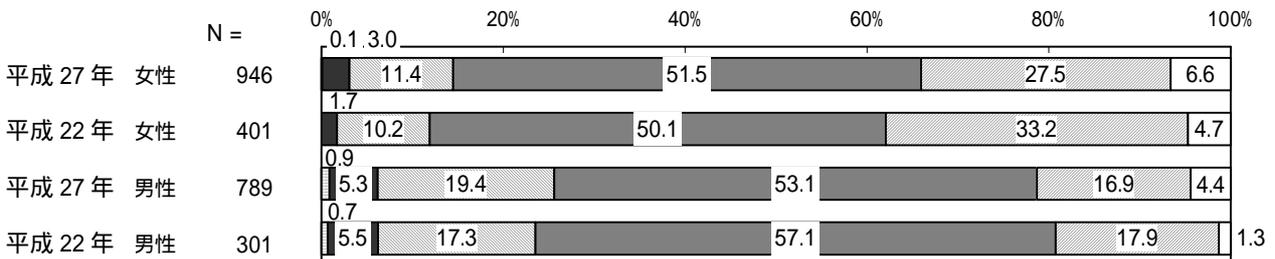
性別でみると、男性に比べ、女性で“男性が優遇されている”の割合が高くなっています。また、男性で「平等になっている」の割合が高くなっています。



【平成22年調査】

平成22年調査と比較すると、大きな差異はみられません。

性別でみると、男性で“男性が優遇されている”の割合が低くなっています。



【年代別】

年代別でみると、70歳以上以外で“男性が優遇されている”の割合が高く、7割を超えています。特に50歳代、60歳代では8割を超えています。

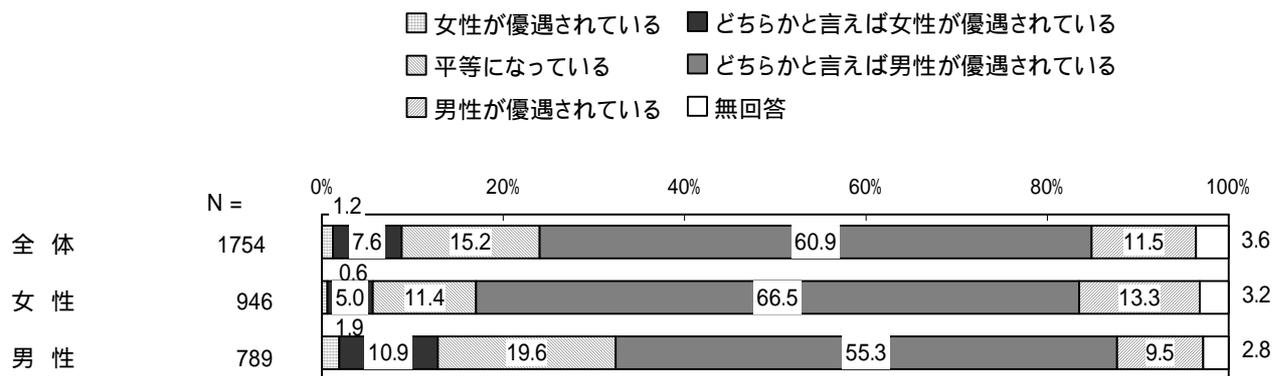
単位：%

区分	有効回答数(件)	女性が優遇されている	どちらかと言えば女性が優遇されている	平等になっている	どちらかと言えば男性が優遇されている	男性が優遇されている	無回答
全体	1754	0.5	4.0	15.0	51.7	22.6	6.2
10歳代・20歳代	158	1.9	7.6	19.0	54.4	15.8	1.3
30歳代	174	0.6	6.3	19.0	46.6	25.9	1.7
40歳代	262	0.4	3.8	14.9	53.8	24.0	3.1
50歳代	245	0.4	2.4	11.4	53.9	30.2	1.6
60歳代	427	0.0	2.8	11.7	53.4	27.4	4.7
70歳以上	471	0.4	3.8	17.4	50.5	15.1	12.7

問8 あなたは社会全体でみた場合には、男女の地位は平等になっていると思いますか。  
(1つ選んでください)

「どちらかと言えば男性が優遇されている」と「男性が優遇されている」をあわせた「男性が優遇されている」の割合が72.4%と最も高く、次いで「平等になっている」の割合が15.2%、「女性が優遇されている」と「どちらかと言えば女性が優遇されている」をあわせた「女性が優遇されている」の割合が8.8%となっています。

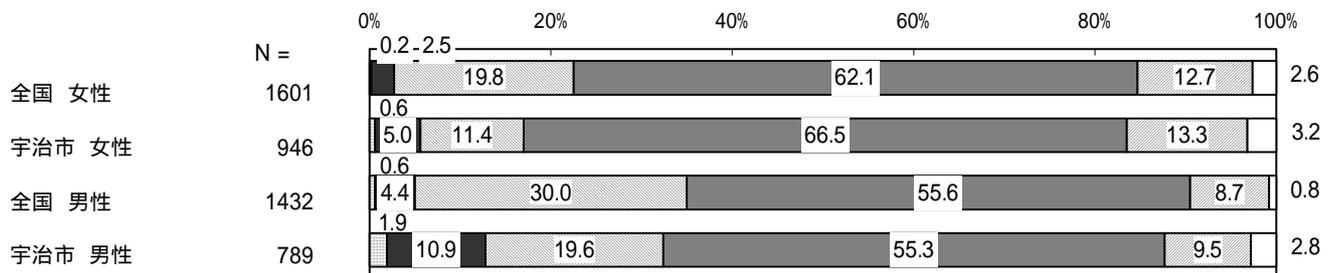
性別で見ると、男性に比べ、女性で「男性が優遇されている」の割合が高くなっています。また、男性で「平等になっている」、「女性が優遇されている」の割合が高くなっています。



【内閣府調査（平成24年）】

内閣府調査と比較すると、「女性が優遇されている」の割合が高くなっています。一方、「平等」の割合が低くなっています。

性別で見ると、女性で「男性が優遇されている」の割合が高くなっています。一方、「平等」の割合が低くなっています。男性で、「女性が優遇されている」の割合が高くなっています。一方、「平等」の割合が低くなっています。



【年代別】

年代別でみると、すべての年代で“男性が優遇されている”の割合が高くなっており6割を超えています。一方、年代が低くなるにつれ“女性が優遇されている”の割合が高くなっています。

単位：%

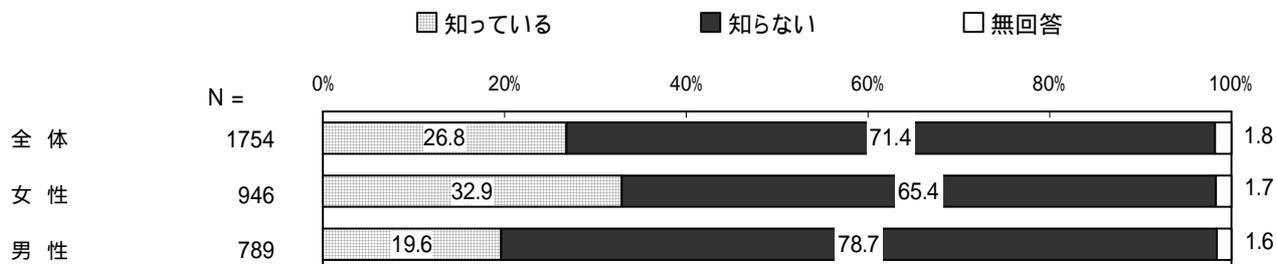
区分	有効回答数(件)	女性が優遇されている	どちらかと言えば女性が優遇されている	平等になっている	どちらかと言えば男性が優遇されている	男性が優遇されている	無回答
全体	1754	1.2	7.6	15.2	60.9	11.5	3.6
10歳代・20歳代	158	2.5	13.3	15.8	57.0	9.5	1.9
30歳代	174	3.4	8.6	13.8	62.6	9.8	1.7
40歳代	262	1.9	8.4	17.6	60.7	9.2	2.3
50歳代	245	0.8	6.5	13.5	62.0	14.7	2.4
60歳代	427	0.2	5.9	12.2	68.6	10.3	2.8
70歳以上	471	0.6	7.0	18.3	56.1	13.6	4.5

問9 あなたは次の2つの相談窓口についてご存知ですか。  
(それぞれ1つ選んでください)

宇治市男女共同参画支援センター（ゆめりあ うじ内）

「知っている」の割合が26.8%、「知らない」の割合が71.4%となっています。

性別でみると、女性に比べ、男性で「知らない」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、10歳代・20歳代で「知らない」の割合が高く、8割を超えています。

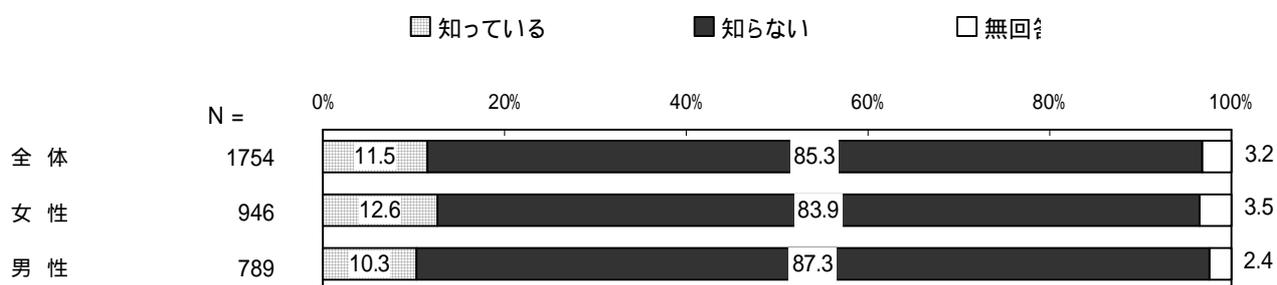
単位：%

区分	有効回答数(件)	知っている	知らない	無回答
全体	1754	26.8	71.4	1.8
10歳代・20歳代	158	13.3	86.7	0.0
30歳代	174	23.6	76.4	0.0
40歳代	262	28.2	71.4	0.4
50歳代	245	24.9	74.7	0.4
60歳代	427	29.3	68.6	2.1
70歳以上	471	31.0	65.4	3.6

京都府男女共同参画センター（京都テルサ内）

「知っている」の割合が11.5%、「知らない」の割合が85.3%となっています。

性別でみると、大きな差異はみられません。



【年代別】

年代別でみると、大きな差異はみられません。

単位：%

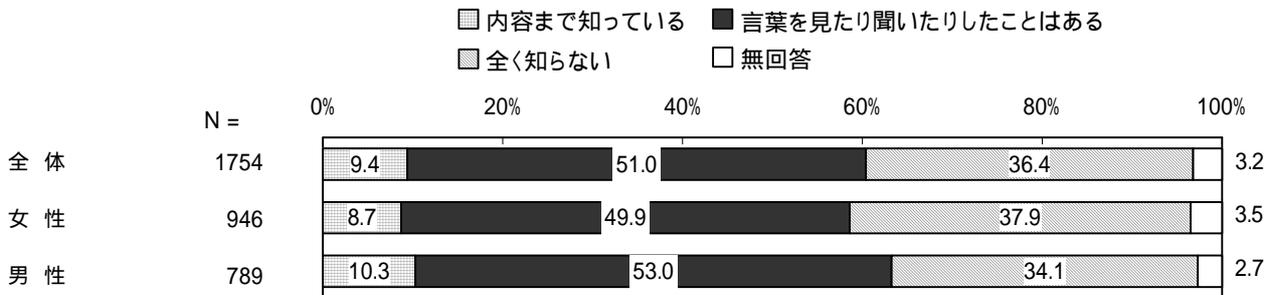
区分	有効回答数(件)	知っている	知らない	無回答
全体	1754	11.5	85.3	3.2
10歳代・20歳代	158	9.5	90.5	0.0
30歳代	174	9.2	90.8	0.0
40歳代	262	13.4	86.3	0.4
50歳代	245	13.5	86.1	0.4
60歳代	427	13.3	83.4	3.3
70歳以上	471	9.6	82.6	7.9

問 10 あなたは次の ~ の「ことば」や「事柄」についてご存知ですか。  
 (それぞれ1つ選んでください)

男女共同参画社会

「言葉を見たり聞いたりしたことはある」の割合が51.0%と最も高く、次いで「全く知らない」の割合が36.4%となっています。

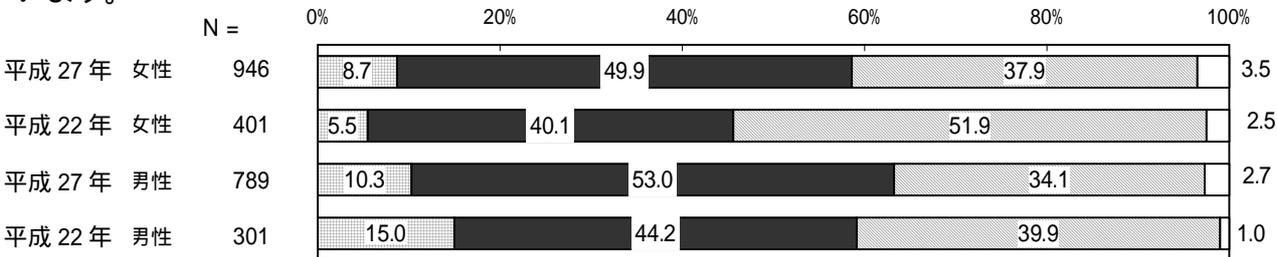
性別でみると、大きな差異はみられません。



【平成 22 年調査】

平成 22 年調査と比較すると、「言葉を見たり聞いたりしたことはある」の割合が高くなっています。一方、「全く知らない」の割合が低くなっています。

性別でみると、女性、男性とも「言葉を見たり聞いたりしたことはある」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、10 歳代・20 歳代で「内容まで知っている」の割合が高く 2 割を超えています。一方、30 歳代、40 歳代で「全く知らない」の割合が高く、4 割を超えています。

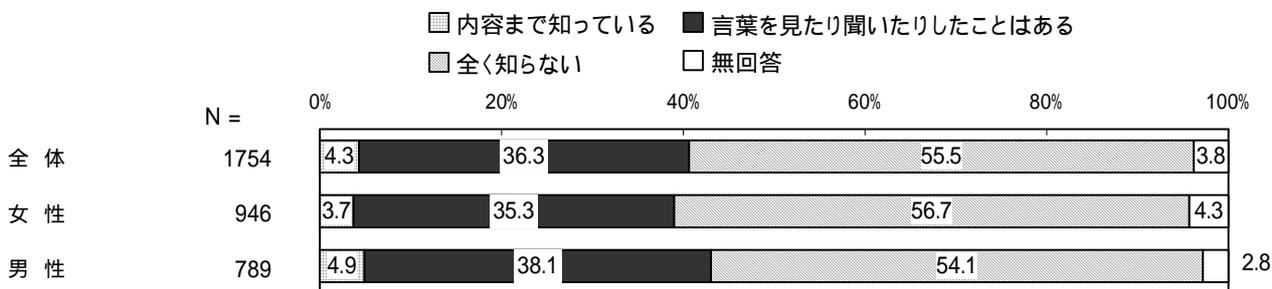
単位：%

区分	有効回答数 (件)	内容まで知っている	言葉を見たり聞いたりしたことはある	全く知らない	無回答
全体	1754	9.4	51.0	36.4	3.2
10 歳代・20 歳代	158	20.3	50.0	29.7	0.0
30 歳代	174	6.9	47.7	45.4	0.0
40 歳代	262	9.5	48.1	41.2	1.1
50 歳代	245	8.2	54.3	37.1	0.4
60 歳代	427	8.4	55.0	34.0	2.6
70 歳以上	471	8.3	49.9	33.8	8.1

男女共同参画社会基本法

「全く知らない」の割合が55.5%と最も高く、次いで「言葉を見たり聞いたりしたことはある」の割合が36.3%となっています。

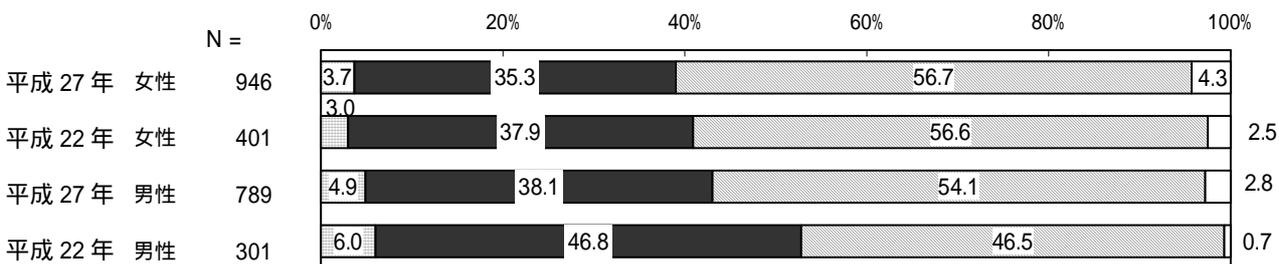
性別でみると、大きな差異はみられません。



【平成22年調査】

平成22年調査と比較すると、「言葉を見たり聞いたりしたことはある」の割合が低くなっています。

性別でみると、男性で「言葉を見たり聞いたりしたことはある」の割合が低くなっています。一方、「全く知らない」の割合が増加しています。



【年代別】

年代別でみると、10歳代・20歳代で「内容まで知っている」「言葉を見たり聞いたりしたことはある」の割合が高くなっています。

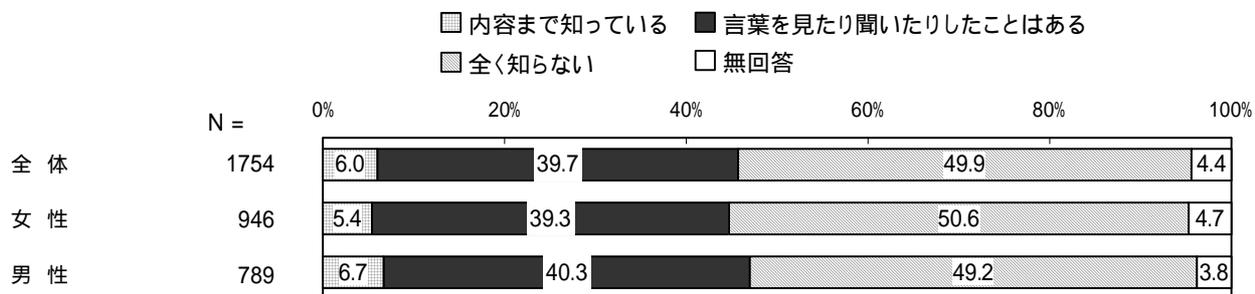
単位：%

区分	有効回答数(件)	内容まで知っている	言葉を見たり聞いたりしたことはある	全く知らない	無回答
全体	1754	4.3	36.3	55.5	3.8
10歳代・20歳代	158	13.3	53.2	33.5	0.0
30歳代	174	2.3	33.9	63.8	0.0
40歳代	262	3.1	34.0	61.8	1.1
50歳代	245	4.1	31.0	64.1	0.8
60歳代	427	3.3	40.3	53.9	2.6
70歳以上	471	3.8	33.1	53.1	10.0

女子差別撤廃条約

「全く知らない」の割合が49.9%と最も高く、次いで「言葉を見たり聞いたりしたことはある」の割合が39.7%となっています。

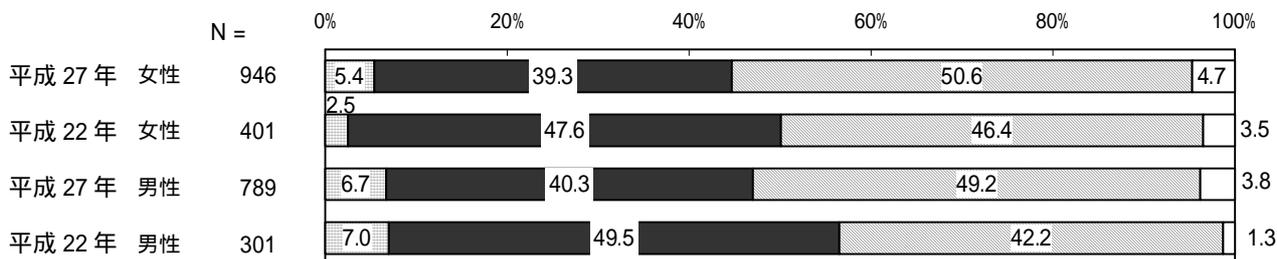
性別でみると、大きな差異はみられません。



【平成 22 年調査】

平成 22 年調査と比較すると、「言葉を見たり聞いたりしたことはある」の割合が低くなっています。一方、「全く知らない」の割合が高くなっています。

性別でみると、女性、男性とも「言葉を見たり聞いたりしたことはある」の割合が低くなっています。一方、男性で「全く知らない」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、10 歳代・20 歳代で「内容まで知っている」の割合が高く、1 割を超えています。一方、40 歳代で「全く知らない」の割合が高く、6 割を超えています。

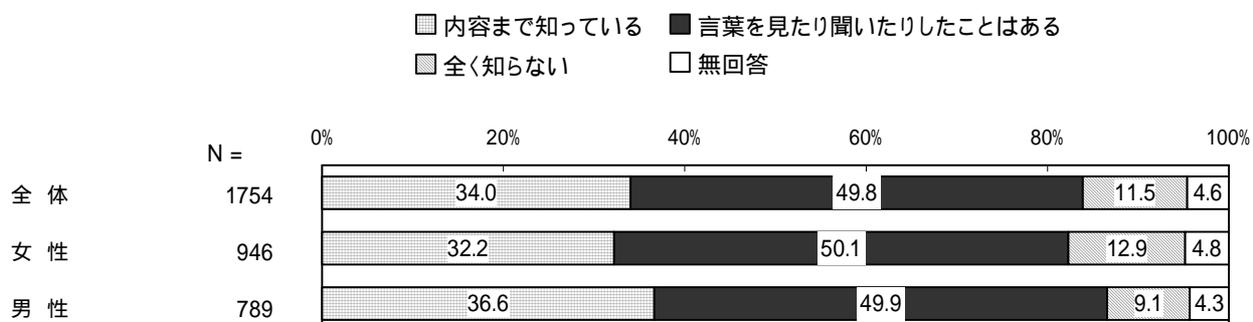
単位：%

区分	有効回答数(件)	内容まで知っている	言葉を見たり聞いたりしたことはある	全く知らない	無回答
全体	1754	6.0	39.7	49.9	4.4
10 歳代・20 歳代	158	15.2	46.2	38.6	0.0
30 歳代	174	4.0	41.4	54.6	0.0
40 歳代	262	4.6	31.3	61.8	2.3
50 歳代	245	4.5	35.5	58.8	1.2
60 歳代	427	6.3	44.3	46.4	3.0
70 歳以上	471	4.9	40.3	43.7	11.0

## 男女雇用機会均等法

「言葉を見たり聞いたりしたことはある」の割合が49.8%と最も高く、次いで「内容まで知っている」の割合が34.0%、「全く知らない」の割合が11.5%となっています。

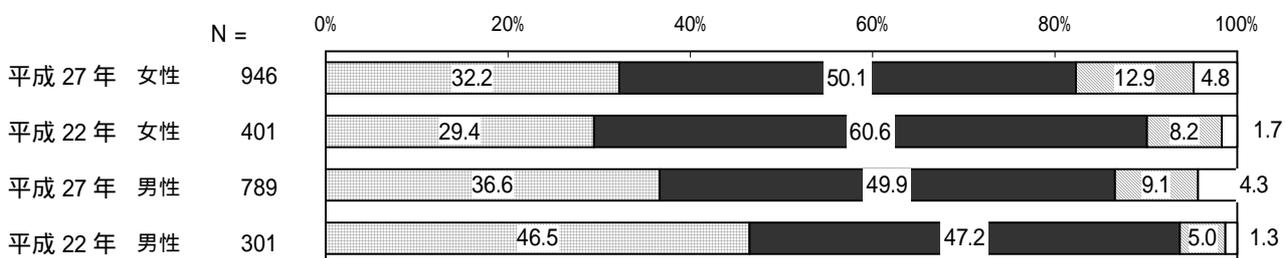
性別でみると、大きな差異はみられません。



### 【平成22年調査】

平成22年調査と比較すると、「言葉を見たり聞いたりしたことはある」の割合が低くなっています。

性別でみると、女性で「言葉を見たり聞いたりしたことはある」の割合が低くなっています。また、男性で「内容まで知っている」の割合が低くなっています。



### 【年代別】

年代別でみると、30歳代、40歳代で「内容まで知っている」の割合が高く、4割を超えています。

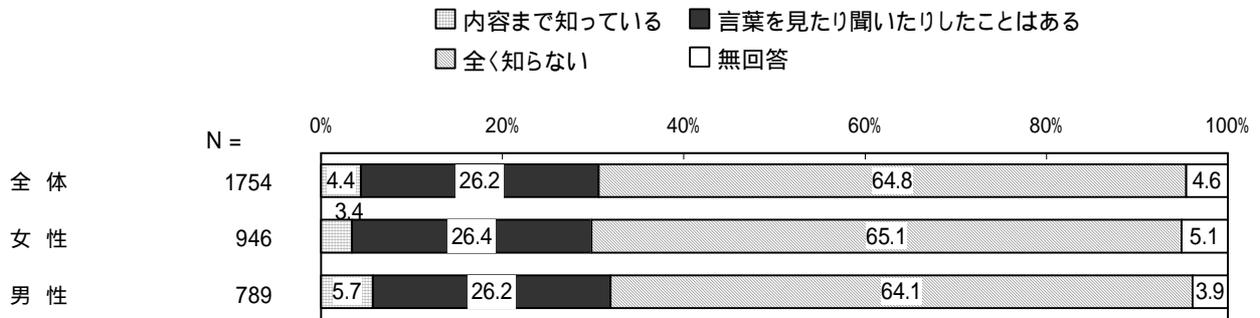
単位：%

区分	有効回答数 (件)	内容まで知 っている	言葉を見たり 聞いたことは ある	全く知らな い	無回答
全体	1754	34.0	49.8	11.5	4.6
10歳代・20歳代	158	35.4	48.7	15.2	0.6
30歳代	174	44.8	47.1	7.5	0.6
40歳代	262	42.4	44.7	10.7	2.3
50歳代	245	39.2	49.0	9.8	2.0
60歳代	427	36.3	51.3	9.1	3.3
70歳以上	471	20.8	53.5	14.9	10.8

ポジティブ・アクション（積極的改善措置）

「全く知らない」の割合が64.8%と最も高く、次いで「言葉を見たり聞いたりしたことはある」の割合が26.2%となっています。

性別でみると、大きな差異はみられません。



【年代別】

年代別でみると、10歳代・20歳代、30歳代で「全く知らない」の割合が高く、7割を超えています。

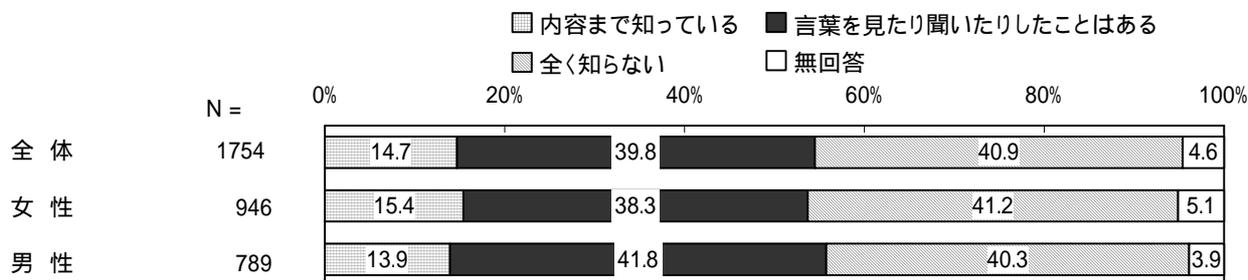
単位：%

区分	有効回答数(件)	内容まで知っている	言葉を見たり聞いたりしたことはある	全く知らない	無回答
全体	1754	4.4	26.2	64.8	4.6
10歳代・20歳代	158	3.8	20.9	74.7	0.6
30歳代	174	3.4	21.8	74.1	0.6
40歳代	262	5.3	26.0	67.6	1.1
50歳代	245	7.3	29.4	61.6	1.6
60歳代	427	4.2	30.7	62.1	3.0
70歳以上	471	3.2	24.0	61.1	11.7

### 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）

「全く知らない」の割合が40.9%と最も高く、次いで「言葉を見たり聞いたりしたことはある」の割合が39.8%、「内容まで知っている」の割合が14.7%となっています。

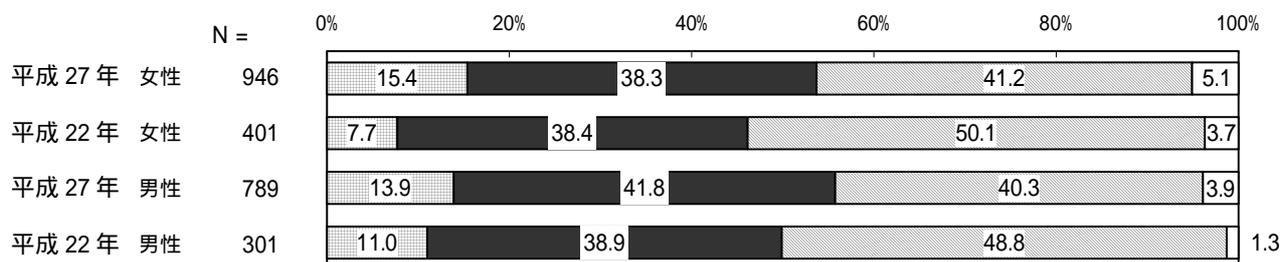
性別でみると、大きな差異はみられません。



### 【平成 22 年調査】

平成 22 年調査と比較すると、「内容まで知っている」の割合が高くなっており、「全く知らない」の割合が低くなっています。

性別でみると、女性で「内容まで知っている」の割合が高くなっており、「全く知らない」の割合が低くなっています。また、男性で「全く知らない」の割合が低くなっています。



### 【年代別】

年代別でみると、30 歳代で「内容まで知っている」の割合が高く、2 割半ばとなっています。

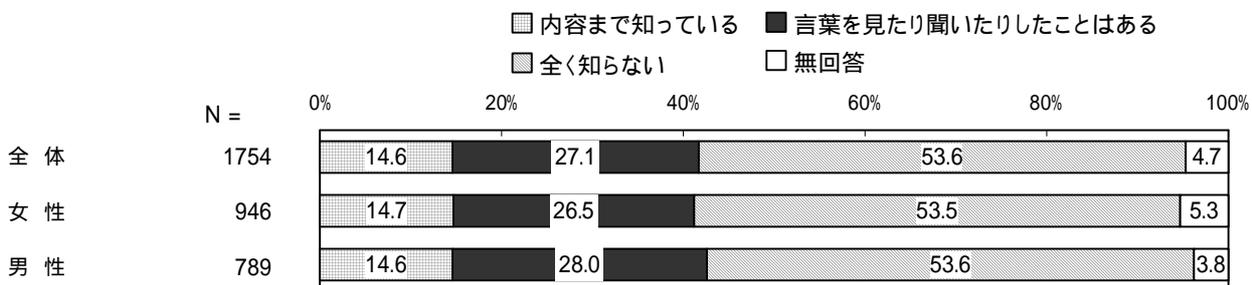
単位：%

区分	有効回答数(件)	内容まで知っている	言葉を見たり聞いたりしたことはある	全く知らない	無回答
全体	1754	14.7	39.8	40.9	4.6
10 歳代・20 歳代	158	20.9	31.6	46.8	0.6
30 歳代	174	25.3	34.5	40.2	0.0
40 歳代	262	21.8	36.6	40.5	1.1
50 歳代	245	20.0	36.7	41.6	1.6
60 歳代	427	10.8	47.8	37.9	3.5
70 歳以上	471	5.7	40.8	42.0	11.5

## ジェンダー

「全く知らない」の割合が53.6%と最も高く、次いで「言葉を見たり聞いたりしたことはある」の割合が27.1%、「内容まで知っている」の割合が14.6%となっています。

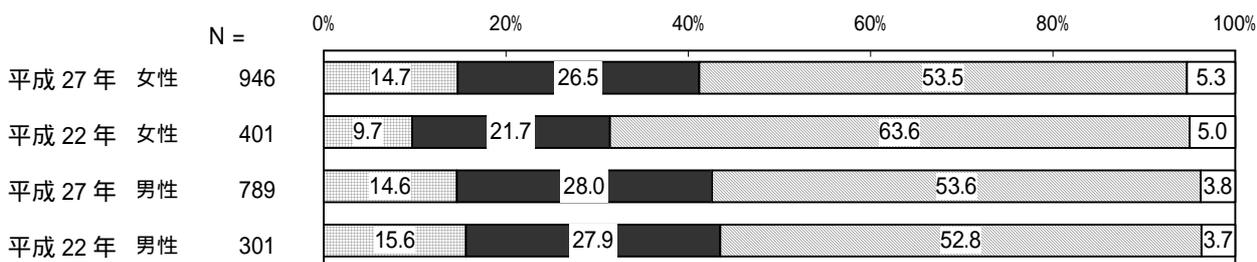
性別でみると、大きな差異はみられません。



## 【平成22年調査】

平成22年調査と比較すると、「全く知らない」の割合が低くなっています。

性別でみると、女性で「内容まで知っている」の割合が高くなり、「全く知らない」の割合が低くなっています。



## 【年代別】

年代別でみると、年代が低くなるにつれ「内容まで知っている」の割合が高くなっており、10歳代・20歳代では3割を超えています。

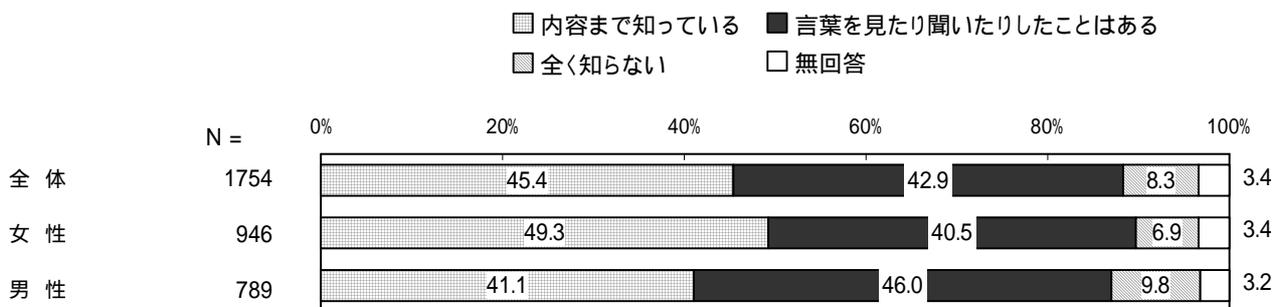
単位：%

区分	有効回答数(件)	内容まで知っている	言葉を見たり聞いたりしたことはある	全く知らない	無回答
全体	1754	14.6	27.1	53.6	4.7
10歳代・20歳代	158	32.3	33.5	34.2	0.0
30歳代	174	22.4	33.9	43.1	0.6
40歳代	262	18.3	30.9	48.9	1.9
50歳代	245	18.4	32.2	49.0	0.4
60歳代	427	9.8	25.5	61.1	3.5
70歳以上	471	6.2	18.9	63.1	11.9

## モラル・ハラスメント

「内容まで知っている」の割合が45.4%と最も高く、次いで「言葉を見たり聞いたりしたことはある」の割合が42.9%となっています。

性別でみると、女性に比べ、男性で「内容まで知っている」の割合が低くなっています。一方、「言葉を見たり聞いたりしたことはある」の割合が高くなっています。



### 【年代別】

年代別でみると、30歳代で「内容まで知っている」の割合が高く、6割を超えています。一方、70歳以上で「全く知らない」の割合が高く、1割半ばとなっています。

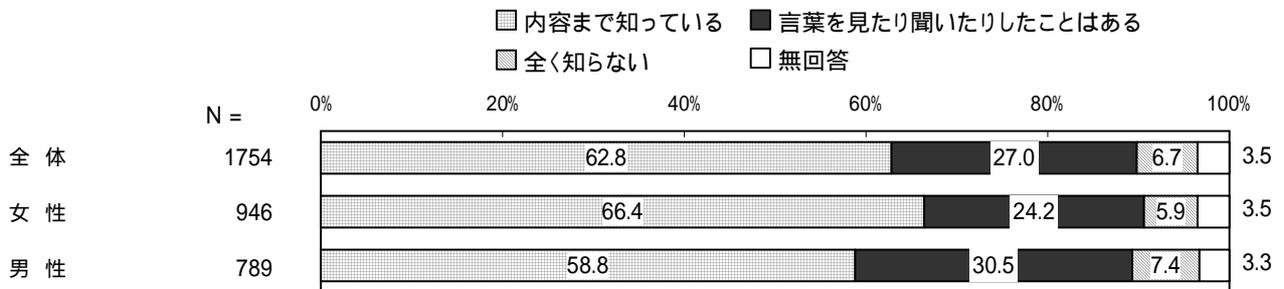
単位：%

区分	有効回答数(件)	内容まで知っている	言葉を見たり聞いたりしたことはある	全く知らない	無回答
全体	1754	45.4	42.9	8.3	3.4
10歳代・20歳代	158	58.9	34.2	7.0	0.0
30歳代	174	61.5	36.8	1.7	0.0
40歳代	262	55.7	37.4	5.7	1.1
50歳代	245	57.6	37.6	4.5	0.4
60歳代	427	44.5	46.1	7.0	2.3
70歳以上	471	24.0	51.4	15.7	8.9

## ドメスティック・バイオレンス（DV）

「内容まで知っている」の割合が62.8%と最も高く、次いで「言葉を見たり聞いたりしたことはある」の割合が27.0%となっています。

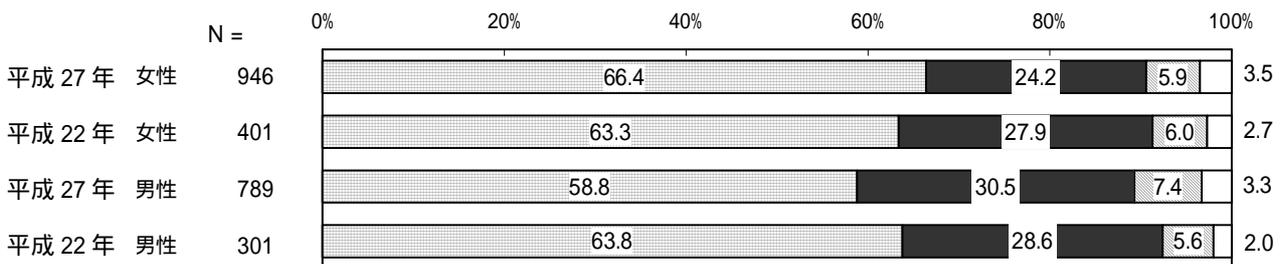
性別でみると、女性に比べ、男性で「内容まで知っている」の割合が低くなっています。一方、「言葉を見たり聞いたりしたことはある」の割合が高くなっています。



### 【平成22年調査】

平成22年調査と比較すると、大きな差異はみられません。

性別でみると、男性で「内容まで知っている」の割合が低くなっています。



### 【年代別】

年代別でみると、30歳代で「内容まで知っている」の割合が高く8割を超えています。一方、70歳以上で「言葉を見たり聞いたりしたことはある」「全く知らない」の割合が高くなっています。

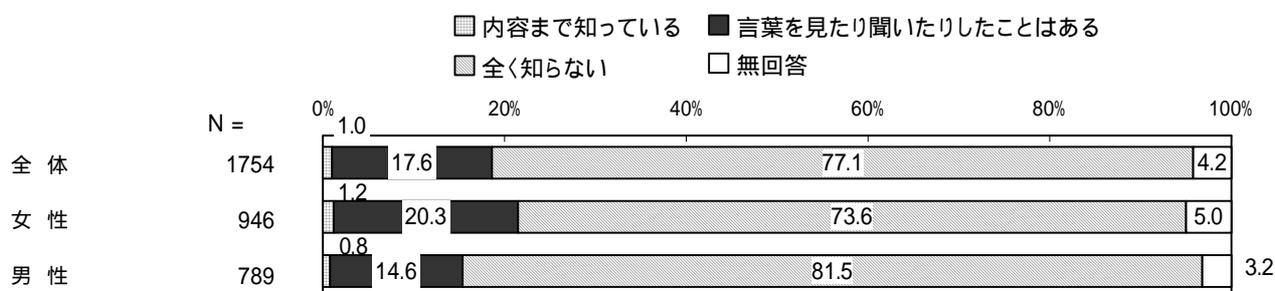
単位：%

区分	有効回答数(件)	内容まで知っている	言葉を見たり聞いたりしたことはある	全く知らない	無回答
全体	1754	62.8	27.0	6.7	3.5
10歳代・20歳代	158	79.1	17.1	3.8	0.0
30歳代	174	85.1	14.4	0.6	0.0
40歳代	262	76.7	19.1	3.1	1.1
50歳代	245	76.3	21.6	1.6	0.4
60歳代	427	60.4	31.1	5.4	3.0
70歳以上	471	36.7	38.9	15.9	8.5

### 第3次UJIあさぎりプラン（宇治市男女共同参画計画）

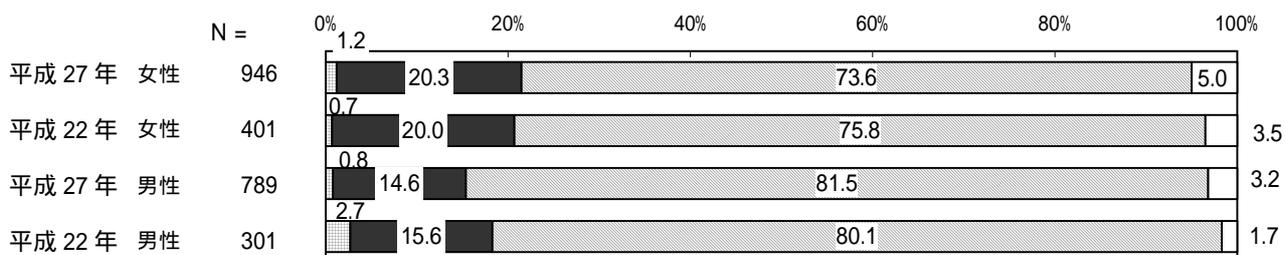
「全く知らない」の割合が77.1%と最も高く、次いで「言葉を見たり聞いたりしたことはある」の割合が17.6%となっています。

性別でみると、女性に比べ、男性で「言葉を見たり聞いたりしたことはある」の割合が低くなっています。一方、「全く知らない」の割合が高くなっています。



### 【平成22年調査】

平成22年調査と比較すると、大きな差異はみられません。



平成22年調査では「第2次UJIあさぎりプラン」でした。

### 【年代別】

年代別でみると、10歳代・20歳代で「全く知らない」の割合が高く、9割を超えています。また、年代が高くなるにつれ「言葉を見たり聞いたりしたことはある」の割合が高くなっています。

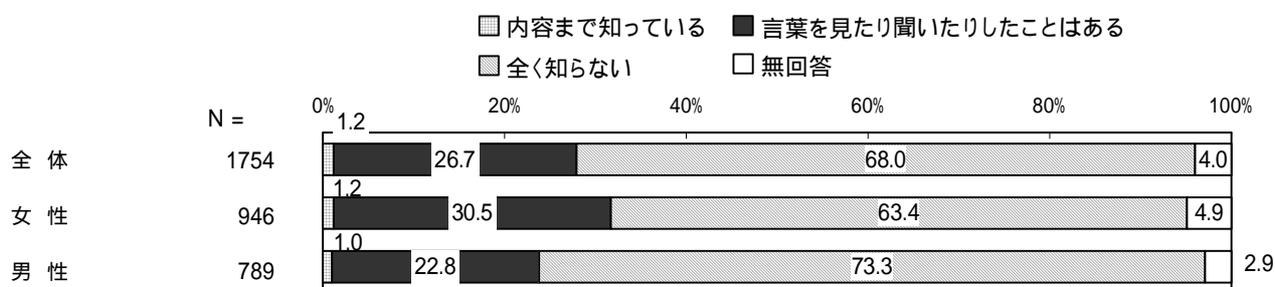
単位：%

区分	有効回答数(件)	内容まで知っている	言葉を見たり聞いたりしたことはある	全く知らない	無回答
全体	1754	1.0	17.6	77.1	4.2
10歳代・20歳代	158	0.0	6.3	93.0	0.6
30歳代	174	0.0	12.6	86.2	1.1
40歳代	262	0.8	17.6	80.5	1.1
50歳代	245	0.8	18.4	80.4	0.4
60歳代	427	1.4	19.9	76.1	2.6
70歳以上	471	1.5	21.4	66.0	11.0

## 宇治市男女生き生きまちづくり条例

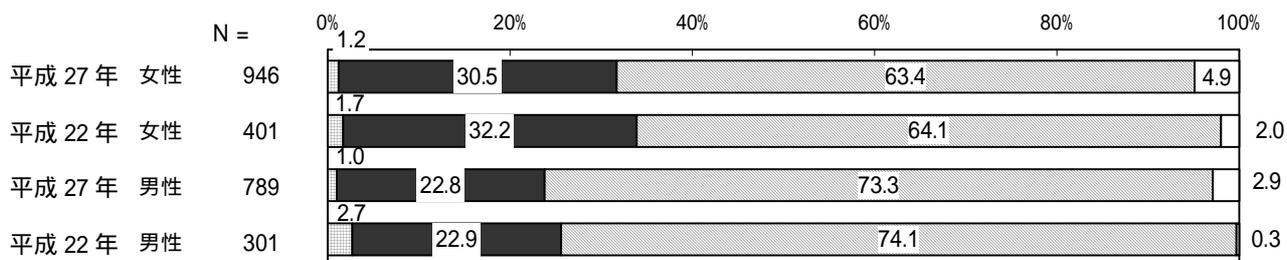
「全く知らない」の割合が68.0%と最も高く、次いで「言葉を見たり聞いたりしたことはある」の割合が26.7%となっています。

性別でみると、女性に比べ、男性で「言葉を見たり聞いたりしたことはある」の割合が低く、「全く知らない」の割合が高くなっています。



### 【平成22年調査】

平成22年調査と比較すると、大きな差異はみられません。



### 【年代別】

年代別でみると、10歳代・20歳代で「全く知らない」の割合が高く、8割を超えています。また、年代が高くなるにつれ「言葉を見たり聞いたりしたことはある」の割合が高くなっています。

単位：%

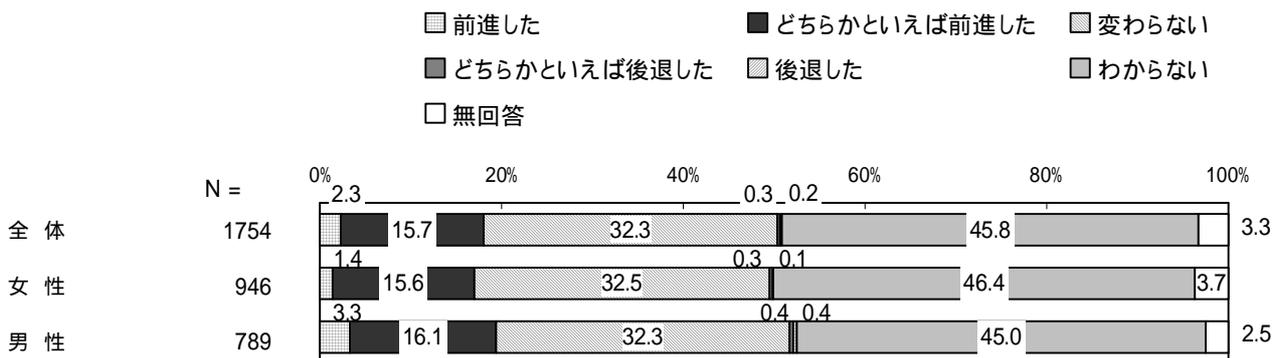
区分	有効回答数(件)	内容まで知っている	言葉を見たり聞いたりしたことはある	全く知らない	無回答
全体	1754	1.2	26.7	68.0	4.0
10歳代・20歳代	158	0.6	15.8	83.5	0.0
30歳代	174	0.0	23.0	76.4	0.6
40歳代	262	0.8	23.3	74.8	1.1
50歳代	245	0.0	23.7	75.9	0.4
60歳代	427	1.6	31.4	63.9	3.0
70歳以上	471	2.1	32.1	55.4	10.4

問 11 この5年間で、宇治市では次の ~ がどの程度進んだと思いますか。  
 (それぞれ1つ選んでください。)

男女平等の考え方

「わからない」を除くと、「変わらない」の割合が 32.3%と最も高く、次いで“前進した”の割合が 18.0%、「どちらかといえば後退した」と「後退した」をあわせた“後退した”の割合が 0.5%となっています。

性別でみると、大きな差異はみられません。



【年代別】

年代別でみると、70歳以上で“前進した”の割合が高く、2割を超えています。また、10歳代・20歳代で「わからない」の割合が高く、6割を超えています。

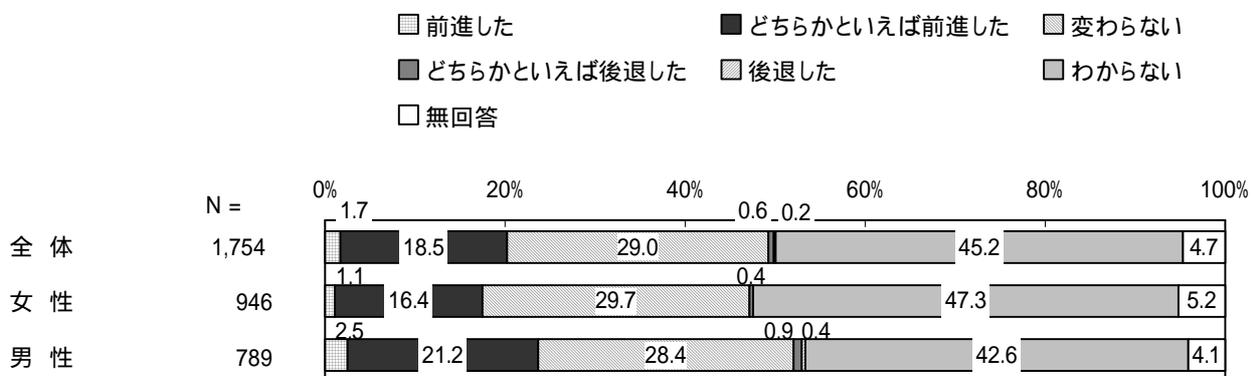
単位：%

区分	有効回答数(件)	前進した	どちらかといえば前進した	変わらない	どちらかといえば後退した	後退した	わからない	無回答
全体	1754	2.3	15.7	32.3	0.3	0.2	45.8	3.3
10歳代・20歳代	158	0.6	8.9	20.9	1.3	0.0	68.4	0.0
30歳代	174	0.6	10.3	28.7	0.0	0.6	59.2	0.6
40歳代	262	1.9	10.3	35.5	0.0	0.4	50.8	1.1
50歳代	245	0.4	16.7	33.5	0.0	0.0	48.2	1.2
60歳代	427	3.0	16.9	37.5	0.5	0.2	39.1	2.8
70歳以上	471	4.0	21.9	30.4	0.4	0.2	35.7	7.4

## 政策・方針決定の過程への女性の進出

「わからない」を除くと、「変わらない」の割合が 29.0%と最も高く、次いで“前進した”の割合が 20.2%、“後退した”の割合が 0.8%となっています。

性別でみると、女性に比べ、男性で“前進した”の割合が高くなっています。



## 【年代別】

年代別でみると、年代が高くなるにつれ“前進した”の割合が高くなっています。また、10歳代・20歳代で「わからない」の割合が高く、約7割となっています。

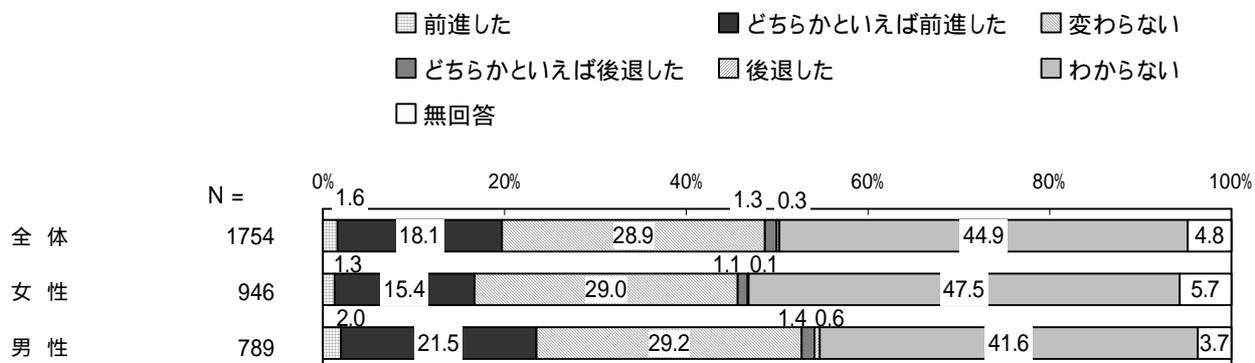
単位：%

区分	有効回答数(件)	前進した	どちらかといえば前進した	変わらない	どちらかといえば後退した	後退した	わからない	無回答
全体	1754	1.7	18.5	29.0	0.6	0.2	45.2	4.7
10歳代・20歳代	158	0.6	9.5	18.4	0.6	0.0	70.9	0.0
30歳代	174	1.1	13.8	24.7	0.0	0.6	59.2	0.6
40歳代	262	2.3	13.7	32.8	0.4	0.0	48.9	1.9
50歳代	245	1.2	17.6	31.8	0.0	0.0	46.9	2.4
60歳代	427	2.6	20.6	34.4	0.7	0.2	37.2	4.2
70歳以上	471	1.5	24.8	25.7	1.3	0.2	35.9	10.6

### 会社などでの女性管理職の数

「わからない」を除くと、「変わらない」の割合が 28.9%と最も高く、次いで“前進した”の割合が 19.7%、“後退した”の割合が 1.6%となっています。

性別でみると、女性に比べ、男性で“前進した”の割合が高くなっています。



### 【年代別】

年代別でみると、10 歳代・20 歳代で「変わらない」の割合が低く、約 2 割となっています。また、10 歳代・20 歳代で「わからない」の割合が高く、約 7 割となっています。

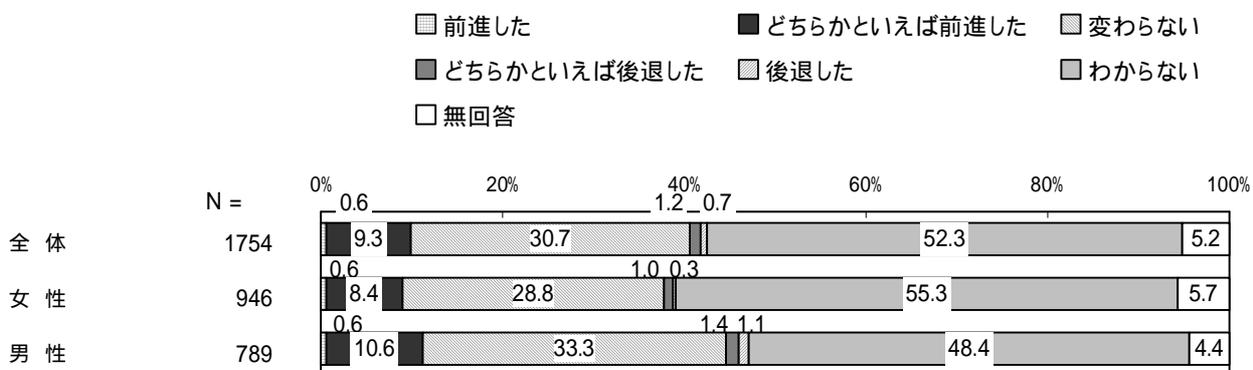
単位：%

区分	有効回答数(件)	前進した	どちらかといえば前進した	変わらない	どちらかといえば後退した	後退した	わからない	無回答
全体	1754	1.6	18.1	28.9	1.3	0.3	44.9	4.8
10 歳代・20 歳代	158	0.0	13.3	18.4	0.6	0.0	67.7	0.0
30 歳代	174	1.1	11.5	29.3	1.1	1.1	55.2	0.6
40 歳代	262	3.1	16.4	29.4	1.5	0.0	47.7	1.9
50 歳代	245	2.0	15.5	33.9	1.2	0.0	45.3	2.0
60 歳代	427	1.9	18.3	34.2	1.6	0.2	38.9	4.9
70 歳以上	471	1.1	24.4	24.8	1.1	0.6	37.4	10.6

## ワーク・ライフ・バランスの実現

「わからない」を除くと、「変わらない」の割合が 30.7%と最も高く、次いで“前進した”の割合が 9.9%、“後退した”の割合が 1.9%となっています。

性別でみると、大きな差異はみられません。



### 【年代別】

年代別でみると、10歳代・20歳代で「変わらないの」割合が低く、1割半ばとなっています。また、10歳代・20歳代で「わからない」の割合が高く、7割を超えています。

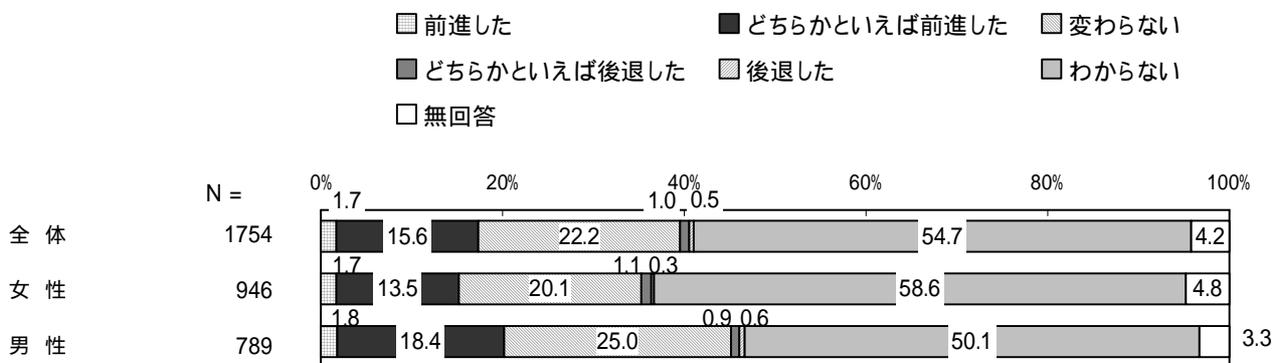
単位：%

区分	有効回答数(件)	前進した	どちらかといえば前進した	変わらない	どちらかといえば後退した	後退した	わからない	無回答
全体	1754	0.6	9.3	30.7	1.2	0.7	52.3	5.2
10歳代・20歳代	158	0.0	7.6	15.2	0.6	0.6	74.1	1.9
30歳代	174	1.1	7.5	29.3	1.7	0.0	59.8	0.6
40歳代	262	0.8	9.9	31.7	1.5	1.5	52.7	1.9
50歳代	245	0.4	9.0	34.7	1.2	0.4	51.8	2.4
60歳代	427	0.2	8.0	36.3	1.4	1.2	49.2	3.7
70歳以上	471	1.1	11.9	28.7	0.6	0.2	45.4	12.1

## セクシュアル・ハラスメントやDVなど女性に対する暴力への市の対応

「わからない」の割合を除くと、「変わらない」の割合が22.2%と最も高く、次いで“前進した”の割合が17.3%、“後退した”の割合が1.5%となっています。

性別で見ると、女性に比べ、男性で“前進した”の割合が高くなっています。



### 【年代別】

年代別で見ると、40歳代以上で「変わらない」の割合が高く、2割を超えています。

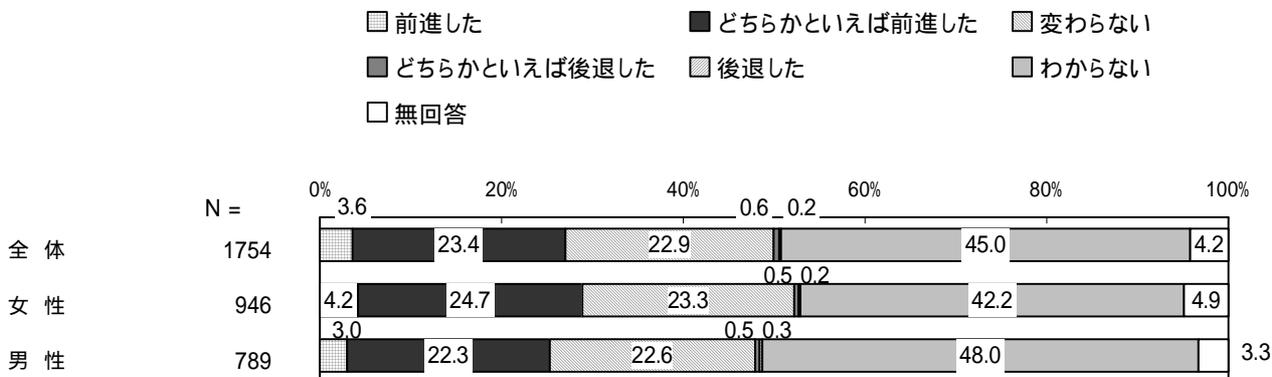
単位：%

区分	有効回答数(件)	前進した	どちらかといえば前進した	変わらない	どちらかといえば後退した	後退した	わからない	無回答
全体	1754	1.7	15.6	22.2	1.0	0.5	54.7	4.2
10歳代・20歳代	158	2.5	10.8	13.9	0.6	0.0	71.5	0.6
30歳代	174	1.1	10.9	15.5	2.3	0.6	69.0	0.6
40歳代	262	1.5	13.4	23.3	0.0	0.8	59.2	1.9
50歳代	245	2.0	15.1	24.9	0.0	0.4	55.9	1.6
60歳代	427	1.6	17.1	26.2	1.4	0.5	49.9	3.3
70歳以上	471	1.7	19.5	21.7	1.3	0.6	45.6	9.6

市の女性の健康保持に関する支援

「わからない」を除くと、“前進した”の割合が27.0%と最も高く、次いで「変わらない」の割合が22.9%、“後退した”の割合が0.8%となっています。

性別でみると、大きな差異はみられません。



【年代別】

年代別でみると、50歳代以上で“前進した”の割合が高く、約3割となっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	前進した	どちらかといえば前進した	変わらない	どちらかといえば後退した	後退した	わからない	無回答
全体	1754	3.6	23.4	22.9	0.6	0.2	45.0	4.2
10歳代・20歳代	158	4.4	15.2	15.2	0.0	0.0	65.2	0.0
30歳代	174	4.0	18.4	17.8	1.1	0.0	58.0	0.6
40歳代	262	3.8	21.4	21.0	0.8	0.4	50.8	1.9
50歳代	245	4.5	24.9	23.3	0.4	0.4	44.1	2.4
60歳代	427	3.3	26.7	27.6	0.5	0.2	38.4	3.3
70歳以上	471	3.2	26.1	23.8	0.4	0.2	36.7	9.6

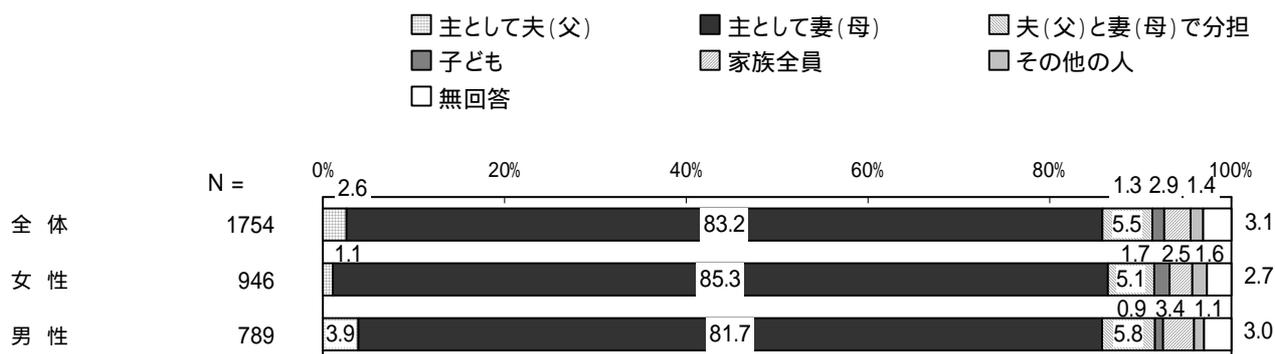
### 3 家庭での役割について

問 12 次の事柄について、あなたのご家庭では誰が実際にその役割をされていますか。  
 (単身世帯の方は、もといいた家庭を想定してお答えください)  
 (それぞれ1つ選んでください)

#### 食事のしたく

「主として妻(母)」の割合が83.2%と最も高くなっています。

性別でみると、大きな差異はみられません。



#### 【年代別】

年代別でみると、30歳代で「主として妻(母)」の割合が高く、約9割となっています。

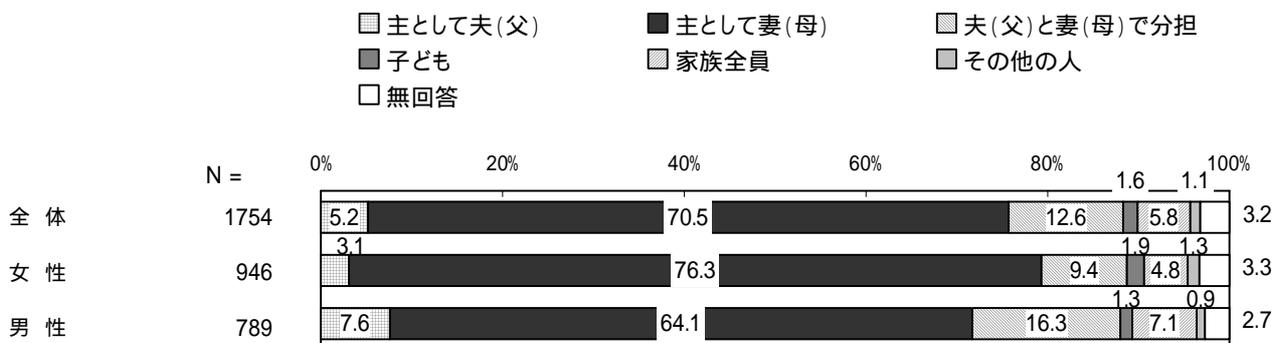
単位：%

区分	有効回答数(件)	主として夫(父)	主として妻(母)	夫(父)と妻(母)で分担	子ども	家族全員	その他の人	無回答
全体	1754	2.6	83.2	5.5	1.3	2.9	1.4	3.1
10歳代・20歳代	158	1.9	81.6	3.2	1.9	6.3	4.4	0.6
30歳代	174	0.6	90.2	2.3	1.1	3.4	1.7	0.6
40歳代	262	2.3	84.7	5.0	1.5	2.7	1.5	2.3
50歳代	245	2.4	82.4	7.8	0.8	4.5	0.8	1.2
60歳代	427	3.5	83.8	7.3	0.2	1.9	1.2	2.1
70歳以上	471	2.5	81.3	5.1	2.3	1.9	0.6	6.2

### 食事のあとかたづけ

「主として妻（母）」の割合が 70.5%と最も高く、次いで「夫（父）と妻（母）で分担」の割合が 12.6%となっています。

性別でみると、男性に比べ、女性で「主として妻（母）」の割合が高くなっています。また、男性で「夫（父）と妻（母）で分担」の割合が高くなっています。



### 【年代別】

年代別でみると、60歳代で「主として夫（父）」、10歳代・20歳代で「家族全員」、30歳代で「夫（父）と妻（母）で分担」の割合が高くなっています。一方、10歳代・20歳代で「夫（父）と妻（母）で分担」の割合が低くなっています。

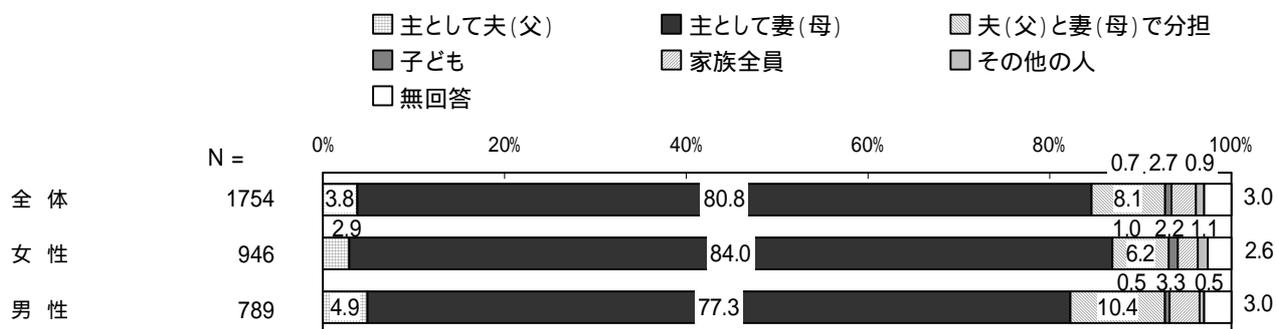
単位：%

区分	有効回答数(件)	主として夫(父)	主として妻(母)	夫(父)と妻(母)で分担	子ども	家族全員	その他の人	無回答
全体	1754	5.2	70.5	12.6	1.6	5.8	1.1	3.2
10歳代・20歳代	158	3.8	70.3	7.6	2.5	11.4	3.8	0.6
30歳代	174	5.2	66.7	17.2	2.3	6.3	1.1	1.1
40歳代	262	3.8	72.1	12.6	2.3	6.5	1.1	1.5
50歳代	245	3.7	73.5	11.8	0.8	7.8	0.4	2.0
60歳代	427	7.0	71.7	13.6	0.9	3.7	1.2	1.9
70歳以上	471	5.5	69.0	12.5	1.7	4.2	0.4	6.6

## 洗濯

「主として妻（母）」の割合が80.8%と最も高くなっています。

性別でみると、男性に比べ、女性で「主として妻（母）」の割合が高くなっています。



## 【年代別】

年代別でみると、大きな差異はみられません。

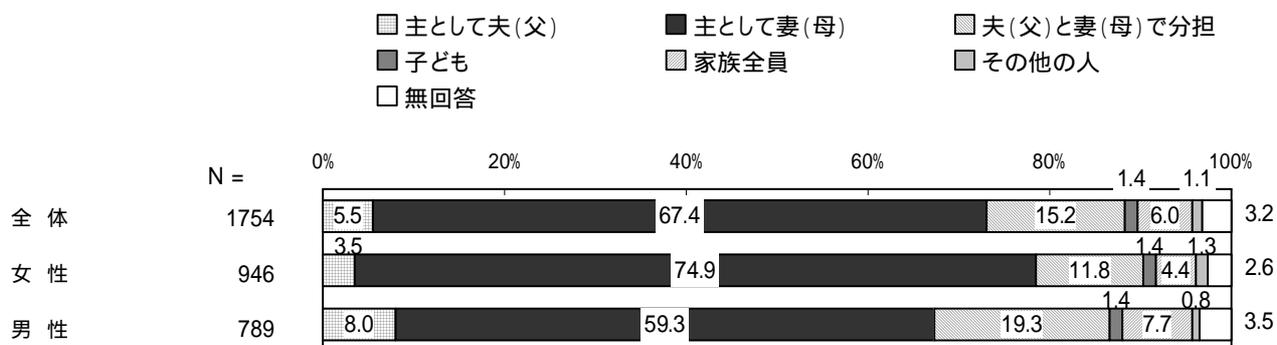
単位：%

区分	有効回答数(件)	主として夫(父)	主として妻(母)	夫(父)と妻(母)で分担	子ども	家族全員	その他の人	無回答
全体	1754	3.8	80.8	8.1	0.7	2.7	0.9	3.0
10歳代・20歳代	158	3.8	82.3	4.4	0.0	5.7	1.9	1.9
30歳代	174	4.0	83.3	9.2	0.6	1.1	1.1	0.6
40歳代	262	2.3	83.6	8.4	0.8	2.3	1.1	1.5
50歳代	245	2.9	82.0	8.2	0.4	4.1	0.8	1.6
60歳代	427	4.4	81.7	9.4	0.2	1.9	0.7	1.6
70歳以上	471	4.5	76.9	7.9	1.7	2.5	0.4	6.2

掃除

「主として妻（母）」の割合が 67.4%と最も高く、次いで「夫（父）と妻（母）で分担」の割合が 15.2%となっています。

性別でみると、男性に比べ、女性で「主として妻（母）」の割合が高くなっています。また、男性で「夫（父）と妻（母）で分担」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、30 歳代、60 歳代以上で「夫（父）と妻（母）で分担」の割合が高くなっています。

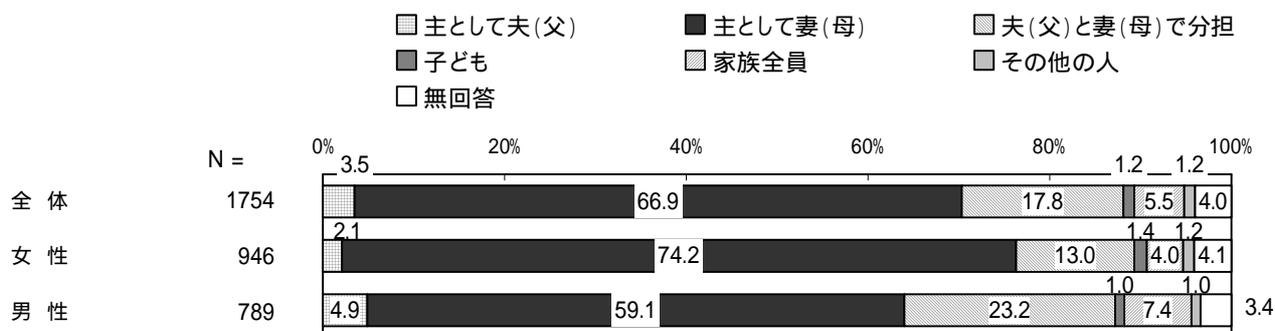
単位：%

区分	有効回答数(件)	主として夫(父)	主として妻(母)	夫(父)と妻(母)で分担	子ども	家族全員	その他の人	無回答
全体	1754	5.5	67.4	15.2	1.4	6.0	1.1	3.2
10 歳代・20 歳代	158	3.2	74.1	7.0	2.5	8.9	3.2	1.3
30 歳代	174	4.0	70.1	17.8	1.7	4.6	0.6	1.1
40 歳代	262	4.2	73.3	10.7	1.1	6.5	1.5	2.7
50 歳代	245	2.9	73.5	12.7	0.4	9.0	0.4	1.2
60 歳代	427	8.0	66.3	18.3	0.5	4.4	0.9	1.6
70 歳以上	471	6.8	59.7	18.7	2.3	5.1	0.8	6.6

## 日常の買い物

「主として妻（母）」の割合が 66.9%と最も高く、次いで「夫（父）と妻（母）で分担」の割合が 17.8%となっています。

性別で見ると、男性に比べ、女性で「主として妻（母）」の割合が高くなっています。また、男性で「夫（父）と妻（母）で分担」の割合が高くなっています。



## 【年代別】

年代別で見ると、40歳代で「主として妻（母）」の割合が高く、約8割となっています。また、60歳代、70歳以上で「夫（父）と妻（母）で分担」の割合が高く、2割を超えています。

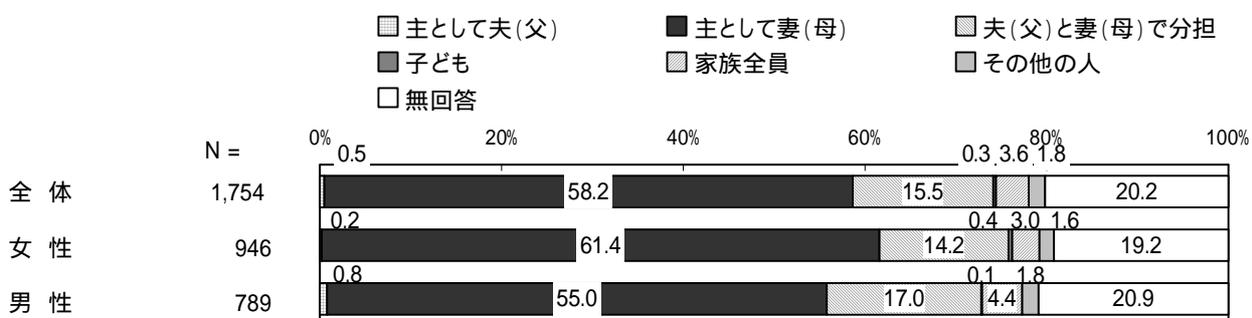
単位：%

区分	有効回答数(件)	主として夫(父)	主として妻(母)	夫(父)と妻(母)で分担	子ども	家族全員	その他の人	無回答
全体	1754	3.5	66.9	17.8	1.2	5.5	1.2	4.0
10歳代・20歳代	158	1.9	67.7	13.9	1.3	10.8	1.9	2.5
30歳代	174	2.9	74.7	12.6	0.6	6.3	1.1	1.7
40歳代	262	2.3	77.9	11.8	1.1	4.2	0.8	1.9
50歳代	245	1.6	67.8	18.4	1.2	8.2	0.8	2.0
60歳代	427	4.9	65.1	22.2	0.5	4.0	1.4	1.9
70歳以上	471	4.2	59.7	20.2	2.1	4.2	1.1	8.5

## 育児

「主として妻（母）」の割合が 58.2%と最も高く、次いで「夫（父）と妻（母）で分担」の割合が 15.5%となっています。

性別でみると、男性に比べ、女性で「主として妻（母）」の割合が高くなっています。



## 【年代別】

年代別でみると、年代が低くなるにつれ「夫（父）と妻（母）で分担」の割合が高くなる傾向がみられます。

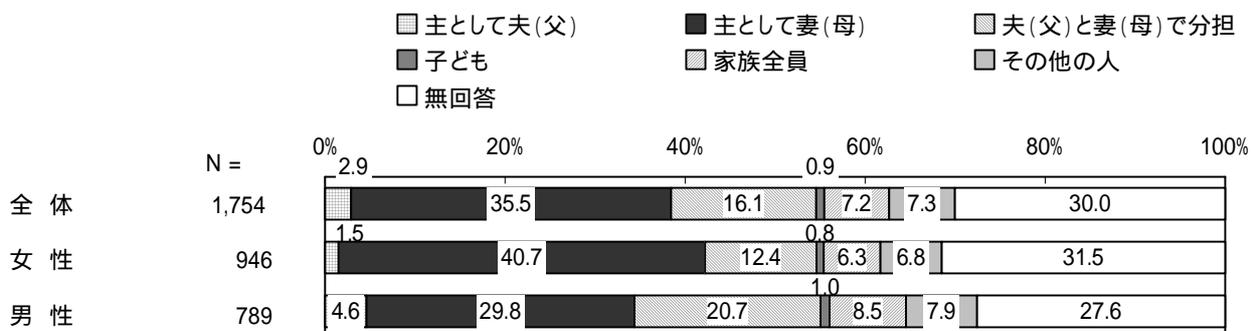
単位：%

区分	有効回答数(件)	主として夫(父)	主として妻(母)	夫(父)と妻(母)で分担	子ども	家族全員	その他の人	無回答
全体	1754	0.5	58.2	15.5	0.3	3.6	1.8	20.2
10歳代・20歳代	158	0.6	60.8	27.8	0.0	3.2	1.3	6.3
30歳代	174	1.1	63.8	20.7	0.0	4.0	1.1	9.2
40歳代	262	0.0	61.5	22.5	0.4	3.1	1.5	11.1
50歳代	245	0.4	59.2	21.2	0.4	4.9	1.6	12.2
60歳代	427	0.9	63.5	9.1	0.0	3.3	2.8	20.4
70歳以上	471	0.0	48.6	8.5	0.6	3.8	1.1	37.4

## 介護

「主として妻（母）」の割合が 35.5%と最も高く、次いで「夫（父）と妻（母）で分担」の割合が 16.1%となっています。

性別でみると、男性に比べ、女性で「主として妻（母）」の割合が高くなっています。また、男性で「夫（父）と妻（母）で分担」の割合が高くなっています。



## 【年代別】

年代別でみると、60歳代で「主として妻（母）」の割合が高く、4割を超えています。

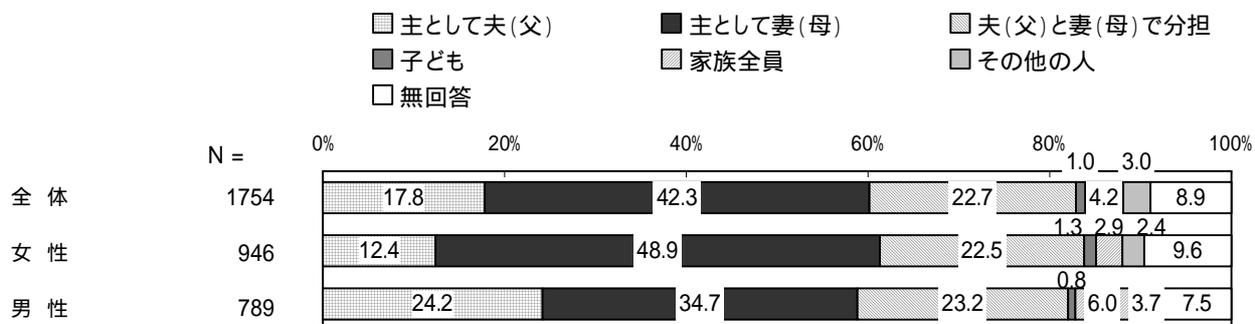
単位：%

区分	有効回答数(件)	主として夫(父)	主として妻(母)	夫(父)と妻(母)で分担	子ども	家族全員	その他の人	無回答
全体	1754	2.9	35.5	16.1	0.9	7.2	7.3	30.0
10歳代・20歳代	158	1.3	35.4	16.5	0.6	12.7	12.0	21.5
30歳代	174	1.7	35.1	12.6	0.0	6.3	14.4	29.9
40歳代	262	0.4	35.5	16.0	1.9	5.3	12.6	28.2
50歳代	245	3.7	33.9	22.0	0.8	6.9	5.7	26.9
60歳代	427	4.2	42.2	17.8	0.2	6.8	4.0	24.8
70歳以上	471	3.6	31.0	13.2	1.5	7.6	3.8	39.3

### 地域における活動

「主として妻（母）」の割合が 42.3%と最も高く、次いで「夫（父）と妻（母）で分担」の割合が 22.7%、「主として夫（父）」の割合が 17.8%となっています。

性別でみると、男性に比べ、女性で「主として妻（母）」の割合が高くなっています。また、男性で「主として夫（父）」の割合が高くなっています。



### 【年代別】

年代別でみると、40 歳代で「主として夫（父）」の割合が低く、1 割未満となっています。また、30 歳代で「夫（父）と妻（母）で分担」の割合が高く、約 3 割となっています。

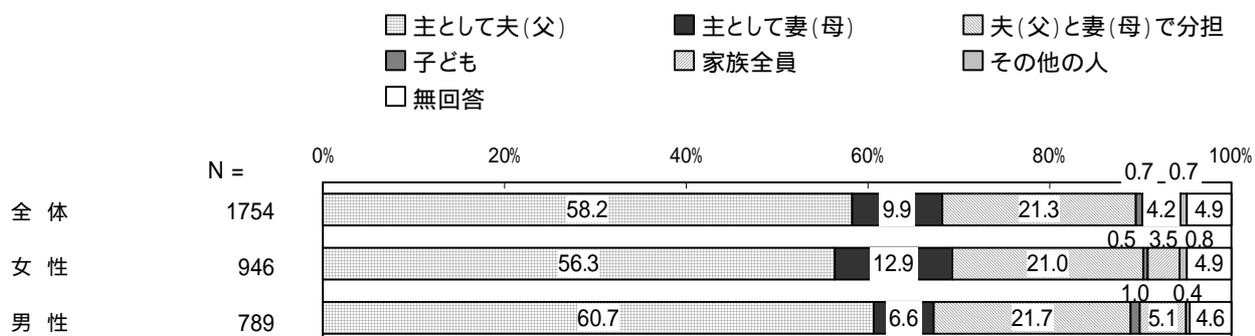
単位：%

区分	有効回答数(件)	主として夫(父)	主として妻(母)	夫(父)と妻(母)で分担	子ども	家族全員	その他の人	無回答
全体	1754	17.8	42.3	22.7	1.0	4.2	3.0	8.9
10 歳代・20 歳代	158	12.7	40.5	20.9	0.6	12.7	6.3	6.3
30 歳代	174	11.5	48.9	29.3	0.0	2.3	4.0	4.0
40 歳代	262	9.5	53.1	24.0	1.1	5.7	2.3	4.2
50 歳代	245	15.1	48.2	24.1	0.8	5.3	2.0	4.5
60 歳代	427	19.0	42.2	25.1	0.7	2.3	3.0	7.7
70 歳以上	471	26.8	31.8	17.8	1.9	2.5	2.3	16.8

## 生活費の確保

「主として夫(父)」の割合が58.2%と最も高く、次いで「夫(父)と妻(母)で分担」の割合が21.3%となっています。

性別で見ると、男性に比べ、女性で「主として妻(母)」の割合が高くなっています。



## 【年代別】

年代別で見ると、10歳代・20歳代で「夫(父)と妻(母)で分担」の割合が高く、約3割を超えています。また、40歳代で「主として夫(父)」の割合が高くなっています。

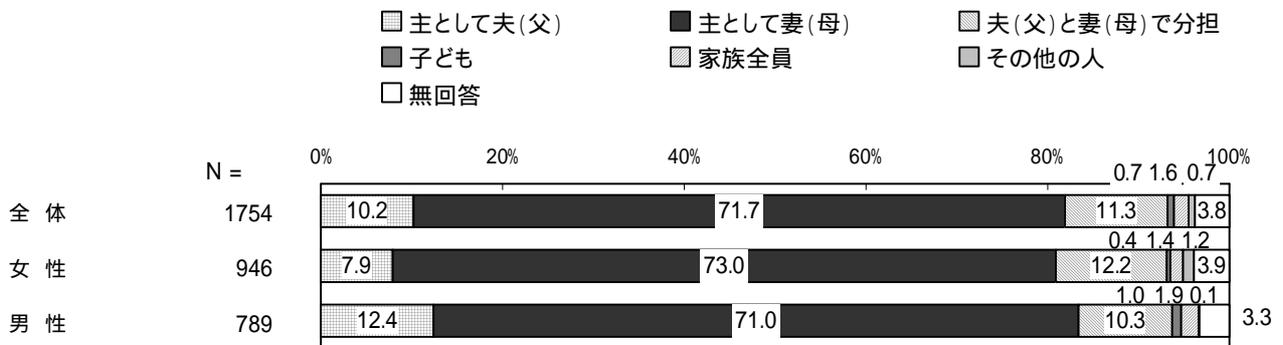
単位：%

区分	有効回答数(件)	主として夫(父)	主として妻(母)	夫(父)と妻(母)で分担	子ども	家族全員	その他の人	無回答
全体	1754	58.2	9.9	21.3	0.7	4.2	0.7	4.9
10歳代・20歳代	158	53.8	8.9	31.0	1.3	2.5	0.6	1.9
30歳代	174	63.8	8.0	20.7	0.0	5.2	0.6	1.7
40歳代	262	66.8	9.2	18.3	0.8	2.7	0.8	1.5
50歳代	245	64.5	8.6	20.0	0.4	4.9	0.4	1.2
60歳代	427	56.7	9.4	24.4	0.5	4.9	0.5	3.7
70歳以上	471	51.4	13.0	18.5	1.3	4.2	0.8	10.8

## 日常の家計管理

「主として妻(母)」の割合が71.7%と最も高く、次いで「夫(父)と妻(母)で分担」の割合が11.3%、「主として夫(父)」の割合が10.2%となっています。

性別でみると、大きな差異はみられません。



## 【年代別】

年代別でみると、10歳代・20歳代で「夫(父)と妻(母)で分担」の割合が高く、1割半ばとなっています。また、70歳以上で「主として妻(母)」の割合が低く、7割未満となっています。

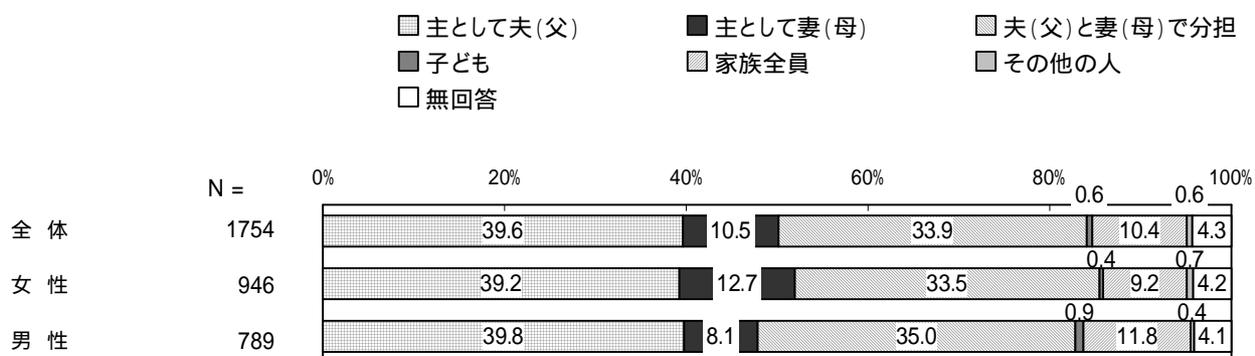
単位：%

区分	有効回答数(件)	主として夫(父)	主として妻(母)	夫(父)と妻(母)で分担	子ども	家族全員	その他の人	無回答
全体	1754	10.2	71.7	11.3	0.7	1.6	0.7	3.8
10歳代・20歳代	158	7.6	71.5	16.5	0.0	0.0	3.2	1.3
30歳代	174	9.8	75.3	10.9	0.0	1.7	0.0	2.3
40歳代	262	9.5	76.0	10.7	1.5	0.8	0.4	1.1
50歳代	245	10.2	74.7	9.8	0.0	3.3	0.4	1.6
60歳代	427	11.0	73.3	11.2	0.5	1.4	0.5	2.1
70歳以上	471	10.4	66.5	11.0	1.3	1.9	0.6	8.3

## 家庭における重要な決定

「主として夫（父）」の割合が 39.6%と最も高く、次いで「夫（父）と妻（母）で分担」の割合が 33.9%、「主として妻（母）」の割合が 10.5%となっています。

性別でみると、大きな差異はみられません。



## 【年代別】

年代別でみると、大きな差異はみられません。

単位：%

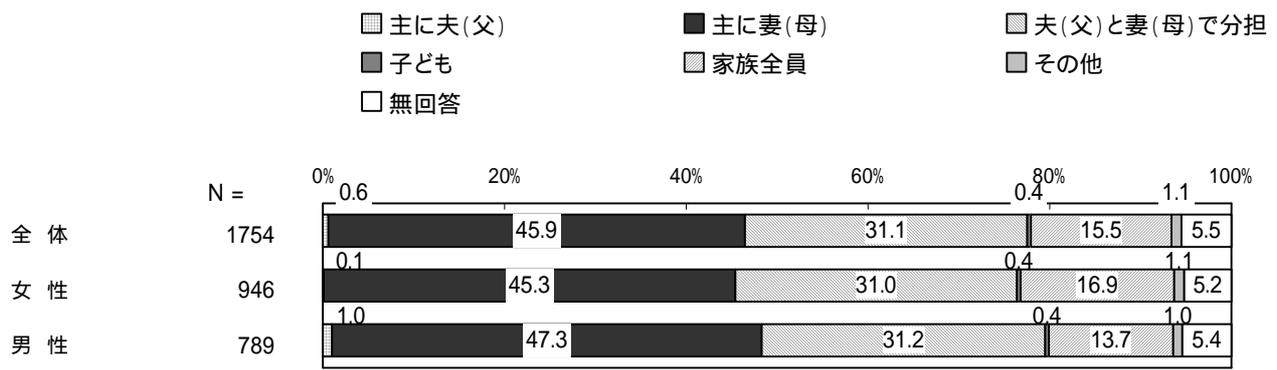
区分	有効回答数(件)	主として夫(父)	主として妻(母)	夫(父)と妻(母)で分担	子ども	家族全員	その他の人	無回答
全体	1754	39.6	10.5	33.9	0.6	10.4	0.6	4.3
10歳代・20歳代	158	34.2	15.2	34.8	0.6	13.3	0.6	1.3
30歳代	174	41.4	8.0	37.9	0.6	9.2	0.0	2.9
40歳代	262	38.2	13.4	35.1	1.1	9.5	1.1	1.5
50歳代	245	38.4	9.0	36.7	0.0	13.9	0.4	1.6
60歳代	427	41.9	11.0	32.8	0.0	10.5	0.5	3.3
70歳以上	471	39.7	8.9	32.3	1.3	8.3	0.6	8.9

問 13 次の事柄について、家庭では誰がその役割をするのが理想だと思いますか。  
 (単身世帯の方はもとい家庭や今後の家庭を想定してお答えください)  
 (それぞれ1つ選んでください)

食事のしたく

「主に妻(母)」の割合が45.9%と最も高く、次いで「夫(父)と妻(母)で分担」の割合が31.1%、「家族全員」の割合が15.5%となっています。

性別でみると、大きな差異はみられません。



【年代別】

年代別でみると、70歳以上で「主に妻(母)」の割合が高く、5割を超えています。

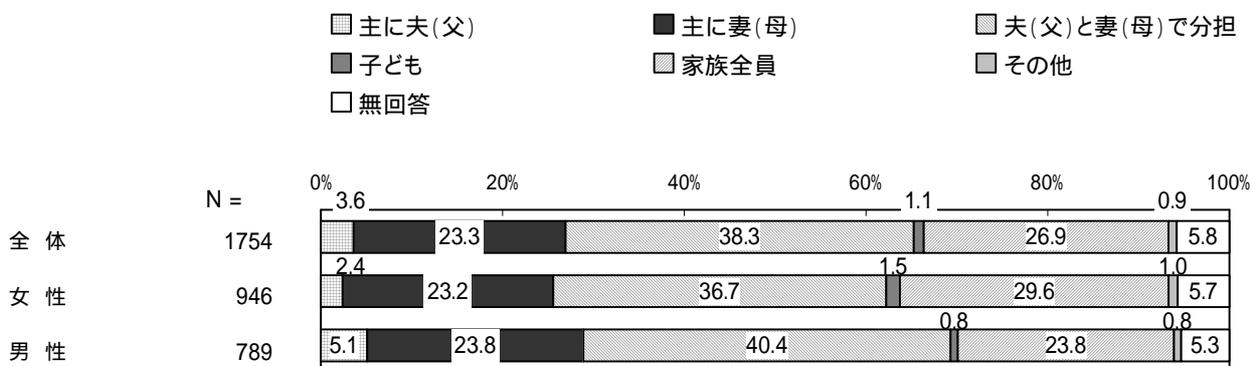
単位：%

区分	有効回答数(件)	主に夫(父)	主に妻(母)	夫(父)と妻(母)で分担	子ども	家族全員	その他	無回答
全体	1754	0.6	45.9	31.1	0.4	15.5	1.1	5.5
10歳代・20歳代	158	0.0	35.4	29.1	0.6	29.7	1.3	3.8
30歳代	174	0.0	45.4	37.9	0.0	14.9	0.0	1.7
40歳代	262	0.8	48.5	29.0	0.0	17.9	2.7	1.1
50歳代	245	0.0	39.6	34.3	0.0	20.0	1.6	4.5
60歳代	427	1.4	43.8	35.6	0.2	12.2	1.2	5.6
70歳以上	471	0.4	54.1	24.8	1.1	10.0	0.0	9.6

### 食事のあとかたづけ

「夫(父)と妻(母)で分担」の割合が38.3%と最も高く、次いで「家族全員」の割合が26.9%、「主に妻(母)」の割合が23.3%となっています。

性別で見ると、大きな差異はみられません。



### 【年代別】

年代別で見ると、30歳代、60歳代で「夫(父)と妻(母)で分担」の割合が高く、4割を超えています。一方、10歳代・20歳代で「夫(父)と妻(母)で分担」の割合が低くなっています。

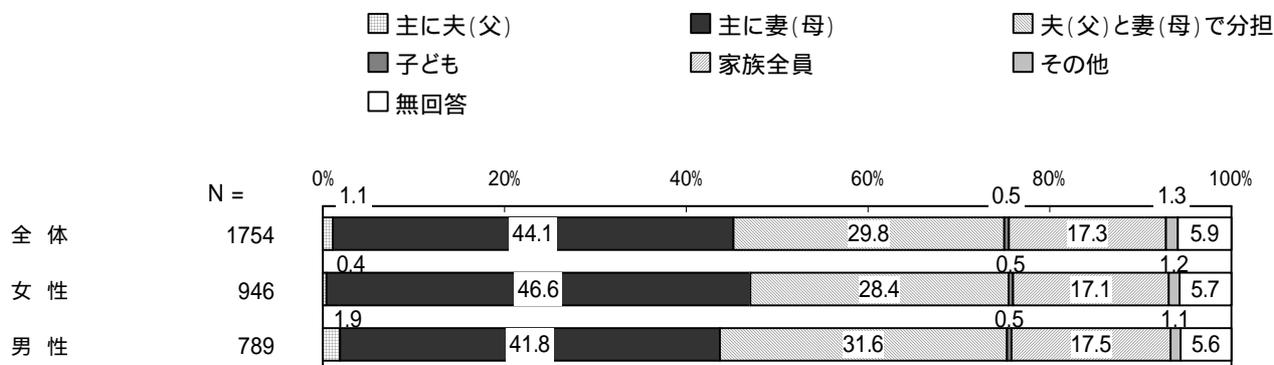
単位：%

区分	有効回答数(件)	主に夫(父)	主に妻(母)	夫(父)と妻(母)で分担	子ども	家族全員	その他	無回答
全体	1754	3.6	23.3	38.3	1.1	26.9	0.9	5.8
10歳代・20歳代	158	5.1	14.6	27.8	3.2	44.3	1.3	3.8
30歳代	174	4.6	17.2	47.7	0.6	28.2	0.0	1.7
40歳代	262	2.7	22.5	37.0	0.4	33.6	2.7	1.1
50歳代	245	2.0	18.4	38.8	0.8	35.1	1.2	3.7
60歳代	427	3.5	22.0	42.2	1.2	23.9	0.5	6.8
70歳以上	471	4.5	33.1	35.9	1.3	15.1	0.2	10.0

## 洗濯

「主に妻（母）」の割合が 44.1%と最も高く、次いで「夫（父）と妻（母）で分担」の割合が 29.8%、「家族全員」の割合が 17.3%となっています。

性別でみると、大きな差異はみられません。



## 【年代別】

年代別でみると、70歳以上で「主に妻（母）」の割合が高く、5割を超えています。また、30歳代で「夫（父）と妻（母）で分担」の割合が高く、約4割となっています。

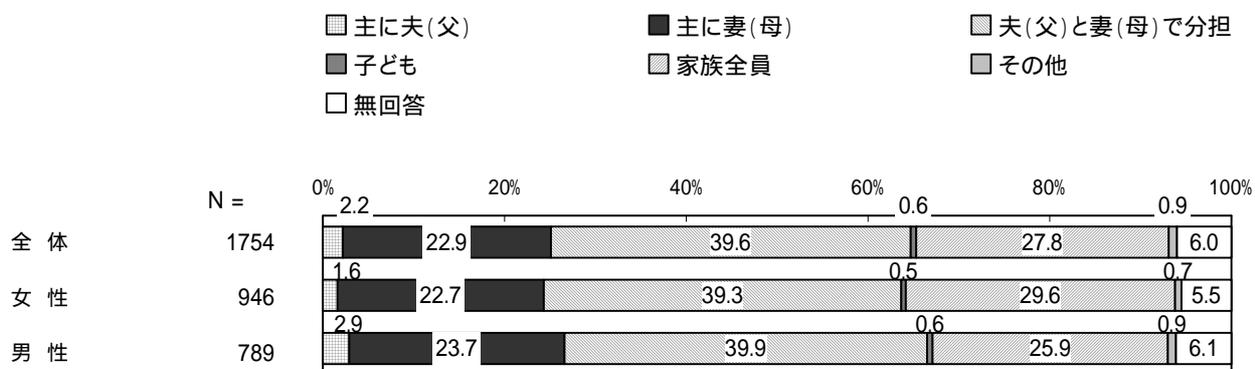
単位：%

区分	有効回答数(件)	主に夫(父)	主に妻(母)	夫(父)と妻(母)で分担	子ども	家族全員	その他	無回答
全体	1754	1.1	44.1	29.8	0.5	17.3	1.3	5.9
10歳代・20歳代	158	1.9	34.2	25.3	1.9	31.6	1.3	3.8
30歳代	174	0.0	35.1	42.5	0.0	20.1	0.6	1.7
40歳代	262	0.8	40.8	30.5	0.4	23.7	2.7	1.1
50歳代	245	0.4	39.2	31.0	0.0	22.9	2.0	4.5
60歳代	427	1.6	46.8	30.9	0.2	12.9	0.7	6.8
70歳以上	471	1.3	53.5	25.1	0.8	8.7	0.6	10.0

掃除

「夫(父)と妻(母)で分担」の割合が39.6%と最も高く、次いで「家族全員」の割合が27.8%、「主に妻(母)」の割合が22.9%となっています。

性別でみると、大きな差異はみられません。



【年代別】

年代別でみると、10歳代・20歳代で「家族全員」の割合が高く、4割を超えています。一方、70歳以上で「家族全員」の割合が低く、2割未満となっています。

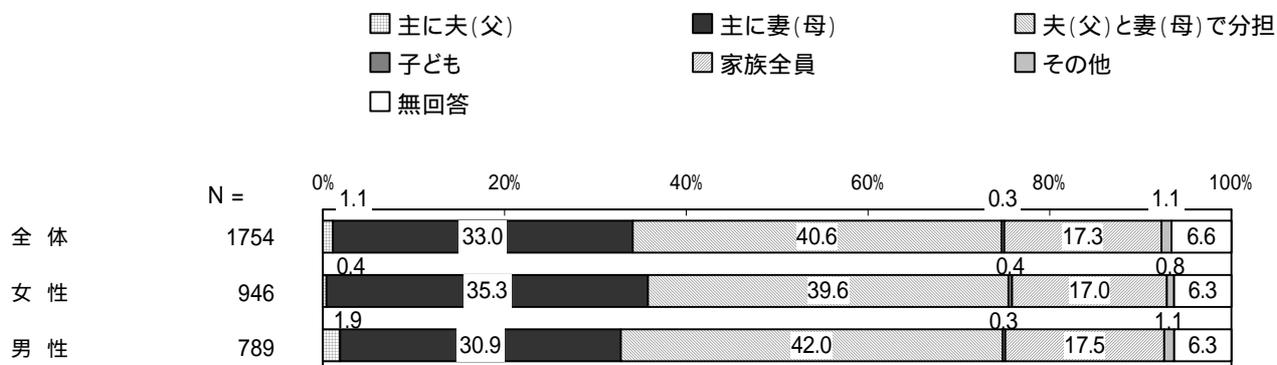
単位：%

区分	有効回答数(件)	主に夫(父)	主に妻(母)	夫(父)と妻(母)で分担	子ども	家族全員	その他	無回答
全体	1754	2.2	22.9	39.6	0.6	27.8	0.9	6.0
10歳代・20歳代	158	1.3	16.5	29.7	1.3	46.8	0.6	3.8
30歳代	174	1.1	20.7	47.1	0.0	29.3	0.0	1.7
40歳代	262	0.4	21.0	38.9	0.8	35.1	2.3	1.5
50歳代	245	0.8	20.0	38.0	0.0	35.5	1.2	4.5
60歳代	427	4.2	20.6	44.7	0.0	23.7	0.5	6.3
70歳以上	471	2.8	31.0	36.9	1.3	16.8	0.6	10.6

## 日常の買い物

「夫（父）と妻（母）で分担」の割合が 40.6%と最も高く、次いで「主に妻（母）」の割合が 33.0%、「家族全員」の割合が 17.3%となっています。

性別でみると、大きな差異はみられません。



## 【年代別】

年代別でみると、10歳代・20歳代で「家族全員」の割合が高く、3割を超えています。

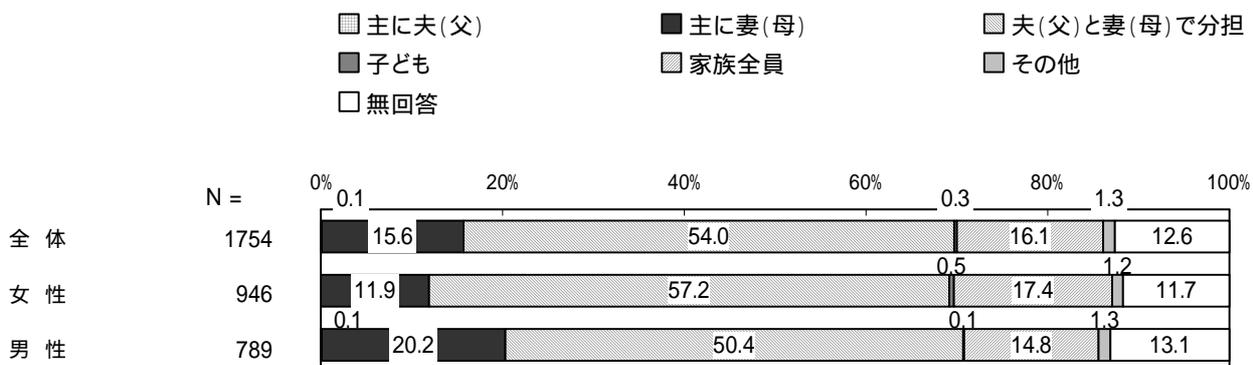
単位：%

区分	有効回答数(件)	主に夫(父)	主に妻(母)	夫(父)と妻(母)で分担	子ども	家族全員	その他	無回答
全体	1754	1.1	33.0	40.6	0.3	17.3	1.1	6.6
10歳代・20歳代	158	0.0	25.3	34.8	0.6	34.2	1.3	3.8
30歳代	174	0.0	36.2	42.5	0.0	19.5	0.0	1.7
40歳代	262	0.8	35.5	37.0	0.0	22.5	3.1	1.1
50歳代	245	0.0	26.5	46.1	0.0	21.2	1.2	4.9
60歳代	427	2.1	30.0	48.0	0.0	12.4	0.7	6.8
70歳以上	471	1.7	39.5	34.8	1.1	10.2	0.4	12.3

## 育児

「夫(父)と妻(母)で分担」の割合が54.0%と最も高く、次いで「家族全員」の割合が16.1%、「主に妻(母)」の割合が15.6%となっています。

性別で見ると、女性に比べ、男性で「主に妻(母)」の割合が高くなっています。一方、「夫(父)と妻(母)で分担」の割合が低くなっています。



## 【年代別】

年代別で見ると、70歳以上で「夫(父)と妻(母)で分担」の割合が低く、3割半ばとなっています。

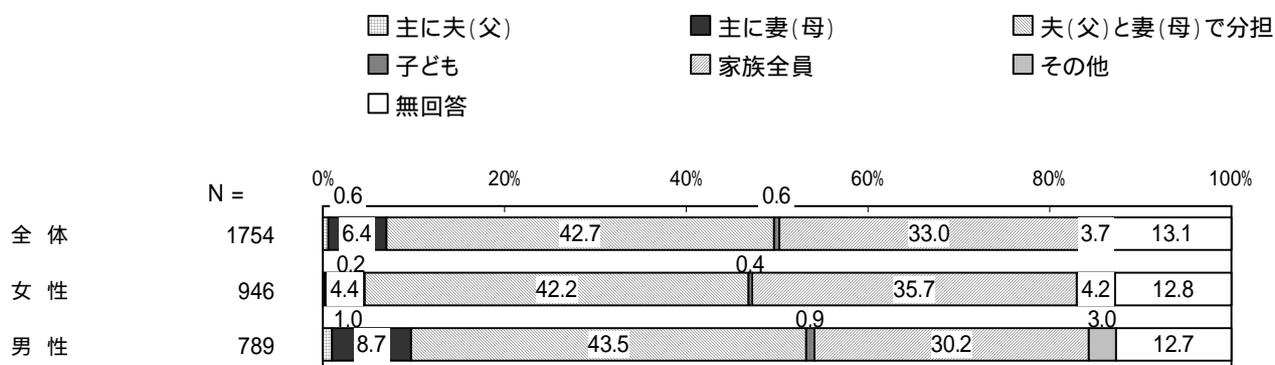
単位：%

区分	有効回答数(件)	主に夫(父)	主に妻(母)	夫(父)と妻(母)で分担	子ども	家族全員	その他	無回答
全体	1754	0.1	15.6	54.0	0.3	16.1	1.3	12.6
10歳代・20歳代	158	0.0	11.4	62.7	0.0	20.3	1.3	4.4
30歳代	174	0.0	8.0	68.4	0.0	21.3	0.0	2.3
40歳代	262	0.4	13.0	64.9	0.0	17.2	2.3	2.3
50歳代	245	0.0	9.4	63.7	0.4	20.0	1.6	4.9
60歳代	427	0.0	17.1	52.5	0.0	15.2	0.9	14.3
70歳以上	471	0.0	23.4	36.5	1.1	11.5	1.3	26.3

## 介護

「夫(父)と妻(母)で分担」の割合が42.7%と最も高く、次いで「家族全員」の割合が33.0%となっています。

性別でみると、女性に比べ、男性で「家族全員」の割合が低くなっています。



## 【年代別】

年代別でみると、40歳代で「夫(父)と妻(母)で分担」の割合が高く、5割を超えています。

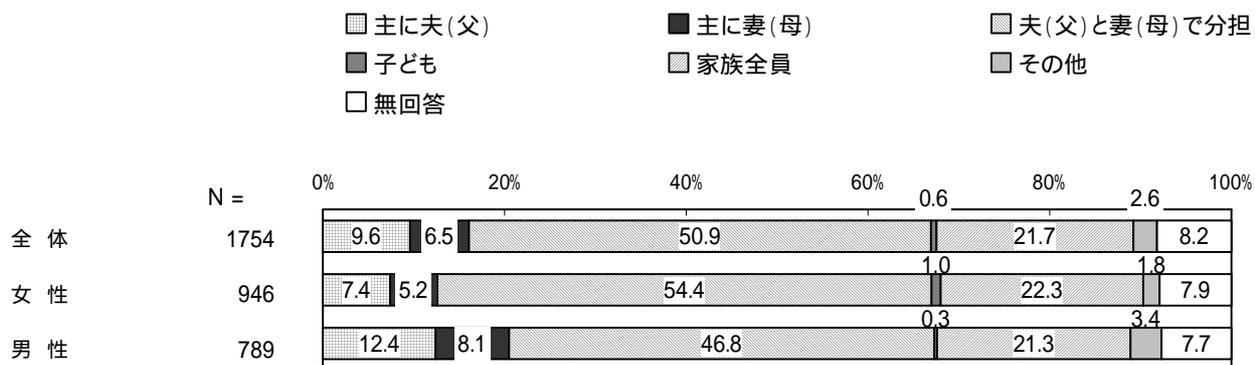
単位：%

区分	有効回答数(件)	主に夫(父)	主に妻(母)	夫(父)と妻(母)で分担	子ども	家族全員	その他	無回答
全体	1754	0.6	6.4	42.7	0.6	33.0	3.7	13.1
10歳代・20歳代	158	0.6	3.8	39.9	1.3	41.8	7.6	5.1
30歳代	174	0.6	2.3	46.6	0.0	39.7	2.3	8.6
40歳代	262	0.4	5.7	51.9	0.8	30.9	5.0	5.3
50歳代	245	0.0	2.4	47.8	0.4	37.1	5.7	6.5
60歳代	427	0.7	8.0	45.2	0.2	30.9	2.6	12.4
70歳以上	471	0.8	9.8	32.9	1.1	28.9	1.9	24.6

### 地域における活動

「夫(父)と妻(母)で分担」の割合が50.9%と最も高く、次いで「家族全員」の割合が21.7%となっています。

性別で見ると、女性に比べ、男性で「主に夫(父)」の割合が高くなっています。一方、「夫(父)と妻(母)で分担」の割合が低くなっています。



### 【年代別】

年代別で見ると、10歳代・20歳代で「夫(父)と妻(母)で分担」の割合が低く、4割未満となっています。一方、10歳代・20歳代で「家族全員」の割合が高く、4割を超えています。

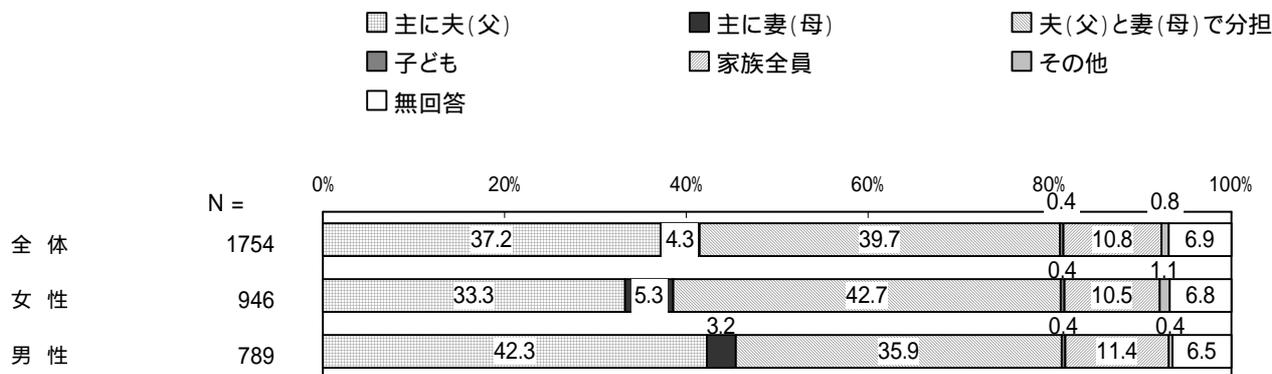
単位：%

区分	有効回答数(件)	主に夫(父)	主に妻(母)	夫(父)と妻(母)で分担	子ども	家族全員	その他	無回答
全体	1754	9.6	6.5	50.9	0.6	21.7	2.6	8.2
10歳代・20歳代	158	7.0	3.8	39.9	0.6	41.8	2.5	4.4
30歳代	174	4.6	4.0	57.5	0.0	30.5	1.1	2.3
40歳代	262	3.1	8.4	59.5	0.0	24.4	3.1	1.5
50歳代	245	4.9	2.9	59.2	0.0	26.9	2.4	3.7
60歳代	427	9.4	7.0	54.1	0.5	18.3	2.3	8.4
70歳以上	471	18.9	8.9	40.3	1.7	10.8	3.0	16.3

## 生活費の確保

「夫（父）と妻（母）で分担」の割合が 39.7%と最も高く、次いで「主に夫（父）」の割合が 37.2%、「家族全員」の割合が 10.8%となっています。

性別で見ると、女性に比べ、男性で「主に夫（父）」の割合が高くなっています。一方、「夫（父）と妻（母）で分担」の割合が低くなっています。



## 【年代別】

年代別で見ると、40 歳代、70 歳以上で「主に夫（父）」の割合が高く、4 割を超えています。一方、10 歳代・20 歳代で「夫（父）と妻（母）で分担」の割合が高く、5 割を超えています。

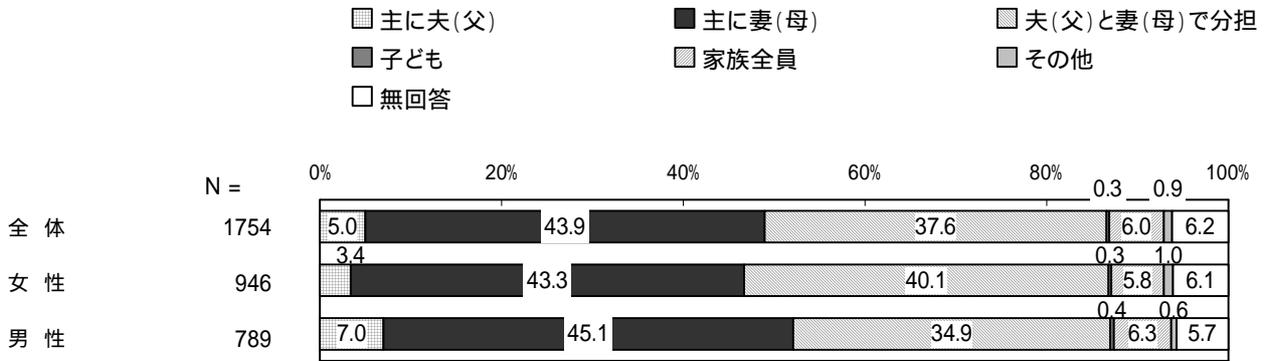
単位：%

区分	有効回答数(件)	主に夫(父)	主に妻(母)	夫(父)と妻(母)で分担	子ども	家族全員	その他	無回答
全体	1754	37.2	4.3	39.7	0.4	10.8	0.8	6.9
10 歳代・20 歳代	158	29.7	1.9	51.9	0.6	10.8	1.3	3.8
30 歳代	174	36.2	2.3	48.9	0.6	10.3	0.0	1.7
40 歳代	262	41.6	3.4	42.4	0.0	8.4	2.3	1.9
50 歳代	245	35.5	1.2	42.0	0.0	15.5	1.6	4.1
60 歳代	427	34.0	4.7	41.2	0.0	13.1	0.0	7.0
70 歳以上	471	42.0	7.6	28.5	1.1	7.6	0.2	13.0

## 日常の家計管理

「主に妻（母）」の割合が 43.9%と最も高く、次いで「夫（父）と妻（母）で分担」の割合が 37.6%となっています。

性別でみると、女性に比べ、男性で「夫（父）と妻（母）で分担」の割合が低くなっています。



## 【年代別】

年代別でみると、10歳代・20歳代、50歳代で「夫（父）と妻（母）で分担」の割合が高くなっています。また、50歳代で「主に夫（父）」の割合が低くなっています。

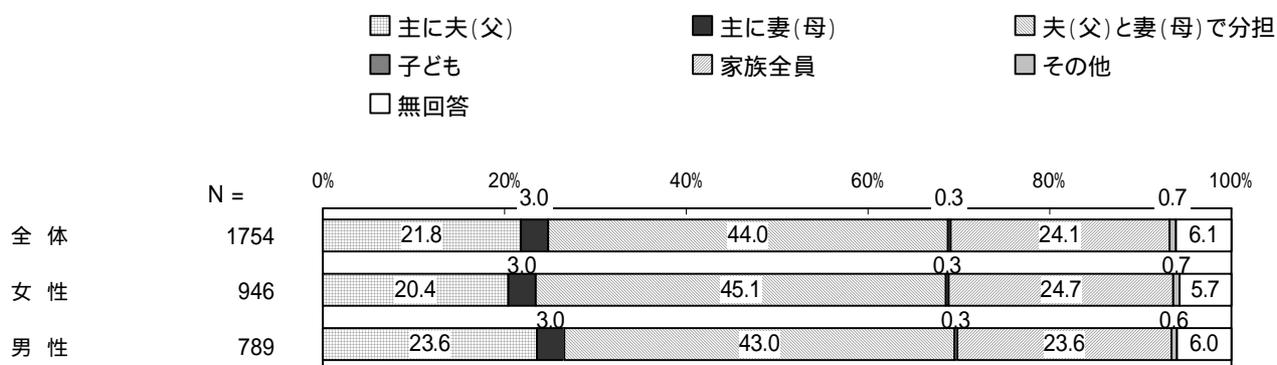
単位：%

区分	有効回答数(件)	主に夫(父)	主に妻(母)	夫(父)と妻(母)で分担	子ども	家族全員	その他	無回答
全体	1754	5.0	43.9	37.6	0.3	6.0	0.9	6.2
10歳代・20歳代	158	4.4	36.7	45.6	0.0	8.2	1.3	3.8
30歳代	174	4.0	47.7	41.4	0.0	5.2	0.0	1.7
40歳代	262	5.7	45.0	37.8	0.0	8.0	1.9	1.5
50歳代	245	1.6	37.6	49.0	0.0	6.9	1.6	3.3
60歳代	427	4.9	43.6	39.1	0.2	5.6	0.2	6.3
70歳以上	471	7.0	48.4	27.0	1.1	4.5	0.4	11.7

## 家庭における重要な決定

「夫(父)と妻(母)で分担」の割合が44.0%と最も高く、次いで「家族全員」の割合が24.1%、「主に夫(父)」の割合が21.8%となっています。

性別でみると、大きな差異はみられません。



## 【年代別】

年代別でみると、30歳代、40歳代、70歳以上で「主に夫(父)」の割合が高く、2割を超えています。

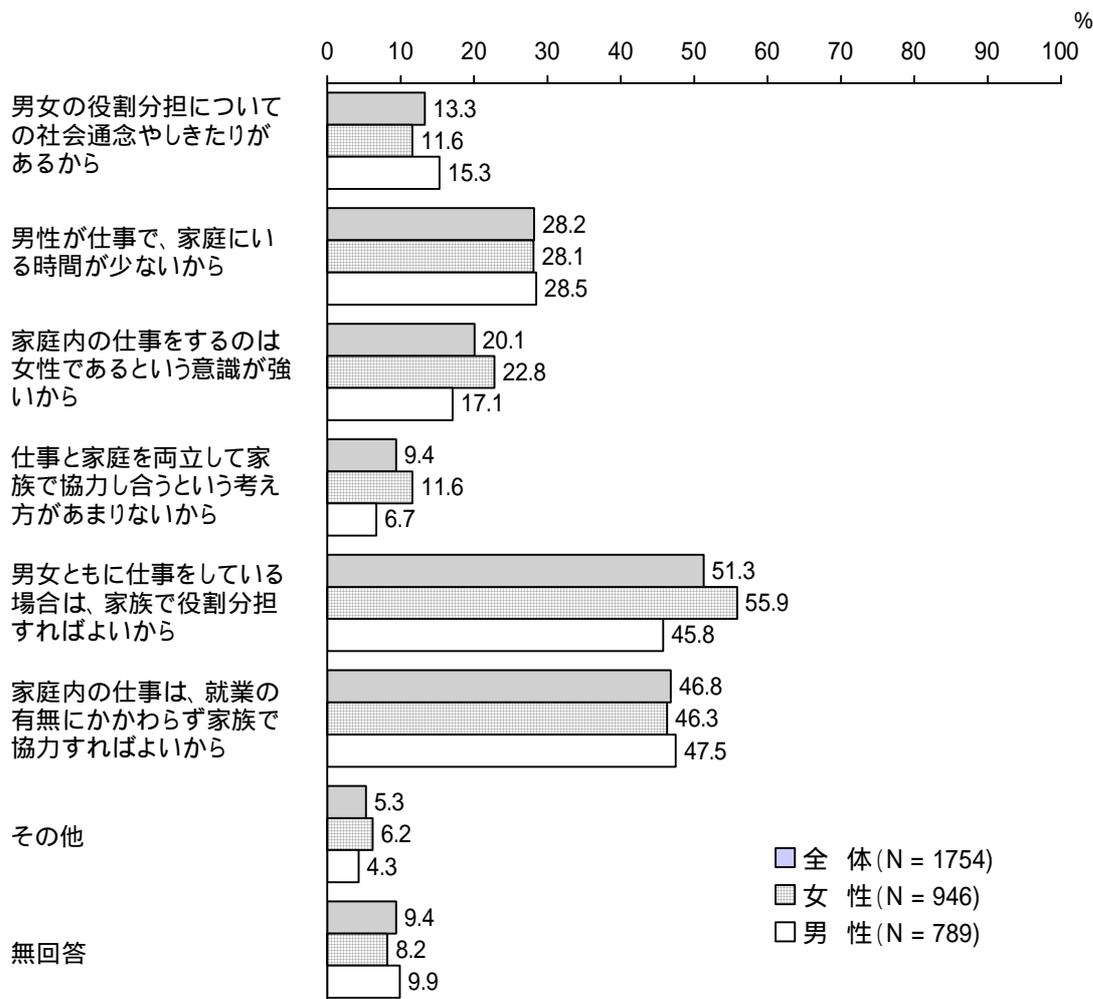
単位：%

区分	有効回答数(件)	主に夫(父)	主に妻(母)	夫(父)と妻(母)で分担	子ども	家族全員	その他	無回答
全体	1754	21.8	3.0	44.0	0.3	24.1	0.7	6.1
10歳代・20歳代	158	15.2	1.9	46.2	0.0	31.6	1.3	3.8
30歳代	174	24.7	2.9	43.1	0.0	27.6	0.0	1.7
40歳代	262	21.0	2.3	46.6	0.0	27.1	1.1	1.9
50歳代	245	14.3	1.2	48.2	0.0	31.0	1.6	3.7
60歳代	427	19.0	3.7	47.8	0.0	23.2	0.0	6.3
70歳以上	471	29.7	4.0	37.6	1.1	16.1	0.6	10.8

問 14 問 13 の回答について、その理由をお答えください。(いくつでも選んでください)

「男女ともに仕事をしている場合は、家族で役割分担すればよいから」の割合が 51.3% と最も高く、次いで「家庭内の仕事は、就業の有無にかかわらず家族で協力すればよいから」の割合が 46.8%、「男性が仕事で、家庭にいる時間が少ないから」の割合が 28.2% となっています。

性別で見ると、男性に比べ、女性で「家庭内の仕事をするのは女性であるという意識が強いから」「男女ともに仕事をしている場合は、家族で役割分担すればよいから」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、40歳代で「男性が仕事で、家庭にいる時間が少ないから」の割合が高く3割半ばとなっています。また、70歳以上で「家庭内の仕事をするのは女性であるという意識が強いから」の割合が高く、約3割となっています。

単位：%

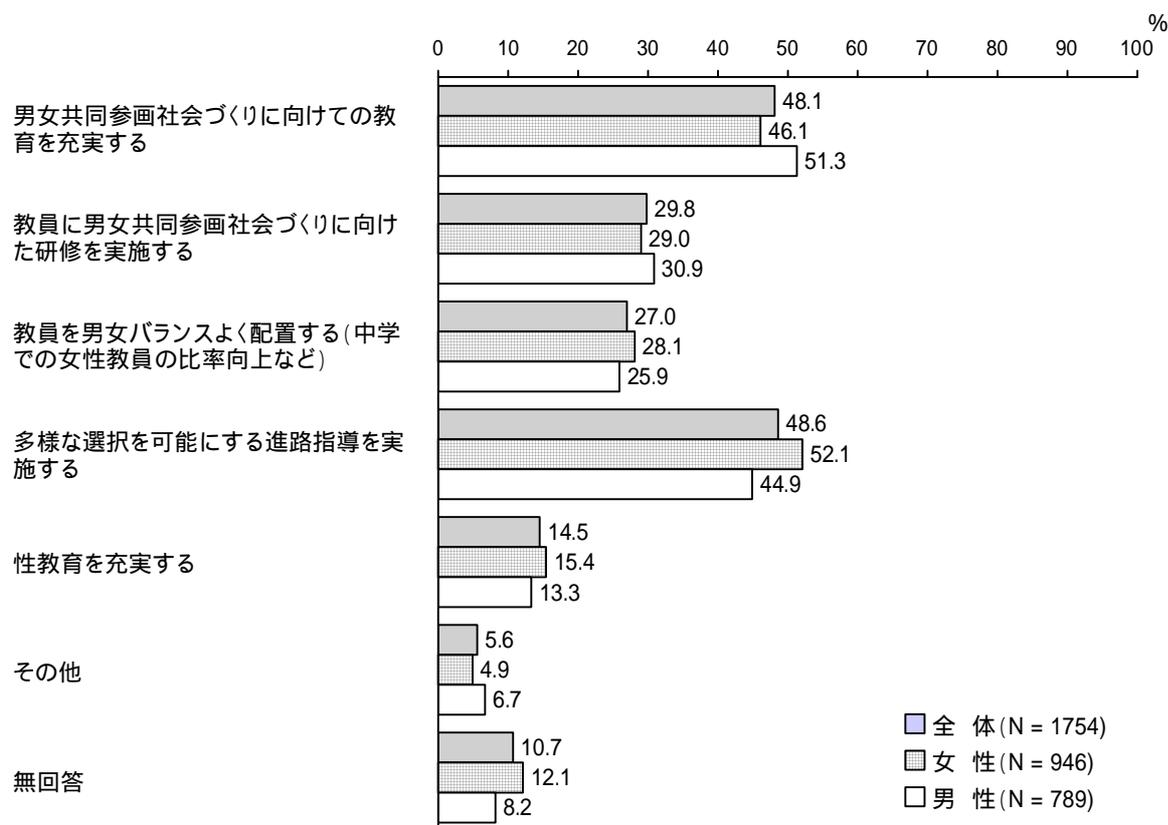
区分	有効回答数(件)	から 社会通念やしきたりがある	男女の役割分担についての	男性が仕事で、家庭にいる時間が少ないから	家庭内の仕事をするのは女性であるという意識が強いから	があまりないから	仕事と家庭を両立して家族で協力し合うという考え方があまりないから	ばよいから	男女ともに仕事をしている場合は、家族で役割分担すればよいから	家庭内の仕事は、就業の有無にかかわらず家族で協力すればよいから	その他	無回答
全体	1754	13.3	28.2	20.1	9.4	51.3	46.8	5.3	9.4			
10歳代・20歳代	158	8.9	17.1	15.2	8.2	55.7	39.9	3.8	8.2			
30歳代	174	7.5	27.0	13.8	5.2	58.0	43.1	4.6	2.9			
40歳代	262	9.2	34.0	14.1	7.3	51.5	43.9	8.8	3.1			
50歳代	245	11.0	24.9	12.7	6.5	60.0	45.7	4.9	7.8			
60歳代	427	13.6	28.3	21.8	9.8	52.0	49.2	4.7	9.8			
70歳以上	471	20.0	31.0	30.1	13.8	42.3	50.7	5.1	14.9			

## 4 教育について

問 15 男女共同参画を推進するためには、学校教育の場において、どのような取り組みが必要だと思いますか。(いくつでも選んでください)

「多様な選択を可能にする進路指導を実施する」の割合が48.6%と最も高く、次いで「男女共同参画社会づくりに向けての教育を充実する」の割合が48.1%、「教員に男女共同参画社会づくりに向けた研修を実施する」の割合が29.8%となっています。

性別で見ると、男性に比べ、女性で「多様な選択を可能にする進路指導を実施する」の割合が高くなっています。また、男性で「男女共同参画社会づくりに向けての教育を充実する」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、大きな差異はみられません。

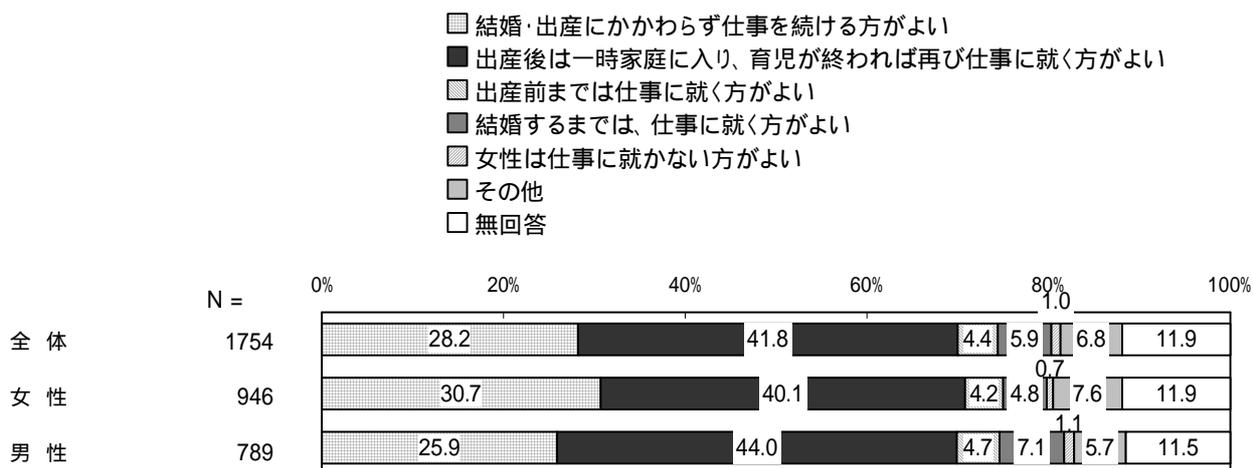
単位：%

区分	有効回答数(件)	男女共同参画社会づくりに向けての教育を充実する	教員に男女共同参画社会づくりに向けた研修を実施する	教員を男女バランスよく配置する(中学での女性教員の比率向上など)	多様な選択を可能にする進路指導を実施する	性教育を充実する	その他	無回答
全体	1754	48.1	29.8	27.0	48.6	14.5	5.6	10.7
10歳代・20歳代	158	40.5	20.9	29.7	51.9	9.5	2.5	5.7
30歳代	174	49.4	29.3	25.3	55.2	14.4	5.7	4.0
40歳代	262	48.5	22.1	22.1	53.8	11.8	7.6	4.6
50歳代	245	49.8	32.2	22.4	51.8	9.4	6.5	8.2
60歳代	427	48.5	34.0	26.2	51.3	14.5	4.7	10.1
70歳以上	471	49.9	32.3	32.5	38.2	20.6	6.2	19.1

## 5 仕事について

問 16 女性が仕事をする事についてあなたはどのようにお考えですか。  
(1つ選んでください)

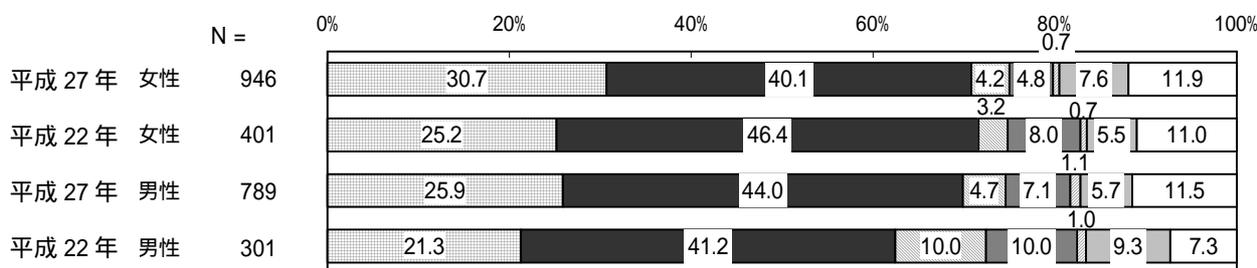
「出産後は一時家庭に入り、育児が終われば再び仕事に就く方がよい」の割合が41.8%と最も高く、次いで「結婚・出産にかかわらず仕事を続ける方がよい」の割合が28.2%となっています。  
性別で見ると、大きな差異はみられません。



### 【平成 22 年調査】

平成 22 年調査と比較すると、「結婚・出産にかかわらず仕事を続ける方がよい」の割合が高くなっています。

性別で見ると、女性で「結婚・出産にかかわらず仕事を続ける方がよい」の割合が高くなっています。一方、「出産後は一時家庭に入り、育児が終われば再び仕事に就く方がよい」の割合が低くなっています。男性で「出産前までは仕事に就く方がよい」の割合が低くなっています。



【年代別】

年代別でみると、40 歳代、50 歳代で「結婚・出産にかかわらず仕事を続ける方がよい」の割合が高く、3 割半ばを超えています。

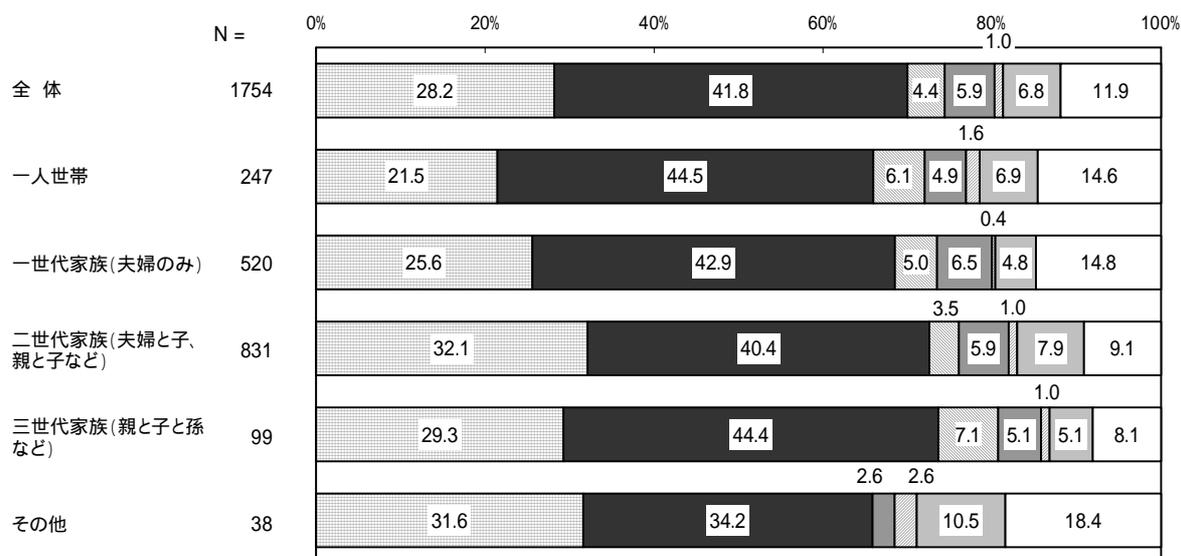
単位：%

区分	有効回答数(件)	結婚・出産にかかわらず仕事を続ける方がよい	出産後は一時家庭に入り、育児が終われば再び仕事に就く方がよい	出産前までは仕事に就く方がよい	結婚するまでは、仕事に就く方がよい	女性は仕事に就かない方がよい	その他	無回答
全体	1754	28.2	41.8	4.4	5.9	1.0	6.8	11.9
10 歳代・20 歳代	158	30.4	45.6	6.3	5.7	0.6	8.2	3.2
30 歳代	174	29.3	46.6	4.6	5.2	0.6	9.2	4.6
40 歳代	262	37.4	37.0	4.2	2.7	1.1	12.2	5.3
50 歳代	245	37.1	40.0	2.0	3.3	0.0	9.0	8.6
60 歳代	427	28.1	44.5	3.5	6.1	0.7	5.6	11.5
70 歳以上	471	18.3	39.9	5.9	9.1	1.7	2.3	22.7

## 【家族構成別】

家族構成別でみると、二世世代家族（夫婦と子、親と子など）で「結婚・出産にかかわらず仕事を続ける方がよい」の割合が高く、3割を超えています。

- 結婚・出産にかかわらず仕事を続ける方がよい
- 出産後は一時家庭に入り、育児が終われば再び仕事に就く方がよい
- 出産前までは仕事に就く方がよい
- 結婚するまでは、仕事に就く方がよい
- 女性は仕事に就かない方がよい
- その他
- 不明・無回答



問 17～問 20 は、現在就労している方のみお答えください。

問 17 あなたの平日における平均的な時間の使い方をお答えください。

所要時間	仕事に関する時間		家事に関する時間		育児に関する時間		介護に関する時間		自由時間		食事・入浴など		睡眠	
	人数 (人)	構成比 (%)												
0時間～1時間未満	20	1.7	209	17.8	288	24.5	343	29.1	103	8.8	97	8.2	4	0.3
1時間台	19	1.6	177	15.0	58	4.9	25	2.1	174	14.8	447	38.0	-	-
2時間台	8	0.7	157	13.3	41	3.5	14	1.2	197	16.7	276	23.4	3	0.3
3時間台	19	1.6	81	6.9	16	1.4	7	0.6	131	11.1	55	4.7	1	0.1
4時間台	38	3.2	65	5.5	13	1.1	-	-	56	4.8	13	1.1	29	2.5
5時間台	43	3.7	43	3.7	9	0.8	3	0.3	41	3.5	6	0.5	111	9.4
6時間台	56	4.8	23	2.0	7	0.6	1	0.1	18	1.5	-	-	332	28.2
7時間台	55	4.7	7	0.6	1	0.1	-	-	13	1.1	-	-	305	25.9
8時間台	117	9.9	14	1.2	-	-	-	-	14	1.2	-	-	105	8.9
9時間台	80	6.8	1	0.1	1	0.1	-	-	3	0.3	-	-	19	1.6
10時間台	133	11.3	2	0.2	3	0.3	-	-	8	0.7	-	-	2	0.2
11時間台	59	5.0	2	0.2	1	0.1	-	-	1	0.1	-	-	-	-
12時間台	104	8.8	1	0.1	-	-	-	-	3	0.3	-	-	-	-
13時間台	34	2.9	-	-	1	0.1	-	-	-	-	-	-	-	-
14時間台	39	3.3	1	0.1	-	-	1	0.1	1	0.1	-	-	1	0.1
15時間台	19	1.6	-	-	-	-	-	-	1	0.1	-	-	-	-
16時間台	5	0.4	-	-	2	0.2	-	-	-	-	-	-	-	-
17時間台	2	0.2	-	-	1	0.1	-	-	-	-	-	-	-	-
18時間台	-	-	1	0.1	1	0.1	2	0.2	-	-	-	-	1	0.1
19時間台	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20時間台以上	2	0.2	2	0.2	5	0.4	-	-	1	0.1	1	0.1	-	-
無回答	325	27.6	391	33.2	729	61.9	781	66.4	412	35.0	282	24.0	264	22.4
全体	1,177	100.0	1,177	100.0	1,177	100.0	1,177	100.0	1,177	100.0	1,177	100.0	1,177	100.0

#### 仕事に関する時間

全体では、「10時間台」の割合が11.3%と最も高くなっています。

#### 家事に関する時間

「0時間～1時間未満」の割合が17.8%と最も高く、次いで「1時間台」の割合が15.0%、「2時間台」の割合が13.3%となっています。

#### 育児に関する時間

「0時間～1時間未満」の割合が24.5%と最も高くなっています。

#### 介護に関する時間

「0時間～1時間未満」の割合が29.1%と最も高くなっています。

#### 自由時間

「2時間台」の割合が16.7%と最も高く、次いで「1時間台」の割合が14.8%、「3時間台」の割合が11.1%となっています。

#### 食事・入浴など

「1時間台」の割合が38.0%と最も高く、次いで「2時間台」の割合が23.4%となっています。

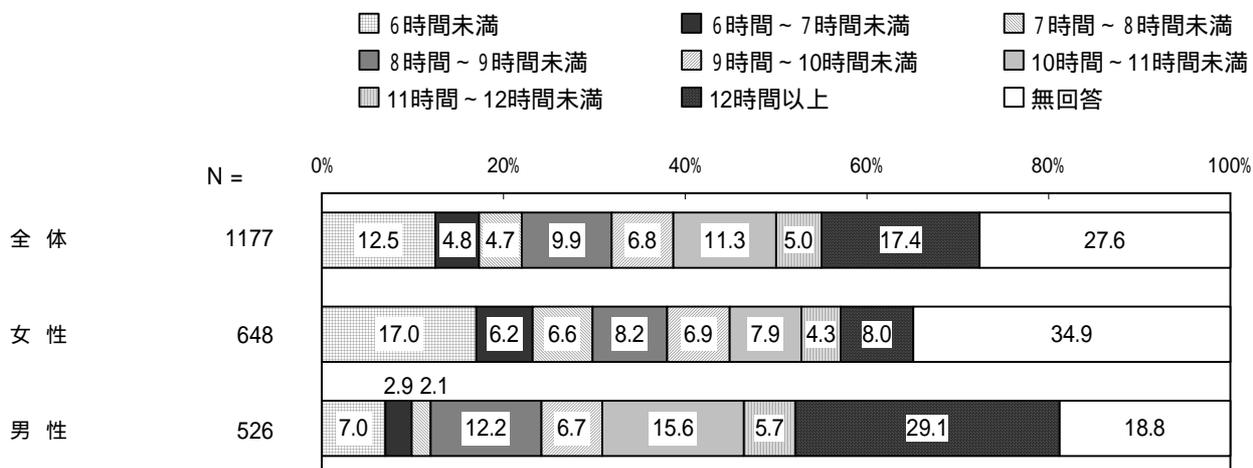
#### 睡眠

「6時間台」の割合が28.2%と最も高く、次いで「7時間台」の割合が25.9%となっています。

### 【仕事に関する時間】

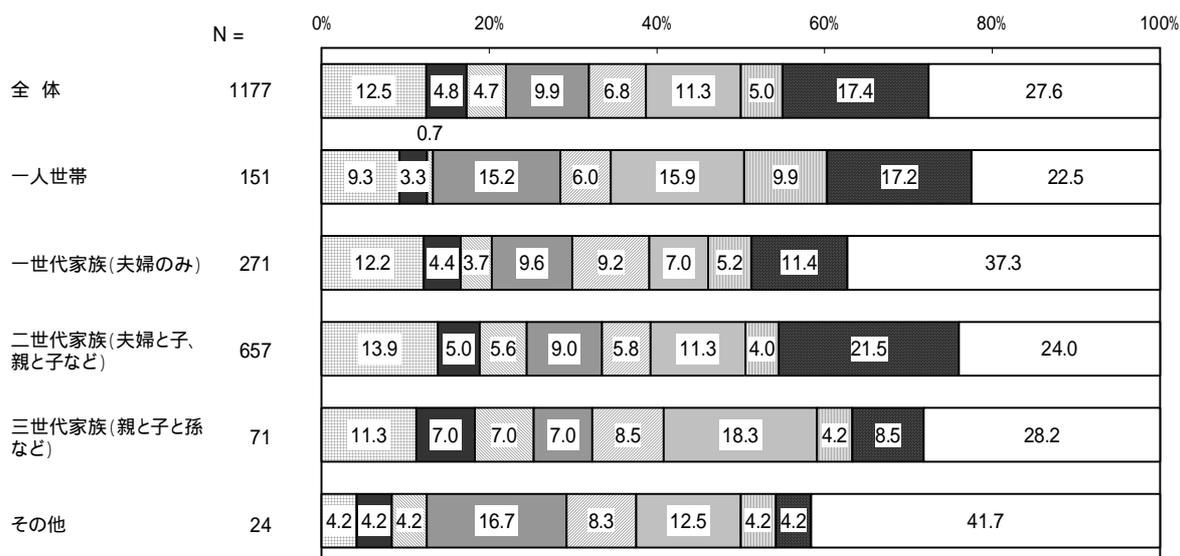
「12 時間以上」の割合が 17.4%と最も高く、次いで「6 時間未満」の割合が 12.5%、「10 時間～11 時間未満」の割合が 11.3%となっています。

性別でみると、女性に比べ、男性で「12 時間以上」「10 時間～11 時間未満」の割合が高くなっています。また、女性で「6 時間未満」の割合が高くなっています。



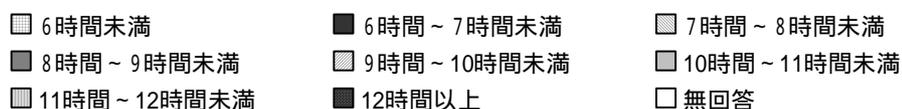
### 【家族構成別】

家族構成別でみると、二世世代家族（夫婦と子、親と子など）で「12 時間以上」の割合が高く、約 2 割となっています。また、三世世代家族（親と子と孫など）で「10 時間～11 時間未満」の割合が高く、約 2 割となっています。

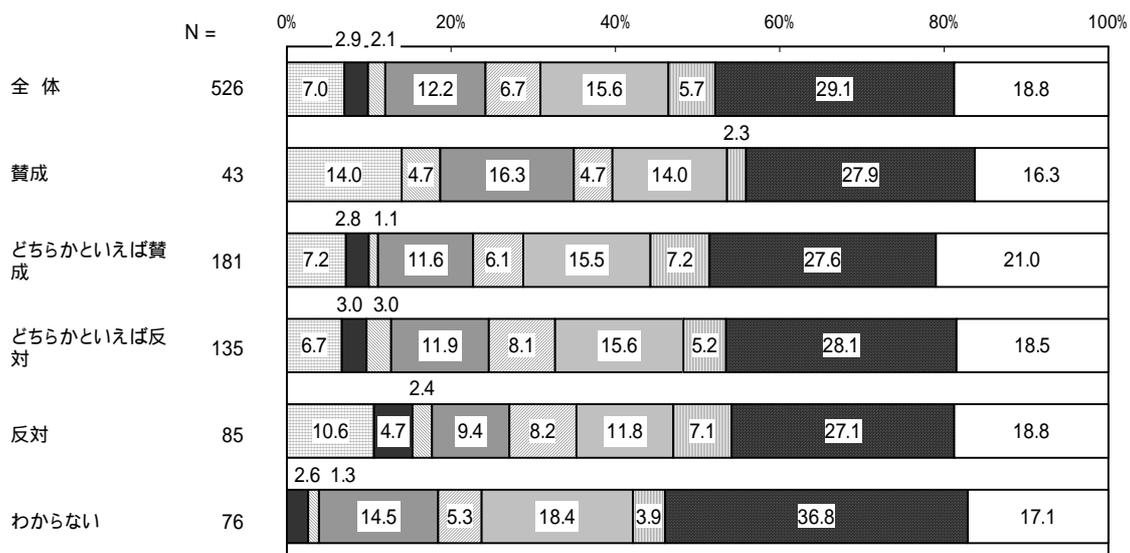


【「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方別】

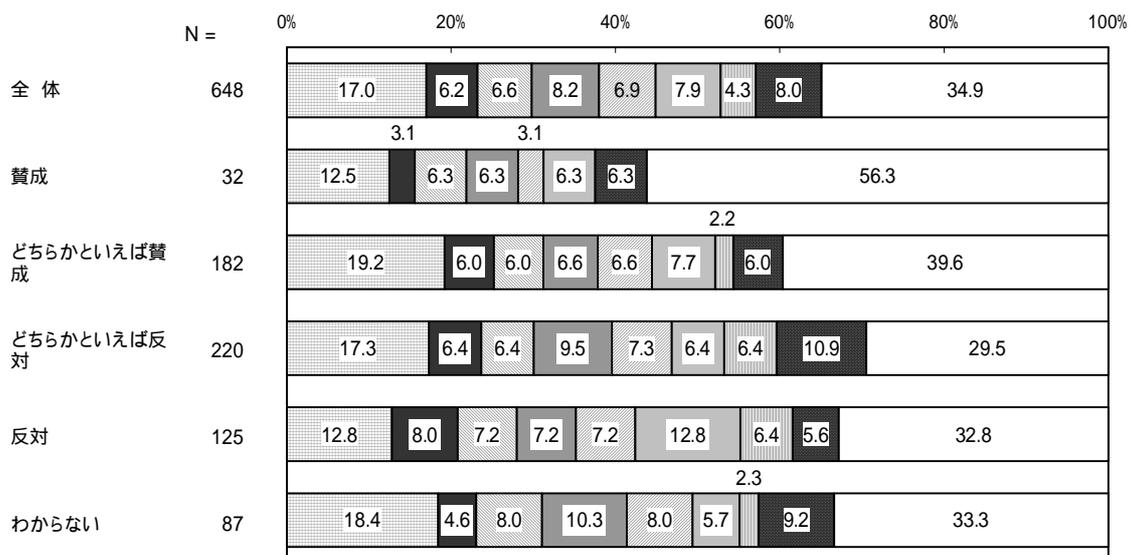
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方でみると、男性の賛成で「6時間未満」の割合が高く、約1割半ばとなっています。また、女性のどちらかといえば賛成で「6時間未満」の割合が高く、約2割となっています。



【男性】



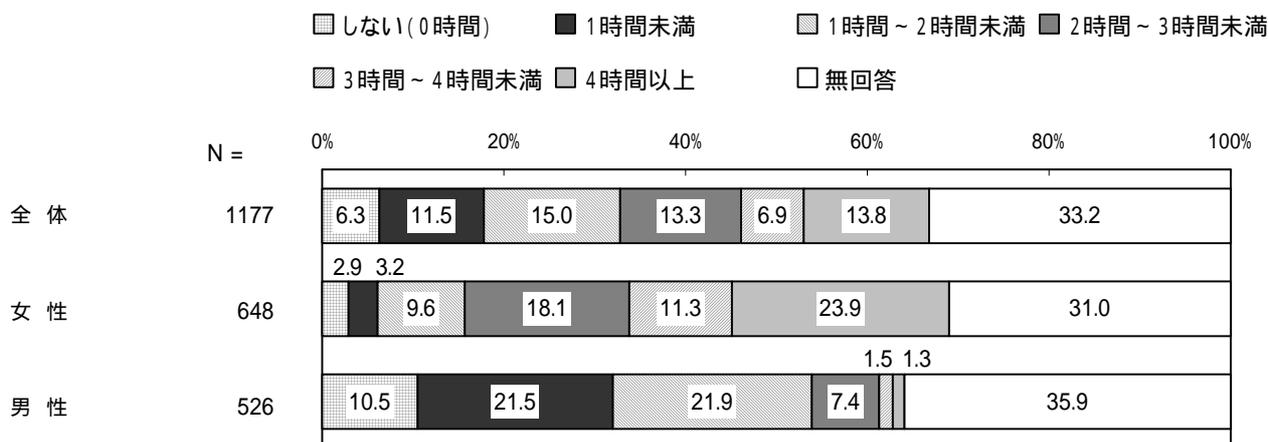
【女性】



### 【家事に関する時間】

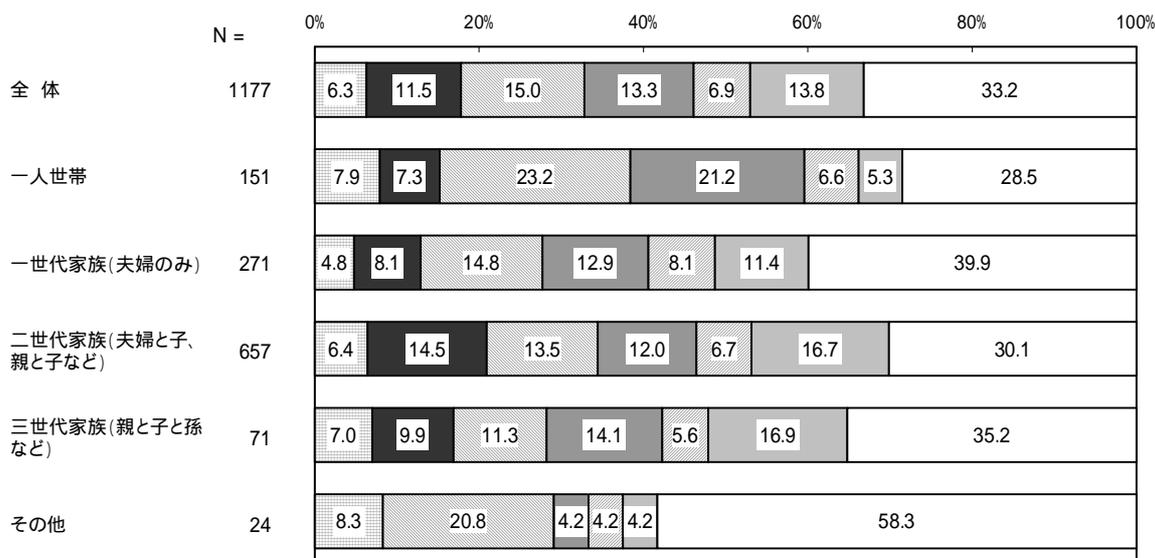
「1時間～2時間未満」の割合が15.0%と最も高く、次いで「4時間以上」の割合が13.8%、「2時間～3時間未満」の割合が13.3%となっています。

性別でみると、女性に比べ、男性で「しない(0時間)」「1時間未満」「1時間～2時間未満」の割合が高くなっています。



### 【家族構成別】

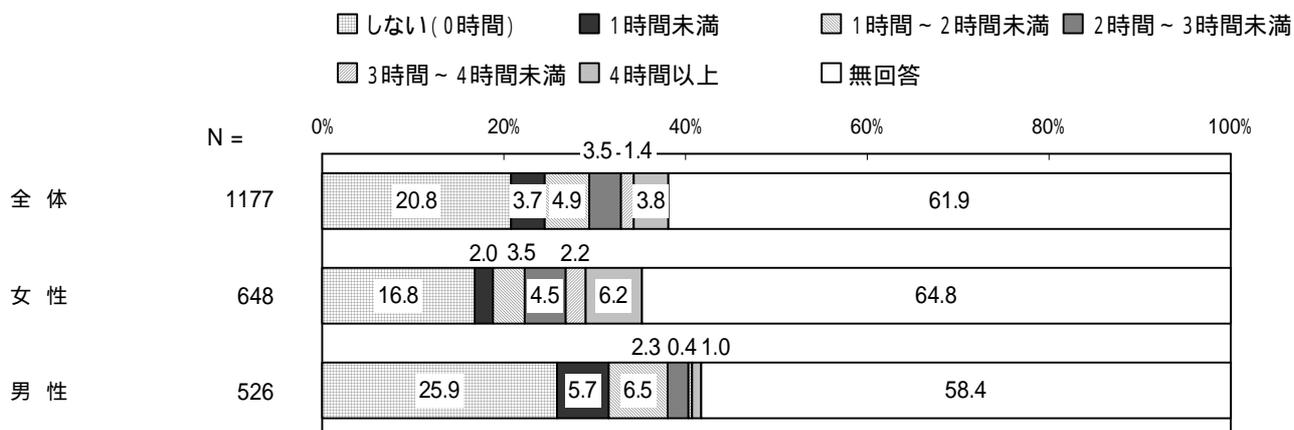
家族構成別でみると、一人世帯で「1時間～2時間未満」の割合が高く、2割を超えています。また、二世世代家族(夫婦と子、親と子など)、三世世代家族(親と子と孫など)で「4時間以上」の割合が高く、約1割半ばとなっています。



### 【育児に関する時間】

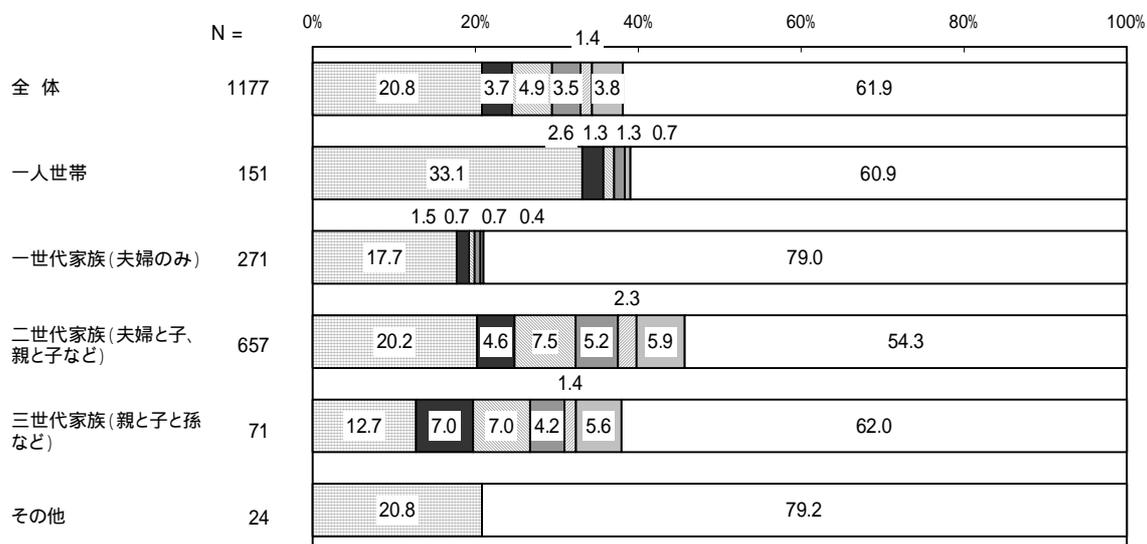
「しない(0時間)」の割合が20.8%と最も高くなっています。

性別でみると、女性に比べ、男性で「しない(0時間)」の割合が高く、「4時間以上」の割合が低くなっています。



### 【家族構成別】

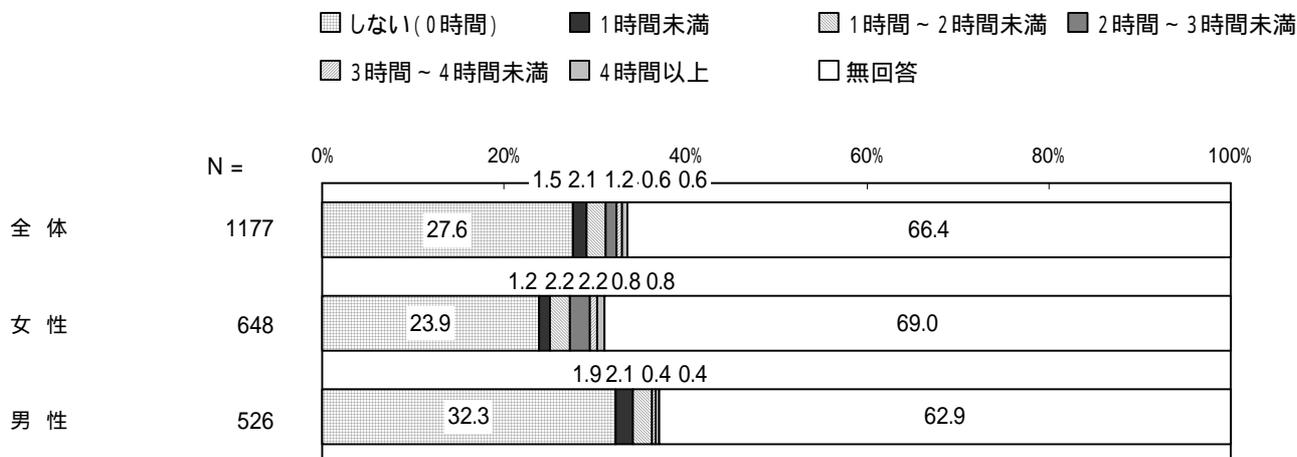
家族構成別でみると、一人世帯で「しない(0時間)」の割合が高く、3割を超えています。



### 【介護に関する時間】

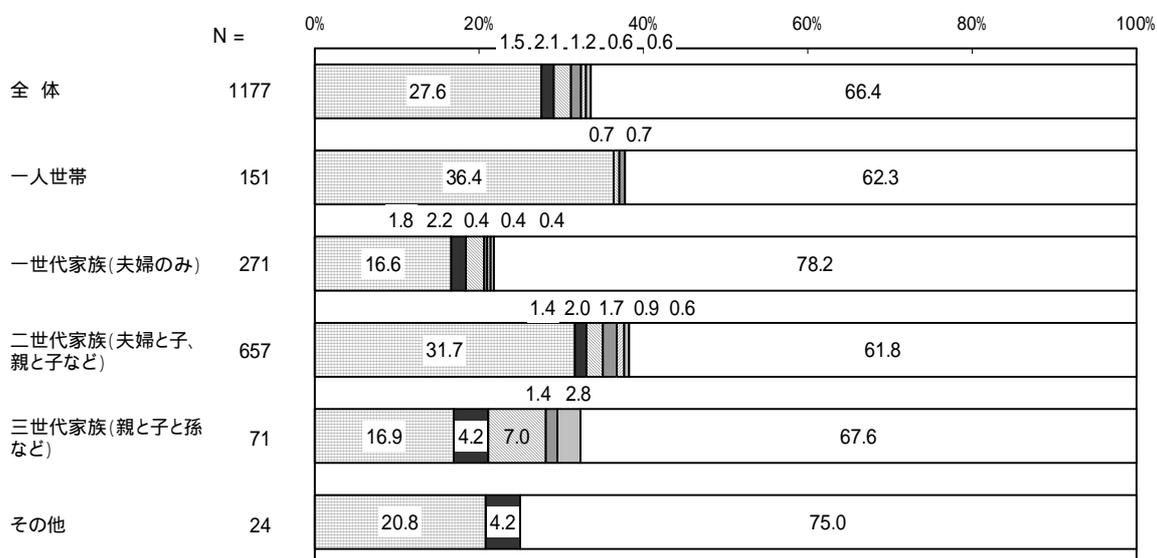
「しない(0時間)」の割合が27.6%と最も高くなっています。

性別でみると、女性に比べ、男性で「しない(0時間)」の割合が高くなっています。



### 【家族構成別】

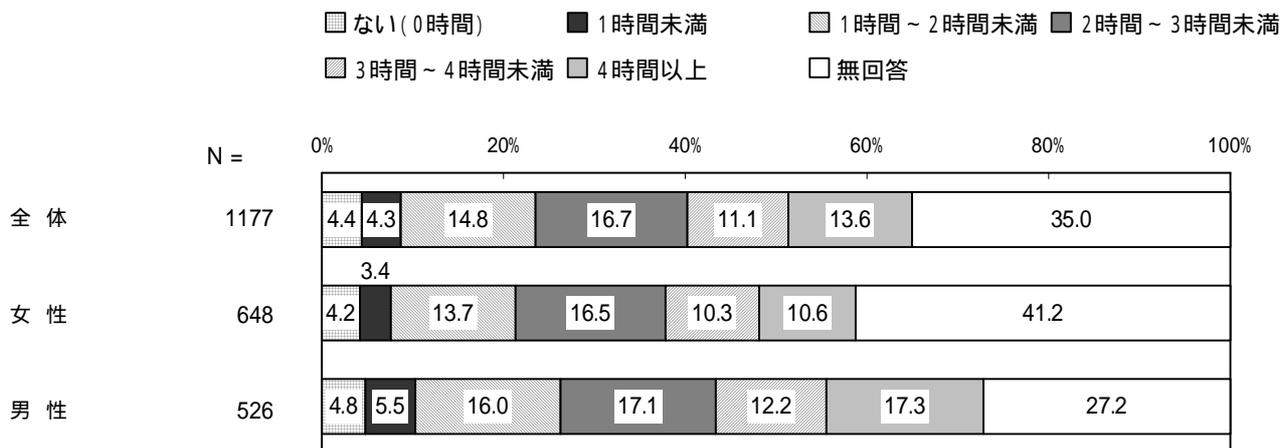
家族構成別でみると、一人世帯、二世世代家族(夫婦と子、親と子など)で「しない(0時間)」の割合が高く、3割を超えています。



### 【自由時間】

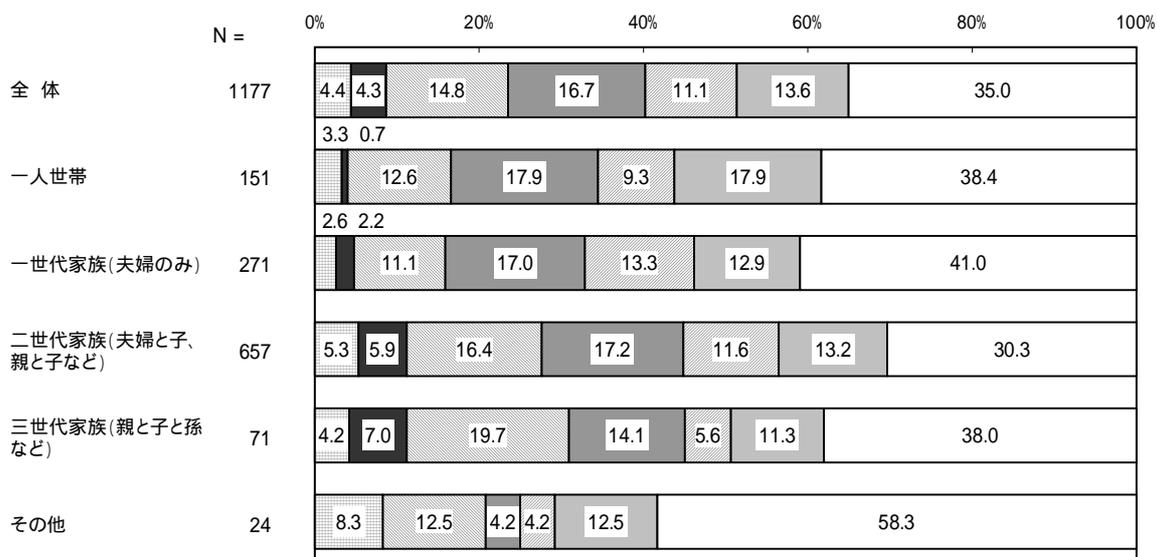
「2時間～3時間未満」の割合が16.7%と最も高く、次いで「1時間～2時間未満」の割合が14.8%、「4時間以上」の割合が13.6%となっています。

性別でみると、男性に比べ、女性で「4時間以上」の割合が低くなっています。



### 【家族構成別】

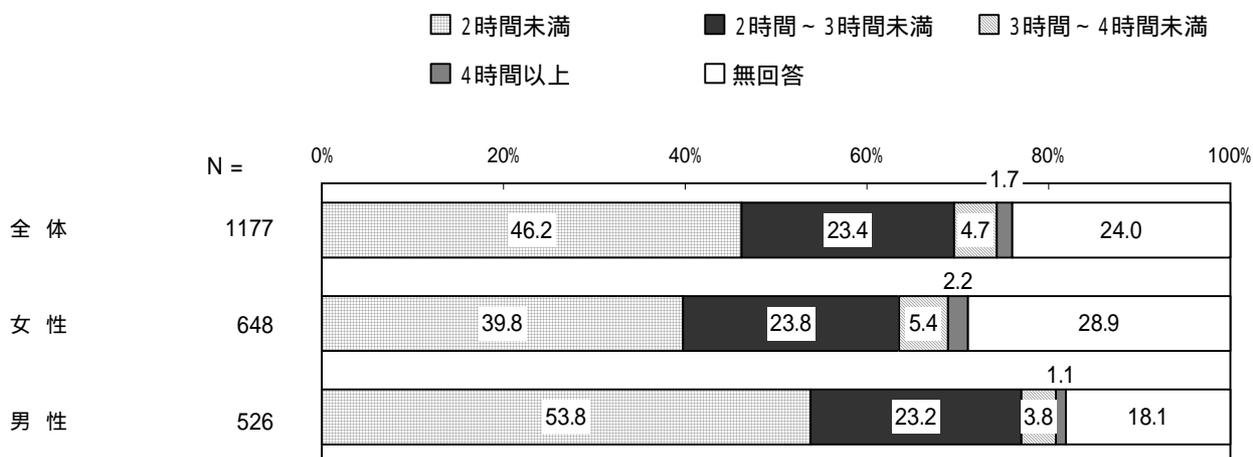
家族構成別でみると、一人世帯で「4時間以上」の割合が高く、約2割となっています。また、三世代家族(親と子と孫など)で「1時間～2時間未満」の割合が高く、約2割となっています。



### 【食事・入浴など】

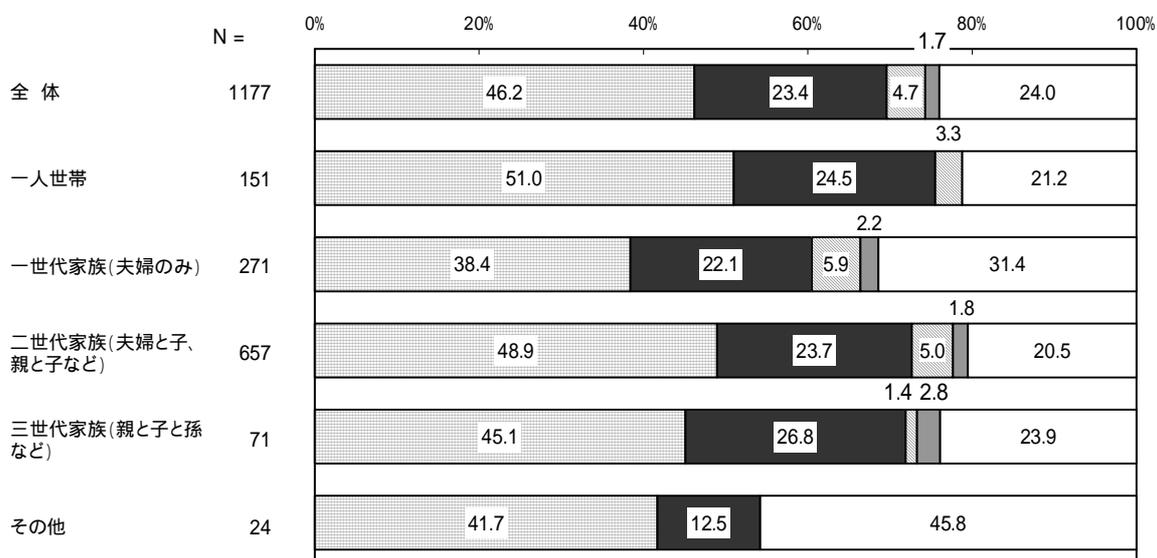
「2時間未満」の割合が46.2%と最も高く、次いで「2時間～3時間未満」の割合が23.4%となっています。

性別でみると、女性に比べ、男性で「2時間未満」の割合が高くなっています。



### 【家族構成別】

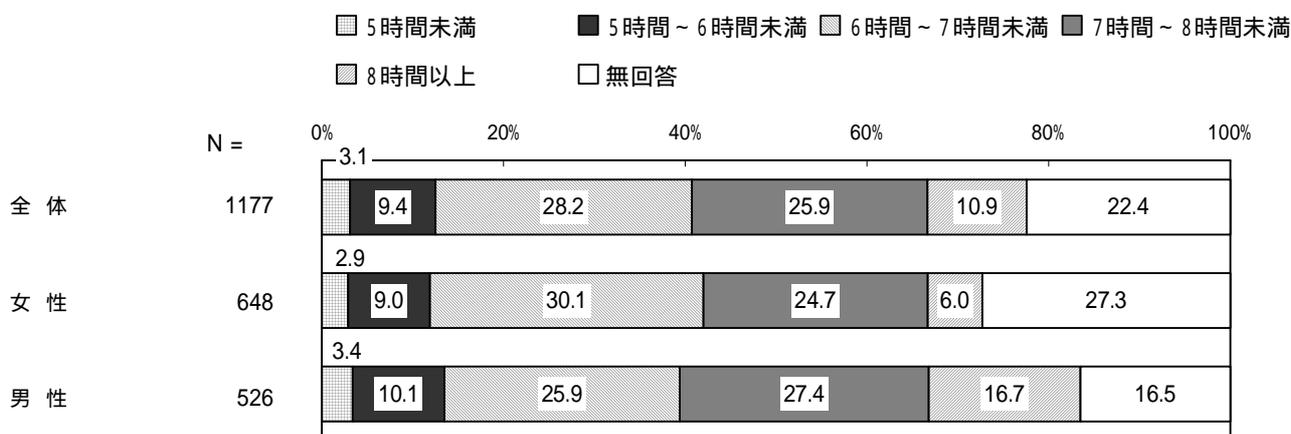
家族構成別でみると、一人世帯で「2時間未満」の割合が高く、5割を超えています。



## 【睡眠】

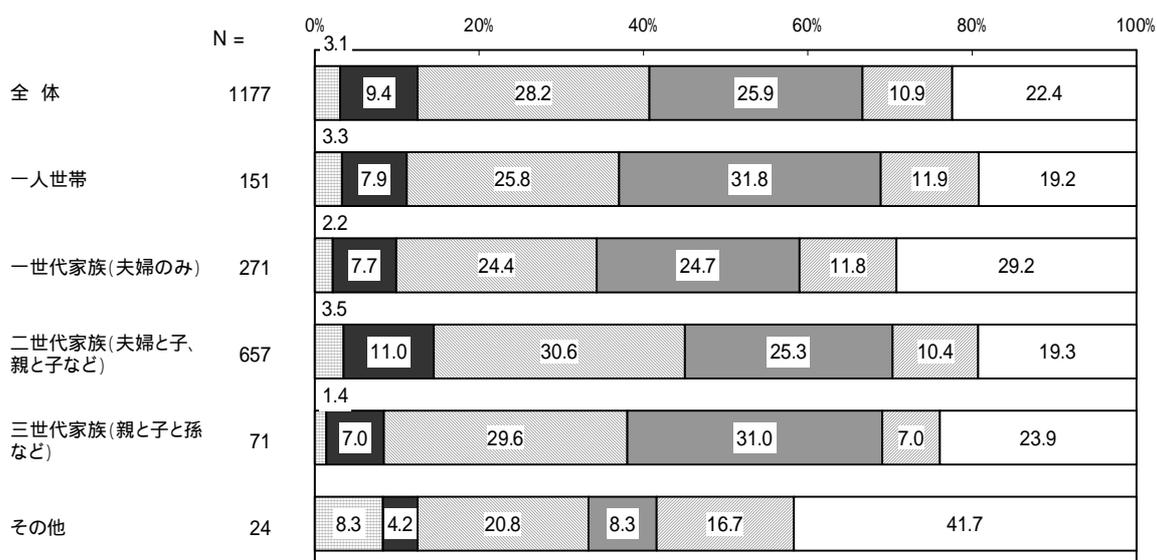
「6時間～7時間未満」の割合が28.2%と最も高く、次いで「7時間～8時間未満」の割合が25.9%、「8時間以上」の割合が10.9%となっています。

性別でみると、男性に比べ、女性で「8時間以上」の割合が低くなっています。



## 【家族構成別】

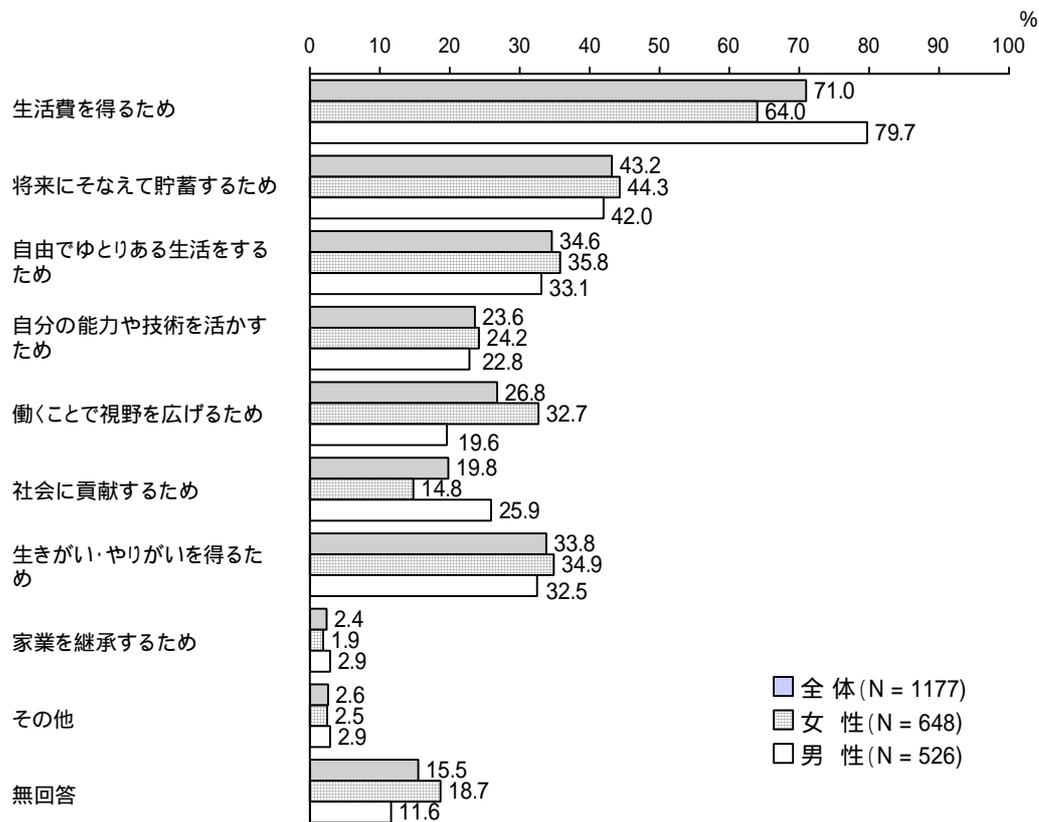
家族構成別でみると、二世世代家族（夫婦と子、親と子など）で「5時間～6時間未満」の割合が高く、1割を超えています。また、一人世帯、三世世代家族（親と子と孫など）で「7時間～8時間未満」の割合が高く、約3割となっています。



問 18 働く目的や理由について、あてはまるものをお答えください。  
(いくつでも選んでください)

「生活費を得るため」の割合が71.0%と最も高く、次いで「将来にそなえて貯蓄するため」の割合が43.2%、「自由でゆとりある生活をするため」の割合が34.6%となっています。

性別でみると、男性に比べ、女性で「働くことで視野を広げるため」の割合が高くなっています。また、男性で「生活費を得るため」「社会に貢献するため」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、30歳代で「生きがい・やりがいを得るため」の割合が高く、4割を超えています。

単位：%

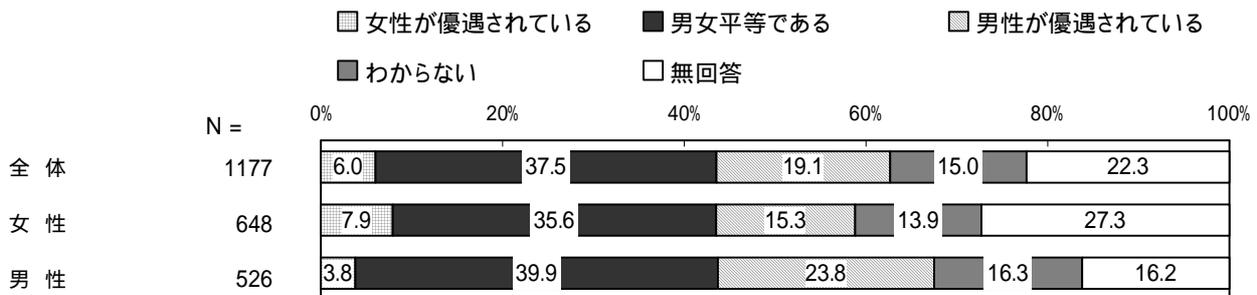
区分	有効回答数(件)	生活費を得るため	将来にそなえて貯蓄するため	自由でゆとりある生活をするため	自分の能力や技術を活かすため	働くことで視野を広げるため	社会に貢献するため	生きがい・やりがいを得るため	家業を継承するため	その他	無回答
全体	1177	71.0	43.2	34.6	23.6	26.8	19.8	33.8	2.4	2.6	15.5
10歳代・20歳代	126	61.1	50.0	31.0	24.6	24.6	15.9	31.7	-	2.4	23.0
30歳代	164	78.7	55.5	34.8	22.6	29.3	24.4	42.1	1.2	1.2	10.4
40歳代	242	81.0	45.5	35.1	21.1	23.1	17.8	23.6	1.7	3.7	8.3
50歳代	227	80.6	51.5	37.9	27.8	30.4	25.1	35.2	1.3	2.2	7.0
60歳代	281	66.5	32.4	39.5	25.3	27.0	19.2	38.8	3.9	3.2	19.6
70歳以上	136	46.3	25.7	20.6	18.4	25.7	14.0	30.9	5.9	2.2	33.1

問 19 あなたの職場で、下記の ~ の項目について、どのように感じますか。(それぞれ1つ選んでください)

採用・募集

「わからない」を除くと、「男女平等である」の割合が 37.5%と最も高く、次いで「男性が優遇されている」の割合が 19.1%、「女性が優遇されている」の割合が 6.0%となっています。

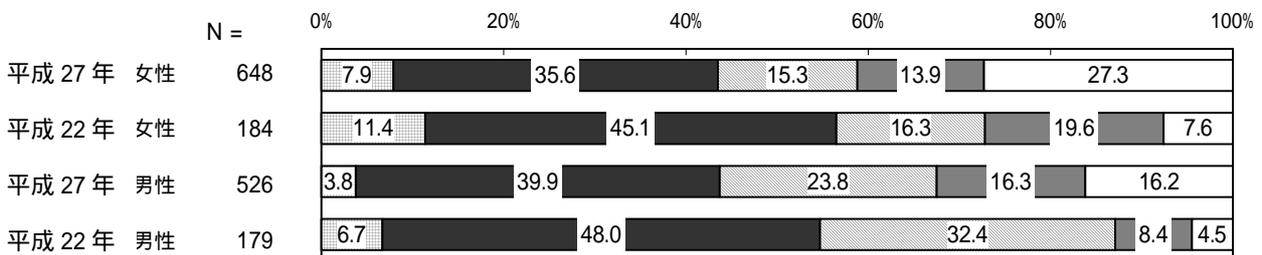
性別で見ると、女性に比べ、男性で「男性が優遇されている」の割合が高くなっています。



【平成 22 年調査】

平成 22 年調査と比較すると、「男女平等である」の割合が低くなっています。

性別で見ると、女性で「男女平等である」の割合が低くなっています。男性で「男女平等である」「男性が優遇されている」の割合が低くなっています。



【年代別】

年代別で見ると、30 歳代、40 歳代、50 歳代で「男女平等である」の割合が高く 4 割半ばとなっています。

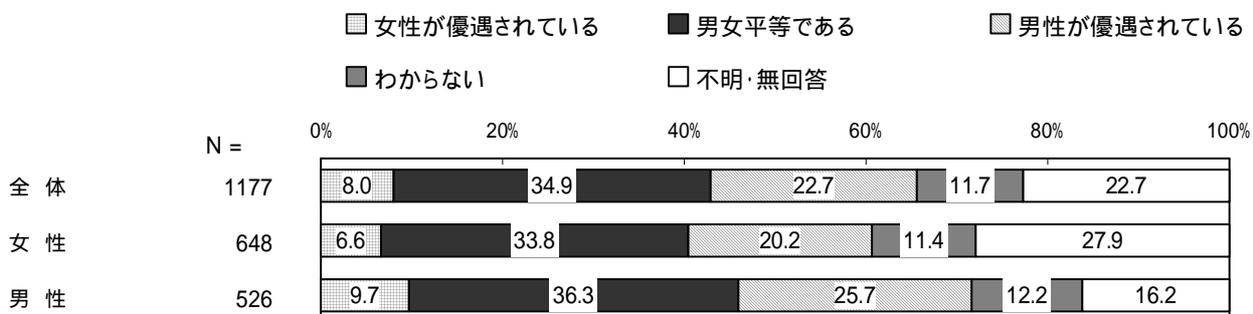
単位：%

区分	(件) 有効 回答数	女性 が優 遇 さ れ て い る	男 女 平 等 で あ る	男 性 が 優 遇 さ れ て い る	わ か ら な い	無 回 答
全体	1177	6.0	37.5	19.1	15.0	22.3
10 歳代・20 歳代	126	7.1	38.9	14.3	14.3	25.4
30 歳代	164	9.8	45.1	16.5	17.7	11.0
40 歳代	242	7.0	44.2	21.9	15.3	11.6
50 歳代	227	6.2	45.8	21.6	15.0	11.5
60 歳代	281	5.0	29.9	22.4	13.5	29.2
70 歳以上	136	0.7	16.9	11.0	15.4	55.9

## 仕事内容

「わからない」を除くと、「男女平等である」の割合が 34.9%と最も高く、次いで「男性が優遇されている」の割合が 22.7%、「女性が優遇されている」の割合が 8.0%となっています。

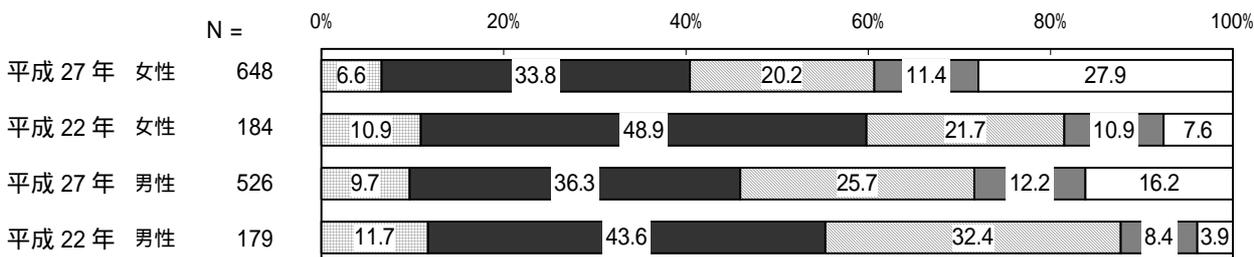
性別でみると、女性に比べ、男性で「男性が優遇されている」の割合が高くなっています。



## 【平成 22 年調査】

平成 22 年調査と比較すると、「男女平等である」の割合が低くなっています。

性別でみると、女性で「男女平等である」の割合が低くなっています。男性で「男女平等である」「男性が優遇されている」の割合が低くなっています。



## 【年代別】

年代別でみると、40 歳代、50 歳代で「女性が優遇されている」の割合が高く、1 割を超えています。

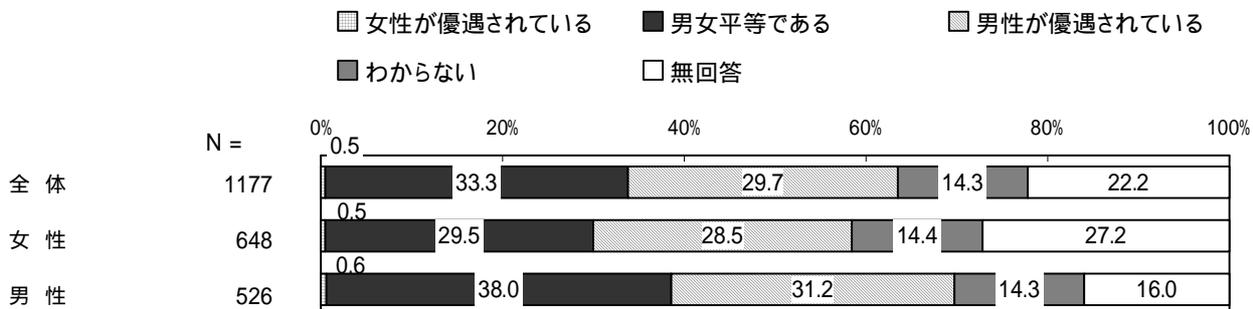
単位：%

区分	有効回答数(件)	女性が優遇されている	男女平等である	男性が優遇されている	わからない	無回答
全体	1177	8.0	34.9	22.7	11.7	22.7
10 歳代・20 歳代	126	5.6	34.9	23.0	10.3	26.2
30 歳代	164	9.8	40.2	24.4	14.0	11.6
40 歳代	242	12.8	39.3	25.2	11.2	11.6
50 歳代	227	11.5	39.6	24.7	12.3	11.9
60 歳代	281	4.3	32.0	23.8	10.0	29.9
70 歳以上	136	1.5	19.1	10.3	14.0	55.1

## 給与・賃金

「わからない」を除くと、「男女平等である」の割合が 33.3%と最も高く、次いで「男性が優遇されている」の割合が 29.7%、「女性が優遇されている」の割合が 0.5%となっています。

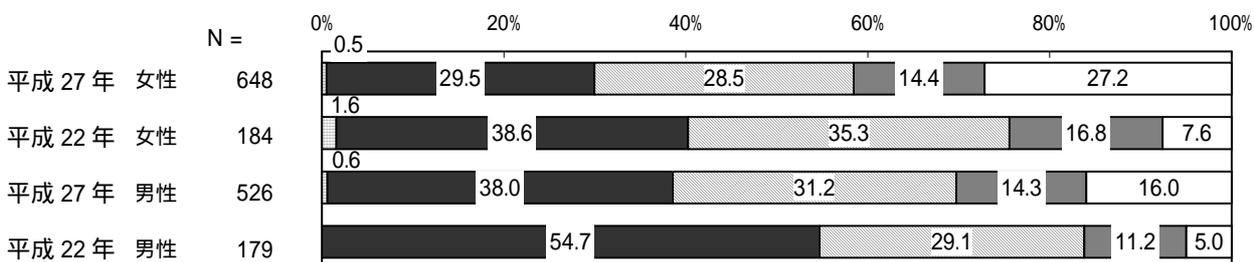
性別で見ると、女性に比べ、男性で「男女平等である」の割合が高くなっています。



### 【平成 22 年調査】

平成 22 年調査と比較すると、「男女平等である」の割合が低くなっています。

性別で見ると、女性で「男女平等である」「男性が優遇されている」の割合が低くなっています。男性で「男女平等である」の割合が低くなっています。



### 【年代別】

年代別で見ると、60 歳代、70 歳以上で「男女平等である」の割合が低くなっています。

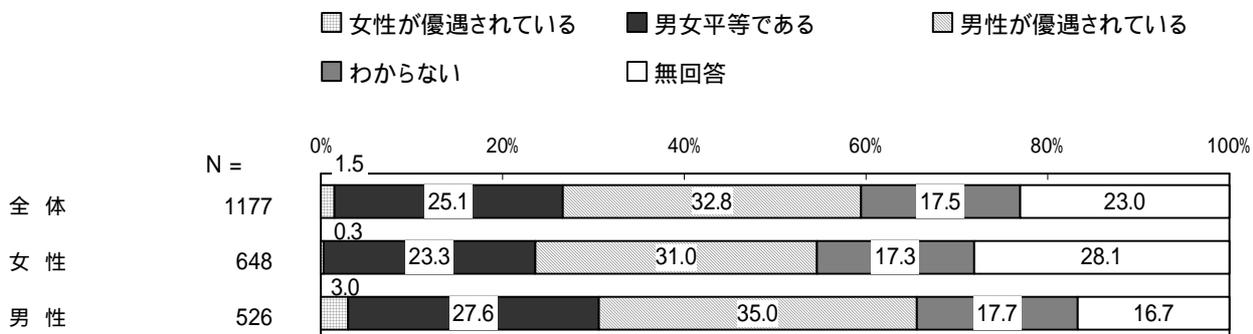
単位：%

区分	有効回答数(件)	女性が優遇されている	男女平等である	男性が優遇されている	わからない	無回答
全体	1177	0.5	33.3	29.7	14.3	22.2
10 歳代・20 歳代	126	0.0	38.9	17.5	18.3	25.4
30 歳代	164	1.2	44.5	29.9	13.4	11.0
40 歳代	242	0.4	40.9	34.3	12.8	11.6
50 歳代	227	0.9	39.2	32.6	15.4	11.9
60 歳代	281	0.0	24.2	33.1	13.9	28.8
70 歳以上	136	0.7	10.3	21.3	13.2	54.4

### 昇格・降格

「わからない」を除くと、「男性が優遇されている」の割合が 32.8%と最も高く、次いで「男女平等である」の割合が 25.1%、「女性が優遇されている」の割合が 1.5%となっています。

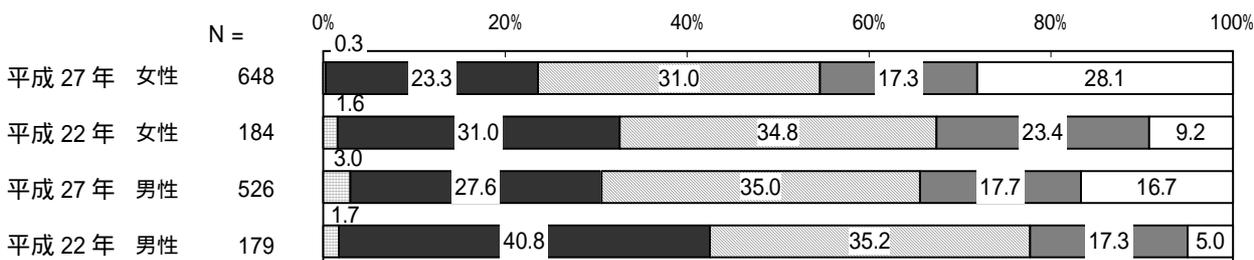
性別でみると、大きな差異はみられません。



### 【平成 22 年調査】

平成 22 年調査と比較すると、「男女平等である」の割合が低くなっています。

性別でみると、女性、男性ともに「男女平等である」の割合が低くなっています。



### 【年代別】

年代別でみると、60 歳代、70 歳以上で「男女平等である」の割合が低くなっています。

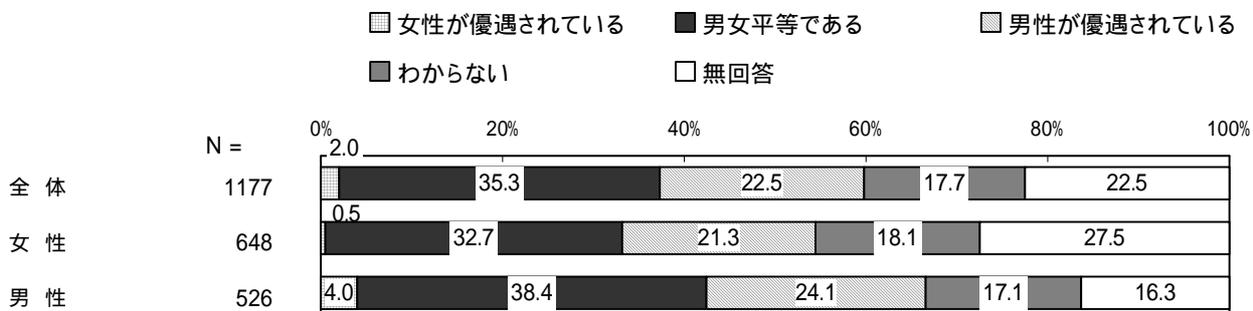
単位：%

区分	有効回答数(件)	女性が優遇されている	男女平等である	男性が優遇されている	わからない	無回答
全体	1177	1.5	25.1	32.8	17.5	23.0
10 歳代・20 歳代	126	0.8	31.7	24.6	17.5	25.4
30 歳代	164	2.4	34.8	37.2	13.4	12.2
40 歳代	242	2.9	31.0	38.4	16.1	11.6
50 歳代	227	2.2	30.0	36.6	19.4	11.9
60 歳代	281	0.4	16.7	32.0	21.0	29.9
70 歳以上	136	0.0	6.6	20.6	14.7	58.1

## 能力・成果の評価

「わからない」を除くと、「男女平等である」の割合が 35.3%と最も高く、次いで「男性が優遇されている」の割合が 22.5%、「女性が優遇されている」の割合が 2.0%となっています。

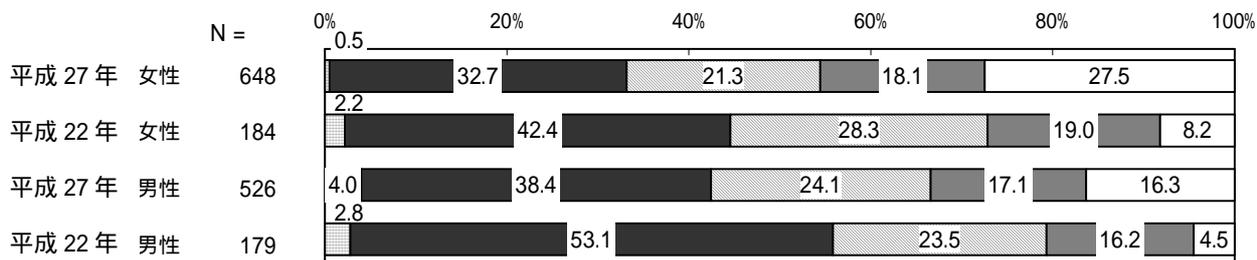
性別でみると、女性に比べ、男性で「男女平等である」の割合が高くなっています。



### 【平成 22 年調査】

平成 22 年調査と比較すると、「男女平等である」の割合が低くなっています。

性別でみると、女性で「男女平等である」「男性が優遇されている」の割合が低くなっています。男性で「男女平等である」の割合が低くなっています。



### 【年代別】

年代別でみると、60 歳代、70 歳以上で「男女平等である」の割合が低くなっています。

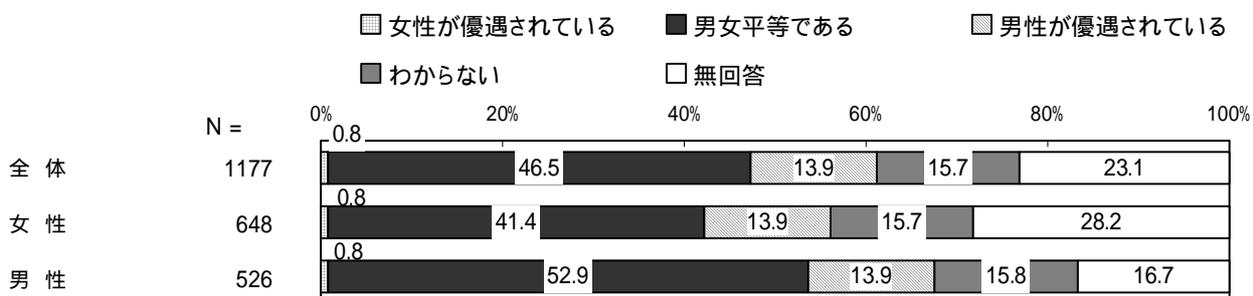
単位：%

区分	有効回答数(件)	女性が優遇されている	男女平等である	男性が優遇されている	わからない	無回答
全体	1177	2.0	35.3	22.5	17.7	22.5
10 歳代・20 歳代	126	1.6	38.9	14.3	19.8	25.4
30 歳代	164	3.7	46.3	26.2	12.8	11.0
40 歳代	242	2.1	42.6	24.8	19.0	11.6
50 歳代	227	3.5	40.5	25.1	18.9	11.9
60 歳代	281	1.1	27.8	22.8	19.2	29.2
70 歳以上	136	0.0	12.5	16.9	14.0	56.6

### 研修・訓練の機会

「わからない」を除くと、「男女平等である」の割合が 46.5%と最も高く、次いで「男性が優遇されている」の割合が 13.9%、「女性が優遇されている」の割合が 0.8%となっています。

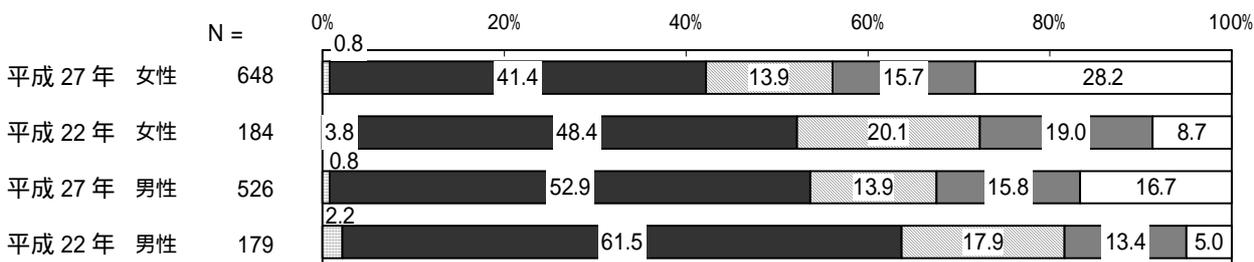
性別でみると、女性に比べ、男性で「男女平等である」の割合が高くなっています。



### 【平成 22 年調査】

平成 22 年調査と比較すると、「男女平等である」「男性が優遇されている」の割合が低くなっています。

性別でみると、女性で「男女平等である」「男性が優遇されている」の割合が低くなっています。男性で「男女平等である」の割合が低くなっています。



### 【年代別】

年代別でみると、10 歳代・20 歳代で「男性が優遇されている」の割合が低く、1 割未満となっています。

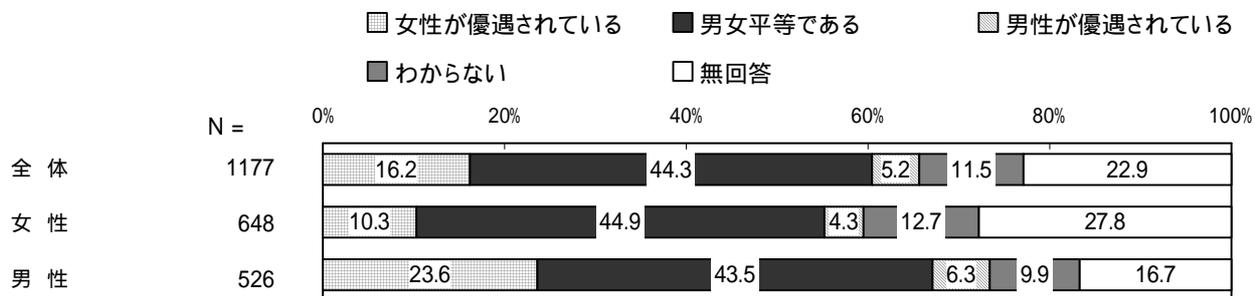
単位：%

区分	有効回答数(件)	女性が優遇されている	男女平等である	男性が優遇されている	わからない	無回答
全体	1177	0.8	46.5	13.9	15.7	23.1
10 歳代・20 歳代	126	2.4	50.8	6.3	14.3	26.2
30 歳代	164	2.4	61.6	14.0	11.0	11.0
40 歳代	242	0.0	56.6	15.7	15.7	12.0
50 歳代	227	0.4	50.7	18.5	18.5	11.9
60 歳代	281	0.4	39.1	13.2	16.7	30.6
70 歳以上	136	0.0	14.7	11.8	16.2	57.4

## 勤務時間

「わからない」を除くと、「男女平等である」の割合が 44.3%と最も高く、次いで「女性が優遇されている」の割合が 16.2%、「男性が優遇されている」の割合が 5.2%となっています。

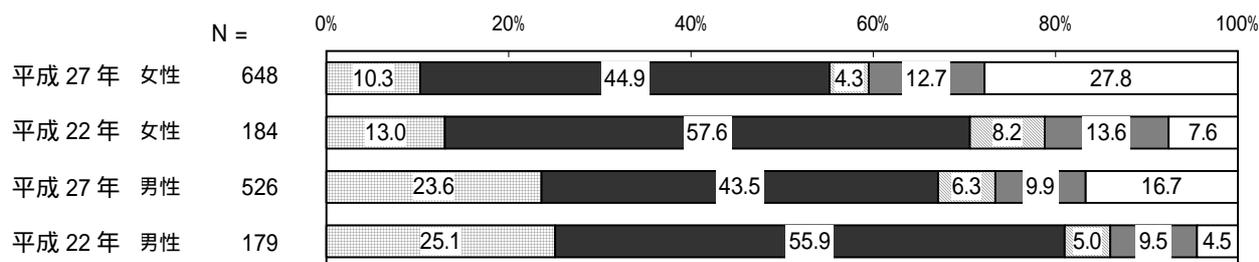
性別で見ると、女性に比べ、男性で「女性が優遇されている」の割合が高くなっています。



## 【平成 22 年調査】

平成 22 年調査と比較すると、「男女平等である」の割合が低くなっています。

性別で見ると、女性、男性ともに「男女平等である」の割合が低くなっています。



## 【年代別】

年代別で見ると、40 歳代、50 歳代で「女性が優遇されている」の割合が高く、2 割を超えています。

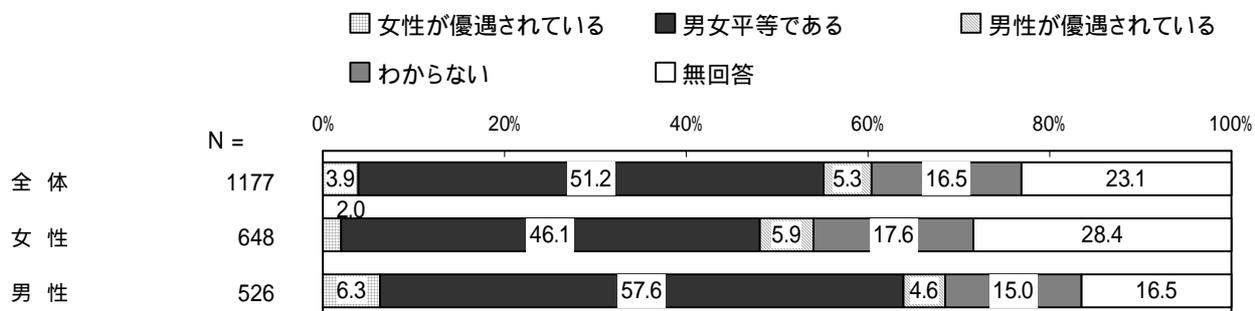
単位：%

区分	有効回答数(件)	女性が優遇されている	男女平等である	男性が優遇されている	わからない	無回答
全体	1177	16.2	44.3	5.2	11.5	22.9
10 歳代・20 歳代	126	8.7	49.2	3.2	12.7	26.2
30 歳代	164	17.7	57.3	4.3	9.8	11.0
40 歳代	242	24.0	44.6	6.2	13.6	11.6
50 歳代	227	22.0	51.5	3.1	10.6	12.8
60 歳代	281	11.0	39.5	8.5	11.4	29.5
70 歳以上	136	8.8	21.3	2.9	10.3	56.6

## 福利厚生

「わからない」を除くと、「男女平等である」の割合が 51.2%と最も高く、次いで「男性が優遇されている」の割合が 5.3%、「女性が優遇されている」の割合が 3.9%となっています。

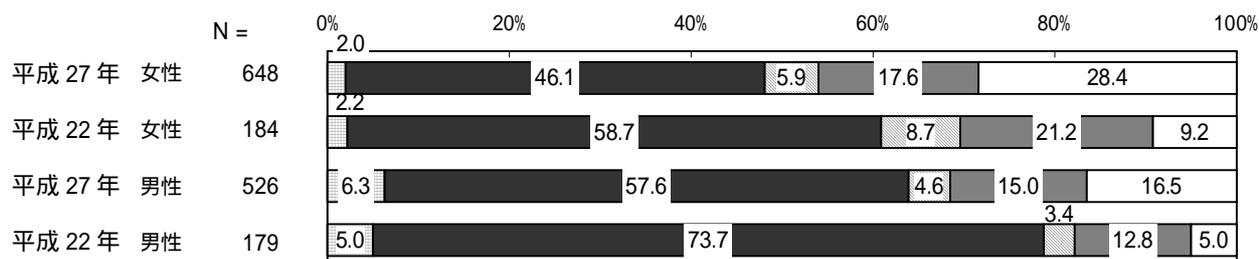
性別で見ると、女性に比べ、男性で「男女平等である」の割合が高くなっています。



### 【平成 22 年調査】

平成 22 年調査と比較すると、「男女平等である」の割合が低くなっています。

性別で見ると、女性、男性ともに「男女平等である」の割合が低くなっています。



### 【年代別】

年代別で見ると、30 歳代、50 歳代で「男女平等である」の割合が高く、6 割を超えています。

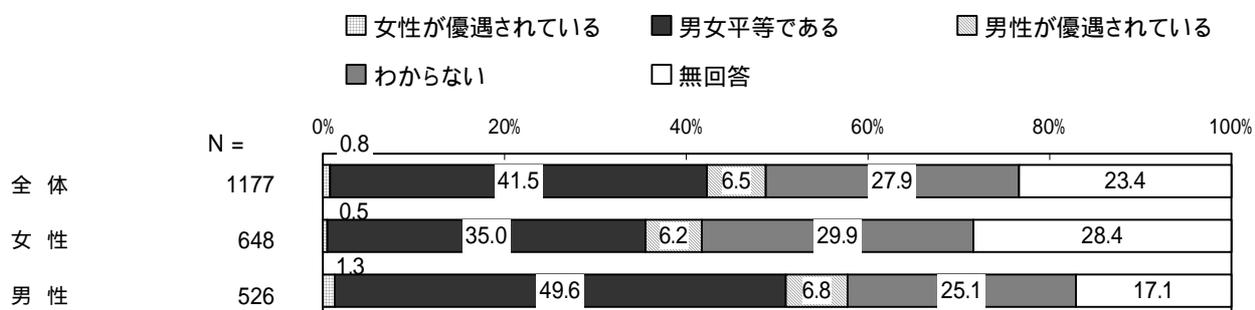
単位：%

区分	有効回答数(件)	女性が優遇されている	男女平等である	男性が優遇されている	わからない	無回答
全体	1177	3.9	51.2	5.3	16.5	23.1
10 歳代・20 歳代	126	4.0	46.8	1.6	21.4	26.2
30 歳代	164	4.9	63.4	5.5	15.2	11.0
40 歳代	242	6.6	57.9	5.8	17.8	12.0
50 歳代	227	3.5	62.6	4.8	15.9	13.2
60 歳代	281	2.1	47.0	6.8	14.2	29.9
70 歳以上	136	2.2	19.1	5.1	16.9	56.6

## 解雇

「わからない」を除くと、「男女平等である」の割合が41.5%と最も高く、次いで「男性が優遇されている」の割合が6.5%、「女性が優遇されている」の割合が0.8%となっています。

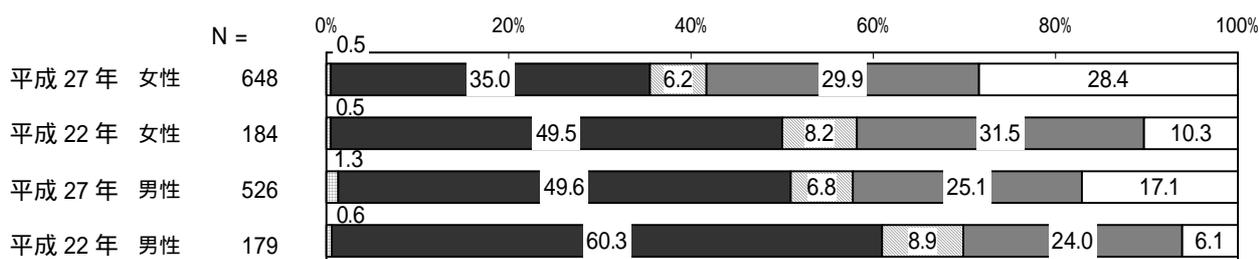
性別でみると、女性に比べ、男性で「男女平等である」の割合が高くなっています。



## 【平成22年調査】

平成22年調査と比較すると、「男女平等である」の割合が低くなっています。

性別でみると、女性、男性ともに「男女平等である」の割合が低くなっています。



## 【年代別】

年代別でみると、30歳代、40歳代、50歳代で「男女平等である」の割合が高く、5割を超えています。

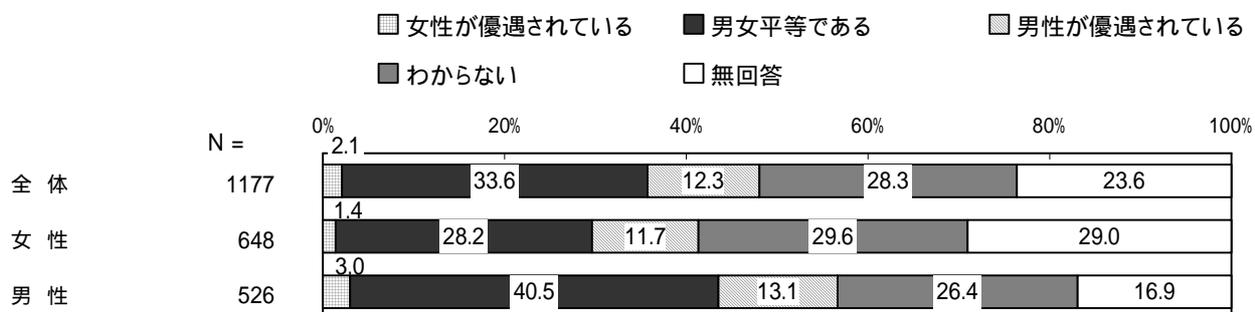
単位：%

区分	有効回答数(件)	女性が優遇されている	男女平等である	男性が優遇されている	わからない	無回答
全体	1177	0.8	41.5	6.5	27.9	23.4
10歳代・20歳代	126	1.6	37.3	5.6	29.4	26.2
30歳代	164	0.6	54.3	7.3	26.8	11.0
40歳代	242	0.8	53.7	5.8	28.1	11.6
50歳代	227	0.4	52.9	5.7	27.8	13.2
60歳代	281	1.1	31.0	8.5	28.8	30.6
70歳以上	136	0.7	11.0	4.4	25.7	58.1

## 再雇用

「わからない」を除くと、「男女平等である」の割合が 33.6%と最も高く、次いで「男性が優遇されている」の割合が 12.3%、「女性が優遇されている」の割合が 2.1%となっています。

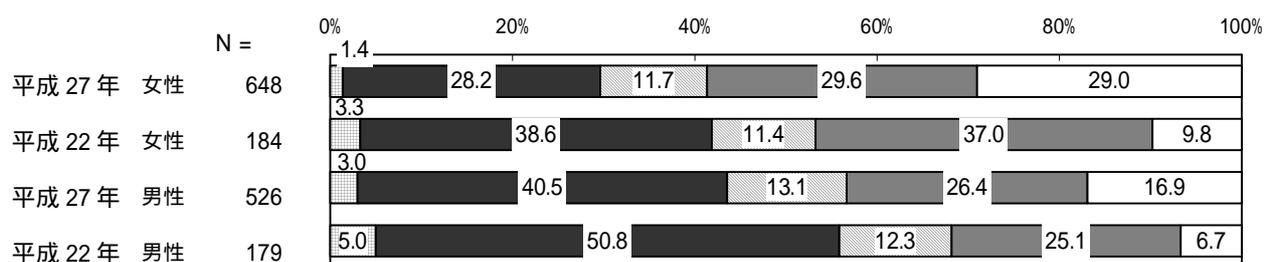
性別でみると、女性に比べ、男性で「男女平等である」の割合が高くなっています。



## 【平成 22 年調査】

平成 22 年調査と比較すると、「男女平等である」の割合が低くなっています。

性別でみると、女性、男性ともに「男女平等である」の割合が低くなっています。



## 【年代別】

年代別でみると、30 歳代、40 歳代、50 歳代で「男女平等である」の割合が高く、約 4 割となっています。

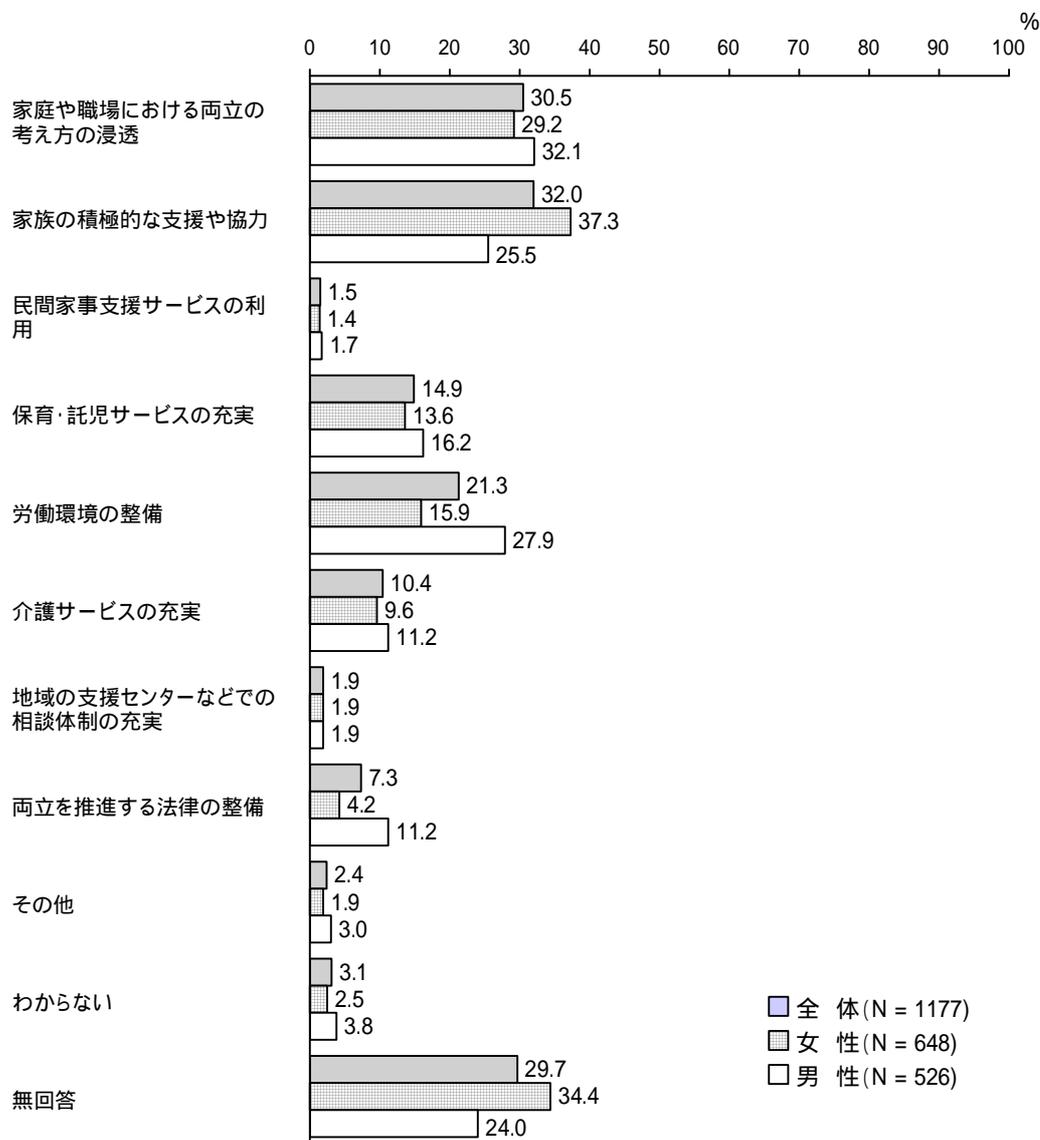
単位：%

区分	有効回答数(件)	女性が優遇されている	男女平等である	男性が優遇されている	わからない	無回答
全体	1177	2.1	33.6	12.3	28.3	23.6
10 歳代・20 歳代	126	1.6	27.8	11.1	33.3	26.2
30 歳代	164	3.0	45.7	9.8	30.5	11.0
40 歳代	242	3.3	40.5	13.6	31.0	11.6
50 歳代	227	2.6	39.2	14.1	30.4	13.7
60 歳代	281	1.4	29.9	13.5	23.8	31.3
70 歳以上	136	0.0	11.0	8.8	22.1	58.1

問 20 あなた自身が、仕事と家庭を両立するためにはどのようなことが必要だと思いますか。(2つまで選んでください)

「家族の積極的な支援や協力」の割合が32.0%と最も高く、次いで「家庭や職場における両立の考え方の浸透」の割合が30.5%、「労働環境の整備」の割合が21.3%となっています。

性別でみると、男性に比べ、女性で「家族の積極的な支援や協力」の割合が高くなっています。また、男性で「労働環境の整備」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、30歳代で「保育・託児サービスの充実」の割合が高く、2割半ばとなっています。

単位：％

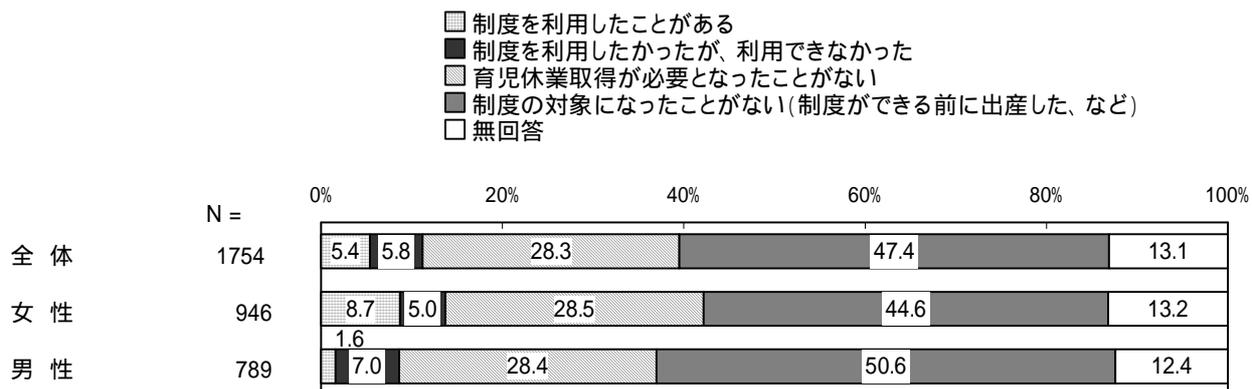
区分	有効回答数(件)	家庭や職場における両立の考え方の浸透	家族の積極的な支援や協力	民間家事支援サービスの利用	保育・託児サービスの充実	労働環境の整備	介護サービスの充実	地域の支援センターなどでの相談体制の充実	両立を推進する法律の整備	その他	わからない	無回答
全体	1177	30.5	32.0	1.5	14.9	21.3	10.4	1.9	7.3	2.4	3.1	29.7
10歳代・20歳代	126	28.6	32.5	0.8	17.5	25.4	4.8	-	7.9	0.8	3.2	31.0
30歳代	164	36.6	26.8	3.0	23.2	26.8	3.7	1.8	6.7	3.7	3.0	23.8
40歳代	242	32.6	36.8	2.1	16.5	21.1	12.0	-	8.3	4.5	2.9	23.6
50歳代	227	31.7	36.1	1.3	14.1	24.2	14.1	1.8	7.9	1.3	3.1	25.1
60歳代	281	32.0	32.4	1.4	12.5	20.3	12.1	2.8	7.1	1.1	2.5	31.3
70歳以上	136	15.4	22.1	-	5.9	8.8	11.0	5.1	4.4	2.9	4.4	50.7

ここからは、すべての方にお聞きします。

問 21 あなたは、育児を行うために育児休業の制度を利用したことがありますか。  
( 1 つ選んでください )

「制度を利用したことがある」の割合が 5.4%、「制度を利用したかったが、利用できなかった」の割合が 5.8%となっています。

性別でみると、男性に比べ、女性で「制度を利用したことがある」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、30 歳代で「制度を利用したことがある」の割合が高く、1 割を超えています。一方、30 歳代、40 歳代で「制度を利用したかったが、利用できなかった」の割合が高く、1 割を超えています。

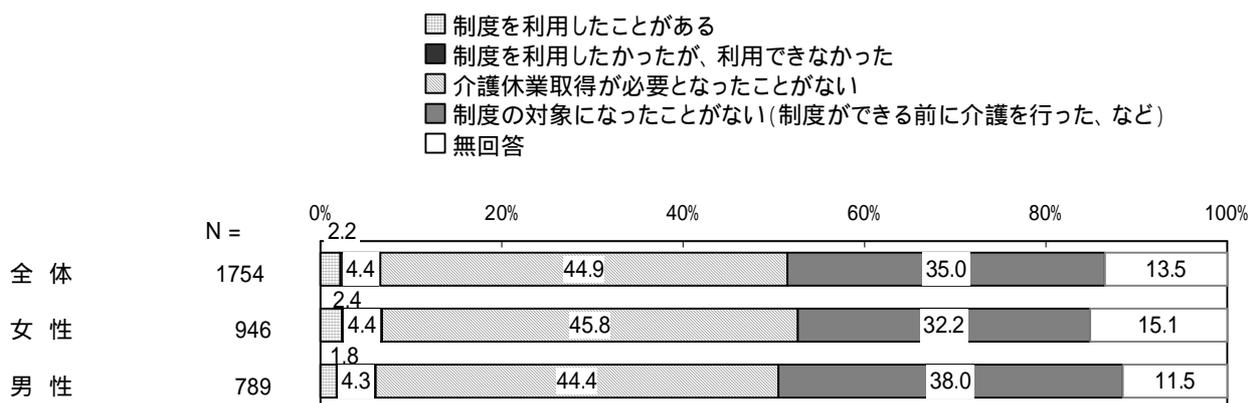
単位：%

区分	有効回答数(件)	ある制度を利用したことがある	が、制度を利用したかったが、利用できなかった	育児休業取得が必要となつたことがない	制度の対象になつたことがない(制度ができる前に出産した、など)	無回答
全体	1754	5.4	5.8	28.3	47.4	13.1
10 歳代・20 歳代	158	5.1	1.9	48.7	40.5	3.8
30 歳代	174	14.4	12.1	42.5	29.3	1.7
40 歳代	262	9.2	11.1	39.3	33.6	6.9
50 歳代	245	7.3	4.9	31.0	49.4	7.3
60 歳代	427	3.7	4.7	22.0	56.9	12.6
70 歳以上	471	0.8	3.6	14.9	54.4	26.3

問 22 あなたは、介護を行うために介護休業の制度を利用したことがありますか。  
(1つ選んでください)

「制度を利用したことがある」の割合が2.2%、「制度を利用したかったが、利用できなかった」の割合が4.4%となっています。

性別でみると、女性に比べ、男性で「制度の対象になったことがない(制度ができる前に介護を行った、など)」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、10歳代・20歳代から50歳代で「介護休業取得が必要となったことがない」の割合が高く、5割を超えています。

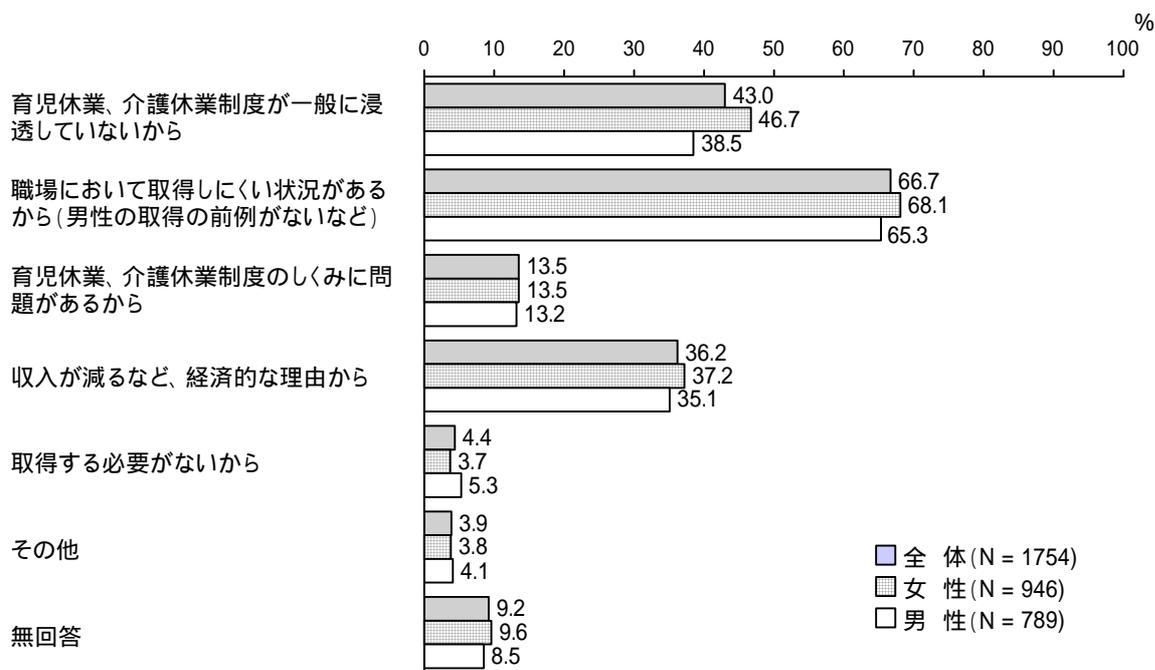
単位：%

区分	有効回答数 (件)	制度を利用したことがある (%)	制度を利用したかったが、利用できなかった (%)	介護休業取得が必要となったことがない (%)	制度の対象になったことがない(制度ができる前に介護を行った、など) (%)	無回答 (%)
全体	1754	2.2	4.4	44.9	35.0	13.5
10歳代・20歳代	158	0.0	1.9	50.0	44.3	3.8
30歳代	174	1.7	3.4	58.6	32.2	4.0
40歳代	262	1.5	6.1	56.1	27.1	9.2
50歳代	245	3.3	4.9	54.3	29.4	8.2
60歳代	427	2.6	6.3	43.3	35.6	12.2
70歳以上	471	2.3	2.8	29.1	39.3	26.5

問 23 一般的に男性の育児休業、介護休業の取得が少ない現状がありますが、その理由は何だと思えますか。(いくつでも選んでください)

「職場において取得しにくい状況があるから(男性の取得の前例がないなど)」の割合が66.7%と最も高く、次いで「育児休業、介護休業制度が一般に浸透していないから」の割合が43.0%、「収入が減るなど、経済的な理由から」の割合が36.2%となっています。

性別でみると、男性に比べ、女性で「育児休業、介護休業制度が一般に浸透していないから」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、30歳代で「職場において取得しにくい状況があるから(男性の取得の前例がないなど)」の割合が高く、8割を超えています。

単位：%

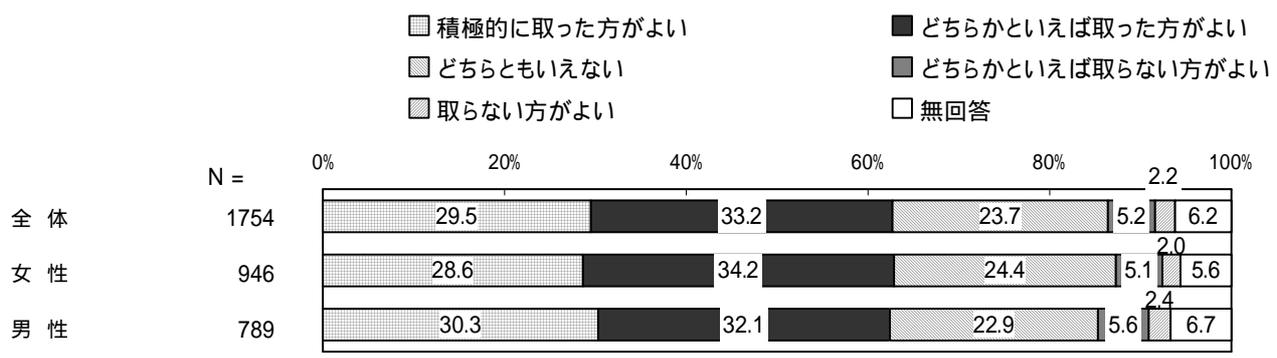
区分	有効回答数(件)	から一般に浸透していないから	育児休業、介護休業制度が一般に浸透していないから	職場において取得しにくい状況があるから(男性の取得の前例がないなど)	育児休業、介護休業制度のしくみに問題があるから	収入が減るなど、経済的な理由から	取得する必要があるから	その他	無回答
全体	1754	43.0	66.7	13.5	36.2	4.4	3.9	9.2	
10歳代・20歳代	158	38.0	62.7	13.9	40.5	5.7	2.5	5.1	
30歳代	174	44.8	82.8	14.9	50.6	2.9	2.9	2.3	
40歳代	262	44.3	73.3	14.9	48.5	5.0	7.3	3.4	
50歳代	245	43.3	79.6	10.2	43.3	5.7	4.1	2.4	
60歳代	427	47.1	69.8	16.2	31.6	4.0	3.3	7.3	
70歳以上	471	39.1	49.0	10.8	23.8	4.0	3.4	21.9	

問 24 男性が育児休業や介護休業を取得することについて、あなたはどのように思いますか。(それぞれ1つ選んでください)

育児休業

“取った方がよい”の割合が62.7%、「どちらともいえない」の割合が23.7%、「取らない方がよい」と「どちらかといえば取らない方がよい」をあわせた“取らない方がよい”の割合が7.4%となっています。

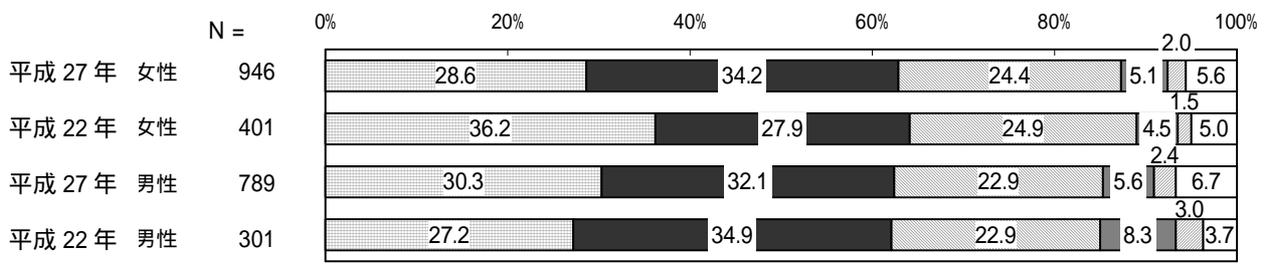
性別でみると、大きな差異はみられません。



【平成 22 年調査】

平成 22 年調査と比較すると、大きな差異はみられません。

性別でみると、女性で「積極的に取った方がよい」の割合が低くなっています。一方、「どちらかといえば取った方がよい」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、10 歳代・20 歳代で「積極的に取った方がよい」の割合が高く、約 5 割となっています。また、40 歳代で「どちらともいえない」の割合が高く、3 割を超えています。

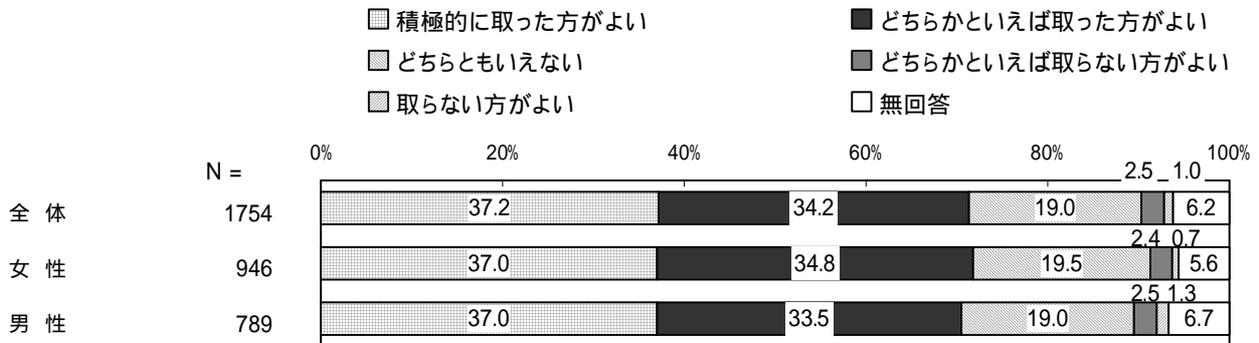
単位：%

区分	(有効) 回答数	積極的に取った方がよい	どちらかといえば取った方がよい	どちらともいえない	どちらかといえば取らない方がよい	取らない方がよい	無回答
全体	1754	29.5	33.2	23.7	5.2	2.2	6.2
10 歳代・20 歳代	158	44.9	23.4	22.8	5.1	2.5	1.3
30 歳代	174	33.3	36.2	19.5	5.7	4.6	0.6
40 歳代	262	30.2	27.1	32.1	5.7	1.9	3.1
50 歳代	245	26.5	38.8	26.1	5.3	2.0	1.2
60 歳代	427	31.6	36.1	20.6	5.2	1.6	4.9
70 歳以上	471	22.1	33.3	22.5	5.1	1.9	15.1

介護休業

“ 取った方がよい ” の割合が 71.4%、「どちらともいえない」の割合が 19.0%、“ 取らない方がよい ” の割合が 3.5%となっています。

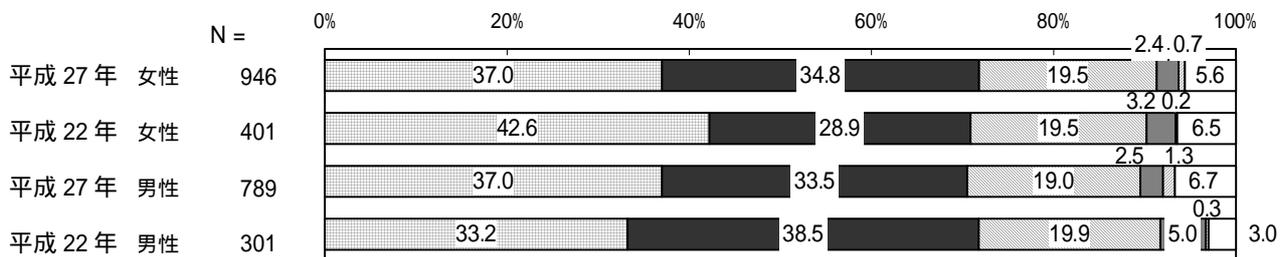
性別でみると、大きな差異はみられません。



【平成 22 年調査】

平成 22 年調査と比較すると、大きな差異はみられません。

性別でみると、女性で「積極的に取った方がよい」の割合が低くなっています。一方、「どちらかといえば取った方がよい」の割合が高くなっています。男性で「どちらかといえば取った方がよい」の割合が低くなっています。



【年代別】

年代別でみると、10 歳代・20 歳代以外で「どちらかといえば取った方がよい」の割合が高く、3 割を超えています。

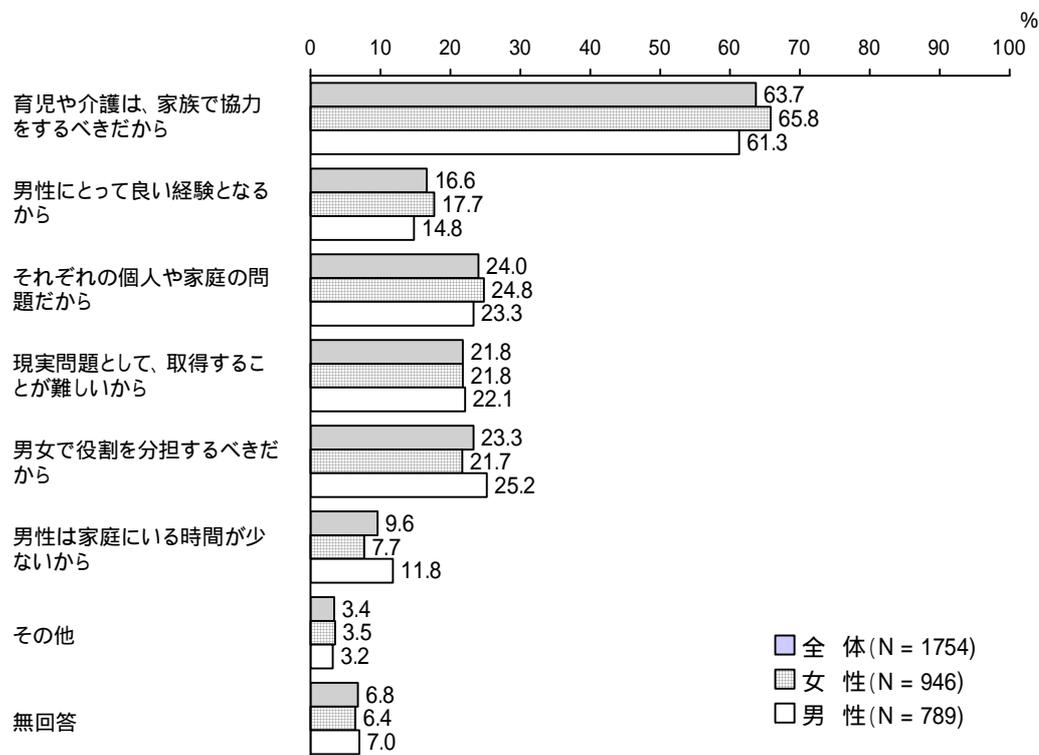
単位：%

区分	(件) 有効 回答 数	積極的 に取 つ た 方 が よ い	ど ち ら か と い え な い	ど ち ら か と い え ば 取 つ た 方 が よ い	ど ち ら か と い え ば 取 ら な い 方 が よ い	ど ち ら か と い え ば 取 ら な い 方 が よ い	無 回 答
全体	1754	37.2	34.2	19.0	2.5	1.0	6.2
10 歳代・20 歳代	158	42.4	27.8	25.9	2.5	0.0	1.3
30 歳代	174	36.8	36.2	20.7	3.4	1.1	1.7
40 歳代	262	37.0	32.4	22.5	4.2	0.8	3.1
50 歳代	245	42.4	38.0	16.3	1.6	0.8	0.8
60 歳代	427	41.0	35.1	16.2	1.6	0.9	5.2
70 歳以上	471	29.1	33.8	18.7	2.3	1.5	14.6

問 25 問 24 のように回答された理由について、あてはまるものを選んでください。  
(いくつでも選んでください)

「育児や介護は、家族で協力をするべきだから」の割合が 63.7%と最も高く、次いで「それぞれの個人や家庭の問題だから」の割合が 24.0%、「男女で役割を分担するべきだから」の割合が 23.3%となっています。

性別でみると、大きな差異はみられません。



【年代別】

年代別でみると、大きな差異はみられません。

単位：%

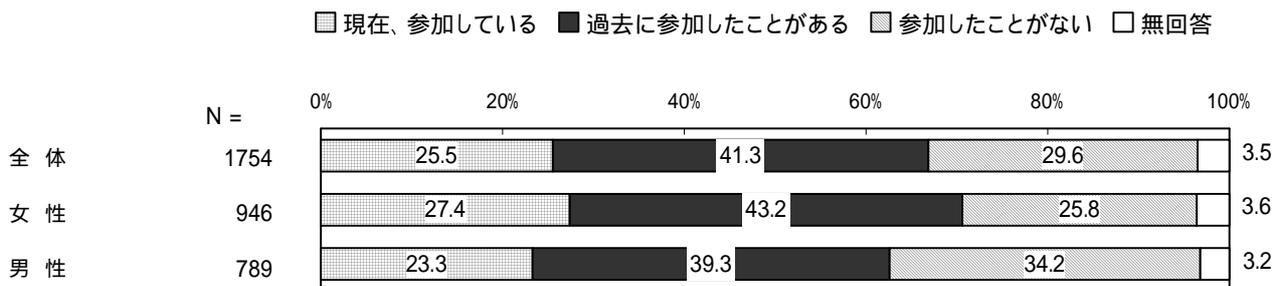
区分	有効回答数(件)	育児や介護は、家族で協力をするべきだから	男性にとって良い経験となるから	それぞれの個人や家庭の問題だから	現実問題として、取得することが難しいから	男女で役割を分担するべきだから	男性は家庭にいる時間が少ないから	その他	無回答
全体	1754	63.7	16.6	24.0	21.8	23.3	9.6	3.4	6.8
10歳代・20歳代	158	68.4	15.2	24.1	20.3	19.0	7.0	5.1	1.9
30歳代	174	70.1	19.5	23.0	26.4	19.5	10.9	4.0	1.7
40歳代	262	61.5	13.7	24.0	25.6	17.6	9.9	4.6	2.7
50歳代	245	68.6	12.7	25.7	22.0	25.7	6.9	3.3	1.6
60歳代	427	69.1	19.0	23.7	22.2	27.2	8.4	3.5	6.6
70歳以上	471	53.7	17.0	24.0	18.3	24.4	12.3	1.9	15.3

## 6 地域社会での生活と活動について

問 26 あなたの、自治会・町内会やボランティアなどの地域活動への参加状況は次のうちどれですか。(1つ選んでください)

「過去に参加したことがある」の割合が41.3%と最も高く、次いで「参加したことがない」の割合が29.6%、「現在、参加している」の割合が25.5%となっています。

性別でみると、女性に比べ、男性で「参加したことがない」の割合が高くなっています。



### 【年代別】

年代別でみると、10歳代・20歳代、30歳代で「参加したことがない」の割合が高く、4割を超えています。

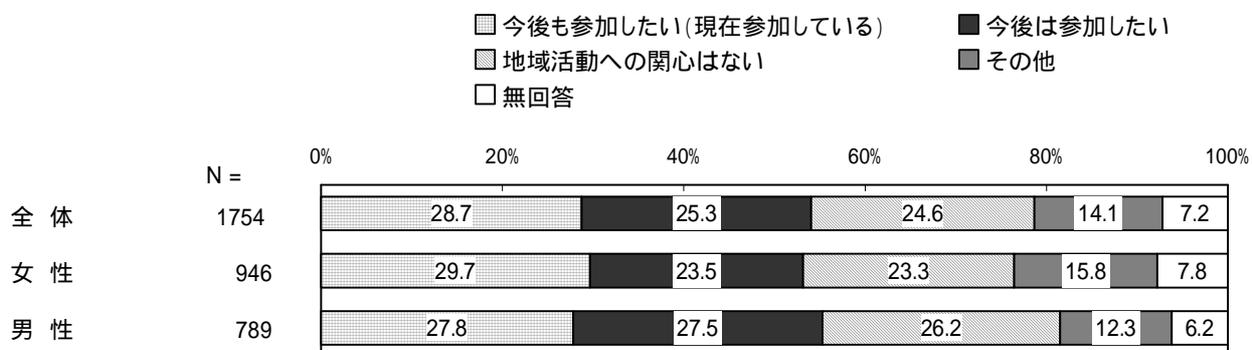
単位：%

区分	有効回答数(件)	現在、参加している	過去に参加したことがある	参加したことがない	無回答
全体	1754	25.5	41.3	29.6	3.5
10歳代・20歳代	158	7.6	44.9	45.6	1.9
30歳代	174	26.4	25.9	47.7	0.0
40歳代	262	22.1	40.1	36.6	1.1
50歳代	245	26.9	46.9	24.9	1.2
60歳代	427	32.3	41.9	23.0	2.8
70歳以上	471	26.5	43.3	22.1	8.1

問 27 あなたの地域活動への参加意向は次のうちどれですか。(1つ選んでください)

「今後も参加したい(現在参加している)」の割合が 28.7%と最も高く、次いで「今後は参加したい」の割合が 25.3%、「地域活動への関心はない」の割合が 24.6%となっています。

性別でみると、大きな差異はみられません。



【年代別】

年代別でみると、50歳代、60歳代で「今後も参加したい(現在参加している)」の割合が高く、3割を超えています。

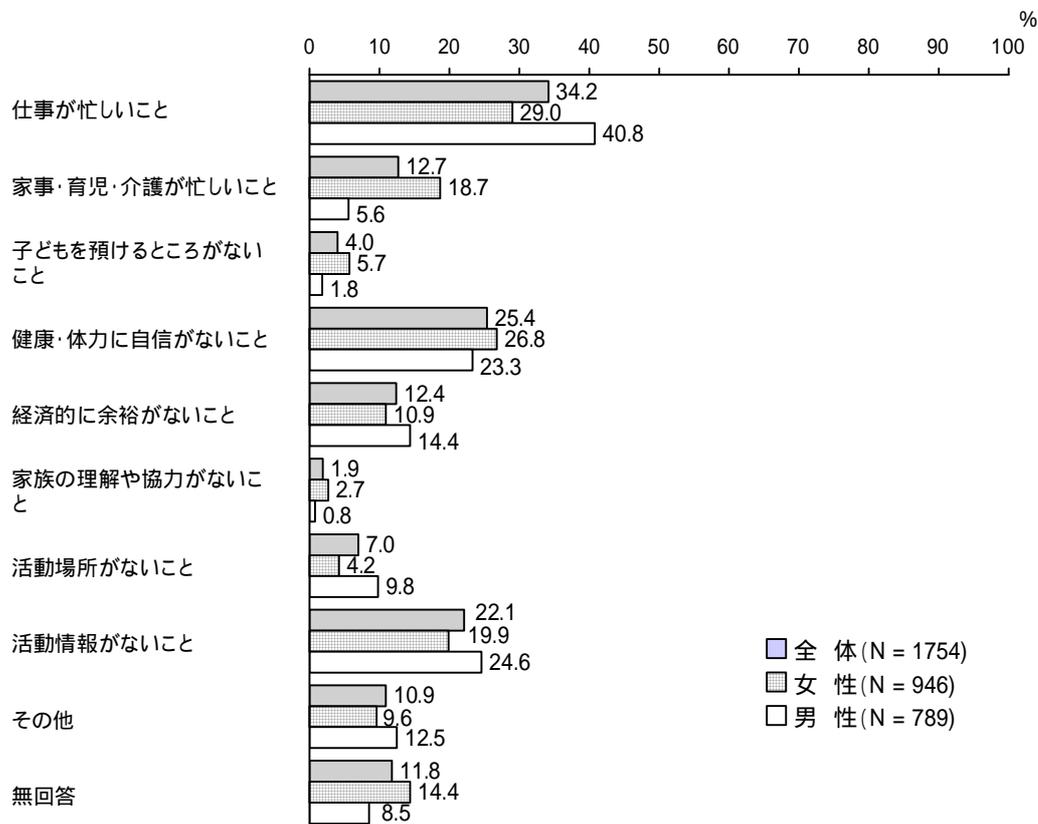
単位：%

区分	有効回答数(件)	今後も参加したい(現在参加している)	今後は参加したい	地域活動への関心はない	その他	無回答
全体	1754	28.7	25.3	24.6	14.1	7.2
10歳代・20歳代	158	13.3	37.3	37.3	9.5	2.5
30歳代	174	27.0	27.6	32.8	11.5	1.1
40歳代	262	25.6	26.0	34.7	10.7	3.1
50歳代	245	31.0	25.7	27.8	13.5	2.0
60歳代	427	35.8	25.8	19.9	12.2	6.3
70歳以上	471	29.1	19.3	14.0	21.0	16.6

問 28 あなたが、地域活動に参加する際に、支障となることは何でしょうか。  
(いくつでも選んでください)

「仕事が忙しいこと」の割合が34.2%と最も高く、次いで「健康・体力に自信がないこと」の割合が25.4%、「活動情報がないこと」の割合が22.1%となっています。

別でみると、男性に比べ、女性で「家事・育児・介護が忙しいこと」の割合が高くなっています。また、男性で「仕事が忙しいこと」「活動場所がないこと」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、30歳代、40歳代、50歳代で「仕事が忙しいこと」の割合が高く、5割を超えています。また、30歳代、40歳代で「家事・育児・介護が忙しいこと」の割合が高く、2割を超えています。

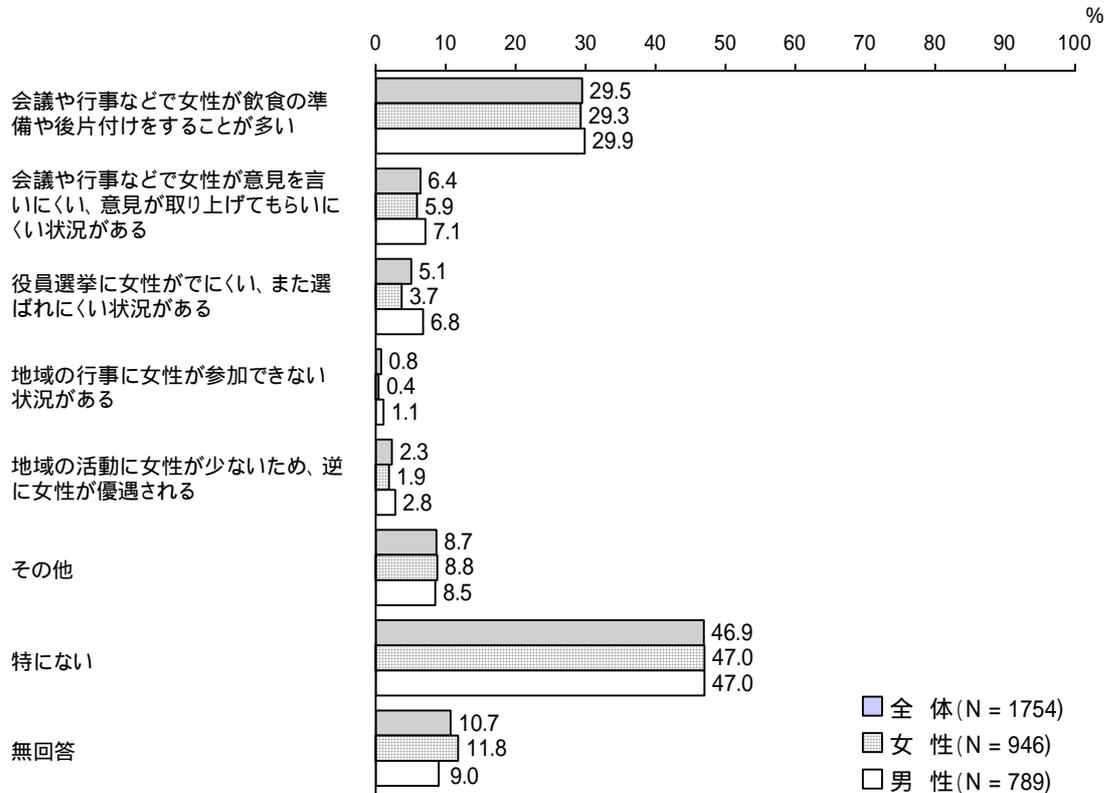
単位：%

区分	有効回答数(件)	仕事が忙しいこと	家事・育児・介護が忙しいこと	子どもを預けるところがないこと	健康・体力に自信がないこと	経済的に余裕がないこと	家族の理解や協力がないこと	活動場所がないこと	活動情報がないこと	その他	無回答
全体	1754	34.2	12.7	4.0	25.4	12.4	1.9	7.0	22.1	10.9	11.8
10歳代・20歳代	158	40.5	8.2	6.3	7.0	14.6	0.6	8.9	39.9	12.7	9.5
30歳代	174	58.6	28.2	17.8	6.9	11.5	2.9	6.9	20.7	8.0	2.9
40歳代	262	58.8	25.2	9.5	13.7	16.0	3.4	5.3	20.6	5.7	4.2
50歳代	245	53.5	14.3	-	18.8	13.5	1.6	6.1	22.0	11.8	7.3
60歳代	427	25.8	9.4	0.5	29.3	14.8	1.4	8.0	22.2	12.6	14.1
70歳以上	471	7.6	3.8	0.2	44.4	7.4	1.7	6.2	17.2	12.1	19.7

問 29 あなたが住んでいる地域（自治会など）は男女で違いがあると思いますか。あると思うものにをつけてください。（いくつでも選んでください）

「特にない」の割合が 46.9%と最も高く、次いで「会議や行事などで女性が飲食の準備や後片付けをすることが多い」の割合が 29.5%となっています。

性別でみると、大きな差異はみられません。



【年代別】

年代別でみると、10 歳代・20 歳代、30 歳代で「会議や行事などで女性が飲食の準備や後片付けをすることが多い」の割合が低くなっています。

単位：%

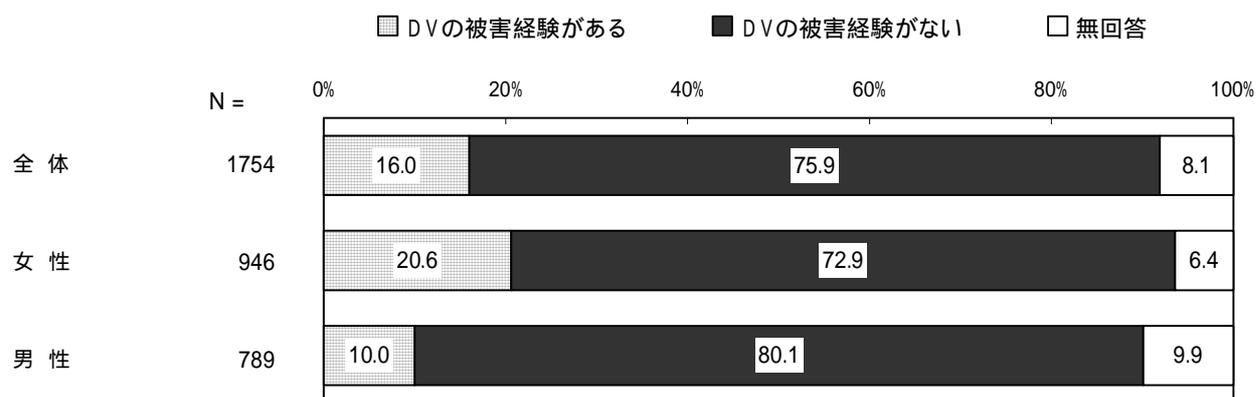
区分	有効回答数(件)	会議や行事などで女性が飲食の準備や後片付けをすることが多い	会議や行事などで女性が意見を言いにくい、意見が取り上げてもらいにくい状況がある	役員選挙に女性がでにくい、また選ばれにくい状況がある	地域の行事に女性が参加できない状況がある	地域の活動に女性が少ないため、逆に女性が優遇される	その他	特にない	無回答
全体	1754	29.5	6.4	5.1	0.8	2.3	8.7	46.9	10.7
10 歳代・20 歳代	158	17.1	1.9	6.3	1.3	1.9	8.2	60.1	8.2
30 歳代	174	20.1	5.2	3.4	-	1.1	12.6	56.9	5.7
40 歳代	262	31.7	8.0	4.6	0.4	1.5	10.7	48.5	5.7
50 歳代	245	33.9	8.2	5.3	0.4	1.2	10.6	45.3	6.5
60 歳代	427	33.3	7.0	6.1	0.7	2.8	8.4	45.4	8.0
70 歳以上	471	30.6	6.2	4.7	1.3	3.4	5.5	40.8	19.7

## 7 ドメスティック・バイオレンスについて

問 30 あなたは、配偶者や親しい異性（恋人等）から一度でも次のような行為を受けた経験がありますか。（いくつでも選んでください）

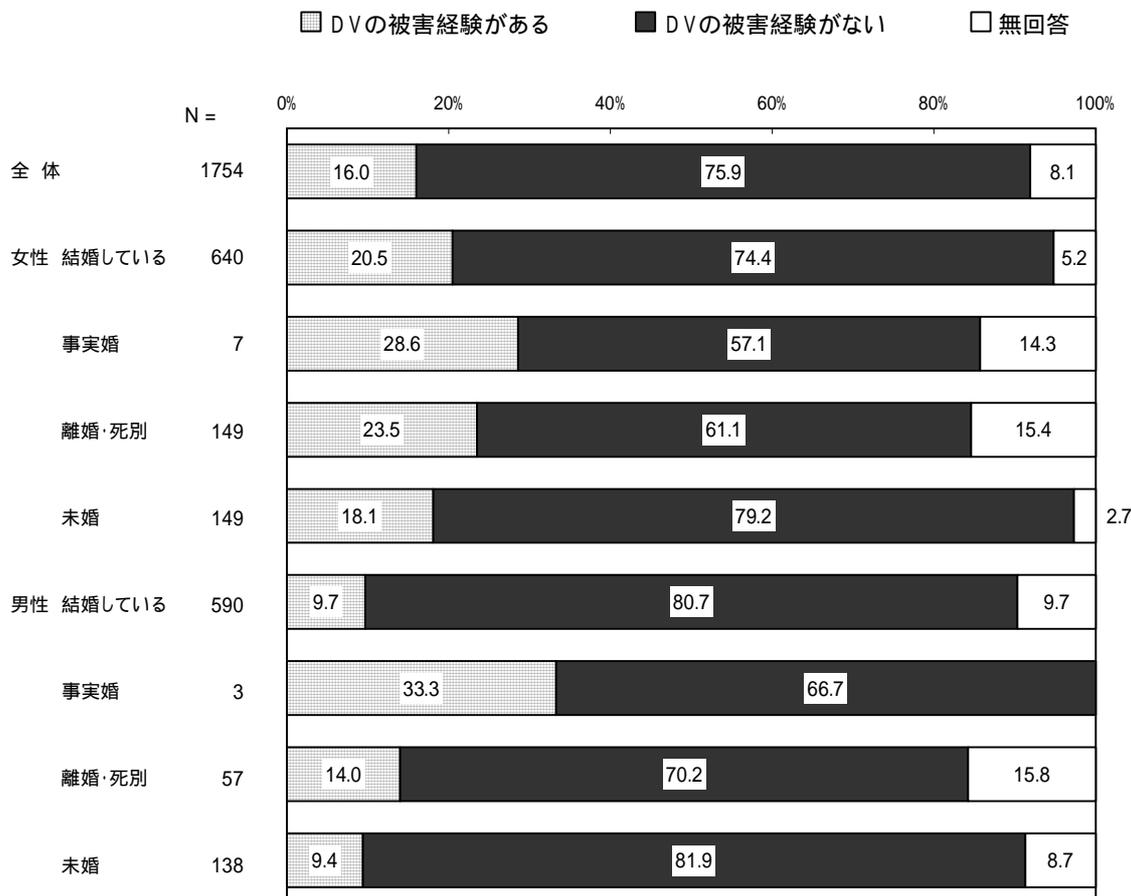
「DVの被害経験がある」の割合が16.0%、「DVの被害経験がない」の割合が75.9%となっています。

性別でみると、男性に比べ、女性で「DVの被害経験がある」の割合が高くなっています。



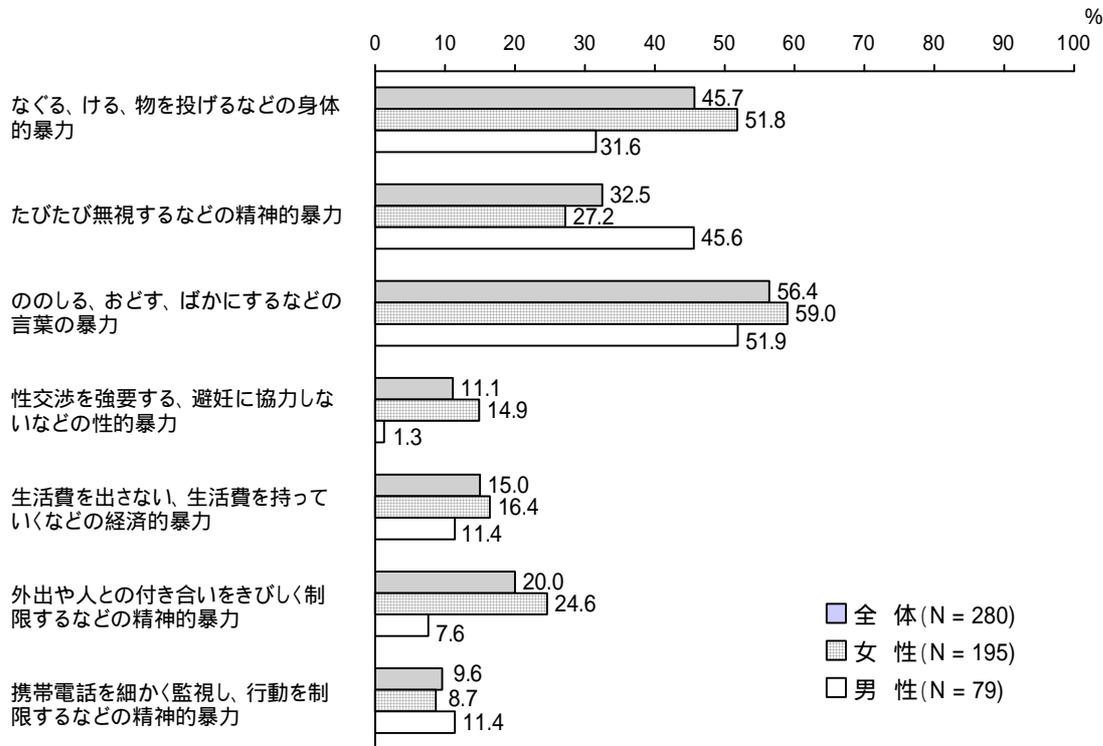
### 【性別・配偶関係別】

性別・配偶関係別でみると、結婚している男性に比べ、女性で「DVの被害経験がある」の割合が高くなっています。



## DVの内訳

「ののしる、おどす、ばかにするなどの言葉の暴力」の割合が56.4%と最も高く、次いで「なぐる、ける、物を投げるなどの身体的暴力」の割合が45.7%、「たびたび無視するなどの精神的暴力」の割合が32.5%となっています。



## 【年代別】

年代別でみると、大きな差異はみられません。

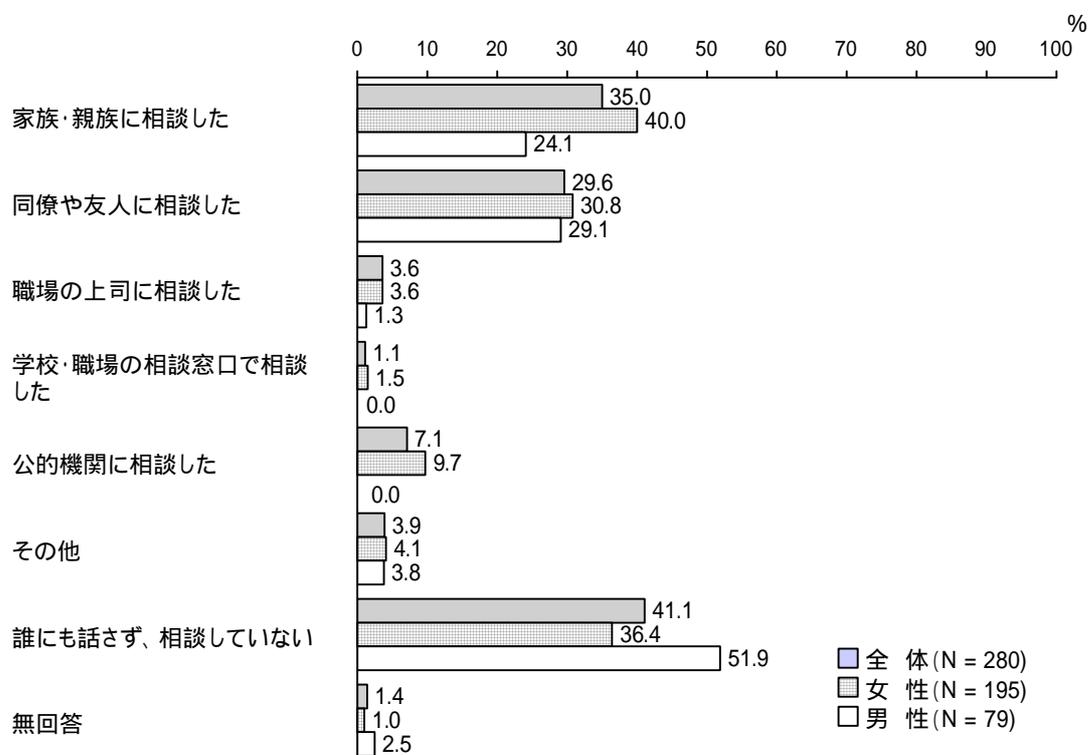
単位：%

区分	有効回答数(件)	なぐる、ける、物を投げるなどの身体的暴力	たびたび無視するなどの精神的暴力	ののしる、おどす、ばかにするなどの言葉の暴力	性交渉を強要する、避妊に協力しないなどの性的暴力	生活費を出さない、生活費を持っていくなどの経済的暴力	外出や人との付き合いをきびしく制限するなどの精神的暴力	携帯電話を細かく監視し、行動を制限するなどの精神的暴力	受けたことがない	無回答
全体	1754	7.3	5.2	9.0	1.8	2.4	3.2	1.5	75.9	8.1
10歳代・20歳代	158	8.2	5.7	9.5	3.8	1.9	6.3	5.1	80.4	1.3
30歳代	174	10.3	6.3	10.9	2.3	3.4	2.9	1.1	81.0	0.6
40歳代	262	7.3	8.0	11.8	1.5	1.5	3.4	1.9	78.6	3.8
50歳代	245	11.8	2.9	10.6	3.3	2.9	3.7	2.4	78.4	4.1
60歳代	427	7.0	5.6	9.1	1.2	3.0	2.3	0.5	72.8	9.8
70歳以上	471	3.6	3.6	5.5	0.6	1.7	2.3	0.6	73.9	15.5

問 30 で、何らかの行為を受けた経験がある方にお聞きします。

問 31 あなたは、そのことを誰かに話したり、相談したりしましたか。  
(いくつでも選んでください)

「誰にも話さず、相談していない」の割合が 41.1%と最も高く、次いで「家族・親族に相談した」の割合が 35.0%、「同僚や友人に相談した」の割合が 29.6%となっています。



【年代別】

年代別で見ると、10 歳代・20 歳代で「同僚や友人に相談した」の割合が高く、約 5 割となっています。

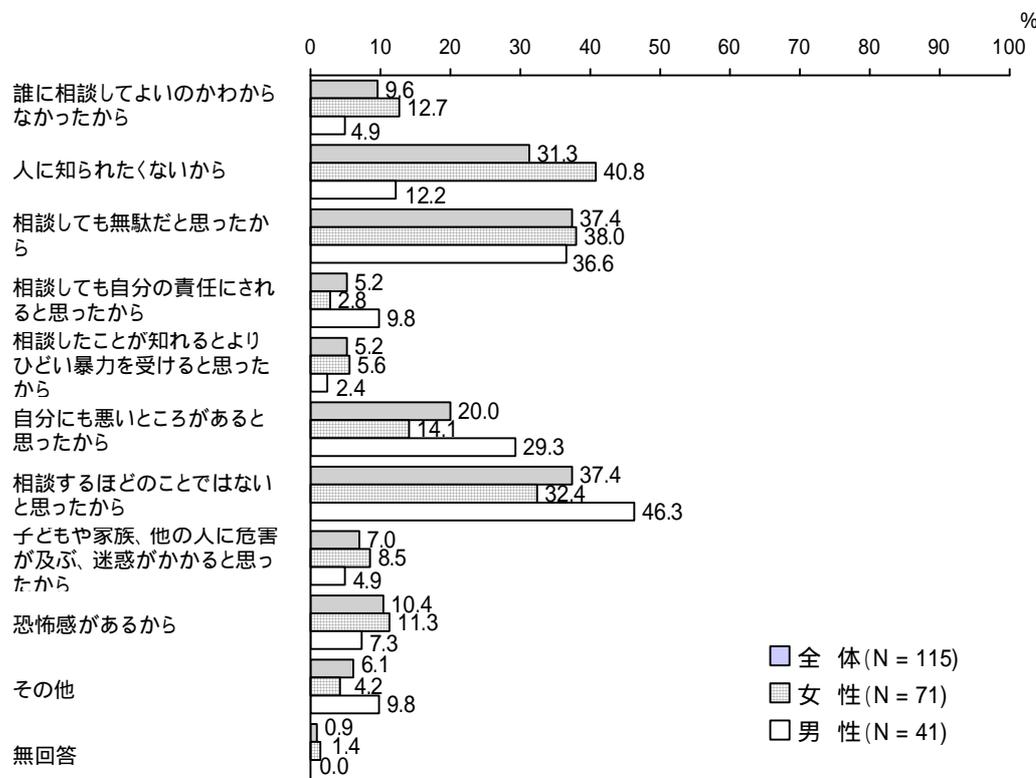
単位：%

区分	有効回答数 (件)	家族・親族に相談した	同僚や友人に相談した	職場の上司に相談した	学校・職場の相談窓口で相談した	公的機関に相談した	その他	誰にも話さず、相談していない	無回答
全体	280	35.0	29.6	3.6	1.1	7.1	3.9	41.1	1.4
10 歳代・20 歳代	29	20.7	51.7	-	6.9	3.4	-	41.4	-
30 歳代	32	37.5	40.6	3.1	-	3.1	-	40.6	-
40 歳代	46	39.1	41.3	4.3	2.2	8.7	4.3	34.8	-
50 歳代	43	34.9	18.6	7.0	-	9.3	2.3	48.8	-
60 歳代	74	33.8	20.3	1.4	-	6.8	5.4	43.2	5.4
70 歳以上	50	42.0	26.0	2.0	-	8.0	8.0	36.0	-

問 31 で、「 7 . 誰にも話さず、相談していない」とお答えの方にお聞きします。

**問 32 相談しなかったのは、なぜですか。(いくつでも選んでください)**

「相談しても無駄だと思ったから」、「相談するほどのことではないと思ったから」の割合が 37.4%と最も高く、次いで、「人に知られたくないから」の割合が 31.3%となっています。



**【年代別】**

年代別でみると、30 歳代で「子どもや家族、他の人に危害が及ぶ、迷惑がかかると思ったから」の割合が高く 2 割を超えています。

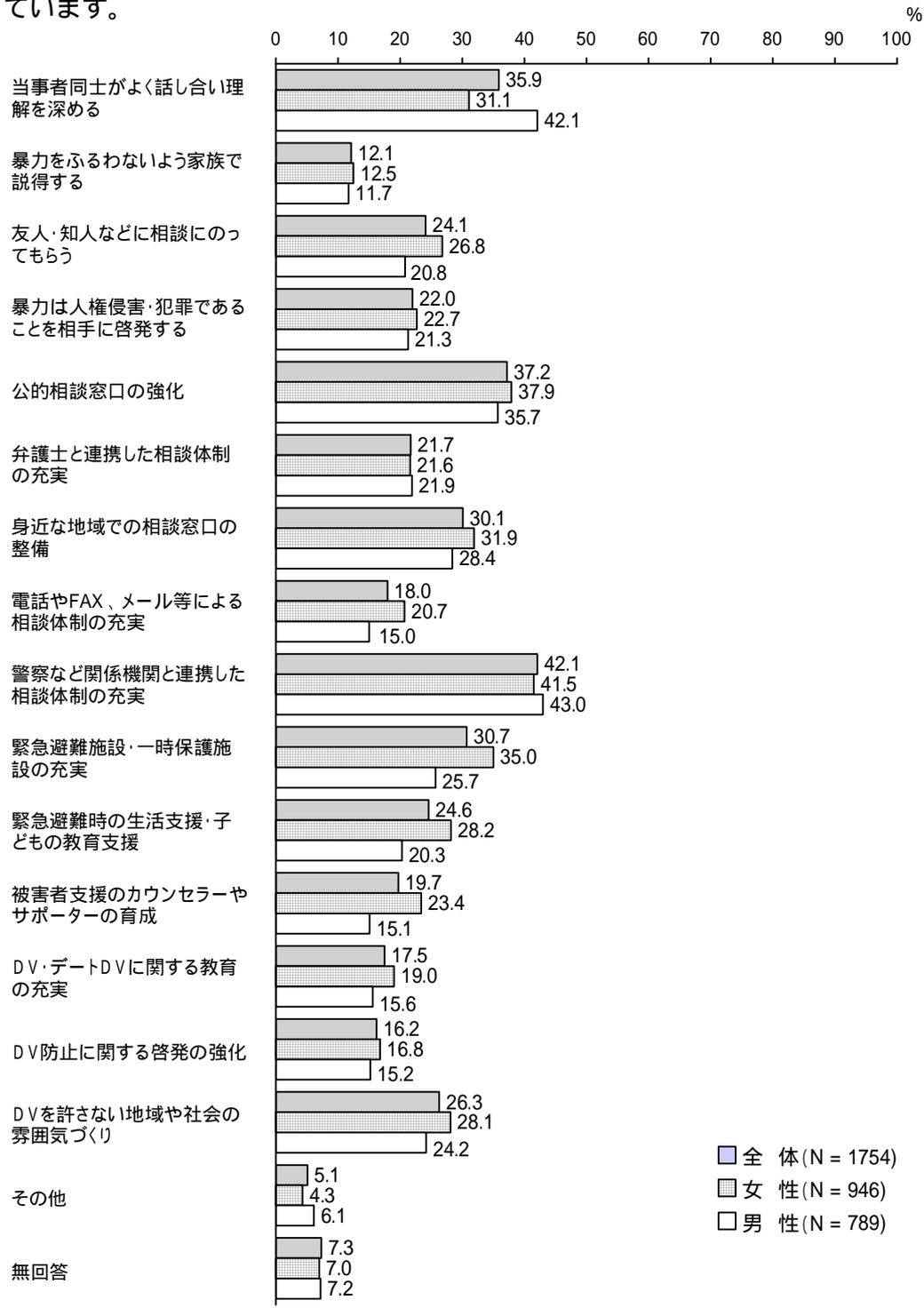
単位：%

区分	有効回答数 (件)	誰に相談してよいのかわからなかったから	人に知られたくないから	相談しても無駄だと思ったから	相談しても自分の責任にされと思ったから	相談したことが知れるとよりひどい暴力を受けると思ったから	自分にも悪いところがあると思ったから	相談するほどのことではないと思ったから	子どもや家族、他の人に危害が及ぶ、迷惑がかかると思ったから	恐怖感があるから	その他	無回答
全体	115	9.6	31.3	37.4	5.2	5.2	20.0	37.4	7.0	10.4	6.1	0.9
10 歳代・20 歳代	12	16.7	25.0	41.7	8.3	-	33.3	25.0	-	16.7	8.3	-
30 歳代	13	15.4	46.2	23.1	7.7	15.4	30.8	23.1	23.1	7.7	15.4	-
40 歳代	16	18.8	50.0	12.5	-	6.3	12.5	31.3	6.3	12.5	6.3	-
50 歳代	21	19.0	23.8	42.9	-	4.8	14.3	42.9	9.5	4.8	4.8	4.8
60 歳代	32	-	28.1	53.1	9.4	3.1	18.8	34.4	3.1	15.6	6.3	-
70 歳以上	18	-	16.7	33.3	5.6	-	16.7	61.1	5.6	-	-	-

ここからは、すべての方にお聞きします。

**問 33 配偶者や親しい異性（恋人等）からの暴力を防止し、解決するためには、どのようなことが必要だと思いますか。（いくつでも選んでください）**

「警察など関係機関と連携した相談体制の充実」の割合が42.1%と最も高く、次いで「公的相談窓口の強化」の割合が37.2%、「当事者同士がよく話し合い理解を深める」の割合が35.9%となっています。



【年代別】

年代別でみると、10歳代・20歳代で「当事者同士がよく話し合い理解を深める」の割合が高く約5割となっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	話し合い理解を深める	当事者同士がよく話し合い理解を深める	暴力をふるわないよう家族で説得する	友人・知人などに相談にのってもらう	暴力は人権侵害・犯罪であることとを相手に啓発する	公的相談窓口の強化	弁護士と連携した相談体制の充実	身近な地域での相談窓口の整備	電話やFAX、メール等による相談体制の充実
全体	1754	35.9	12.1	24.1	22.0	37.2	21.7	30.1	18.0	
10歳代・20歳代	158	47.5	12.0	46.8	15.8	29.1	17.1	36.7	23.4	
30歳代	174	29.9	10.3	35.1	24.1	39.7	25.9	35.1	24.1	
40歳代	262	24.0	10.7	21.8	23.7	43.1	27.9	34.0	22.5	
50歳代	245	29.8	11.8	25.7	18.8	44.5	27.8	40.4	24.1	
60歳代	427	37.7	11.9	19.7	25.1	35.8	23.4	29.3	15.7	
70歳以上	471	42.7	14.0	16.6	21.0	32.7	13.6	20.0	10.6	

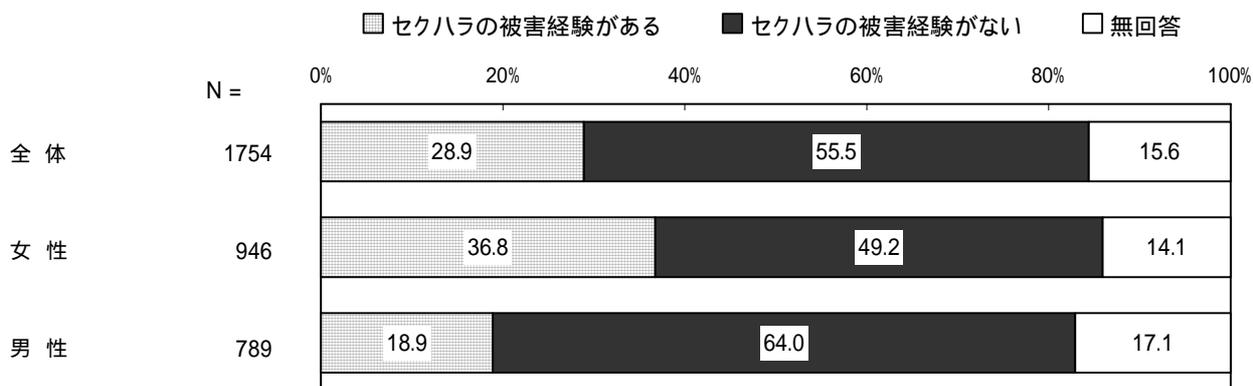
区分	警察など関係機関と連携した相談体制の充実	緊急避難施設・一時保護施設の充実	緊急避難時の生活支援・子どもの教育支援	被害者支援の力向上（セラーやサポーターの育成）	DV・デートDVに関する教育の充実	DV防止に関する啓発の強化	DVを許さない地域や社会の雰囲気づくり	その他	無回答
全体	42.1	30.7	24.6	19.7	17.5	16.2	26.3	5.1	7.3
10歳代・20歳代	41.8	28.5	20.9	18.4	20.3	14.6	27.8	2.5	1.9
30歳代	54.6	39.1	33.3	28.2	25.3	21.3	34.5	6.9	1.7
40歳代	52.3	40.5	30.5	21.0	22.9	19.5	30.9	7.6	1.5
50歳代	49.0	44.9	40.0	31.0	21.2	21.6	29.4	4.5	3.7
60歳代	41.7	30.4	21.5	19.4	12.4	14.3	26.7	5.6	6.1
70歳以上	29.3	15.9	14.2	10.4	13.4	11.7	18.5	3.8	16.6

## 8 セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）について

問 34 あなたは、職場や学校、その他の活動の場で次のような不快と感じる行為を受けたことがありますか。（いくつでも選んでください）

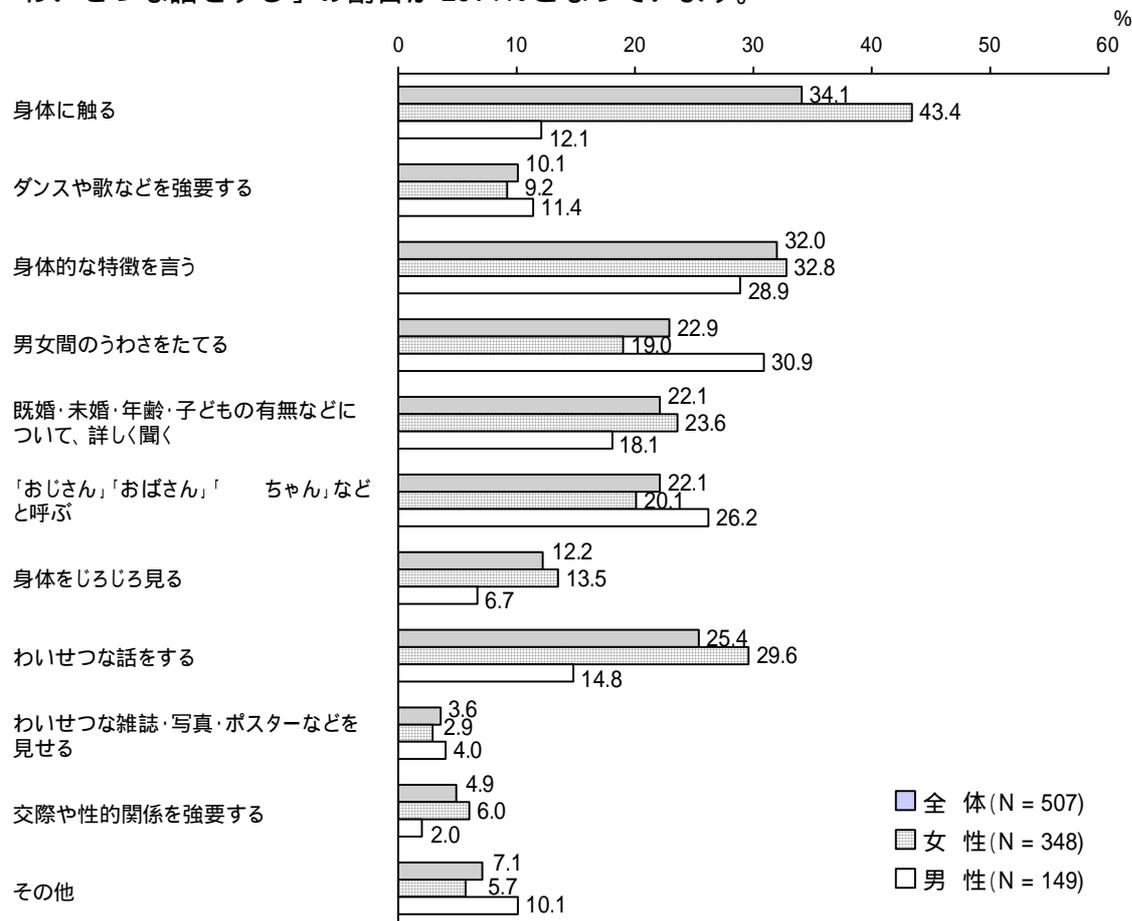
「セクハラ被害経験がある」の割合が 28.9%、「セクハラ被害経験がない」の割合が 55.5% となっています。

性別でみると、男性に比べ、女性で「セクハラ被害経験がある」の割合が高くなっています。



### セクシュアル・ハラスメントの内訳

「身体に触る」の割合が 34.1%と最も高く、次いで「身体的な特徴を言う」の割合が 32.0%、「わいせつな話をする」の割合が 25.4%となっています。



【年代別】

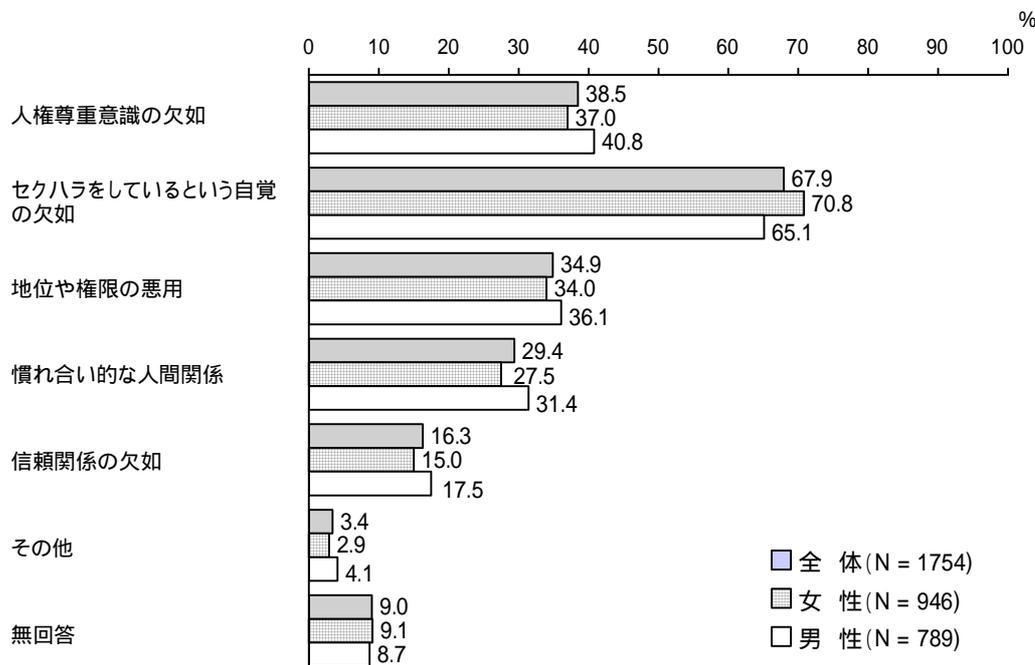
年代別でみると、40歳代で「既婚・未婚・年齢・子どもの有無などについて、詳しく聞く」の割合が高く、1割を超えています。また、50歳代で「「おじさん」「おばさん」「○ちゃん」などと呼ぶ」の割合が高く、約1割となっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	身体に触る	ダンスや歌などを強要する	身体的な特徴を言う	男女間のつわさをたてる	既婚・未婚・年齢・子どもの有無などについて、詳しく聞く	「おじさん」「おばさん」「○ちゃん」などと呼ぶ	身体をじろじろ見る	わいせつな話をする	わいせつな雑誌・写真・ポスタ―などを見せる	交際や性的関係を強要する	その他	不快と感じる行為を受けたことがない	無回答
全体	1754	9.9	2.9	9.2	6.6	6.4	6.4	3.5	7.4	1.0	1.4	2.1	55.5	15.6
10歳代・20歳代	158	14.6	5.1	16.5	7.6	3.8	3.8	2.5	11.4	0.6	2.5	-	65.2	1.9
30歳代	174	15.5	4.6	12.1	5.7	8.6	4.0	5.2	12.1	0.6	1.7	2.3	59.2	2.9
40歳代	262	17.9	3.8	14.1	8.8	13.4	7.3	5.3	8.8	2.3	0.8	2.3	56.5	6.5
50歳代	245	11.4	2.0	13.1	9.4	7.8	10.6	4.5	10.6	0.4	2.0	1.6	52.2	11.4
60歳代	427	6.3	2.1	5.2	6.6	4.7	8.2	2.6	5.9	0.7	1.6	2.3	53.2	19.7
70歳以上	471	3.6	1.9	4.0	3.6	3.0	3.6	1.7	2.5	0.8	0.6	2.3	55.4	28.0

問 35 セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）の原因はどこにあると思いますか。  
（いくつでも選んでください）

「セクハラをしているという自覚の欠如」の割合が 67.9%と最も高く、次いで「人権尊重意識の欠如」の割合が 38.5%、「地位や権限の悪用」の割合が 34.9%となっています。



【年代別】

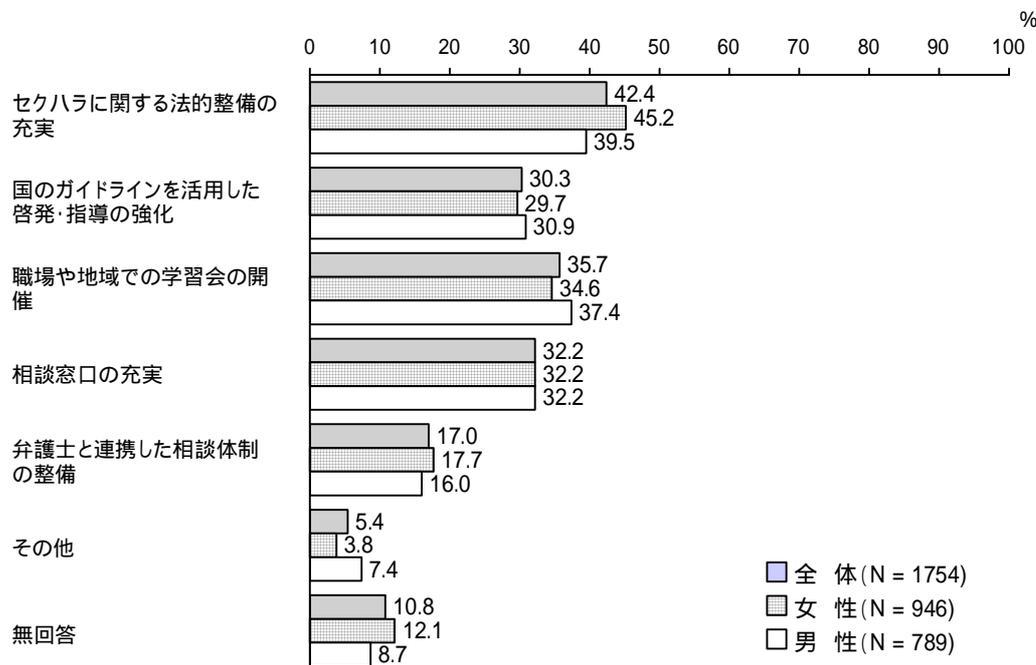
年代別でみると、50 歳代、60 歳代で「人権尊重意識の欠如」の割合が高く、4 割を超えています。また、30 歳代で「セクハラをしているという自覚の欠如」の割合が高く、8 割を超えています。

単位：%

区分	有効回答数（件）	人権尊重意識の欠如	セクハラをしているという自覚の欠如	地位や権限の悪用	慣れ合い的な人間関係	信頼関係の欠如	その他	無回答
全体	1754	38.5	67.9	34.9	29.4	16.3	3.4	9.0
10 歳代・20 歳代	158	31.0	72.2	36.7	30.4	14.6	3.2	1.3
30 歳代	174	29.9	82.2	36.2	28.2	16.1	3.4	1.7
40 歳代	262	29.8	75.2	35.1	30.5	18.3	3.4	2.7
50 歳代	245	44.1	78.4	37.1	31.0	17.1	3.7	4.5
60 歳代	427	46.4	69.3	38.4	32.8	14.8	4.0	7.7
70 歳以上	471	39.3	50.7	29.7	24.6	16.1	2.8	21.2

問 36 あなたは、セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）をなくするにはどうすればよいと思いますか。（いくつでも選んでください）

「セクハラに関する法的整備の充実」の割合が42.4%と最も高く、次いで「職場や地域での学習会の開催」の割合が35.7%、「相談窓口の充実」の割合が32.2%となっています。



【年代別】

年代別でみると、10歳代・20歳代で「セクハラに関する法的整備の充実」の割合が高く、約6割となっています。また50歳代で「職場や地域での学習会の開催」の割合が高く、5割を超えています。

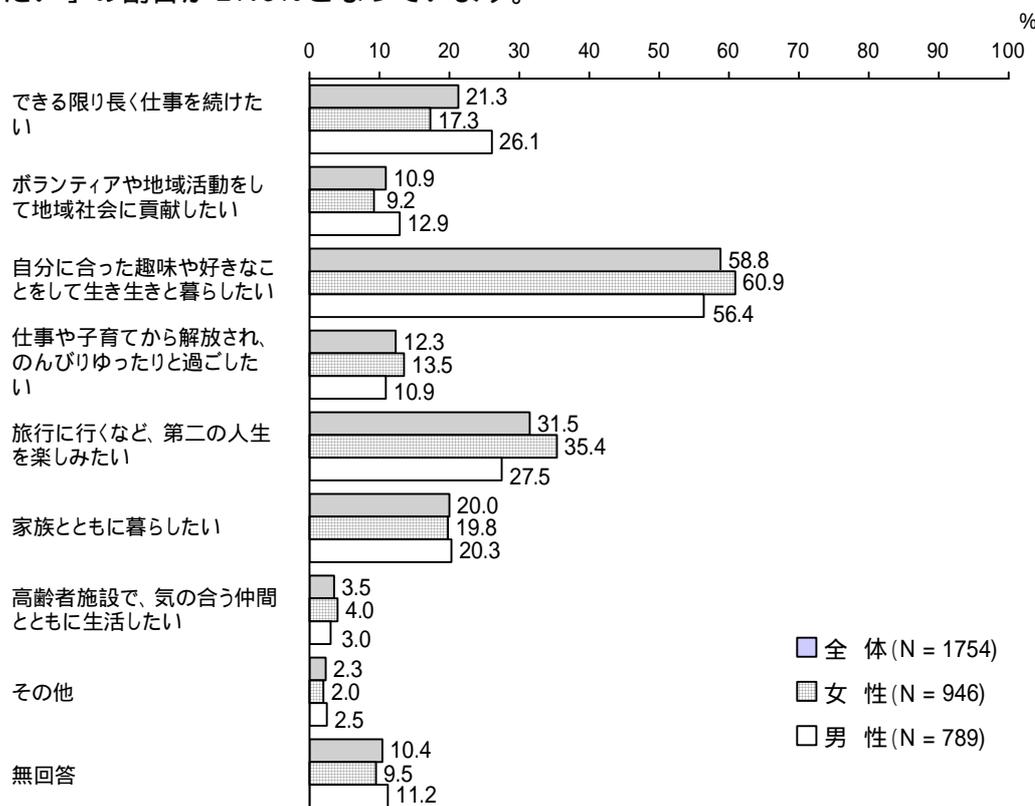
単位：%

区分	有効回答数（件）	セクハラに関する法的整備の充実	国のガイドラインを活用した啓発・指導の強化	職場や地域での学習会の開催	相談窓口の充実	弁護士と連携した相談体制の整備	その他	無回答
全体	1754	42.4	30.3	35.7	32.2	17.0	5.4	10.8
10歳代・20歳代	158	58.9	23.4	29.7	27.2	19.6	4.4	5.1
30歳代	174	44.3	29.9	36.8	33.3	19.0	8.0	2.9
40歳代	262	45.8	30.9	39.7	29.0	19.5	7.6	3.4
50歳代	245	44.1	33.9	51.8	31.8	23.7	2.9	5.3
60歳代	427	43.1	33.0	37.5	33.5	15.5	6.1	9.4
70歳以上	471	33.1	28.0	25.3	34.0	11.7	4.2	23.1

## 9 高齢化社会について

問 37 あなたは、高齢期をどのように暮らしたいと思いますか。  
(2つまで選んでください)

「自分に合った趣味や好きなことをして生き生きと暮らしたい」の割合が 58.8%と最も高く、次いで「旅行に行くなど、第二の人生を楽しみたい」の割合が 31.5%、「できる限り長く仕事を続けたい」の割合が 21.3%となっています。



### 【年代別】

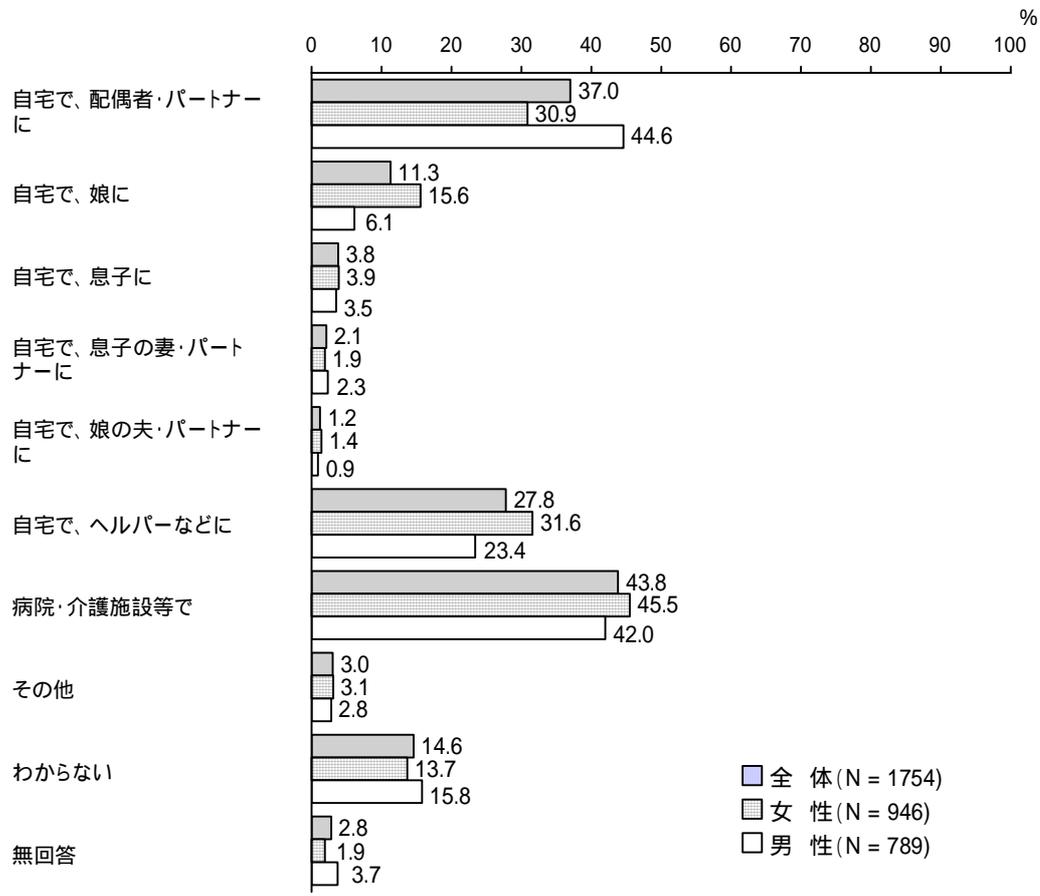
年代別で見ると、10 歳代・20 歳代で「旅行に行くなど、第二の人生を楽しみたい」の割合が高く、4 割半ばとなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	できる限り長く仕事を続けたい	ボランティアや地域活動をして地域社会に貢献したい	自分に合った趣味や好きなことをして生き生きと暮らしたい	仕事や子育てから解放され、のんびりゆったりと過ごしたい	旅行に行くなど、第二の人生を楽しみたい	家族とともに暮らしたい	高齢者施設で、気の合う仲間とともに生活したい	その他	無回答
全体	1754	21.3	10.9	58.8	12.3	31.5	20.0	3.5	2.3	10.4
10 歳代・20 歳代	158	18.4	7.0	63.3	11.4	44.9	17.7	3.2	0.6	8.2
30 歳代	174	21.8	6.9	53.4	15.5	39.1	24.7	4.6	2.3	6.9
40 歳代	262	26.0	9.2	57.6	14.9	30.5	17.6	3.1	2.7	9.5
50 歳代	245	28.6	9.4	62.4	16.7	33.9	15.9	2.0	0.8	6.1
60 歳代	427	25.1	13.6	60.2	11.7	30.7	18.0	2.3	3.0	9.8
70 歳以上	471	12.5	13.2	56.5	8.5	25.1	24.8	5.5	2.5	15.1

問 38 あなた自身に介護が必要となったとしたら、どこで誰に介護をして欲しいですか。現在の状況にかかわらず、ご希望をお答えください。(いくつでも選んでください)

「病院・介護施設等で」の割合が 43.8%と最も高く、次いで「自宅で、配偶者・パートナーに」の割合が 37.0%、「自宅で、ヘルパーなどに」の割合が 27.8%となっています。



【年代別】

年代別で見ると、40歳代で「自宅で、配偶者・パートナーに」の割合が低く、約2割となっています。

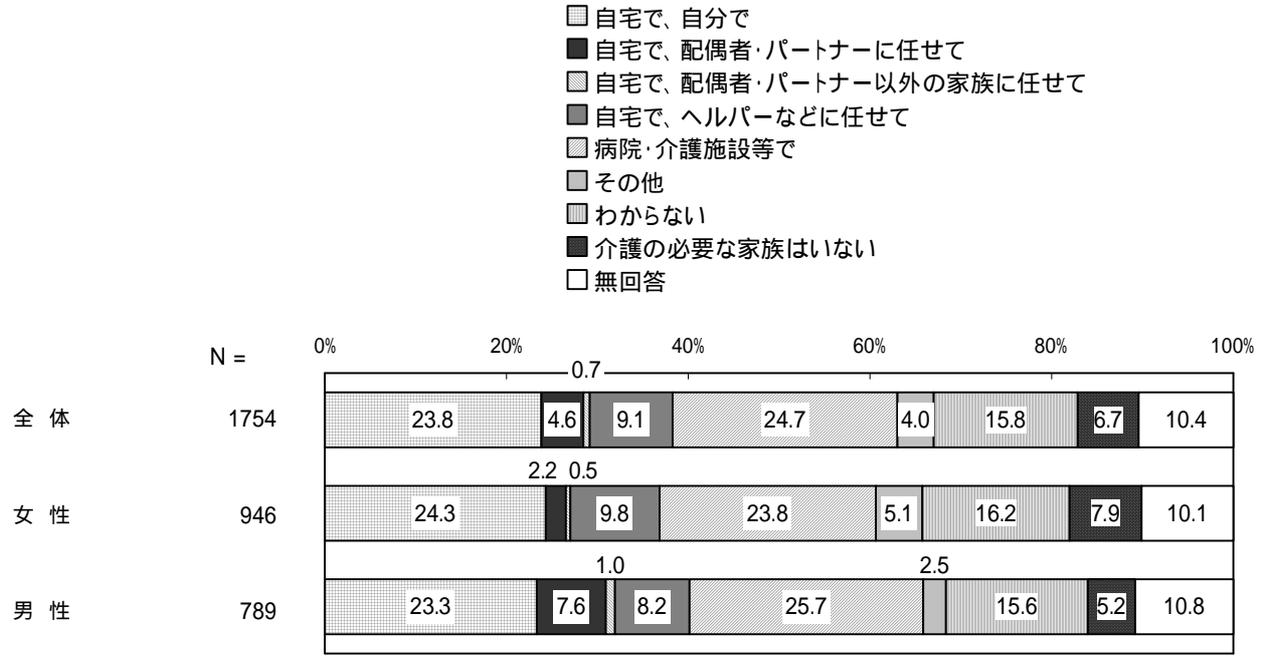
単位：%

区分	有効回答数(件)	自宅で、配偶者・パートナーに	自宅で、娘に	自宅で、息子に	自宅で、息子の妻・パートナーに	自宅で、娘の夫・パートナーに	自宅で、ヘルパーなどに	病院・介護施設等で	その他	わからない	無回答
全体	1754	37.0	11.3	3.8	2.1	1.2	27.8	43.8	3.0	14.6	2.8
10歳代・20歳代	158	39.2	12.7	10.1	3.2	3.8	19.6	34.2	0.6	25.9	0.6
30歳代	174	37.9	10.9	4.6	1.1	1.1	28.2	42.5	2.3	20.1	-
40歳代	262	22.1	9.2	3.1	0.4	-	24.0	47.3	3.1	22.5	1.1
50歳代	245	34.3	7.8	2.9	2.0	1.2	24.1	45.7	2.9	17.1	1.2
60歳代	427	41.9	11.5	0.9	2.1	0.7	32.3	45.9	3.7	9.6	2.1
70歳以上	471	41.4	14.2	4.9	3.0	1.3	30.8	43.1	3.2	7.4	6.8

問 39 もし、家族が介護を必要とする状態になった場合、あなたは、どのような方法でその家族の世話をすると思いますか。(1つ選んでください)

「病院・介護施設等で」の割合が24.7%と最も高く、次いで「自宅で、自分で」の割合が23.8%、「わからない」の割合が15.8%となっています。

性別でみると、女性に比べ、男性で「自宅で、配偶者・パートナーに任せて」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、30歳代、40歳代で「自宅で、ヘルパーなどに任せて」の割合が高く、1割半ばとなっています。

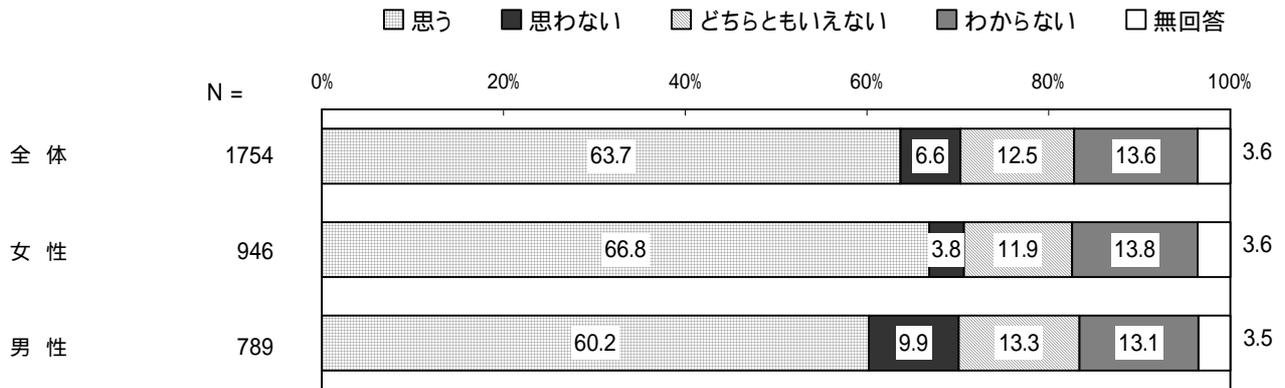
単位：%

区分	有効回答数 (件)	自宅で、自分で	自宅で、配偶者・パートナーに任せて	自宅で、配偶者・パートナー以外の家族に任せて	自宅で、ヘルパーなどに任せて	病院・介護施設等で	その他	わからない	介護の必要な家族はいない	無回答
全体	1754	23.8	4.6	0.7	9.1	24.7	4.0	15.8	6.7	10.4
10歳代・20歳代	158	26.6	2.5	1.9	10.8	16.5	1.9	28.5	5.7	5.7
30歳代	174	23.0	2.3	0.0	13.8	17.8	9.8	25.3	1.7	6.3
40歳代	262	20.2	3.4	0.4	14.5	24.8	5.7	20.2	3.4	7.3
50歳代	245	23.3	5.3	0.0	7.3	29.8	5.7	17.6	6.5	4.5
60歳代	427	27.6	3.3	0.5	7.5	27.6	3.0	10.8	8.2	11.5
70歳以上	471	22.3	7.6	1.5	6.4	24.6	1.5	9.6	9.1	17.4

## 10 防災について

問 40 防災・災害復興対策において、性別に配慮した対応が必要だと思いますか。  
(1つ選んでください)

「思う」の割合が63.7%、「思わない」の割合が6.6%となっています。  
性別でみると、男性に比べ、女性で「思う」の割合が高くなっています。



### 【年代別】

年代別でみると、大きな差異はみられません。

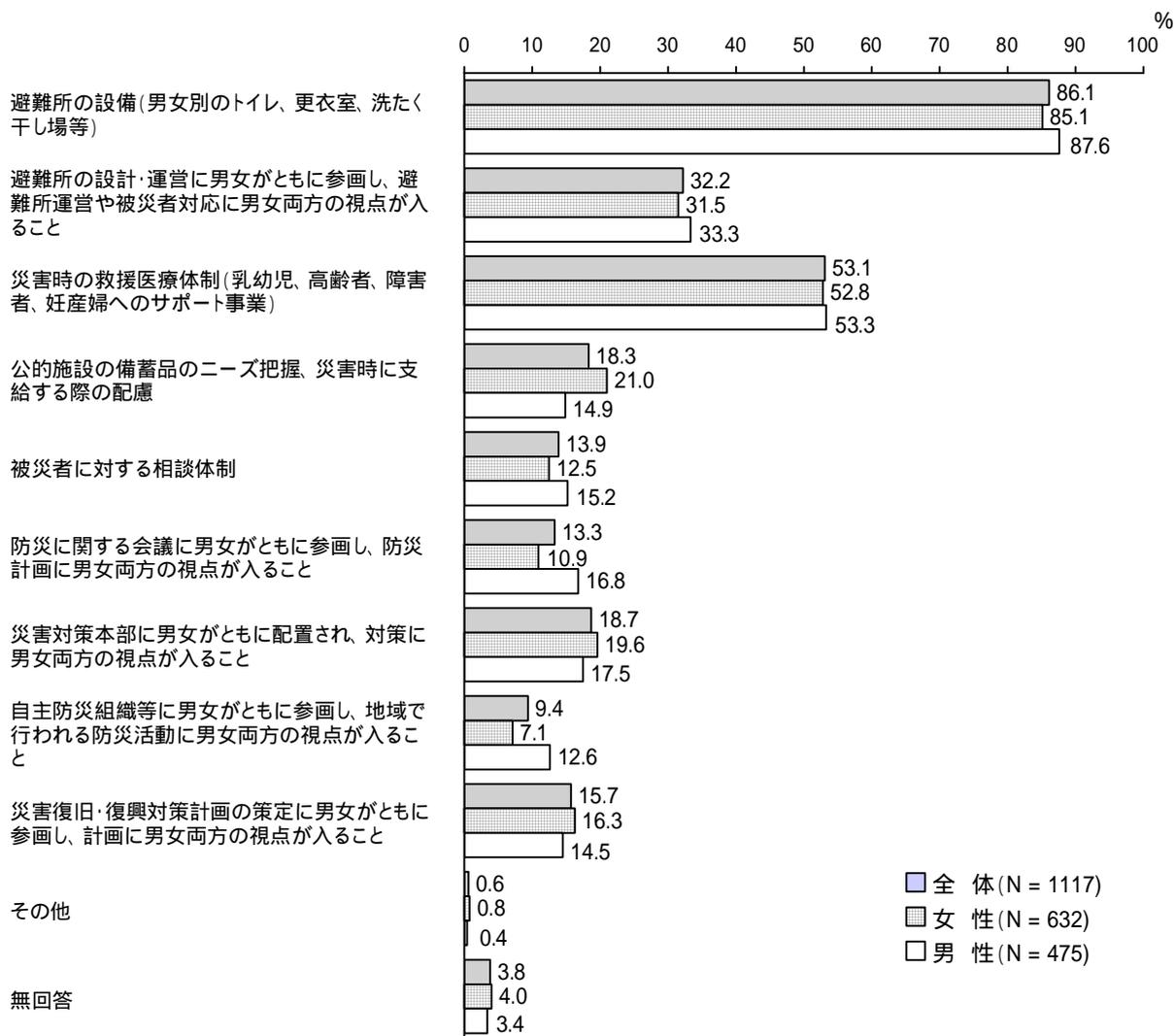
単位：%

区分	有効回答数(件)	思う	思わない	どちらともいえない	わからない	無回答
全体	1754	63.7	6.6	12.5	13.6	3.6
10歳代・20歳代	158	63.3	7.6	13.9	15.2	0.0
30歳代	174	64.9	5.2	13.2	15.5	1.1
40歳代	262	69.8	6.1	6.9	14.9	2.3
50歳代	245	70.6	4.5	9.4	13.5	2.0
60歳代	427	64.6	6.3	14.8	11.7	2.6
70歳以上	471	55.6	8.1	15.1	13.0	8.3

問 40 で、「 1 . 思う」と答えた方にお聞きします。

問 41 防災・災害復興対策において、性別に配慮した対応が必要なことは何だと思いませんか。( 3 つまで選んでください)

「避難所の設備(男女別のトイレ、更衣室、洗たく干し場等)」の割合が 86.1%と最も高く、次いで「災害時の救援医療体制(乳幼児、高齢者、障害者、妊産婦へのサポート事業)」の割合が 53.1%、「避難所の設計・運営に男女がともに参画し、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること」の割合が 32.2%となっています。



【年代別】

年代別でみると、10歳代・20歳代、30歳代、40歳代で「公的施設の備蓄品のニーズ把握、災害時に支給する際の配慮」の割合が高く、2割を超えています。

単位：%

区分	有効回答数（件）	避難所の設備（男女別のトイレ、更衣室、洗たくし場等）	避難所の設計・運営に男女がともに参画し、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること	災害時の救援医療体制（乳幼児、高齢者、障害者、妊産婦へのサポート事業）	公的施設の備蓄品のニーズ把握、災害時に支給する際の配慮	被災者に対する相談体制
全体	1117	86.1	32.2	53.1	18.3	13.9
10歳代・20歳代	100	85.0	28.0	59.0	26.0	17.0
30歳代	113	89.4	29.2	55.8	21.2	10.6
40歳代	183	87.4	35.0	50.8	26.8	10.9
50歳代	173	87.3	37.0	46.2	12.1	14.5
60歳代	276	86.2	34.8	59.1	14.9	15.2
70歳以上	262	83.6	27.5	49.2	16.0	13.7

区分	防災に関する会議に男女がともに参画し、防災計画に男女両方の視点が入ること	災害対策本部に男女がともに配置され、対策に男女両方の視点が入ること	自主防災組織等に男女がともに参画し、地域で行われる防災活動に男女両方の視点が入ること	災害復旧・復興対策計画の策定に男女がともに参画し、計画に男女両方の視点が入ること	その他	無回答
全体	13.3	18.7	9.4	15.7	0.6	3.8
10歳代・20歳代	7.0	6.0	8.0	1.0	-	6.0
30歳代	15.0	22.1	7.1	13.3	0.9	1.8
40歳代	7.7	21.3	5.5	12.6	0.5	3.8
50歳代	12.1	20.2	10.4	19.1	1.2	2.3
60歳代	16.3	18.8	9.1	21.0	0.7	3.3
70歳以上	16.8	19.5	13.7	15.6	0.4	5.0

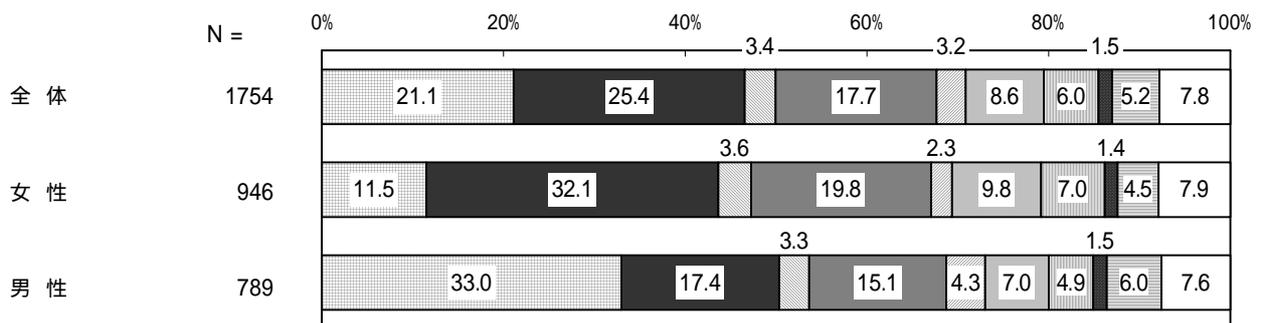
## 11 ワーク・ライフ・バランスについて

問 42 生活における「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合い等）」の優先度について、あなたの現実に最も近いものはどれですか。（1つ選んでください）

「『家庭生活』を優先している」の割合が25.4%と最も高く、次いで「『仕事』を優先している」の割合が21.1%、「『仕事』と『家庭生活』を両立している」の割合が17.7%となっています。

性別でみると、男性に比べ、女性で「『家庭生活』を優先している」の割合が高くなっています。また、男性で「『仕事』を優先している」の割合が高くなっています。

- 「仕事」を優先している
- 「家庭生活」を優先している
- ▨ 「地域・個人の生活」を優先している
- ▩ 「仕事」と「家庭生活」を両立している
- ▧ 「仕事」と「地域・個人の生活」を両立している
- ▦ 「家庭生活」と「地域・個人の生活」を両立している
- ▤ 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」すべてを並立している
- その他
- ▨ わからない
- 無回答



【年代別】

年代別でみると、30歳代、40歳代、50歳代で「仕事」を優先している」の割合が高く、3割を超えています。また、10歳代・20歳代で「家庭生活」を優先している」の割合が低く、約1割となっています。50歳代で「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」すべてを並立している」の割合が高く、約1割となっています。

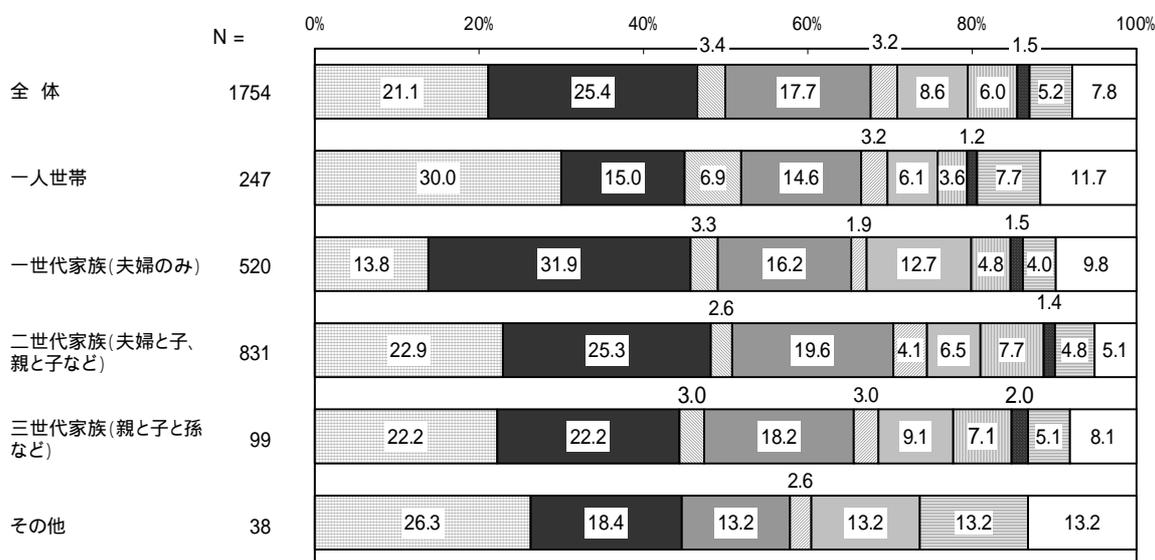
単位：%

区分	有効回答数(件)	「仕事」を優先している	「家庭生活」を優先している	「地域・個人の生活」を優先している	「仕事」と「家庭生活」を両立している	「仕事」と「地域・個人の生活」を両立している	「家庭生活」と「地域・個人の生活」を両立している	「仕事」と「地域・個人の生活」と「家庭生活」すべてを並立している	その他	わからない	無回答
全体	1754	21.1	25.4	3.4	17.7	3.2	8.6	6.0	1.5	5.2	7.8
10歳代・20歳代	158	26.6	10.1	8.2	11.4	10.1	6.3	4.4	3.8	18.4	0.6
30歳代	174	34.5	24.7	0.6	24.7	3.4	2.9	2.9	1.7	2.9	1.7
40歳代	262	30.2	23.7	1.1	27.5	2.3	3.1	5.7	0.4	3.8	2.3
50歳代	245	31.0	18.4	0.4	25.3	4.1	4.5	11.4	-	2.9	2.0
60歳代	427	15.9	28.6	3.0	18.5	2.3	11.2	7.5	1.9	3.7	7.3
70歳以上	471	9.6	32.7	6.2	7.0	1.7	14.2	3.6	1.5	4.9	18.7

## 【家族構成別】

家族構成別でみると、一人世帯で「仕事」を優先しているの割合が高く、3割となっています。また、一世代家族（夫婦のみ）で「家庭生活」を優先しているの割合が高く、3割を超えています。

- 「仕事」を優先している
- 「家庭生活」を優先している
- 「地域・個人の生活」を優先している
- 「仕事」と「家庭生活」を両立している
- 「仕事」と「地域・個人の生活」を両立している
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」を両立している
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」すべてを並立している
- その他
- わからない
- 無回答



## 【現実と理想の比較】

単位：%

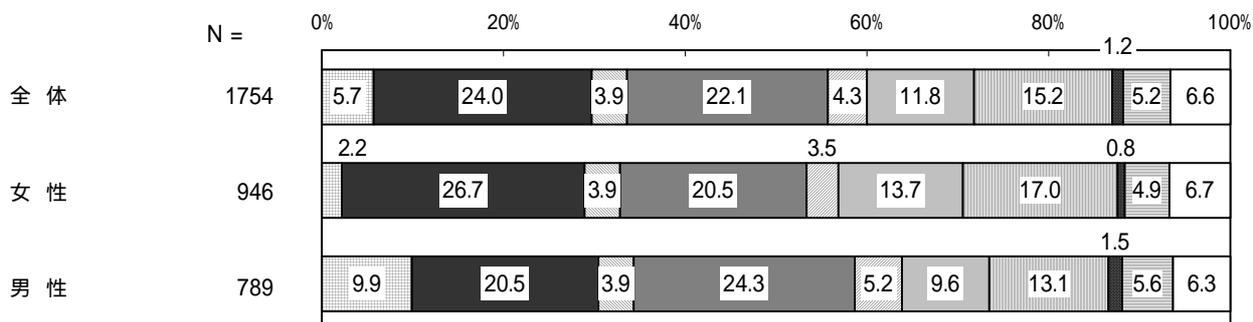
	「仕事」を優先している	「家庭生活」を優先している	「地域・個人の生活」を優先している	「仕事」と「家庭生活」を両立している	「仕事」と「地域・個人の生活」を両立している	「家庭生活」と「地域・個人の生活」を両立している	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」すべてを並立している	その他	わからない	無回答
現実	21.1	25.4	3.4	17.7	3.2	8.6	6.0	1.5	5.2	7.8
理想	5.7	24.0	3.9	22.1	4.3	11.8	15.2	1.2	5.2	6.6

問 43 生活における「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合い等）」の優先度について、あなたの希望に最も近いものはどれですか。（1つ選んでください）

「『家庭生活』を優先したい」の割合が24.0%と最も高く、次いで「『仕事』と『家庭生活』を両立させたい」の割合が22.1%、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』すべてを並立させたい」の割合が15.2%となっています。

性別でみると、男性に比べ、女性で「『家庭生活』を優先したい」の割合が高くなっています。また、男性で「『仕事』を優先したい」の割合が高くなっています。

- 「仕事」を優先したい
- 「家庭生活」を優先したい
- 「地域・個人の生活」を優先したい
- 「仕事」と「家庭生活」を両立させたい
- 「仕事」と「地域・個人の生活」を両立させたい
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」を両立させたい
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」すべてを並立させたい
- その他
- わからない
- 無回答



【年代別】

年代別でみると、10歳代・20歳代で「家庭生活」を優先したい」の割合が低く、約1割となっています。50歳代で「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」すべてを並立させたい」の割合が高く、2割半ばとなっています。

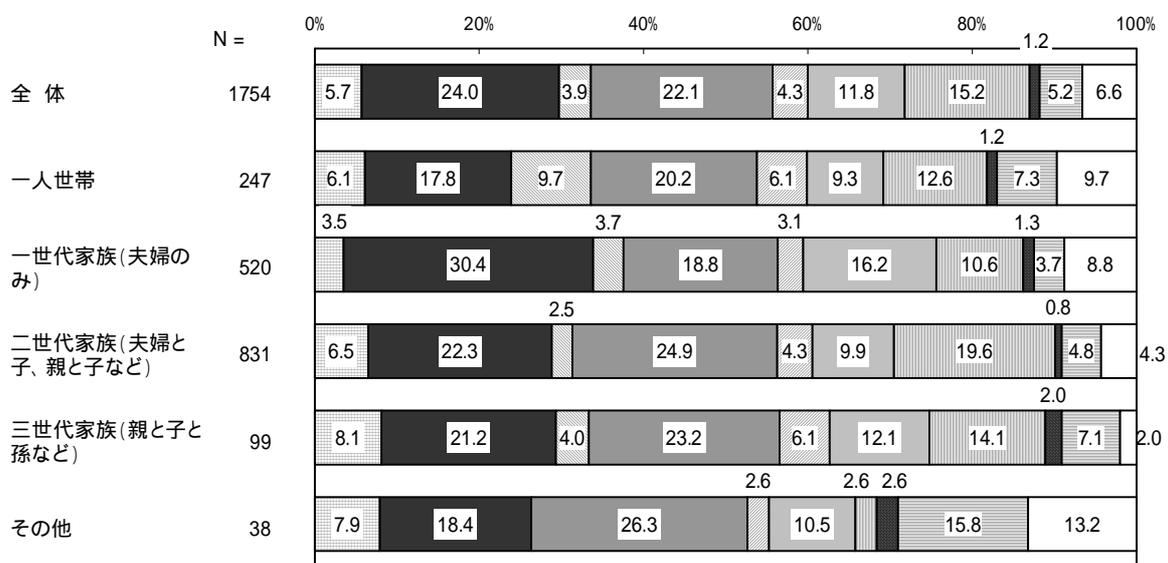
単位：%

区分	有効回答数(件)	「仕事」を優先したい	「家庭生活」を優先したい	「地域・個人の生活」を優先したい	「仕事」と「家庭生活」を両立させたい	「仕事」と「地域・個人の生活」を両立させたい	「家庭生活」と「地域・個人の生活」を両立させたい	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」すべてを並立させたい	その他	わからない	無回答
全体	1754	5.7	24.0	3.9	22.1	4.3	11.8	15.2	1.2	5.2	6.6
10歳代・20歳代	158	4.4	10.8	7.6	26.6	7.6	6.3	20.3	1.9	13.3	1.3
30歳代	174	5.2	25.9	2.3	29.9	4.6	6.3	20.7	1.1	2.9	1.1
40歳代	262	5.7	26.0	2.3	30.9	3.8	4.6	19.1	0.8	4.6	2.3
50歳代	245	7.3	19.2	1.6	28.6	5.7	5.7	25.7	-	4.5	1.6
60歳代	427	4.9	25.8	3.3	22.2	4.2	15.0	12.2	1.6	4.0	6.8
70歳以上	471	6.2	27.2	6.2	10.2	2.5	20.0	6.6	1.3	5.1	14.9

## 【家族構成別】

家族構成別でみると、一世代家族（夫婦のみ）で「家庭生活」を優先したいの割合が高く、約3割となっています。

- 「仕事」を優先したい
- 「家庭生活」を優先したい
- 「地域・個人の生活」を優先したい
- 「仕事」と「家庭生活」を両立させたい
- 「仕事」と「地域・個人の生活」を両立させたい
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」を両立させたい
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」すべてを並立させたい
- その他
- わからない
- 無回答



## 【現実と理想の比較】

単位：%

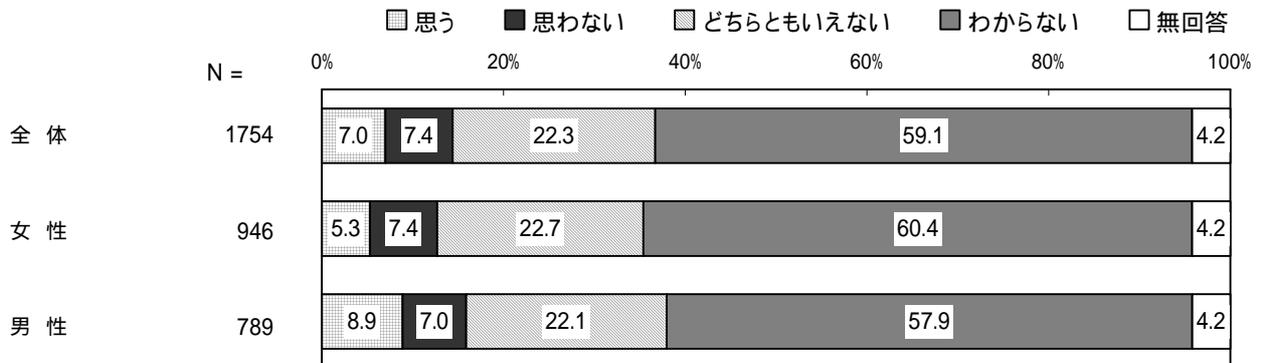
	「仕事」を優先している	「家庭生活」を優先している	「地域・個人の生活」を優先している	「仕事」と「家庭生活」を両立している	「仕事」と「地域・個人の生活」を両立している	「家庭生活」と「地域・個人の生活」を両立している	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」すべてを並立している	その他	わからない	無回答
現実	21.1	25.4	3.4	17.7	3.2	8.6	6.0	1.5	5.2	7.8
理想	5.7	24.0	3.9	22.1	4.3	11.8	15.2	1.2	5.2	6.6

## 12 政策・方針決定の場への参画について

問 44 あなたは、宇治市における政策・方針決定において女性の意見が反映されていると思いますか。(1つ選んでください)

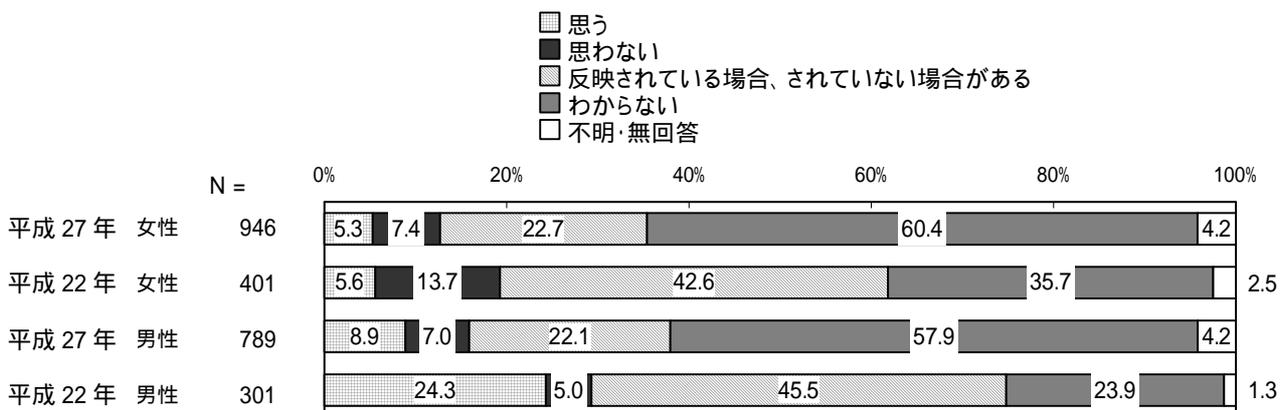
「思う」の割合が7.0%、「思わない」の割合が7.4%となっています。

性別でみると、大きな差異はみられません。



### 【平成 22 年調査】

平成 22 年調査との比較は選択肢が異なるため、参考にとどめます。



### 【年代別】

年代別でみると、50 歳代以降で「どちらともいえない」の割合が高く、2 割を超えています。

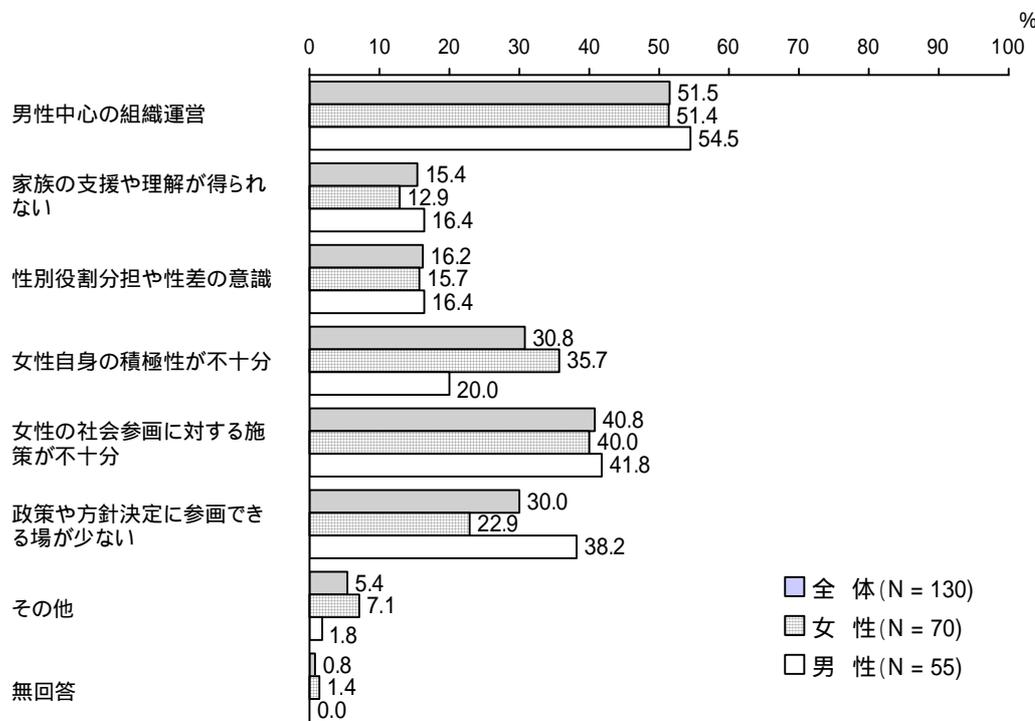
単位：%

区分	(件) 有効 回答数	思う	思わない	どちらとも いえない	わからない	無 回答
全体	1754	7.0	7.4	22.3	59.1	4.2
10 歳代・20 歳代	158	5.7	3.8	13.9	75.9	0.6
30 歳代	174	4.6	5.2	15.5	73.6	1.1
40 歳代	262	7.3	5.3	18.7	66.8	1.9
50 歳代	245	5.3	8.6	23.7	61.2	1.2
60 歳代	427	7.3	10.5	26.0	52.5	3.7
70 歳以上	471	8.5	6.4	26.3	49.0	9.8

問 44 で「 2 . 思わない」とお答えの方にお聞きします。

問 45 政策・方針決定の過程に女性の参画が少ない理由は何だと思えますか。(いくつでも選んでください)

「男性中心の組織運営」の割合が 51.5%と最も高く、次いで「女性の社会参画に対する施策が不十分」の割合が 40.8%、「女性自身の積極性が不十分」の割合が 30.8%となっています。



【年代別】

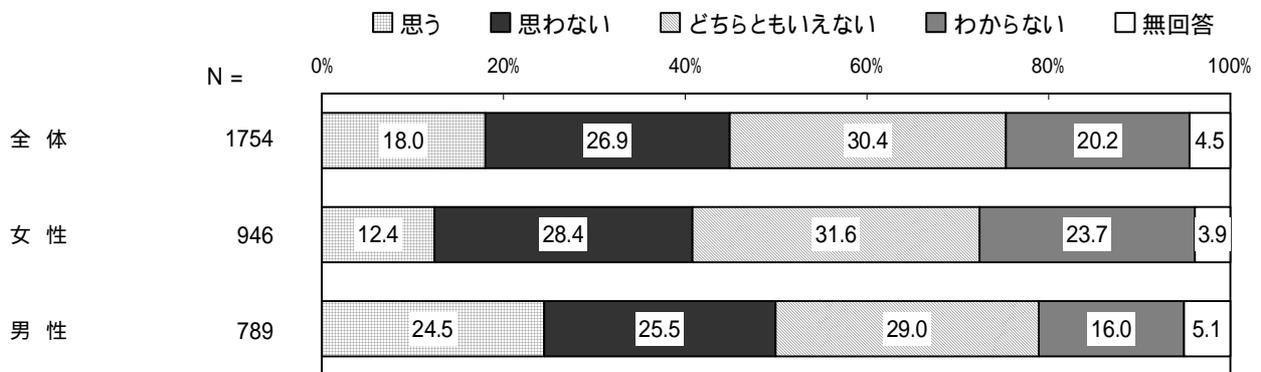
年代別で見ると、50 歳代で「男性中心の組織運営」の割合が高く、7 割半ばとなっています。また、30 歳代で「女性の社会参画に対する施策が不十分」の割合が高く、6 割半ばとなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	男性中心の組織運営	家族の支援や理解が得られない	性別役割分担や性差の意識	女性自身の積極性が不十分	女性の社会参画に対する施策が不十分	政策や方針決定に参画できる場が少ない	その他	無回答
全体	130	51.5	15.4	16.2	30.8	40.8	30.0	5.4	0.8
10 歳代・20 歳代	6	33.3	16.7	-	16.7	16.7	33.3	-	-
30 歳代	9	44.4	22.2	22.2	33.3	66.7	22.2	-	-
40 歳代	14	50.0	21.4	-	28.6	50.0	14.3	14.3	-
50 歳代	21	76.2	23.8	14.3	14.3	38.1	33.3	-	-
60 歳代	45	60.0	6.7	17.8	35.6	35.6	26.7	8.9	2.2
70 歳以上	30	30.0	13.3	23.3	33.3	43.3	40.0	-	-

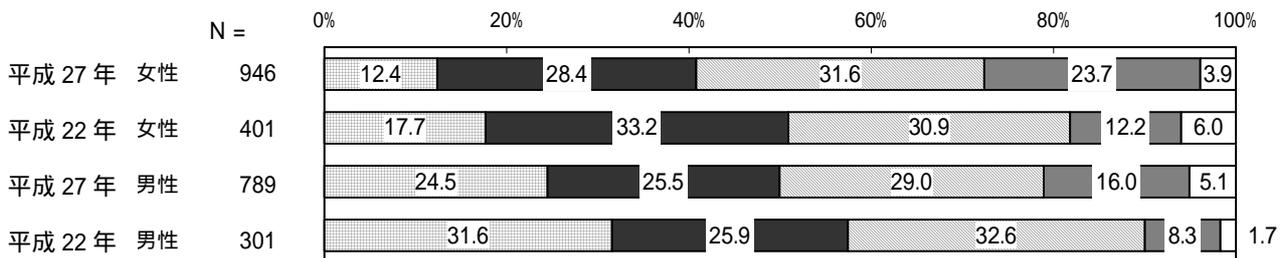
問 46 あなたは政治・地域・職場などにおいて、政策・方針決定の場へ参画したいと  
 いますか。(1つ選んでください)

「思う」の割合が18.0%、「思わない」の割合が26.9%となっています。  
 性別でみると、女性に比べ、男性で「思う」の割合が高くなっています。



【平成 22 年調査】

平成 22 年調査と比較すると、大きな差異はみられません。  
 性別でみると、女性、男性ともに「思う」の割合が低くなっています。



【年代別】

年代別でみると、大きな差異はみられません。

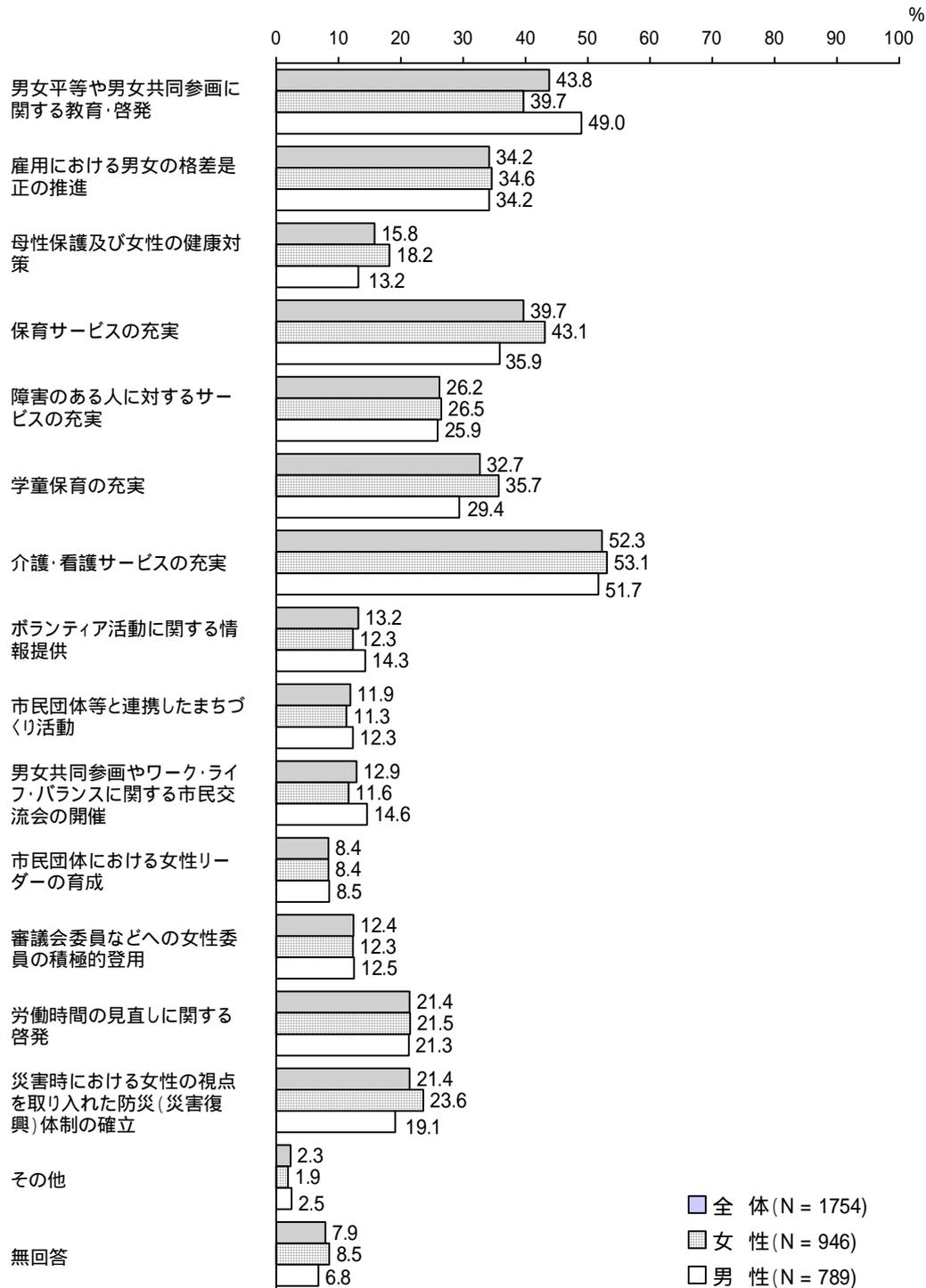
単位：%

区分	有効回答数(件)	思う	思わない	いどちらともいえない	わからない	無回答
全体	1754	18.0	26.9	30.4	20.2	4.5
10 歳代・20 歳代	158	18.4	22.2	25.9	29.7	3.8
30 歳代	174	18.4	24.1	36.2	19.5	1.7
40 歳代	262	21.4	21.8	30.2	23.7	3.1
50 歳代	245	21.6	22.0	32.2	20.8	3.3
60 歳代	427	16.6	29.7	34.4	16.2	3.0
70 歳以上	471	14.9	32.3	25.7	18.7	8.5

### 13 今後の取り組みについて

問 47 あなたは、男女がともに仕事と生活の調和を図りながら、男女共同参画のまちづくりを推進するためには、どのような行政施策が必要であると思いますか。  
(いくつでも選んでください)

「介護・看護サービスの充実」の割合が52.3%と最も高く、次いで「男女平等や男女共同参画に関する教育・啓発」の割合が43.8%、「保育サービスの充実」の割合が39.7%となっています。



【年代別】

年代別でみると、30歳代で「保育サービスの充実」の割合が高く、約6割となっています。また、30歳代で「学童保育の充実」の割合が高く、5割となっています。一方、40歳代で「男女共同参画やワーク・ライフ・バランスに関する市民交流会の開催」の割合が低く、1割未満となっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	男女平等や男女共同参画に関する教育・啓発	雇用における男女の格差是正の推進	母性保護及び女性の健康対策	保育サービスの充実	障害のある人に対するサービスの充実	学童保育の充実	介護・看護サービスの充実	ボランティア活動に関する情報提供
全体	1754	43.8	34.2	15.8	39.7	26.2	32.7	52.3	13.2
10歳代・20歳代	158	46.2	39.9	22.8	44.9	22.8	32.9	43.7	15.8
30歳代	174	40.8	37.9	20.7	59.8	27.6	50.0	43.1	4.6
40歳代	262	43.5	32.1	15.6	47.3	25.6	40.5	49.2	8.0
50歳代	245	47.8	40.8	16.3	44.9	28.6	35.9	57.1	14.3
60歳代	427	44.5	35.8	15.5	36.1	26.7	29.7	61.1	16.6
70歳以上	471	42.3	27.8	12.1	27.4	25.7	23.6	50.3	14.4

区分	市民団体等と連携したまちづくり活動	男女共同参画やワーク・ライフ・バランスに関する市民交流会の開催	市民団体における女性リーダーの育成	審議会委員などへの女性委員の積極的登用	労働時間の見直しに関する啓発	災害時における女性の視点を取り入れた防災(災害復興)体制の確立	その他	無回答
全体	11.9	12.9	8.4	12.4	21.4	21.4	2.3	7.9
10歳代・20歳代	11.4	10.8	8.2	9.5	35.4	24.1	1.9	3.8
30歳代	6.9	13.2	8.6	9.8	36.2	16.7	1.1	4.0
40歳代	7.6	8.8	5.7	10.3	31.7	17.9	5.3	5.3
50歳代	11.0	16.7	8.6	13.1	24.1	24.5	2.9	4.5
60歳代	11.7	14.1	8.9	13.3	17.3	22.5	1.2	6.1
70歳以上	16.1	12.7	9.3	14.0	7.9	21.7	1.5	15.1

## 自由回答

209人から、次のような意見がありました。(抜粋)

### (1) 男女共同参画や男女の平等感について

- ・ 国の提言を待つのではなく、宇治市から発信できる“男女共同参画文化”を創り上げることが大切。
- ・ 男性女性ともに尊重し、認め合える社会にと願っております。
- ・ あくまでも男女平等の考え方が必要であり、お互い(男女)を理解できる施策が必要と思う。
- ・ 男女平等など必要ない。
- ・ 共同参画は必要である。基本的な体力の差と、男女の違いを考えること。能力に差はなし。
- ・ 何をもち「平等」とするのが大切だと思います。
- ・ 男女平等は理想であるが、現実、体力的なこと等からまったく平等は無理と思う。難しいが、平等にするとところとそうでないところをはっきり決めていく方がよいと思う。平等と言うと聞こえはよいが、差があるのをすべて平等にして、はたしてそれは平等か。
- ・ 性別によって差別することはあってはならないと思うが、性別によって体力、身体的機能、その他多く異なるところがあり、人それぞれ長所、短所、能力、その他、千差万別である。その人に対応した扱いも必要ではないか。具体的な施策は法令で一律的に決めるべきではなく、広く英知を集めて議論してほしい。
- ・ 何もかも男女共同参画を唱えるのは一考を要する。男女の特性・経験・環境を上手に生かせることが先決であるように思います。
- ・ 女らしさ男らしさという言葉は最近ではタブーだが、個人個人が社会の一員として、女らしく男らしく、信念や思いやりを持てたら、少しの努力で社会がよくなるのではないかと思う。「女ですから」「男ですから」という言葉とは違うと思う。
- ・ 本当の意味で「男女共同参画」でなかった長い歴史があるのですから、ゆっくり、根気強く、共同参画の良さを我々市民が感じていくように、それぞれの立場で協力したい。男女の性にかかわらず、本当に実力のある人は必ずその力を発揮しているように思う。
- ・ 私自身、男女平等でないと小さい頃から思っています。仕事をしていても上司、男性が対応するとお客様も気がおさまる。女性では話にならないと思っている人は大勢おられます。宇治市の施策は知りませんが、全国で一番平等な都市で有名と思ってもらえるような街にしたいと思います。
- ・ 男女平等で一番重要なのは、女性の意識の改革と男性の女性への偏見の破棄だと思います。男女共同参画施策を進めることで改善されればよいかと思いますが、大なり小なり女性にも男性にも今を良しとする二面性があるのも事実かと思えます。

### (2) 男女の役割分担について

- ・ 男と女は違うし、それぞれの役割を。できることをできる限り発揮できるような環境作りが大切だと思います。アンケートの「家庭での役割について」についての設問に、「夫と妻で分担」とありますが、うちでは「分担」ではなく「協力」して話し合っています。
- ・ 家庭の仕事も、育児も“社会”を構成する一つの重要な仕事。男性であれ、女性であれ、家庭の仕事、育児を仕事としてとらえ、対価を得る“しくみ”が大切。男尊女卑と混同してはならず、女性の特性を最大限生かせる仕事は何か。それに対する報酬はどう評価し、財源をどう捻出するかを考えるべき。
- ・ 職場や行政など組織の中では、他国に比べて日本は遅れている面が多いと思いますが、家庭や地域においては女性の方が主導権を持ち、自己主張をしっかりしていると感じます。
- ・ 長く生きてきて思っていることは、男は男の仕事、女は女の仕事があり、男女平等だと言っても、それぞれにできないことがあり、それを自覚していないのが、残念ながら女性に多いということです。今では十分女性が社会に進出しているから、もう少し家庭のことに目を向ける様、切に願っております。

### (3) 職場や就労について

- ・ 男女ともに、家庭も仕事も地域も当たり前のように携わるという意識がベースにほしいです。その上で、個人の得手不得手、特性により、どちらか寄りにはなることもあるとは思いますが、「男女ともに」を実現するためには、男性の就業が週 40 時間にならないと、勤務時間が長い男性に「家庭も、地域も」と求めるのは酷であると思います。
- ・ 男性は仕事を理由に家事や育児をさぼっている。日本人は働き過ぎである。同じ限られた時間であれば、女性の方が成果を上げていると思う。今の日本では、労働時間を減らさないと罪になるくらいの法整備が必要ではないでしょうか。
- ・ 今の状況で職場での男女差をなくすだけでは、逆に女性に負担がかかると思う。社会全体の考え方、家庭内での家族や地域のサポートが充実して、その中で、女性も男性のように社会進出することがもしできるなら、かなり望ましいことであると思う。
- ・ 現在、子どもも大きくなってきて仕事を探しているのですが、10 年間仕事から遠ざかっていた不安があり、また子どもが学校に行っている間だけの就業時間だとなかなか仕事も思うように決まりません。子どもを産むことで仕事から離れ、子育てに専念することは、一生の中で素晴らしい仕事ですが、経済的には不安があります。もう少し社会復帰しやすくなるとうれしいです。
- ・ 女性が男性と同じように働くためには、保育所や学童保育、病児保育等の充実がないと無理である。職種によっては、休んだり早退したりすることで影響がある場合も多く、そうなると、責任のある仕事は任されない。休める職場をつくることも大切だが、休まなくてもよい社会作りをしないと、女性が男性と平等に社会で活躍することは難しいと思う。
- ・ 女性が生き生き働くことができないことにはいろいろな理由があるが、一番は再雇用の機会が限られていることであり、これは女性だけでなく、男性の離職者を含めて社会全体の問題である。一度も離職していない人だけが正規雇用者でいられるのが日本社会の現実であり、そのため介護も育児もすべて女性の負担となってしまうという構造がある。
- ・ 女性管理職を登用する際には、男女比何%という数字にこだわるのではなく、能力のある方を見極めるべきだと思います。もちろん男性管理職についても言えることです。
- ・ 女性役員等の数値目標が議論となっているが、意味が違ふと考えます。数でなくて質で比較するような目を養う必要があると思います。仕事の質と人の能力を元に考えるべきで、単なる数合わせでは企業は成立しない。数での共同参画云々よりも教育が最重要と思います。
- ・ 環境整備は大事ですが、女性も働くことが前提の社会になると、家に入りたい女性が困るのでは。妻は働かずに家に入りたいタイプです。ケースバイケースということを前提に、働きたい人には場を与えるようにお願いします。
- ・ 私自身、宇治市に住み、宇治市内の教育機関で就職し、子育て、仕事、家事を 30 年以上続けてきましたが、3 年前に適応障害による鬱と診断を受け、復帰するも激しいパワハラを受け退職しました。家族、友人、事業主等の関わり方はとても難しいと感じます。少しでも多くの立場、環境の異なる人々が参加でき、意見交換ができる場の提供と意識付けが必要かと思います。
- ・ 社内において、女性は病院へ行きやすいが、男性は行きにくい雰囲気があった。仕事上での格差もさることながら、健康に関しても差があるのは不思議。

#### (4) 子育て、子どもの教育について

- ・ 日々、子育てしながら働いています。子どもは保育園に預けていますが、家庭を中心にはしていません。働くママの仕事は、するの探すのも大変で、理解ある職場はなかなかありません。そうなる、やはり2人目が望めず、残念ですがあきらめました。
- ・ 夫の給料だけではやっていけないので働きたいが、すぐに子どもを預けられる所がない。そのような立場の女性が働ける場所と託児所をもっともっと充実させないと2人目、3人目と考えることが難しくなり、どんどん負のスパイラルにいつてしまうと思う。
- ・ スーパーなどの男性用トイレにも赤ちゃんのオムツ替え台は少なく、まだまだ「女性が子育てをする」という世の中だと思います。「育児休業」という言葉は存在するけれども、まだまだ一般的には取りにくいなど、実際にいかされているのかと思う面はあります。
- ・ 私個人の考えですが、保育サービスの充実、学童保育の充実に関して、夫の収入で最低限暮らしていけるのなら、子どもとの時間を大切にすることがベストだと思います。母子家庭、障がいサービス、介護サービス等弱者に対しての問題を最優先に考えて進めていただきたい。
- ・ 男女とも自立した生活ができるように、子どもの頃から自分のことは自分でできる（食事、掃除など）ことが大切だと思います。
- ・ もし、男女が平等に職場や学校で扱われるようにしたいのであれば、制服などは不要だと思うし、日本の昔ながらの男尊女卑的な考えを捨てるよう小さい子どもの頃から教育し直さないとだめでしょう。男性でも、家事や育児をすることが「当たり前だ」と教育し、女性でも、力仕事や働く時間などの長さ等考えないで（子どもが家で待っているから、家事、料理等の理由で早く帰らないとななどの心配しなくてよいよう制度を整えつつ）男性並みにするよう教育しないとだめですね。難しいでしょうけど。
- ・ 小さい時から、男だから、女のくせにという見方にとらわれない、一人ひとりを大切にした人権教育が大切だと思う。男性・女性という性のみにとらわれない多様な性を受け入れていける社会を作っていくことを、施策の中に取り入れてもらいたい。

#### (5) 高齢化社会について

- ・ 高齢の両親との同居で、心身ともに余裕がなく、私自身は与えられた環境でどうにかして生きていくことしか考えられないので、男女共同については、残念ながら関心が持てない。
- ・ 子どもを抱えるシングルマザーと同様に、年老いた両親を抱えるシングル女性のことも考えてほしいです。

#### (6) 行政に対して

- ・ 男女の差別がなくなり、各々がそれぞれの分野で能力を発揮し、実り豊かな人生を送ることができるようまちづくりを期待します。
- ・ 男女共同参画政策に対する施設や人員は税金の無駄使いだと思う。特に不平等だと思ったことはない。
- ・ UJIあさぎりプランの細かな内容をもっとわかりやすく、市政だよりなどでお知らせいただけないでしょうか。家庭内の主婦には浸透していないのではと思います。
- ・ 第3次UJIあさぎりプランなるものの存在を知りません。対象が広範囲で焦点が絞りにくいと思いますが、具体的スローガンをあげて、3年に1回くらいでよいから、目に見える形にしていけたら、ありがたいです。市民への広報の強化が必要だと思います。
- ・ 宇治市の男女共同参画施策なんてあること自体知りませんでした。仕事が忙しくて他に目を向ける時間がありません。事業所向けに、何かできないでしょうか。休憩時間にも読めるような。
- ・ 難しい文言を使用せず普通の言葉で啓発をしなければ、なかなか理解が進行しないと思う。
- ・ 「啓発」という意識で取り組むのは好ましくない。市民目線で。

## ( 7 ) アンケートの感想

- ・ 市がどういった対策を行っているかを知らないため、答えられない部分があった。
- ・ 学生には向いてない質問が多くて困った。具体的にどのような活動をしているのか全く知らないから、そういうことも広報するべきだと思った。「知らない」以前に「興味がない」人が多いのが問題だと思った。ボランティアなどは、自分たちがどこで何をできるのか全くわからないから、明確にして高校生なども参加しやすい状況を作ったらもっと知れ渡るのではないかと思った。日本には文化としてジェンダーの精神が根づいてしまっているところが大きいとは思いますが、男女どちらも同じくらい生きやすい社会になったらよいと思う。
- ・ このようなアンケートを初めてさせていただき、宇治市は前進したと思い嬉しく思います。
- ・ このようなアンケートを実施いただきありがとうございます。一人でも多くの声が届き、女性がいきいきと社会参加できるような社会づくり、またはその組織となりますよう強く願っています。今回初めてこのようなアンケート協力しましたが、少しでも行政に生かさせていただけたら幸いです。

## ( 8 ) その他

- ・ 今後は市政だよりなどを見て、男女共同参画の推進に必要な行動ができるようにしていくこととします。
- ・ 市民向けの勉強会などがあれば積極的に参加したいと思います。
- ・ 現状について全く知らないのではわからないが、機会があるなら参画したいし、議会等、政策決定過程を見てみたい。
- ・ 女性の社会進出の目的で税金の配偶者控除を廃止すると聞いたが、女性の社会進出はあくまでも個人の考えですればよいのであって、専業主婦を望んでいる家庭に不利になるようなことはしてはいけないと思う。

## 第2章 事業所調査

### 調査の概要

#### 1 調査の目的

宇治市男女共同参画計画（第3次UJIあさぎりプラン）に次ぐ新計画策定の基礎資料とするため実施しました。

#### 2 調査対象

事業所調査：宇治市内の事業所から無作為抽出

#### 3 調査期間

平成27年3月19日から平成27年4月2日

#### 4 調査方法

郵送による配布・回収

#### 5 回収状況

	配布数	回収数	有効回収数	有効回収率
事業所調査	300通	106通	106通	35.3%

#### 6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。

## 調査結果の概要

### 1 事業所の業種と構成員

事業所の業種は「製造業」が31.1%で最も多く、次いで「サービス業」が17.0%、「建設業」が14.2%となっています。

事業所の構成員の内訳の平均数をみると、正規従業員数は女性が38.7人、男性が61.3人と、男性は女性の約1.6倍となっています。パート従業員数は、女性が40.4人、男性が11.6人と、女性は男性の約3.5倍となっています。管理職数は、女性が10.2人、男性が21.2人と、男性は女性の約2.1倍となっています。正規従業員の平均勤務年数は、女性では「5年～10年未満」の割合が最も高く、男性では「10年～15年未満」の割合が最も高くなっています。

### 2 男女共同参画に関する認知度

内容まで知っているとは回答した用語のうち5割を超えるものは、「セクシュアル・ハラスメント(セクハラ)」「マタニティ・ハラスメント」となっており、最も多くなっているのが「セクシュアル・ハラスメント(セクハラ)」の74.5%です。一方、2割以下となっているものは「男女共同参画社会基本法」「女子差別撤廃条約」「ジェンダー」「ポジティブ・アクション(積極的改善措置)」「第3次UIIあさぎりプラン(宇治市男女共同参画計画)」「宇治市男女生き生きまちづくり条例」となっており、最も少ないものは、「宇治市男女生き生きまちづくり条例」の2.8%です。

### 3 介護支援の状況と対策

介護を支援する対策を講じているとは回答した事業所は35.8%となっており、前回調査と比較すると同程度となっています。実施している介護支援対策では、「就業規則に介護支援に関する規定を定めている」「介護休業制度を導入している」「介護のため休暇が必要な従業員の希望を聞き入れている」が65.8%となっています。前回調査と比較すると、「就業規則に介護支援に関する規定を定めている」が6.3ポイント減少しており、「介護のため休暇が必要な事業所従業員の希望は聞き入れている」において19.3ポイント増加しています。

一方、介護を支援する対策を講じていない理由としては、「制度を知らなかったから」が41.2%、「代替の要因の確保が困難だから」が17.6%、「人件費が増大するから」が16.2%となっています。前回調査と比較すると、「他の従業員の負担が大きくなるから」が12.2ポイント減少しています。

## 4 育児支援の状況と対策

育児を支援する対策を講じていると回答した事業所は、52.8%となっており、前回調査と比較すると1.0ポイント減少しています。実施している育児支援対策では、「育児のため休暇が必要な従業員の希望を聞き入れている」が73.2%で最も多く、次いで、「育児休業制度を導入している」が66.1%、「勤務時間を短縮するなどの措置を講じている」が60.7%となっています。前回調査と比較すると、「勤務時間を短縮するなどの措置を講じている」が18.5ポイント、「育児のため休暇が必要な従業員の希望を聞き入れている」が10.7ポイントと大きく増加しています。

一方、育児を支援する対策を講じていない理由としては、「代替の要員の確保が困難だから」が28.0%、「制度の存在を知らなかった」が20.0%、「人件費が増大するから」が18.0%となっています。前回調査と比較すると、「他の従業員の負担が大きくなるから」が9.6ポイント減少しています。

また、次世代育成対策推進法に基づく事業主行動計画を策定している事業所は5.7%となっています。

## 5 セクシュアル・ハラスメントに関する認識と対策

セクシュアル・ハラスメントへの対策を講じている事業所は、26.4%となっています。前回調査と比較すると対策を講じている事業所が6.4ポイント減少しています。

対策の内容は、「倫理規定や行動基準等を就業規則に盛り込んでいる」が67.9%で最も多く、次いで「セクシュアル・ハラスメントの相談・苦情を受け付ける相談窓口を設置している」「相談窓口担当者に女性をおいている」が35.7%、となっています。前回調査と比較すると、「セクシュアル・ハラスメント防止のための意識改革・啓発のための従業員研修を行っている」において13.2ポイント増加し、「セクシュアル・ハラスメントの相談・苦情を受け付ける相談窓口を設置している」において10.5ポイント減少しています。

一方、対策を講じていない理由では、「当事業所には訴えがない(セクシュアル・ハラスメントがない)」が82.9%で最も多くなっています。

## 6 ポジティブ・アクションに関する認識と対策

「ポジティブ・アクション」に取り組んでいる事業所は26.4%となっています。前回調査と比較すると4.6ポイント増加しています。

「ポジティブ・アクション」に関する取組内容は、「公正な人事考課を行い、能力のある女性の昇任・昇格に努めている」が67.9%で最も多く、次いで「各種研修、教育機会への女性の参加を奨励している」「女性の提案や発言を求めるなど、女性の責任感や意識を向上させるために配慮している」「男女平等な職場環境となるよう、社内の意識改革を進めている」が50.0%となっています。

取り組んでいない理由では、「ポジティブ・アクションを知らなかった」が38.7%で最も多く、次いで「ポジティブ・アクションは知っているが、取り組めるだけの余裕がない」が24.0%、「家族経営の事業所なので取り組んでいない」が20.0%となっています。

## 7 ワーク・ライフ・バランスに関する認識と対策

ワーク・ライフ・バランスにおいて、「取り組んでいきたいが余裕がない」が21.7%と最も多く、次いで「今後、積極的に取り組んでいきたい」「ワーク・ライフ・バランスが何かを知らない」が18.9%となっています。

実施している取り組みでは、「従業員相互で業務を共有するなど作業の効率化を図っている」が57.4%と最も多く、次いで「ノー残業デーを設ける等長時間労働を行わないような意識改革を促している」が27.8%、「従業員一人ひとりに対して、定期的に面談を実施している」が20.4%となっています。

ワーク・ライフ・バランスの取り組みとして効果があると思うものについて、「従業員相互で業務を共有するなど作業の効率化を図る」が57.5%と最も多く、次いで「ノー残業デーを設ける等長時間労働を行わないような意識改革を促す」が34.9%、「従業員一人ひとりに対して、定期的に面談を実施する」が32.1%となっています。

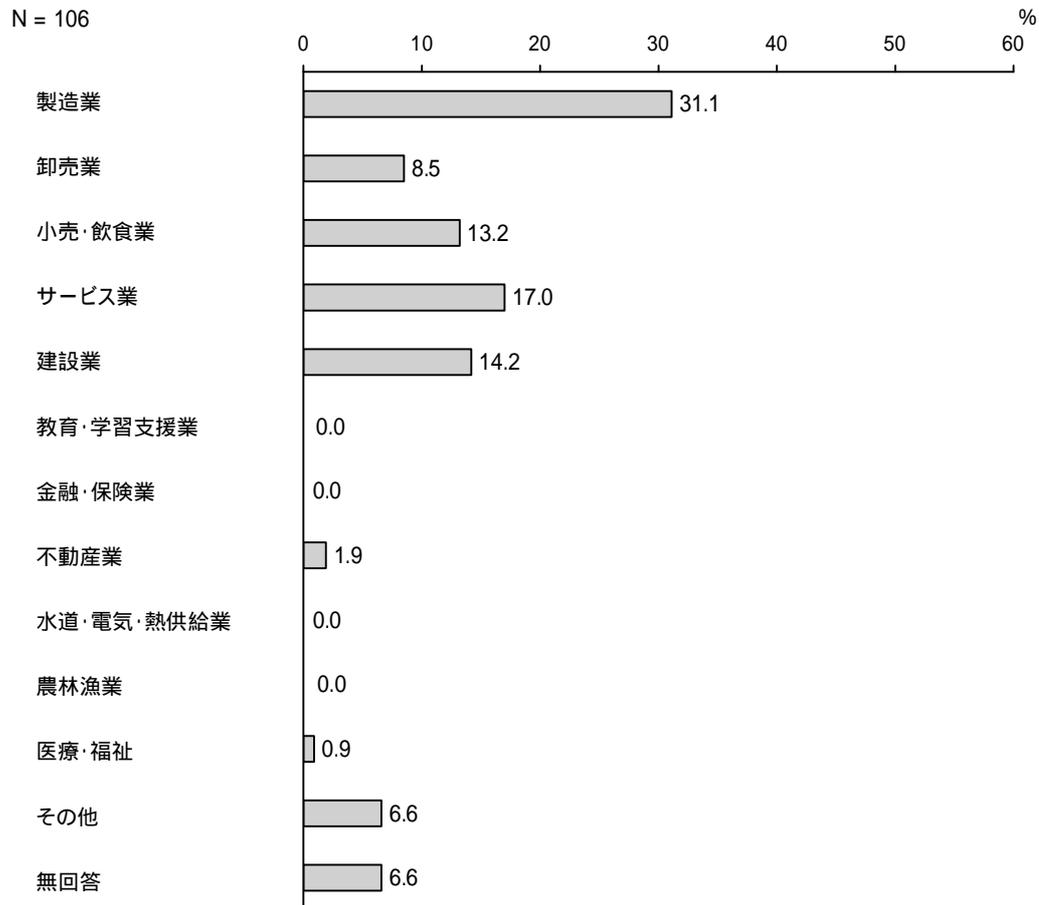
## 8 男女共同参画社会形成・施策推進に関する認識

男女共同参画社会の形成へ向けて、どのようなことに力を入れていくべきかについては「仕事と育児・介護の両立のための雇用環境整備」が54.7%で最も多く、次いで「雇用の分野における男女の均等な機会と待遇が確保できるよう対策をする」「多様なライフスタイルに合わせた子育て支援策を充実させる」が38.7%となっています。

## 調査結果

### 問1 貴事業所の主な業種をお答えください。(1つ選んでください)

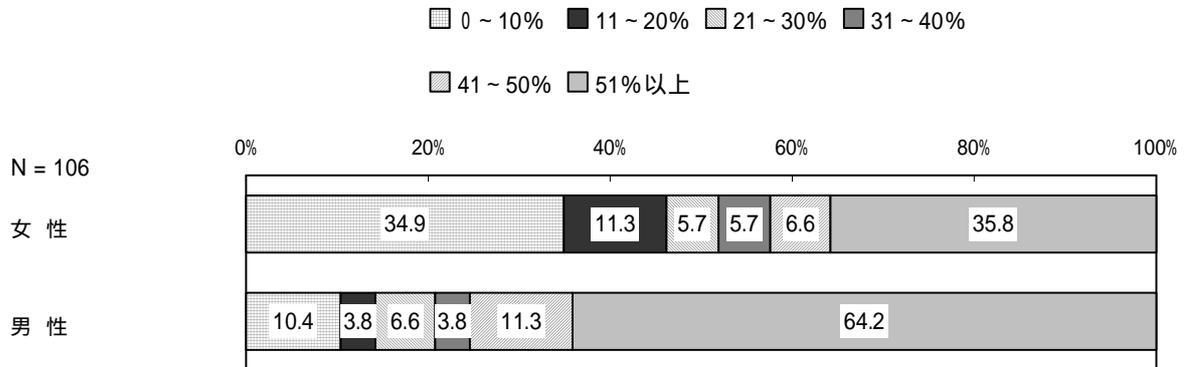
「製造業」の割合が31.1%と最も高く、次いで「サービス業」の割合が17.0%、「建設業」の割合が14.2%となっています。



問2 貴事業所の構成員についておたずねします。

正規従業員数

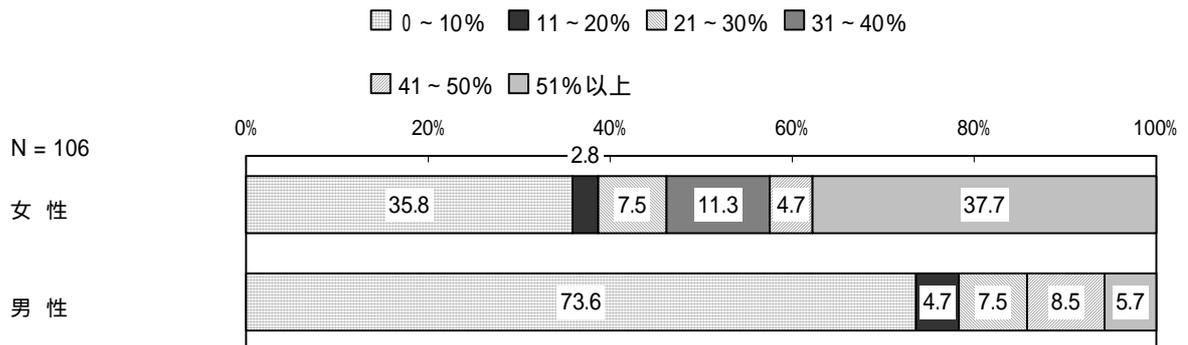
男性に比べ女性で「0～10%」の割合が高く、「51%以上」の割合が低くなっています。



各事業所の男女別社員数（正規従業員数、パート従業員数、派遣従業員数、管理職数、障害者雇用者数）に対する正規従業員数の割合を算出しています。

パート従業員数

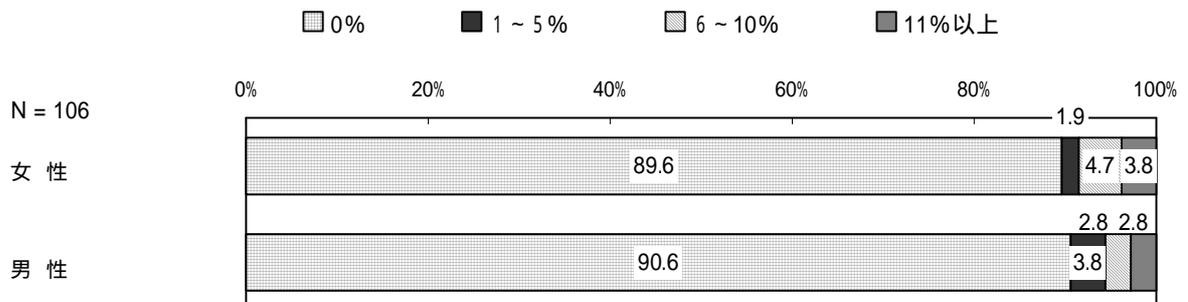
男性に比べ女性で「31～40%」「51%以上」の割合が高くなっています。また、男性で「0～10%」の割合が高くなっています。



各事業所の男女別社員数（正規従業員数、パート従業員数、派遣従業員数、管理職数、障害者雇用者数）に対するパート従業員数の割合を算出しています。

派遣従業員数

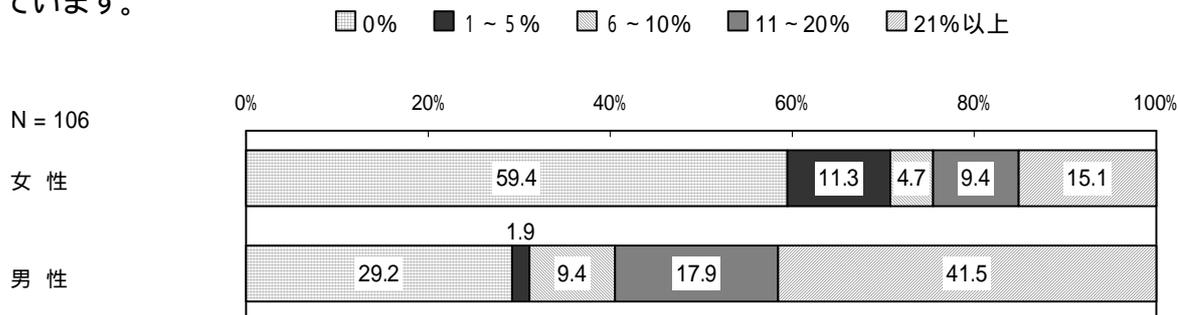
性別でみると、大きな差異はみられません。



各事業所の男女別社員数（正規従業員数、パート従業員数、派遣従業員数、管理職数、障害者雇用者数）に対する派遣従業員数の割合を算出しています。

### 管理職数

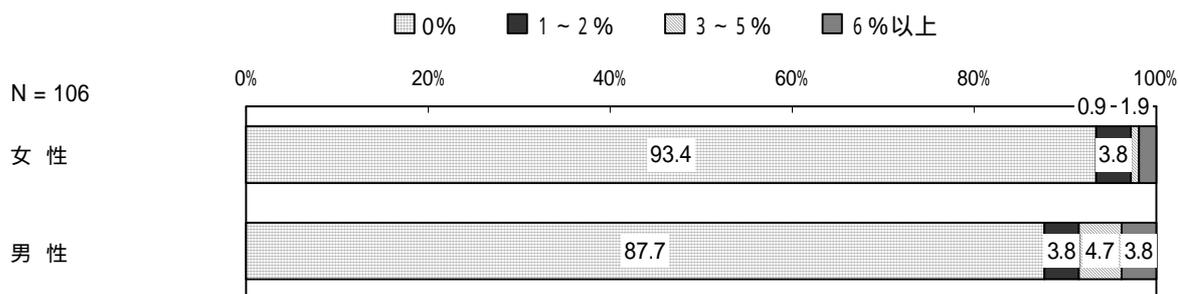
男性に比べ女性で「0%」の割合が高く、「6~10%」「11~20%」「21%以上」の割合が低くなっています。



各事業所の男女別社員数（正規従業員数、パート従業員数、派遣従業員数、管理職数、障害者雇用者数）に対する管理職数の割合を算出しています。

### 障害者雇用者数

男性に比べ女性で「0%」の割合が高く、「3~5%」「6%以上」の割合が低くなっています。



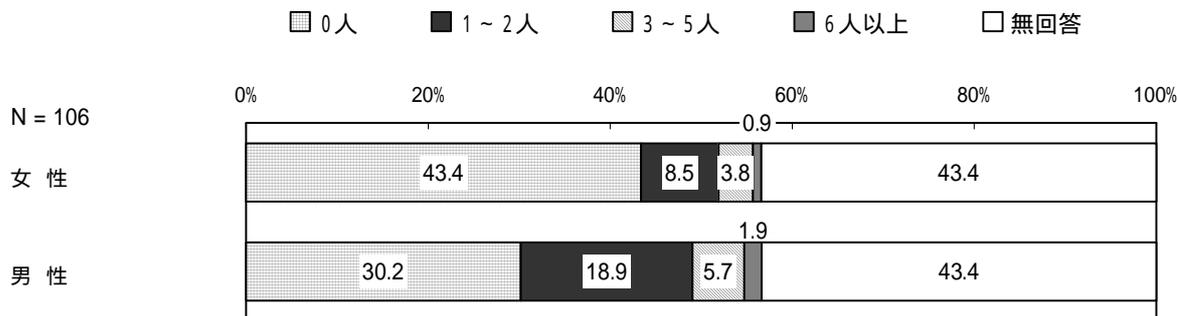
各事業所の男女別社員数（正規従業員数、パート従業員数、派遣従業員数、管理職数、障害者雇用者数）に対する障害者雇用者数の割合を算出しています。

### 【平均人数】

	男性	女性
正規従業員数	61.3人	38.7人
パート従業員数	11.6人	40.4人
派遣従業員数	1.5人	1.9人
管理職数	21.2人	10.2人
障害者雇用者数（障害者雇用促進法で定める）	0.7人	0.4人

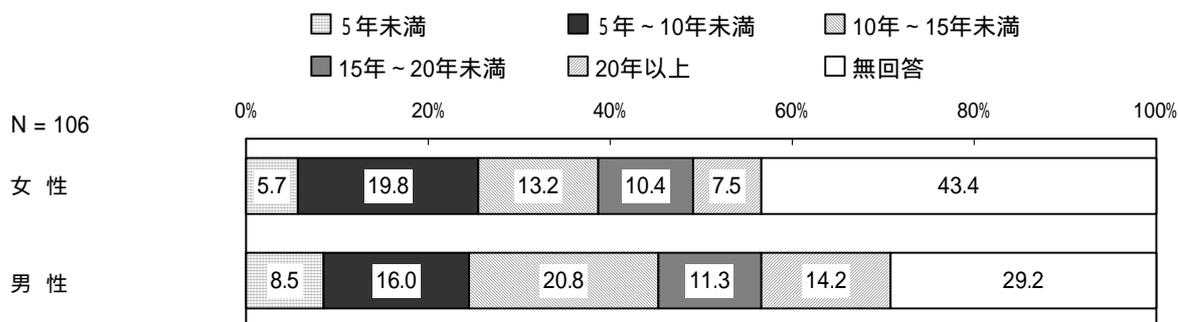
平成 26 年度の新規採用者（正規）数

男性に比べ女性で「0人」の割合が高く、「1～2人」の割合が低くなっています。



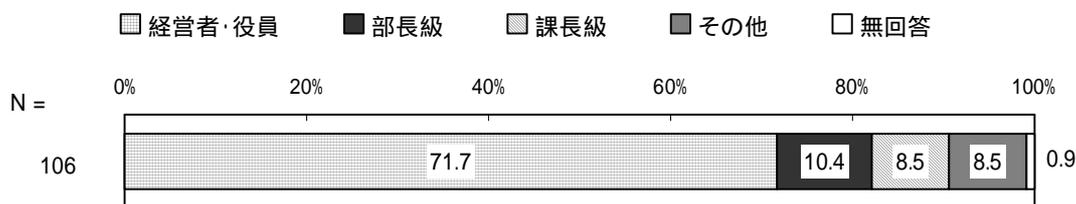
正規従業員の平均勤務年数

女性に比べ男性で「10年～15年未満」「20年以上」の割合が高くなっています。



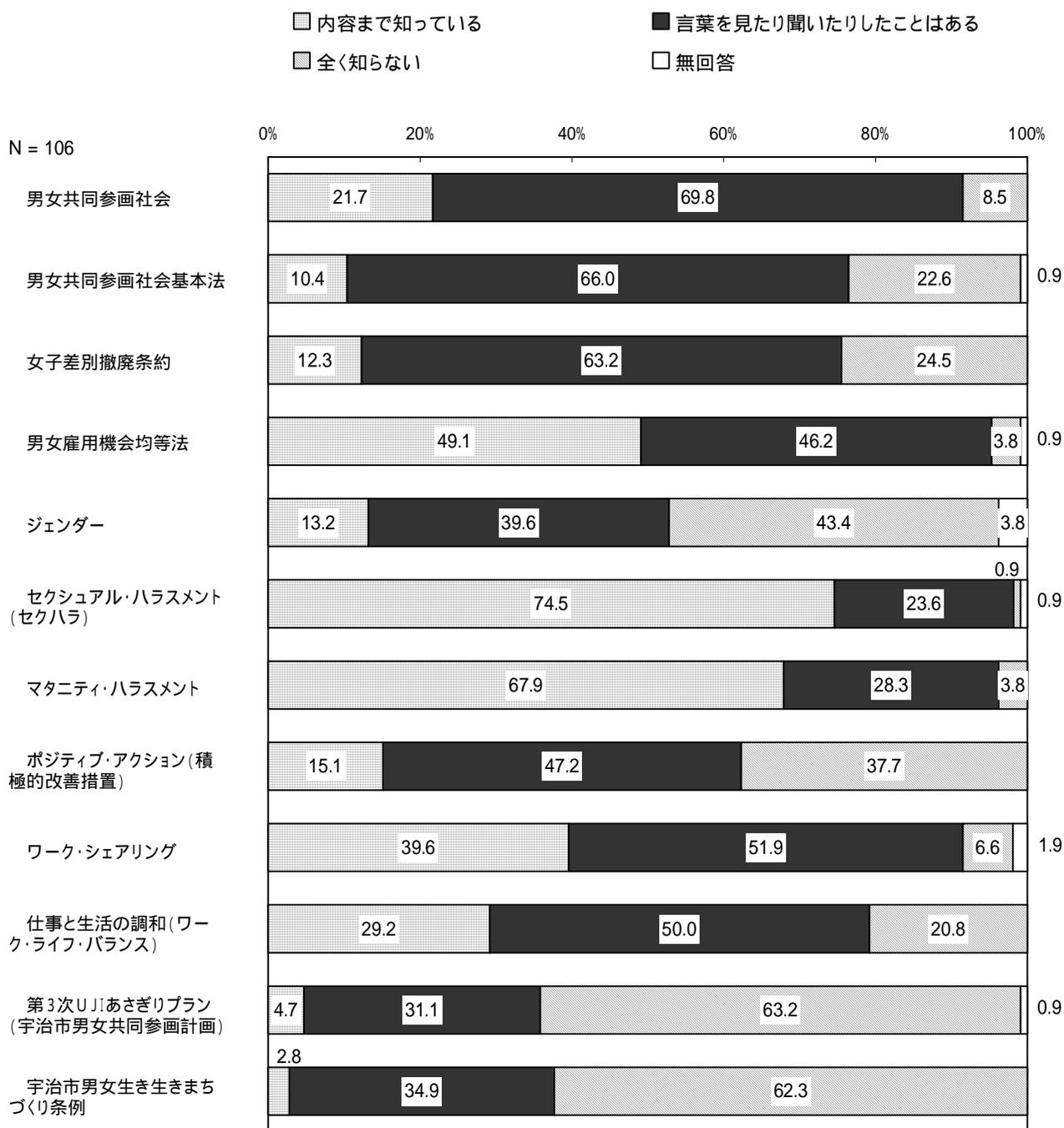
問3 この調査票の記入者の役職をお答えください

「経営者・役員」の割合が 71.7%と最も高く、次いで「部長級」の割合が 10.4%となっています。



問4 男女共同参画社会・女性の人権にかかわる以下の用語について、ご存知ですか。  
(それぞれ1つ選んでください)

セクシュアル・ハラスメント(セクハラ)、 マタニティ・ハラスメントで「内容まで知っている」の割合が高く、約7割となっています。一方、 第3次UJIあさぎりプラン(宇治市男女共同参画計画)、 宇治市男女生き生きまちづくり条例で「全く知らない」の割合が高く、6割を超えています。



【平成 22 年調査】

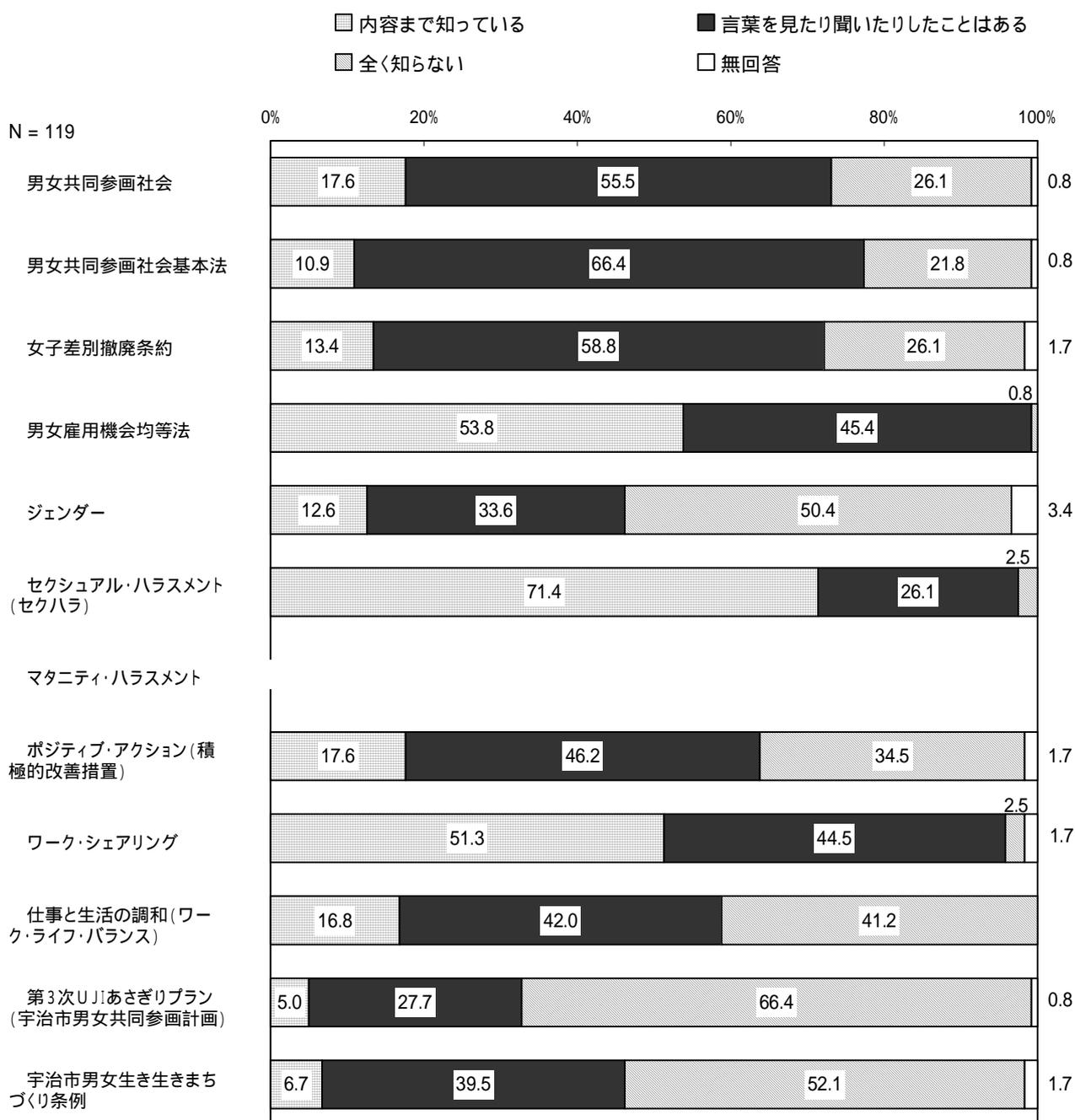
平成 22 年調査と比較すると、

男女共同参画社会では、「言葉を見たり聞いたりしたことはある」の割合が高くなっており、「全く知らない」の割合が低くなっています。

ワーク・シェアリングでは、「内容まで知っている」の割合が低くなっており、「言葉を見たり聞いたりしたことはある」の割合が高くなっています。

仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）では、「内容まで知っている」の割合が高くなっており、「全く知らない」の割合が低くなっています。

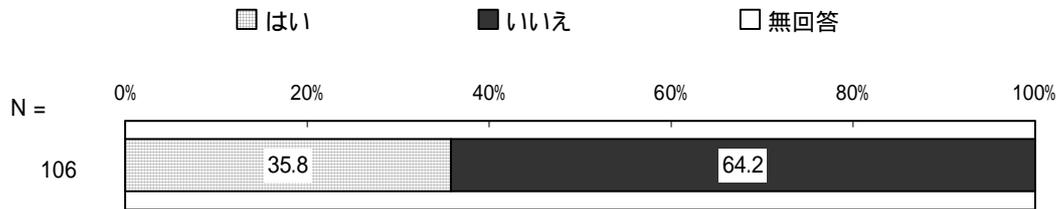
宇治市男女生き生きまちづくり条例では、「全く知らない」の割合が高くなっています。



平成 22 年調査では「マタニティ・ハラスメント」の選択肢はありませんでした。

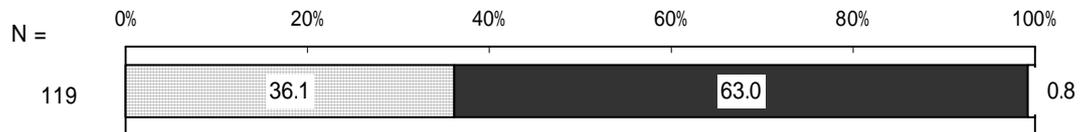
問5 貴事業所では介護を支援する対策を講じていますか。

「はい」の割合が35.8%、「いいえ」の割合が64.2%となっています。



【平成22年調査】

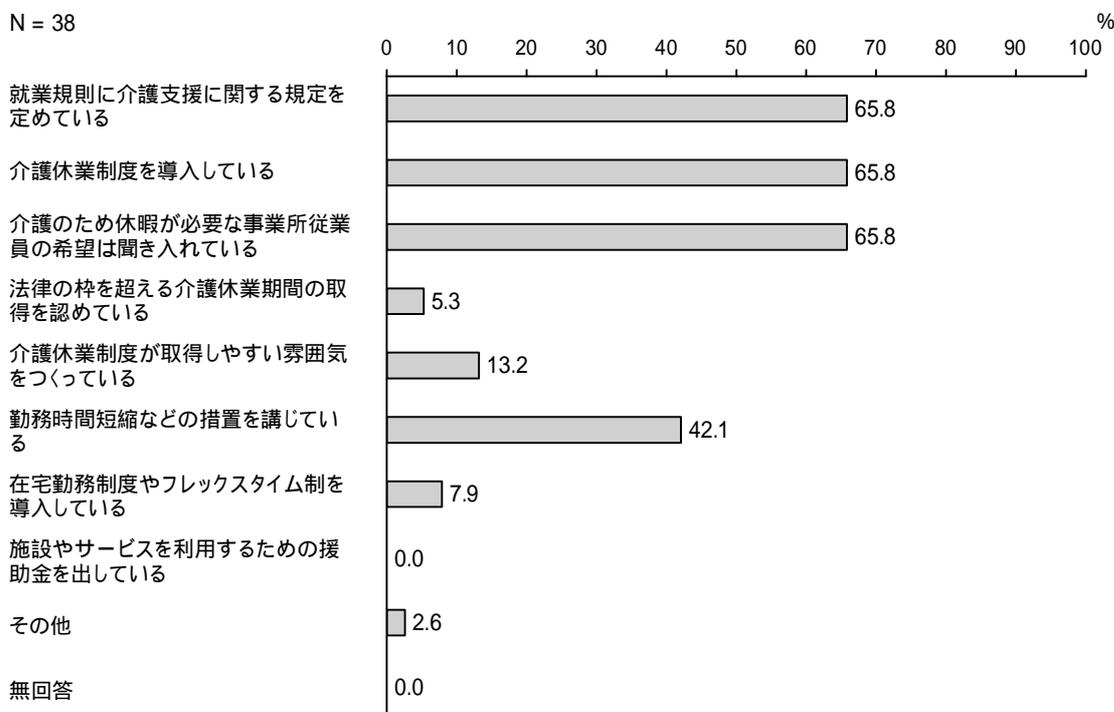
平成22年調査と比較すると、大きな差異はみられません。



問5で「1. はい」とお答えの方にお聞きします。

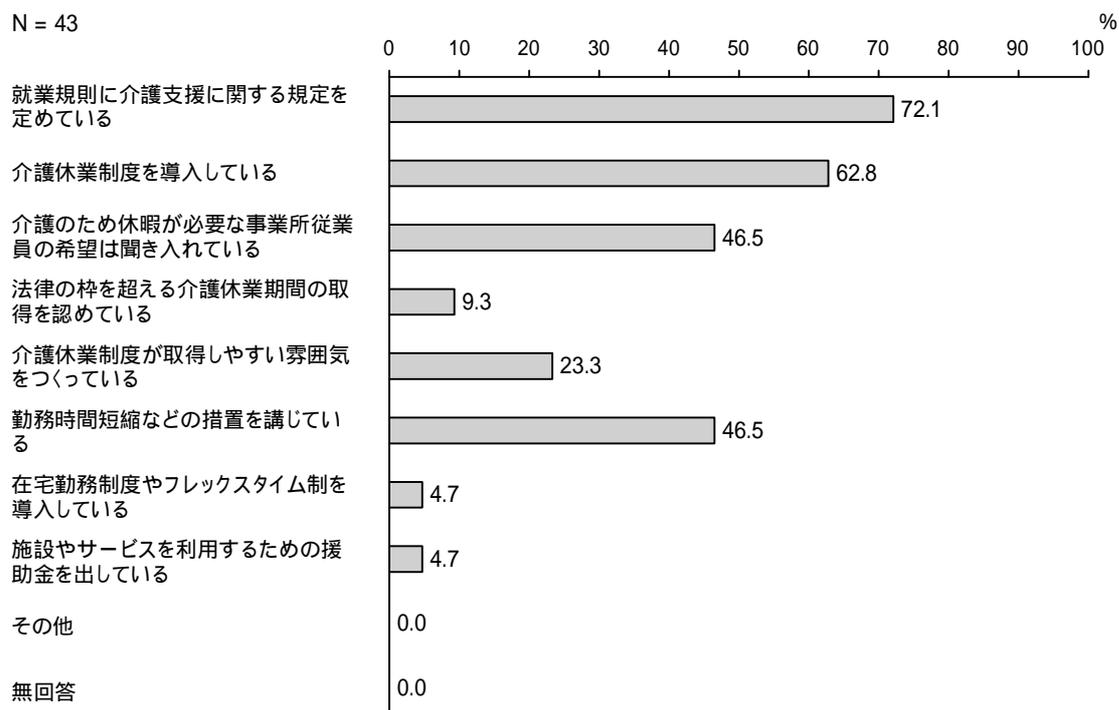
**問5-1 介護を支援する対策はどのようなものですか。(いくつ選んでも結構です)**

「就業規則に介護支援に関する規定を定めている」、「介護休業制度を導入している」、「介護のため休暇が必要な事業所従業員の希望は聞き入れている」の割合が65.8%となっています。



**【平成22年調査】**

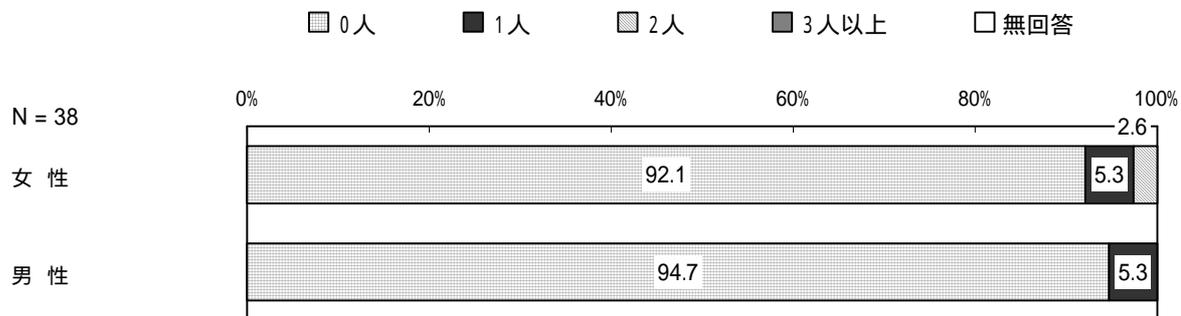
平成22年調査と比較すると、「就業規則に介護支援に関する規定を定めている」、「介護休業制度が取得しやすい雰囲気をつくっている」の割合が低くなっています。一方、「介護のため休暇が必要な事業所従業員の希望は聞き入れている」の割合が高くなっています。



問5で「1. はい」とお答えの方にお聞きします。

問5-2 介護休業の取得状況についておたずねします。

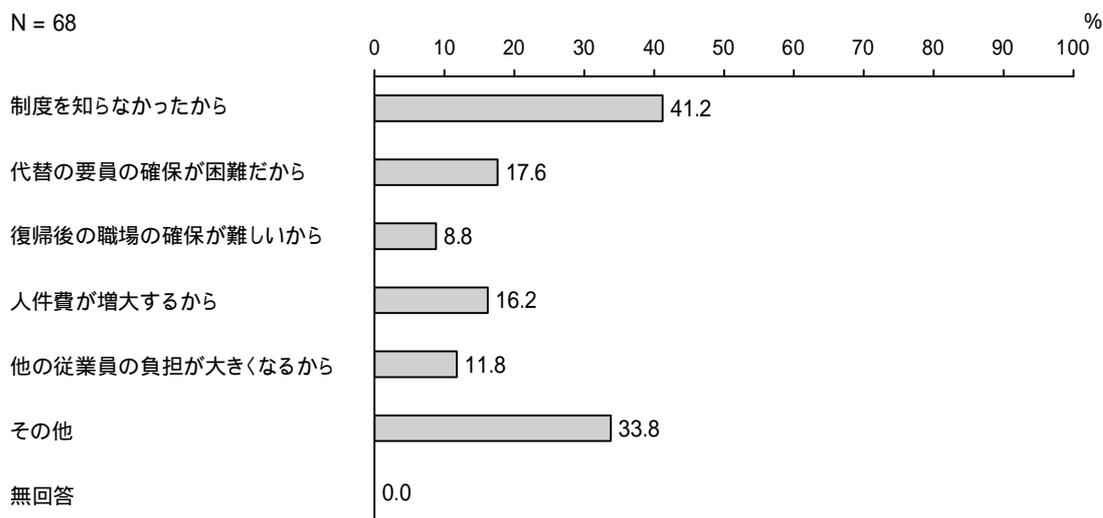
女性、男性ともに「0人」が約9割となっています。



問5で「2.いいえ」とお答えの方にお聞きします。

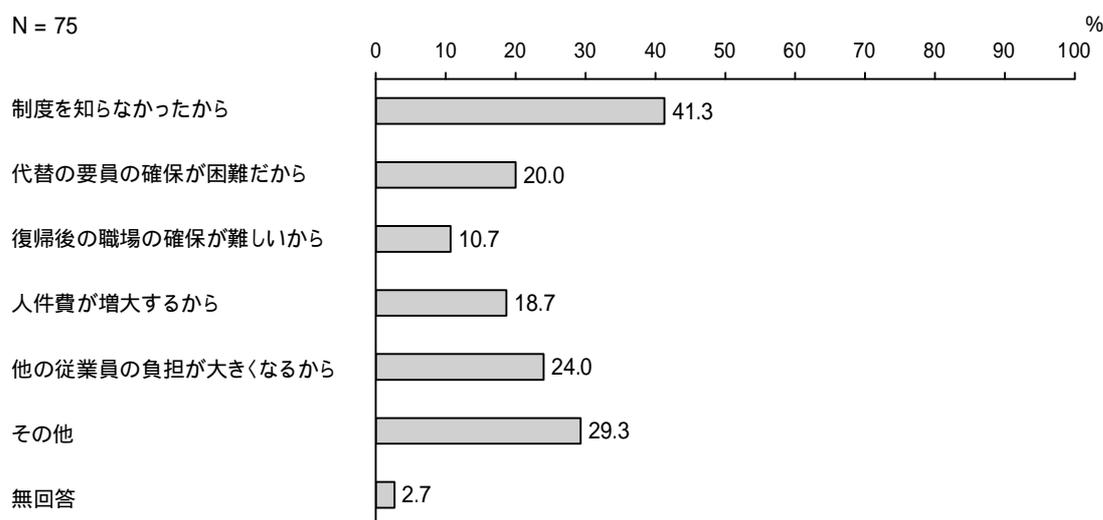
問5-3 介護を支援する対策を講じていない理由をお答えください。  
(いくつ選んでも結構です)

「制度を知らなかったから」の割合が41.2%と最も高く、次いで「代替の要員の確保が困難だから」の割合が17.6%、「人件費が増大するから」の割合が16.2%となっています。



【平成22年調査】

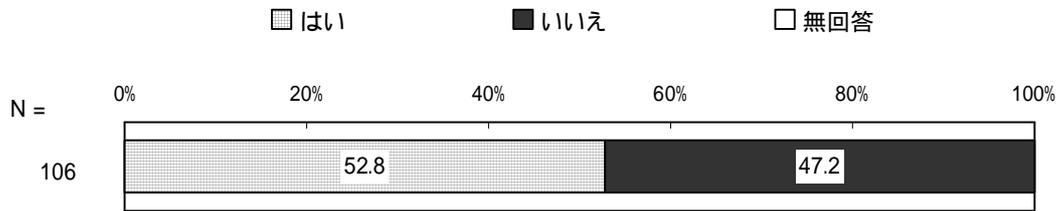
平成22年調査と比較すると、「他の従業員の負担が大きくなるから」の割合が低くなっています。



すべての方にお聞きします。

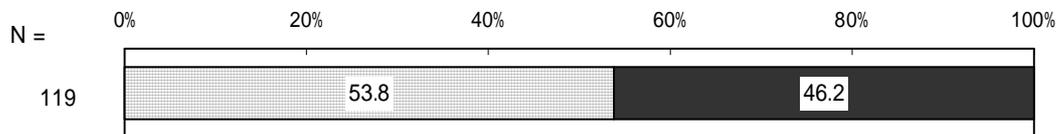
**問6 貴事業所では育児を支援する対策を講じていますか。**

「はい」の割合が52.8%、「いいえ」の割合が47.2%となっています。



**【平成22年調査】**

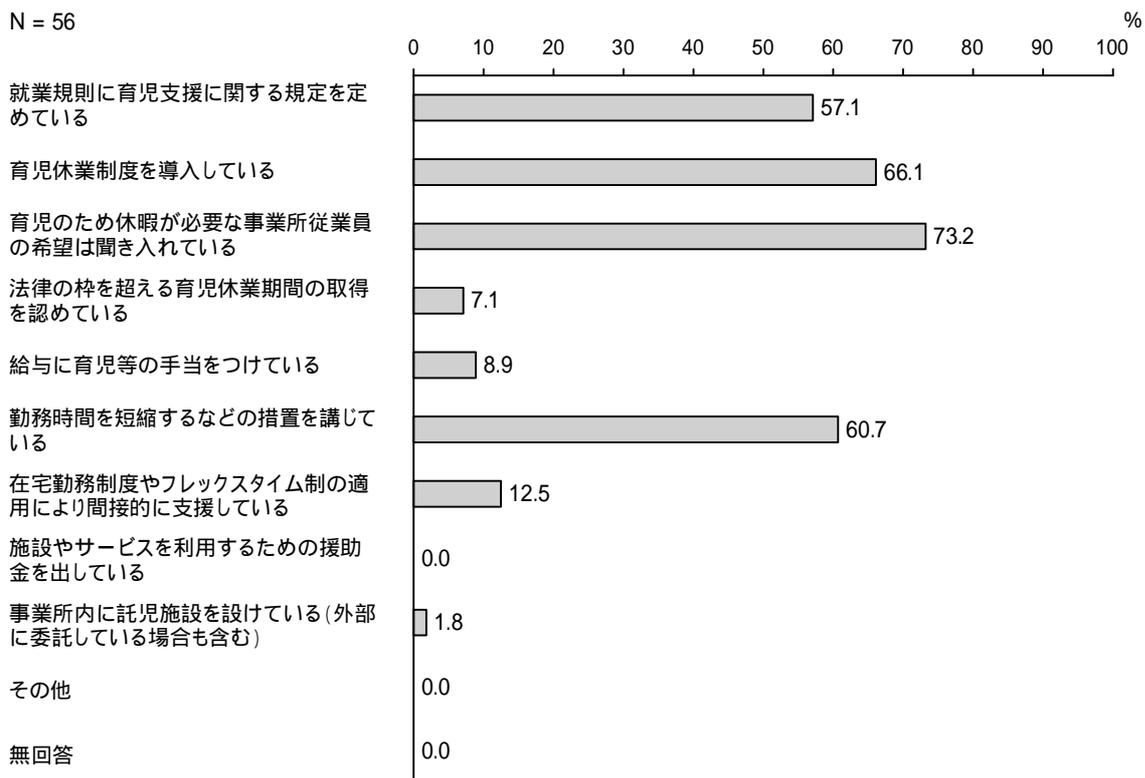
平成22年調査と比較すると、大きな差異はみられません。



問6で「1. はい」とお答えの方にお聞きします。

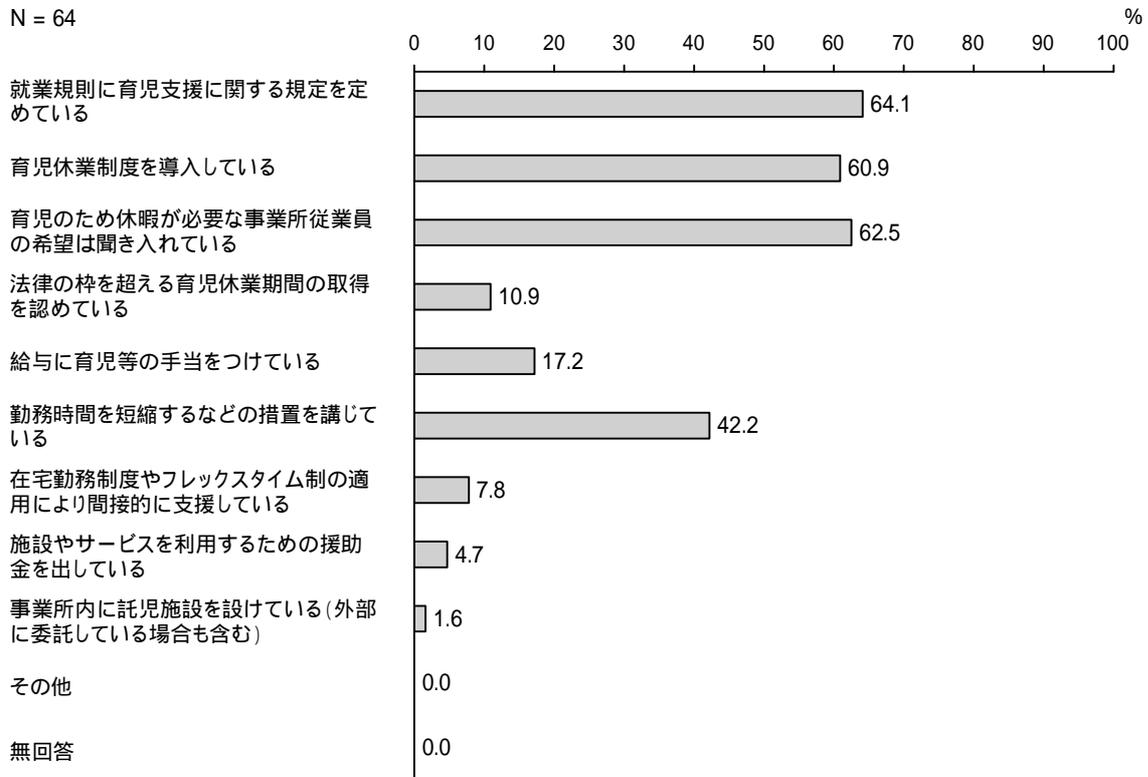
**問6-1 育児を支援する対策はどのようなものですか。(いくつ選んでも結構です)**

「育児のため休暇が必要な事業所従業員の希望は聞き入れている」の割合が73.2%と最も高く、次いで「育児休業制度を導入している」の割合が66.1%、「勤務時間を短縮するなどの措置を講じている」の割合が60.7%となっています。



【平成 22 年調査】

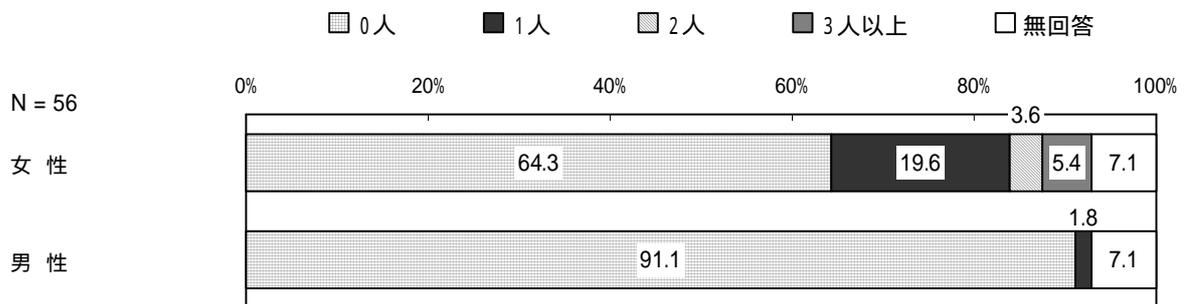
平成 22 年調査と比較すると、「就業規則に育児支援に関する規定を定めている」の割合が低くなっており、一方、「育児のため休暇が必要な事業所従業員の希望は聞き入れている」「勤務時間を短縮するなどの措置を講じている」の割合が高くなっています。



問 6 で「 1 . はい」とお答えの方にお聞きします。

問 6 - 2 育児休業の取得状況についておたずねします。

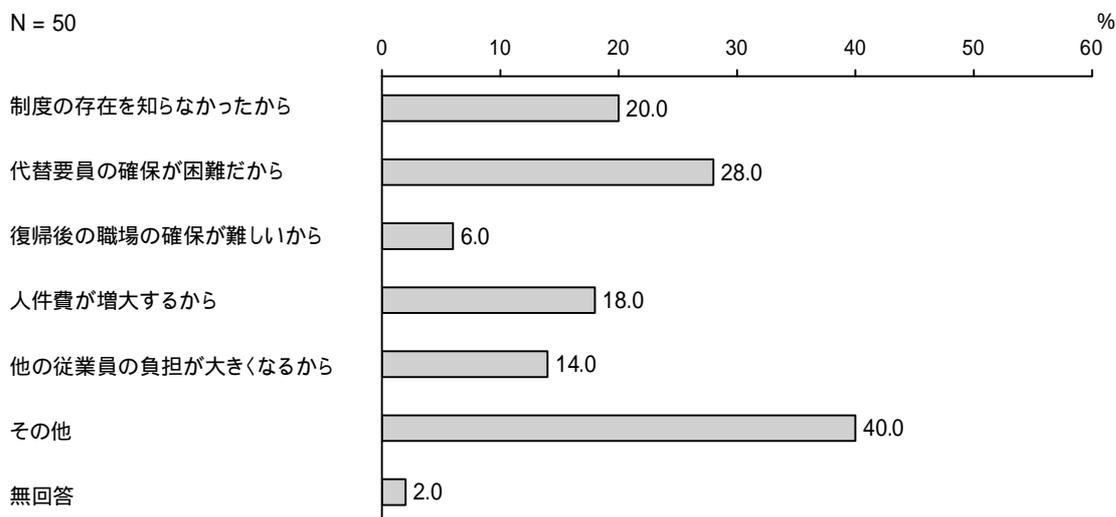
女性、男性ともに「0人」の割合が最も高く、特に男性で約9割となっています。



問6で「2.いいえ」とお答えの方にお聞きします。

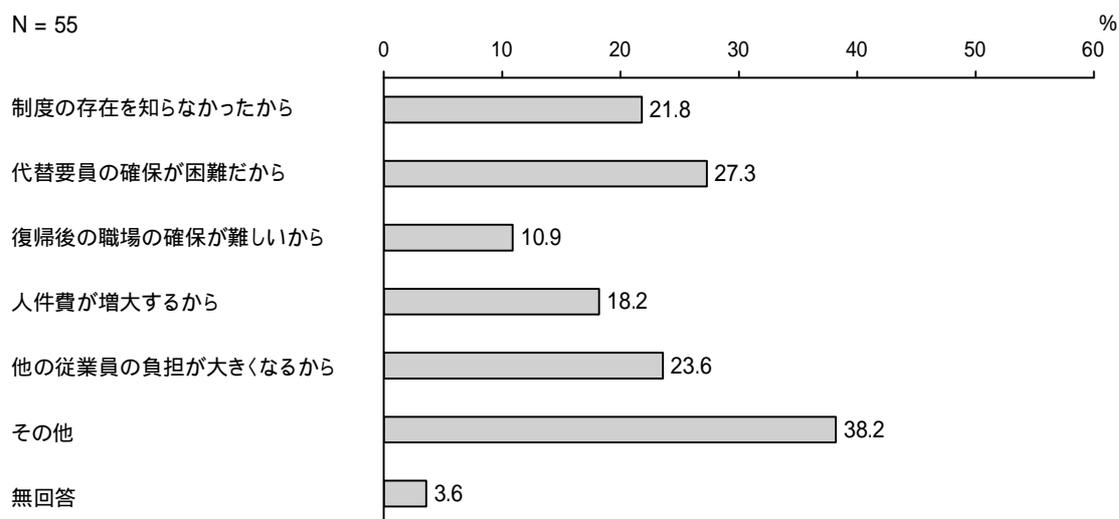
**問6-3 育児を支援する対策を講じていない理由をお答えください。  
(いくつ選んでも結構です)**

「代替要員の確保が困難だから」の割合が28.0%と最も高く、次いで「制度の存在を知らなかったから」の割合が20.0%、「人件費が増大するから」の割合が18.0%となっています。



**【平成22年調査】**

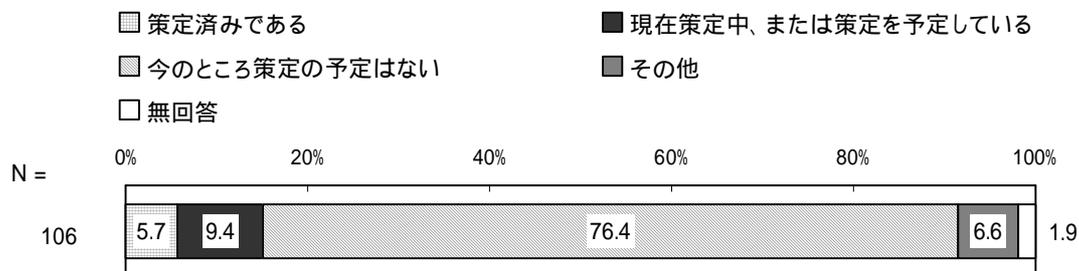
平成22年調査と比較すると、「他の従業員の負担が大きくなるから」の割合が低くなっています。



すべての方にお聞きします。

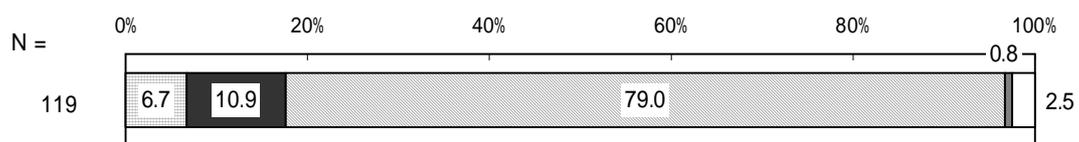
問7 貴事業所では、次世代育成支援対策推進法に基づく事業主行動計画を策定していますか。(1つ選んでください)

「今のところ策定の予定はない」の割合が76.4%と最も高くなっています。



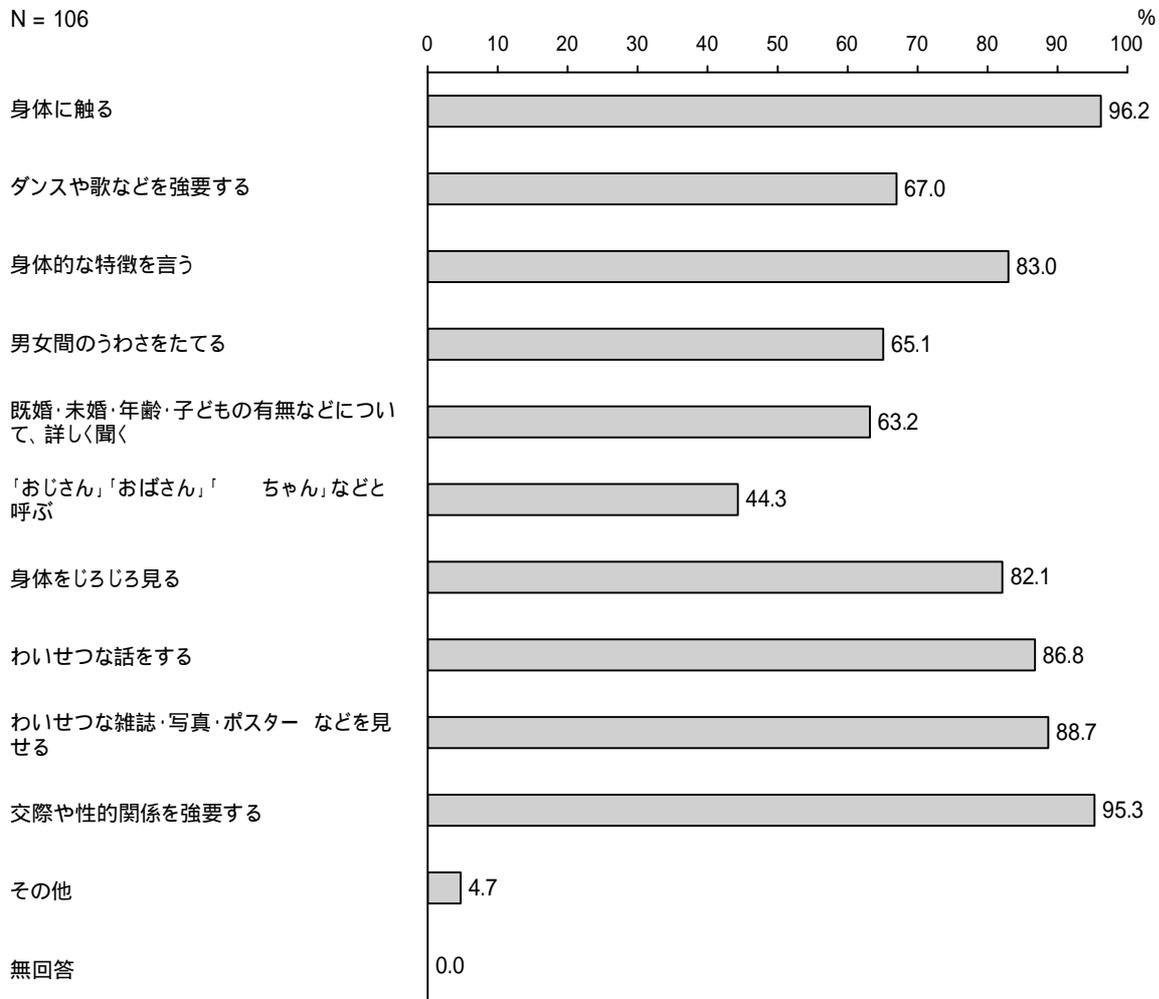
【平成22年調査】

平成22年調査と比較すると、大きな差異はみられません。



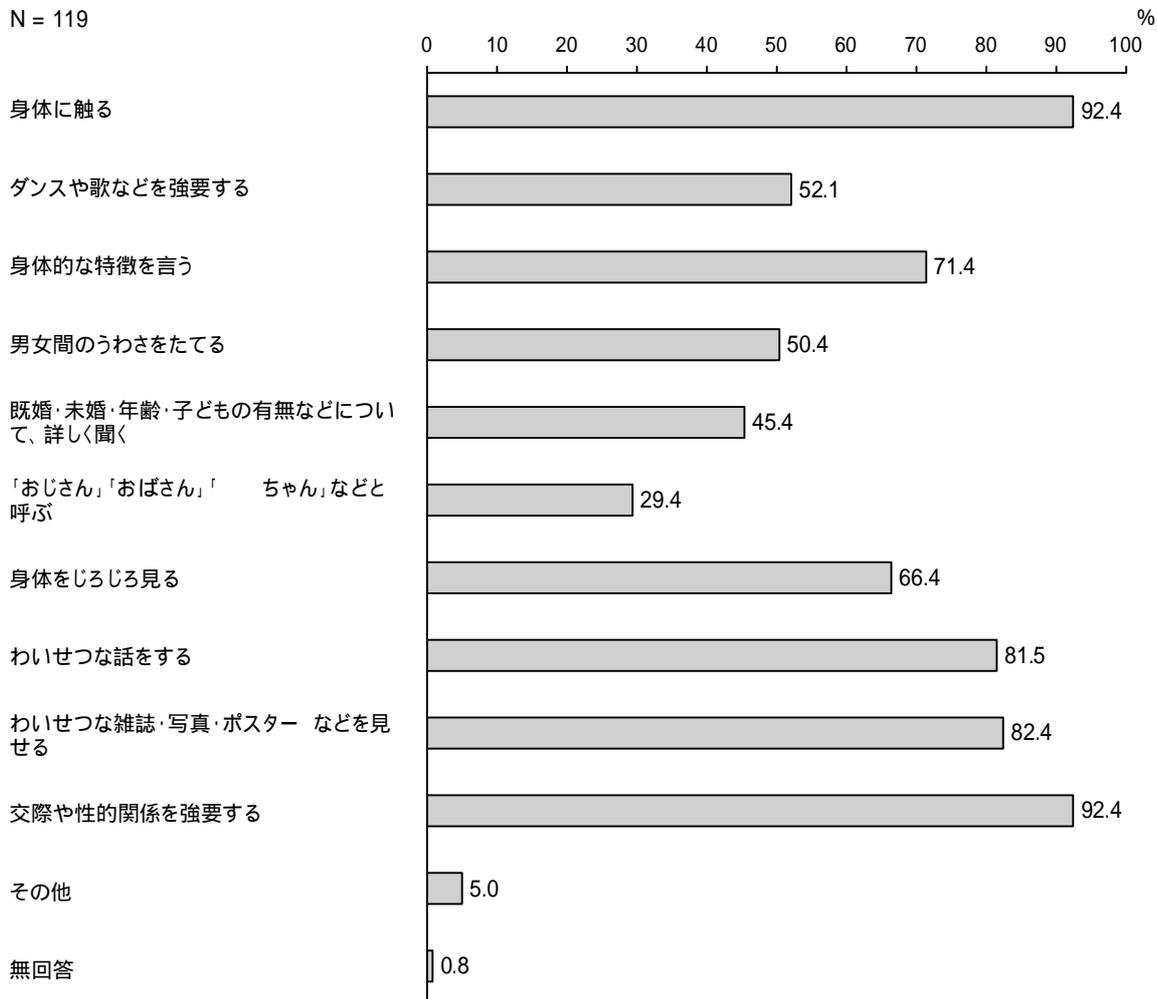
問8 どのような行為をセクシュアル・ハラスメントだと思いますか。  
(いくつ選んでも結構です)

「身体に触る」の割合が 96.2%と最も高く、次いで「交際や性的関係を強要する」の割合が 95.3%、「わいせつな雑誌・写真・ポスター などを見せる」の割合が 88.7%となっています。



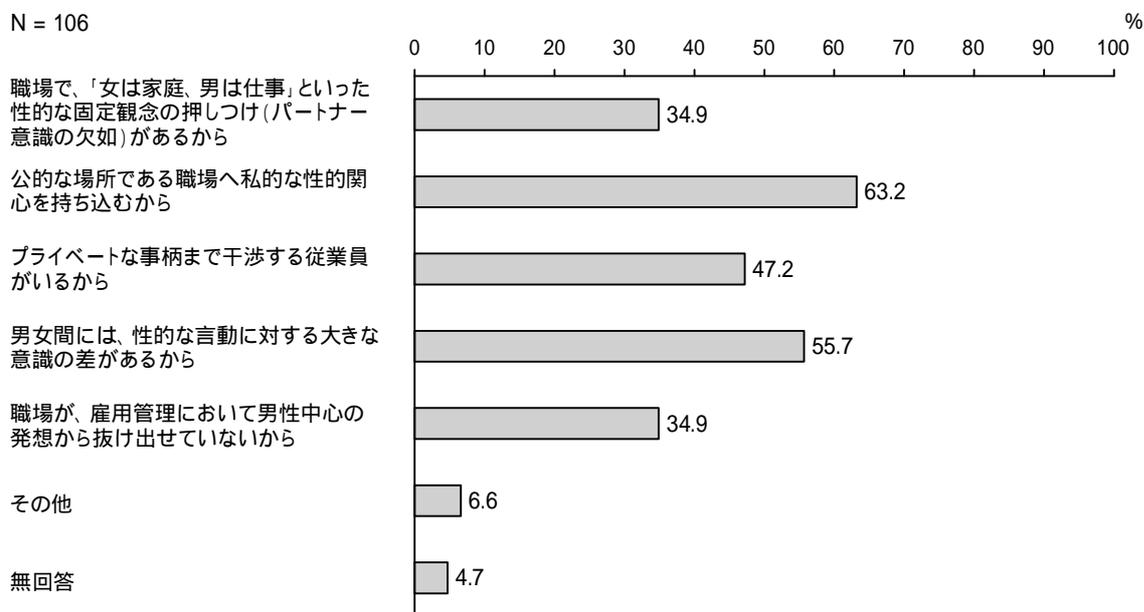
【平成 22 年調査】

平成 22 年調査と比較すると、「ダンスや歌などを強要する」「身体的な特徴を言う」「男女間のうわさをたてる」「既婚・未婚・年齢・子どもの有無などについて、詳しく聞く」「おじさん」「おばさん」「ちゃん」などと呼ぶ」「身体をじろじろ見る」の割合が高くなっています。



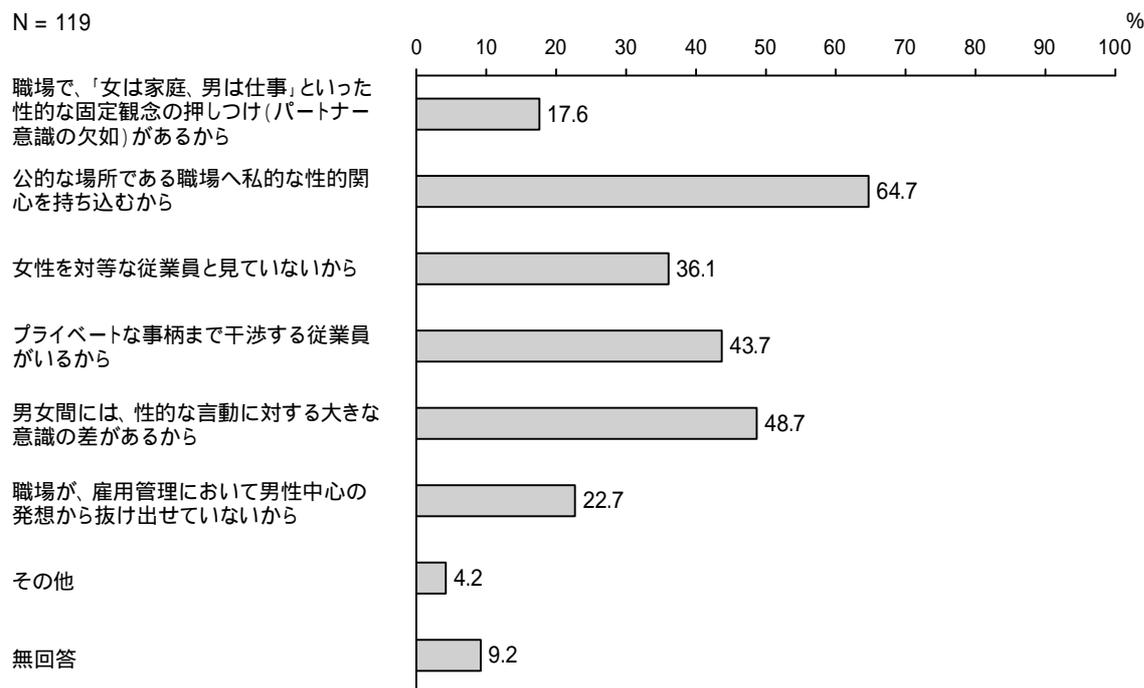
問9 セクシュアル・ハラスメントが発生する原因は何だと思われますか。  
(いくつ選んでも結構です)

「公的な場所である職場へ私的な性的関心を持ち込むから」の割合が63.2%と最も高く、次いで「男女間には、性的な言動に対する大きな意識の差があるから」の割合が55.7%、「プライベートな事柄まで干渉する従業員がいるから」の割合が47.2%となっています。



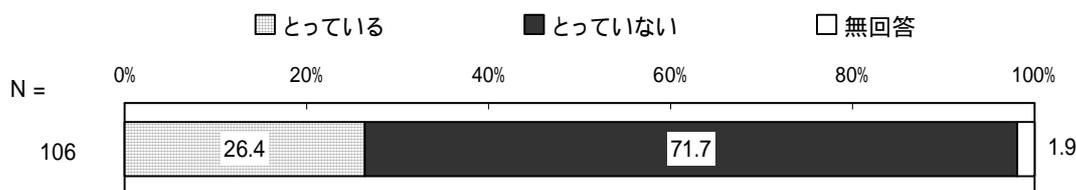
【平成 22 年調査】

平成 22 年調査と比較すると、「職場で、「女は家庭、男は仕事」といった性的な固定観念の押しつけ(パートナー意識の欠如)があるから」「男女間には、性的な言動に対する大きな意識の差があるから」「職場が、雇用管理において男性中心の発想から抜け出せていないから」の割合が高くなっています。



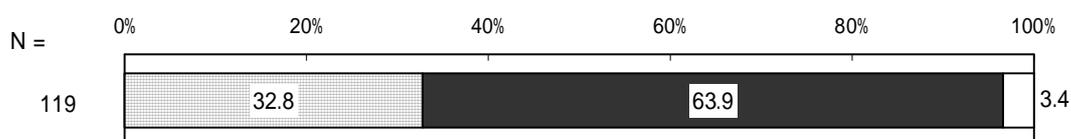
**問 10 セクシュアル・ハラスメントに対する対策をとっていますか。**

「とっている」の割合が 26.4%、「とっていない」の割合が 71.7%となっています。



**【平成 22 年調査】**

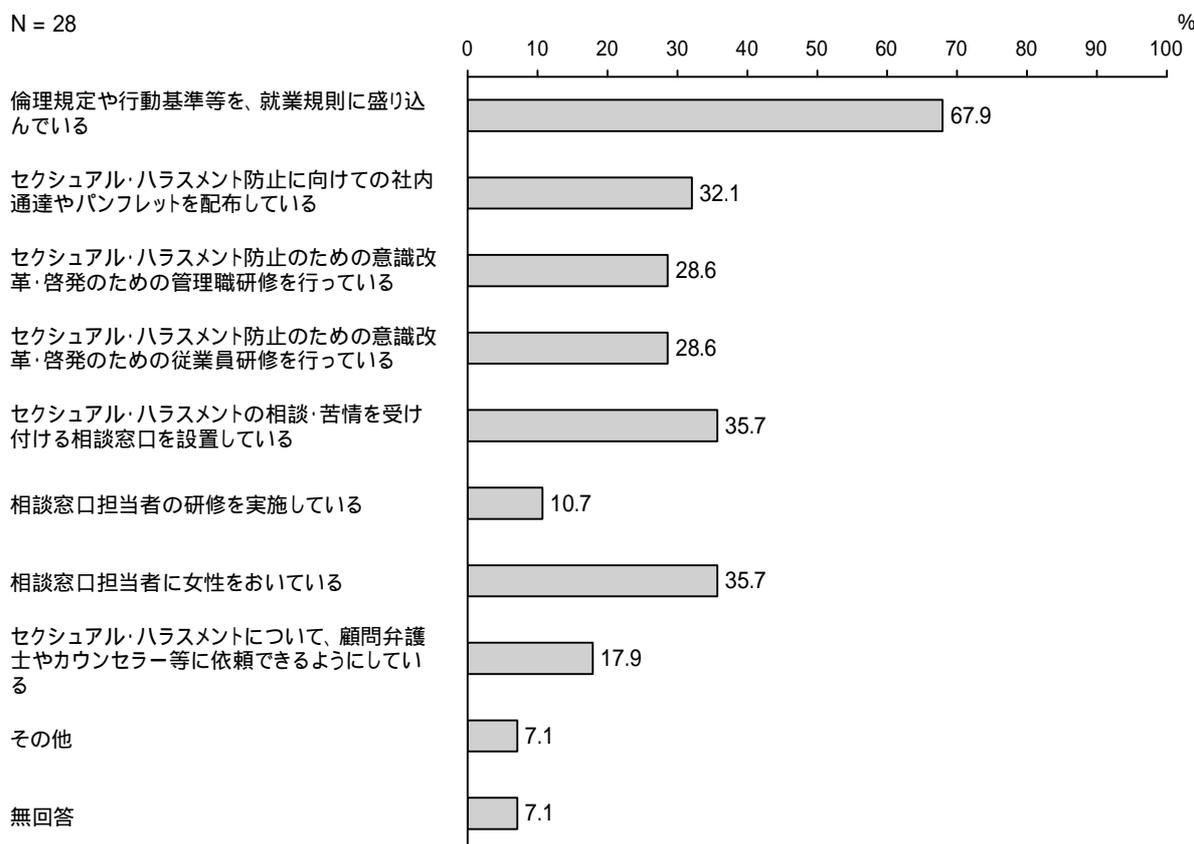
平成 22 年調査と比較すると、「とっている」の割合が低くなっており、「とっていない」の割合が高くなっています。



問 10 で「1.とっている」とお答えの方にお聞きします。

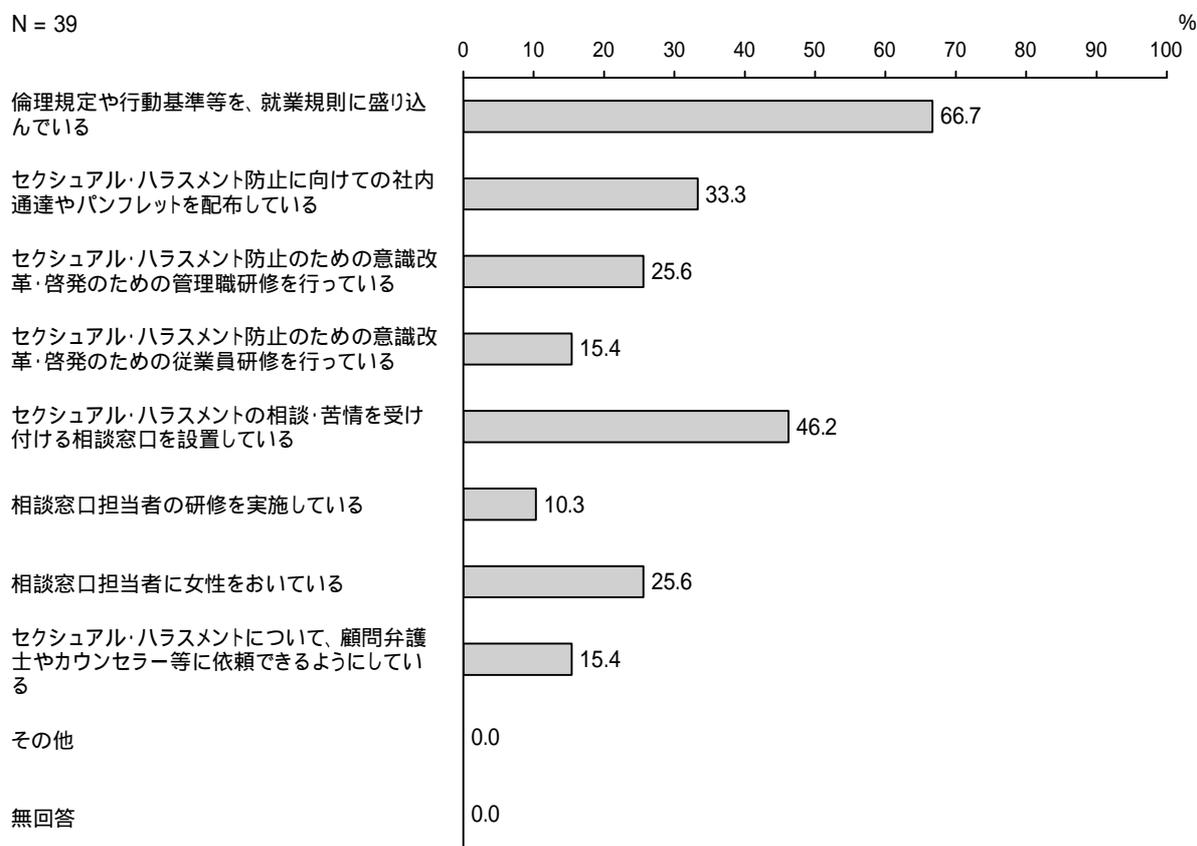
**問 10-1 セクシュアル・ハラスメントに対して、どのような対策をとっていますか。(いくつ選んでも結構です)**

「倫理規定や行動基準等を、就業規則に盛り込んでいる」の割合が 67.9%と最も高く、次いで「セクシュアル・ハラスメントの相談・苦情を受け付ける相談窓口を設置している」、「相談窓口担当者に女性をおいている」の割合が 35.7%となっています。



## 【平成 22 年調査】

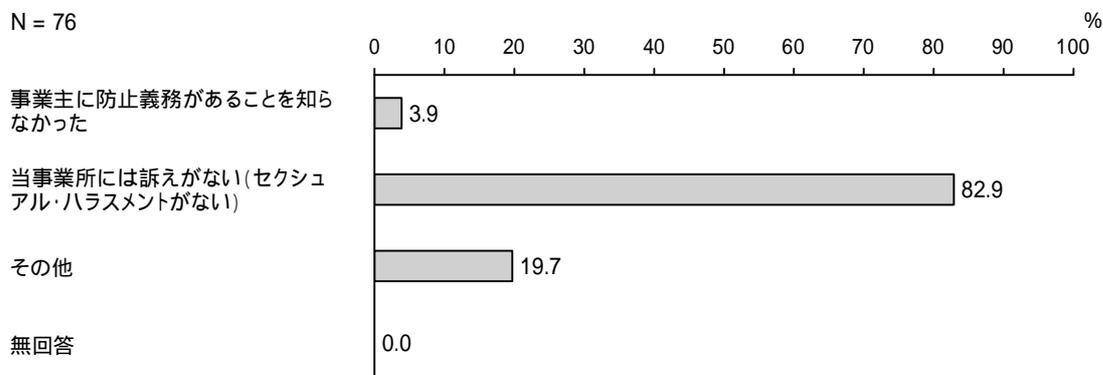
平成 22 年調査と比較すると、「セクシュアル・ハラスメント防止のための意識改革・啓発のための従業員研修を行っている」「相談窓口担当者に女性をおいている」の割合が高くなっています。一方、「セクシュアル・ハラスメントの相談・苦情を受け付ける相談窓口を設置している」の割合が低くなっています。



問 10 で「 2 .とっていない」とお答えの方にお聞きします。

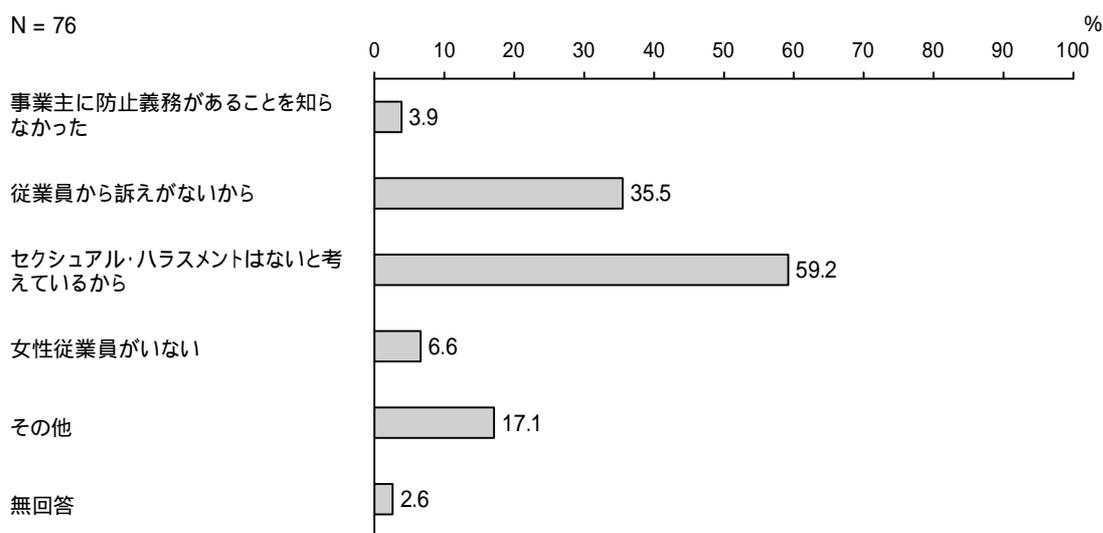
問 10-2 対策をとっていない理由をお答えください。(いくつ選んでも結構です)

「当事業所には訴えない(セクシュアル・ハラスメントがない)」の割合が 82.9%となっています。



【平成 22 年調査】

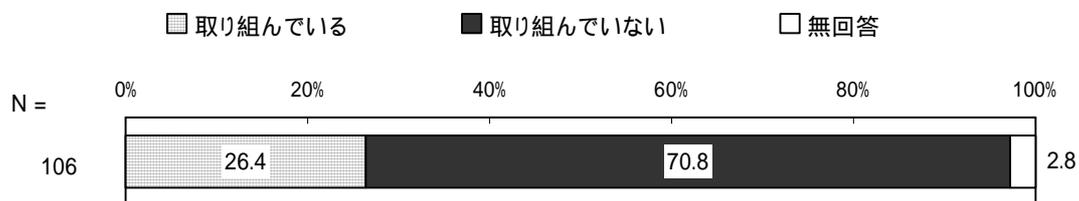
平成 22 年調査との比較は選択肢が違うため参考にとどめます。



すべての方にお聞きします。

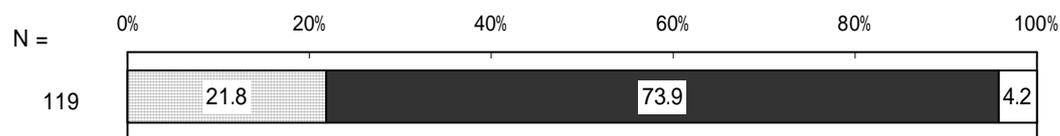
問 11 「ポジティブ・アクション」について、貴事業所の状況をお聞きします。貴事業所では「ポジティブ・アクション」に取り組んでいますか。

「取り組んでいる」の割合が 26.4%、「取り組んでいない」の割合が 70.8%となっています。



【平成 22 年調査】

平成 22 年調査と比較すると、大きな差異はみられません。

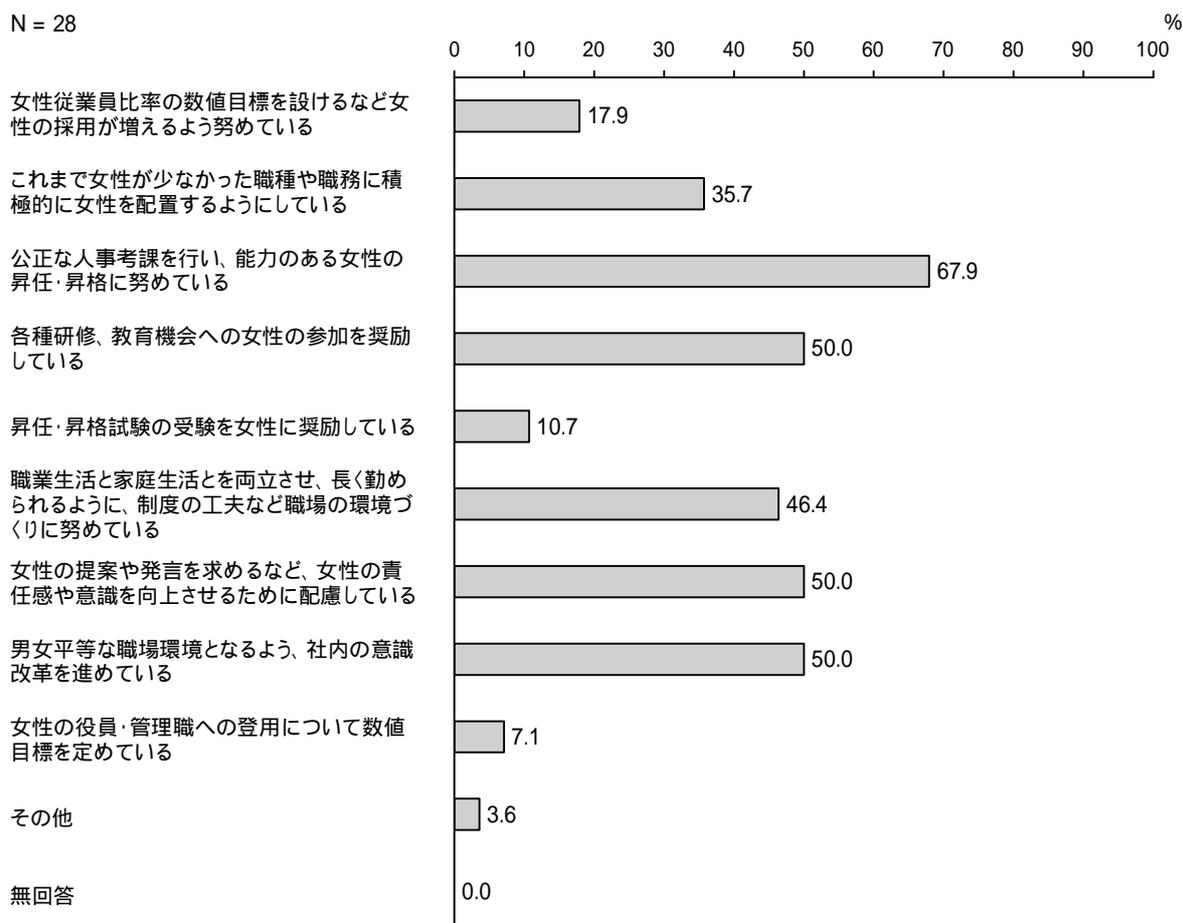


問 11 で「 1 . 取り組んでいる」とお答えの方にお聞きします。

問 11-1 具体的な取り組み内容はどのようなものですか。(いくつ選んでも結構です)

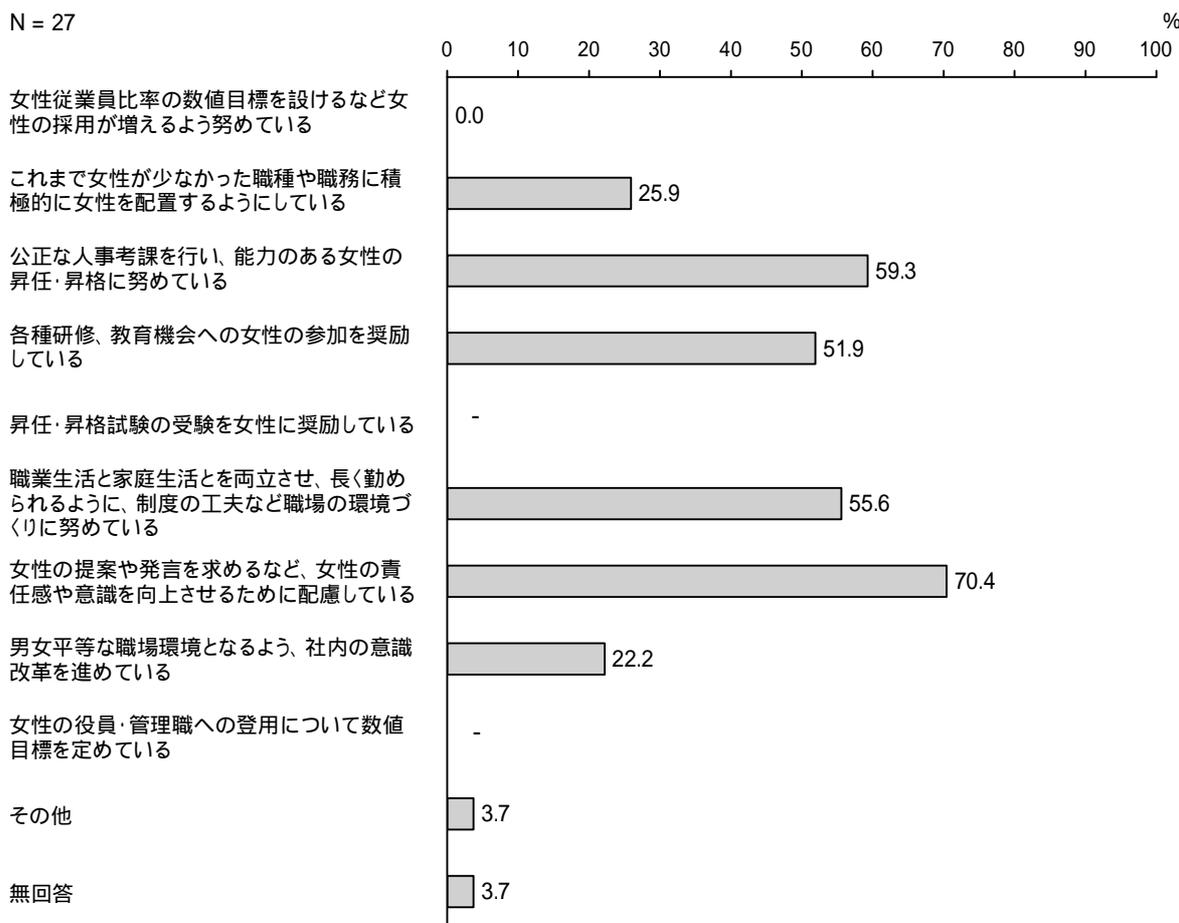
「公正な人事考課を行い、能力のある女性の昇任・昇格に努めている」の割合が 67.9%と最も高く、次いで「各種研修、教育機会への女性の参加を奨励している」、「女性の提案や発言を求めるなど、女性の責任感や意識を向上させるために配慮している」、「男女平等な職場環境となるよう、社内の意識改革を進めている」の割合が 50.0%となっています。

N = 28



## 【平成 22 年調査】

平成 22 年調査と比較すると、「女性従業員比率の数値目標を設けるなど女性の採用が増えるよう努めている」「これまで女性が少なかった職種や職務に積極的に女性を配置するようにしている」「公正な人事考課を行い、能力のある女性の昇任・昇格に努めている」「昇任・昇格試験の受験を女性に奨励している」「男女平等な職場環境となるよう、社内の意識改革を進めている」の割合が高くなっています。一方、「職業生活と家庭生活とを両立させ、長く勤められるように、制度の工夫など職場の環境づくりに努めている」「女性の提案や発言を求めるなど、女性の責任感や意識を向上させるために配慮している」の割合が低くなっています。

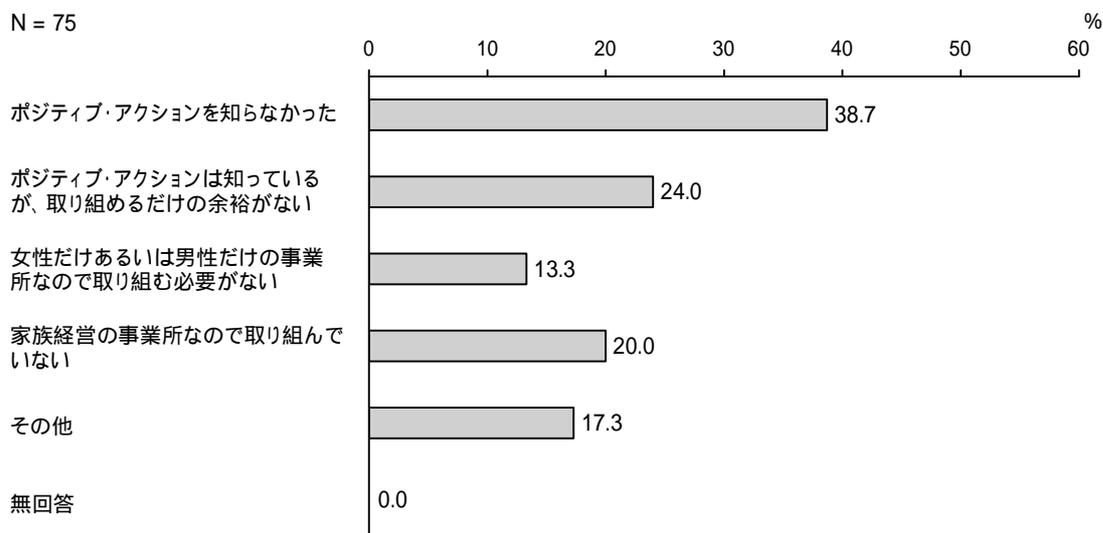


平成 22 年度調査では「昇任・昇格試験の受験を女性に奨励している」「女性の役員・管理職への登用について数値目標を定めている」の選択肢はありませんでした。

問 11 で「2 . 取り組んでいない」とお答えの方にお聞きします。

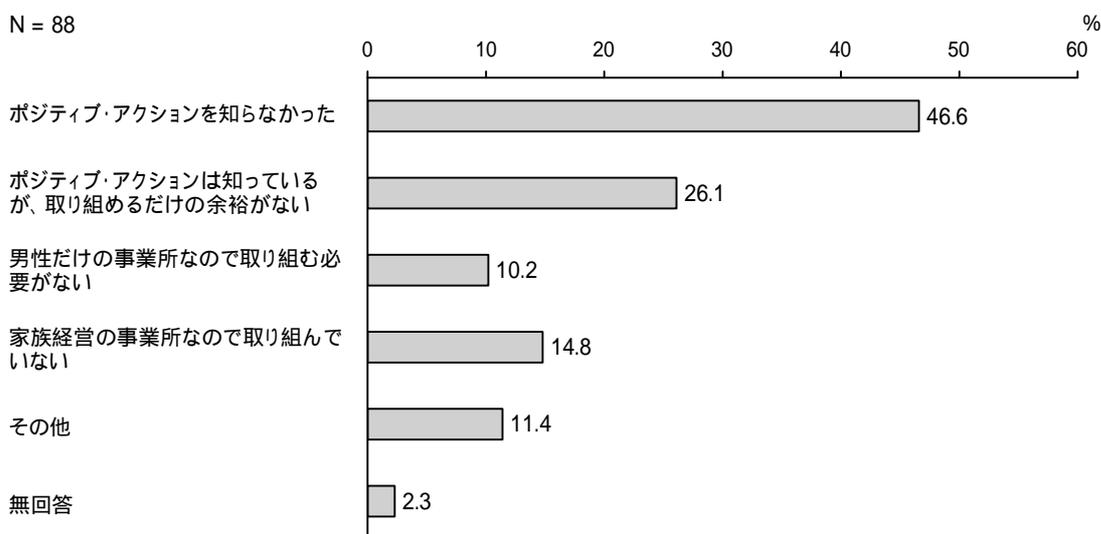
問 11-2 取り組んでいない理由をお答えください。(いくつ選んでも結構です)

「ポジティブ・アクションを知らなかった」の割合が 38.7%と最も高く、次いで「ポジティブ・アクションは知っているが、取り組めるだけの余裕がない」の割合が 24.0%、「家族経営の事業所なので取り組んでいない」の割合が 20.0%となっています。



【平成 22 年調査】

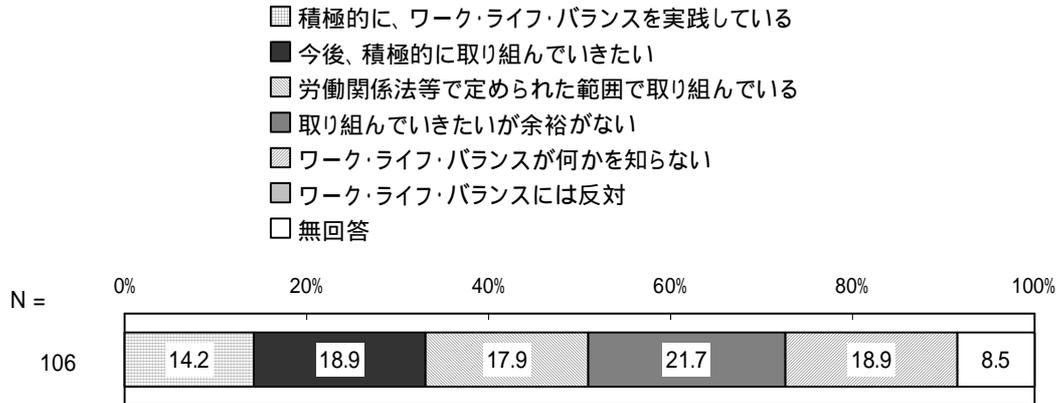
平成 22 年調査と比較すると、「ポジティブ・アクションを知らなかった」の割合が低くなっています。一方、「家族経営の事業所なので取り組んでいない」の割合が高くなっています。



すべての方にお聞きします。

問 12 「ワーク・ライフ・バランス」について貴事業所の状況をお聞きします。貴事業所では「ワーク・ライフ・バランス」に取り組んでいますか。(1つ選んでください)

「取り組んでいきたいが余裕がない」の割合が21.7%と最も高く、次いで「今後、積極的に取り組んでいきたい」、「ワーク・ライフ・バランスが何かを知らない」の割合が18.9%となっています。

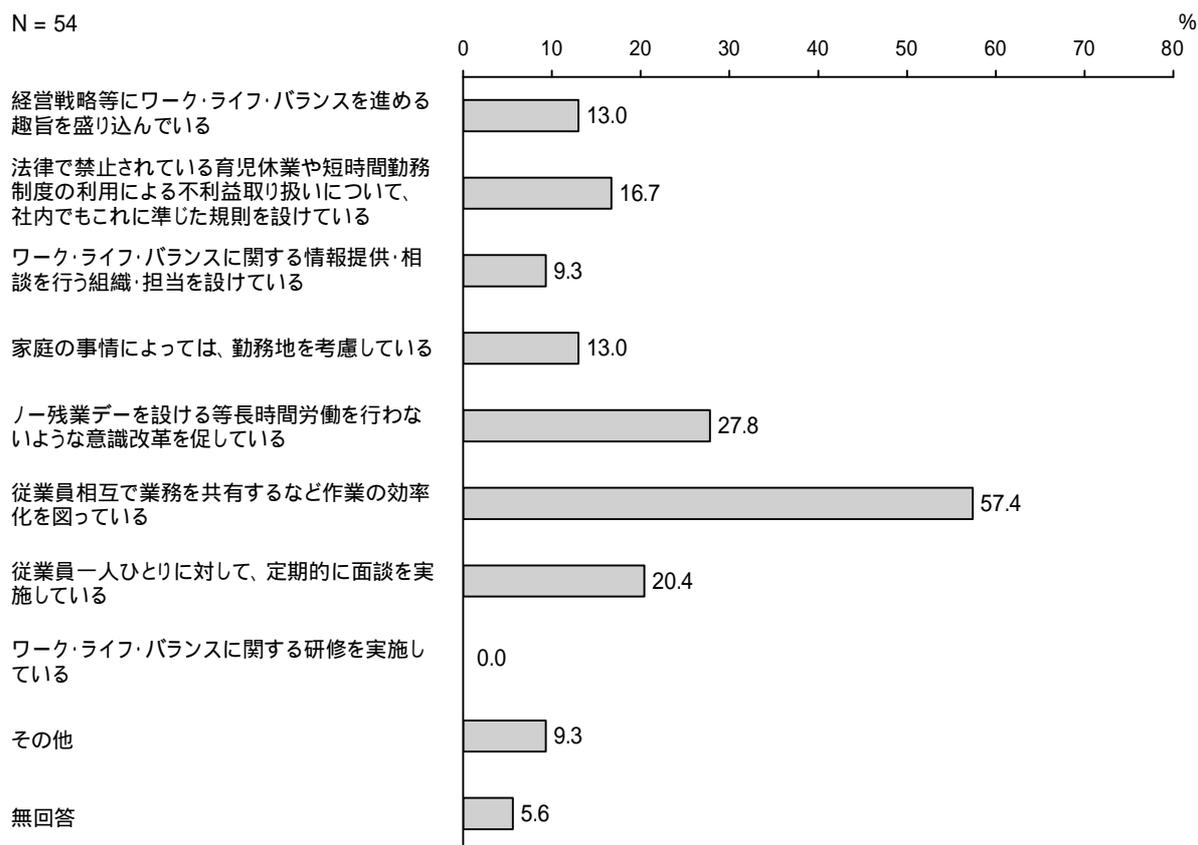


問 12 で、「積極的に、ワーク・ライフ・バランスを実践している」「今後、積極的に取り組んでいきたい」「労働関係法等で定められた範囲で取り組んでいる」とお答えの方にお聞きします。

問 12-1 貴事業所では、ワーク・ライフ・バランスの取り組みとして、どのようなことを実施していますか。(いくつ選んでも結構です)

「従業員相互で業務を共有するなど作業の効率化を図っている」の割合が 57.4%と最も高く、次いで「ノー残業デーを設ける等長時間労働を行わないような意識改革を促している」の割合が 27.8%、「従業員一人ひとりに対して、定期的に面談を実施している」の割合が 20.4%となっています。

N = 54

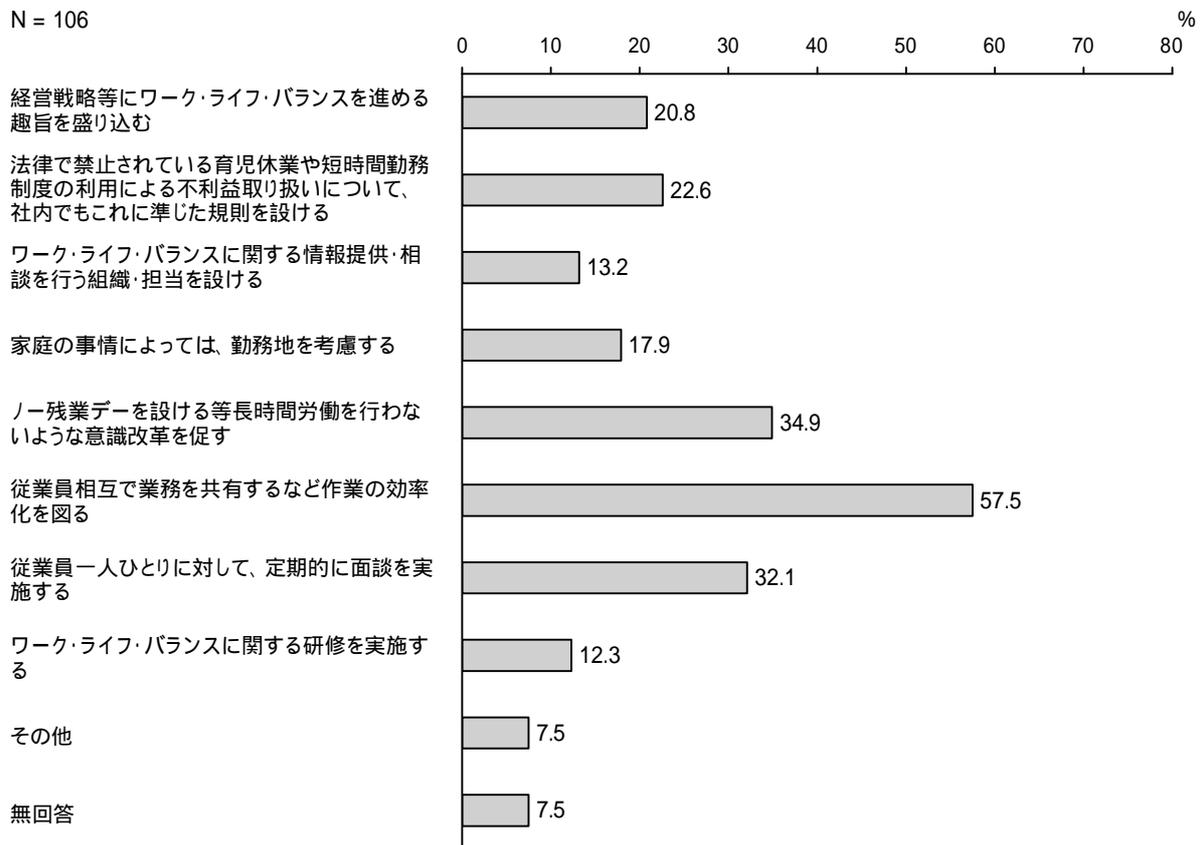


すべての方にお聞きします。

問 13 ワーク・ライフ・バランスの取り組みとして、どのようなものが効果があると思いますか。(いくつ選んでも結構です)

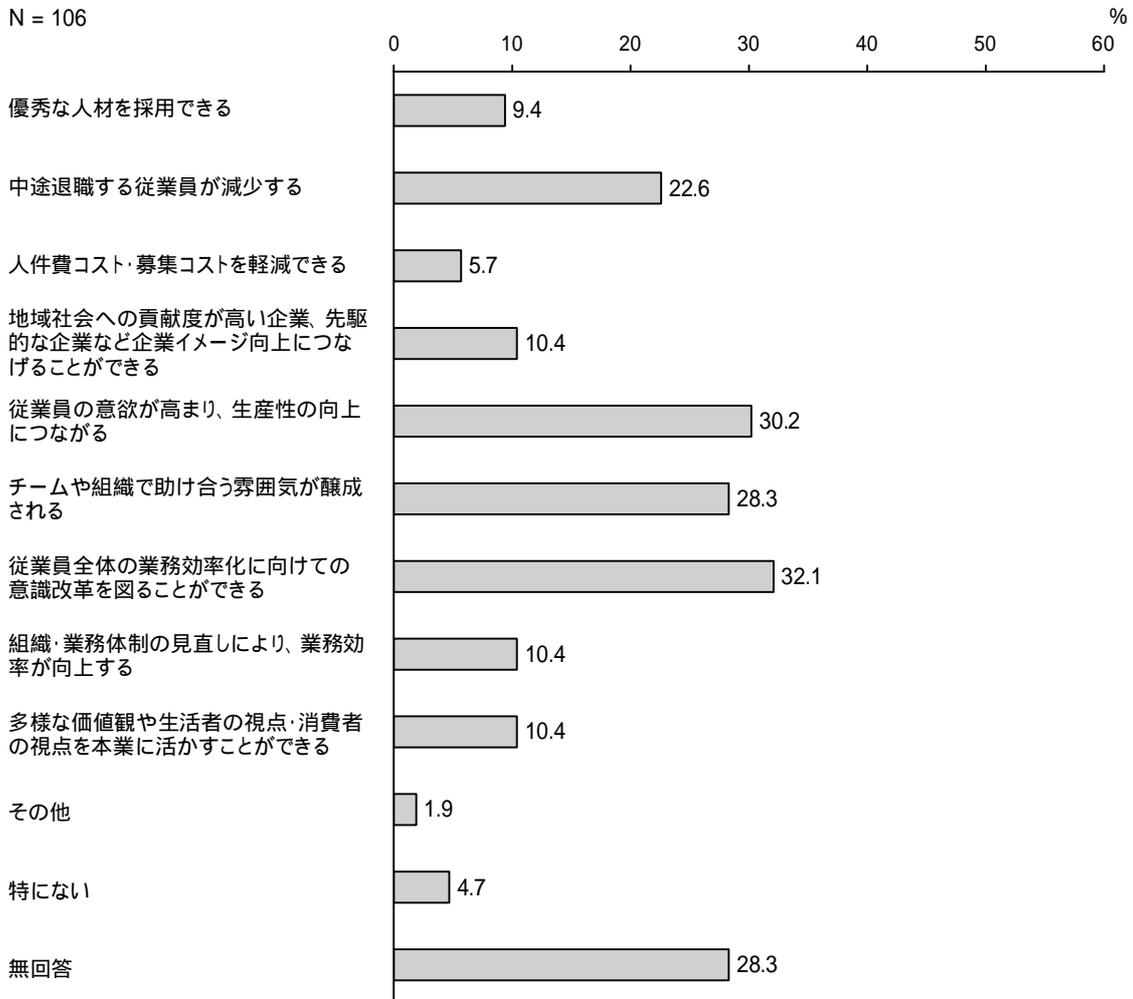
「従業員相互で業務を共有するなど作業の効率化を図る」の割合が 57.5%と最も高く、次いで「ノー残業デーを設ける等長時間労働を行わないような意識改革を促す」の割合が 34.9%、「従業員一人ひとりに対して、定期的に面談を実施する」の割合が 32.1%となっています。

N = 106



問 14 ワーク・ライフ・バランスを進めることにより、事業所としてどのような効果が期待できると思いますか。(主なものを3つを選んでください)

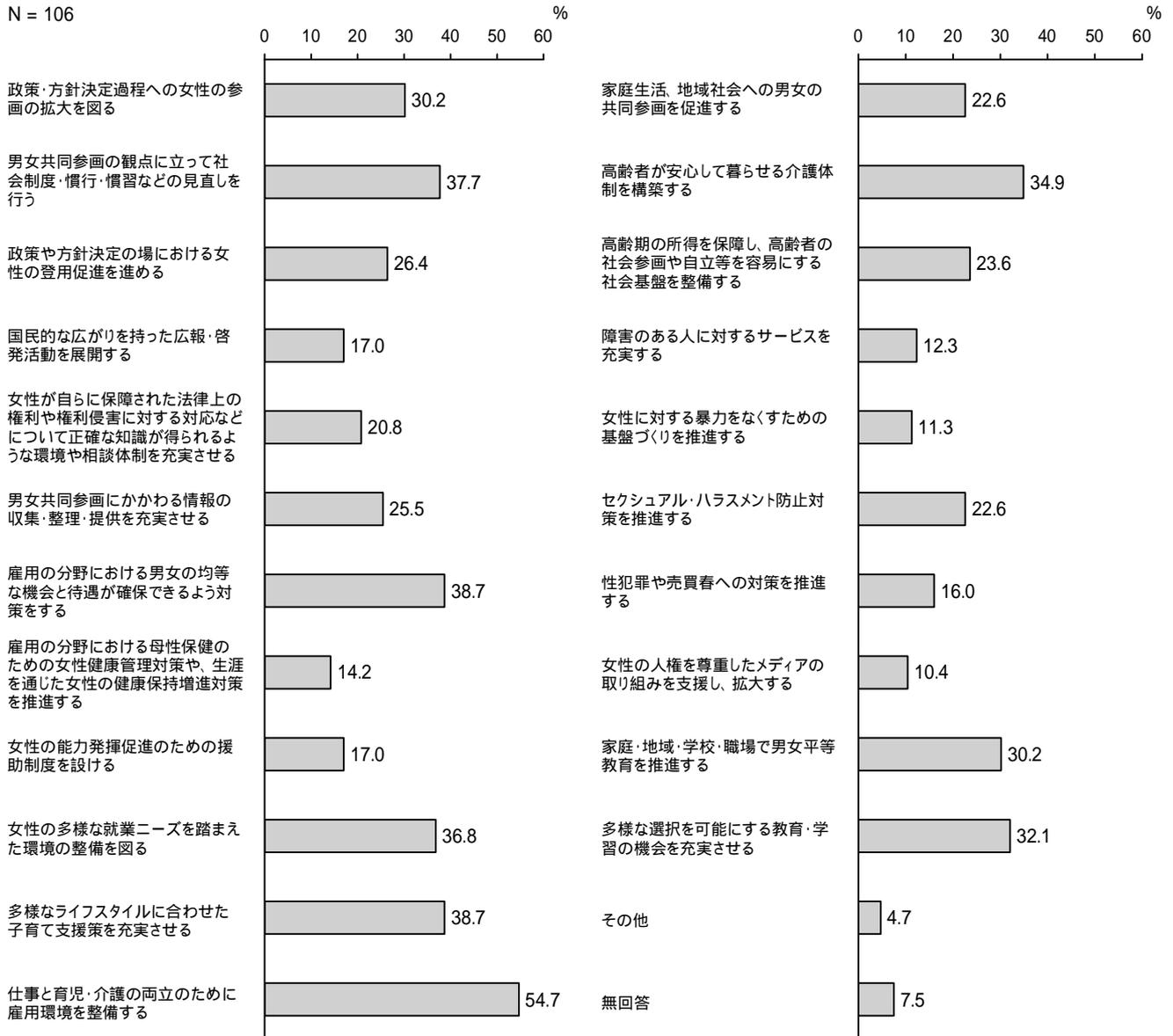
「従業員全体の業務効率化に向けての意識改革を図ることができる」の割合が 32.1%と最も高く、次いで「従業員の意欲が高まり、生産性の向上につながる」の割合が 30.2%、「チームや組織で助け合う雰囲気が醸成される」の割合が 28.3%となっています。



問 15 今後、男女共同参画社会の形成へ向けてどのようなことが重要だと思いますか。  
(いくつ選んでも結構です)

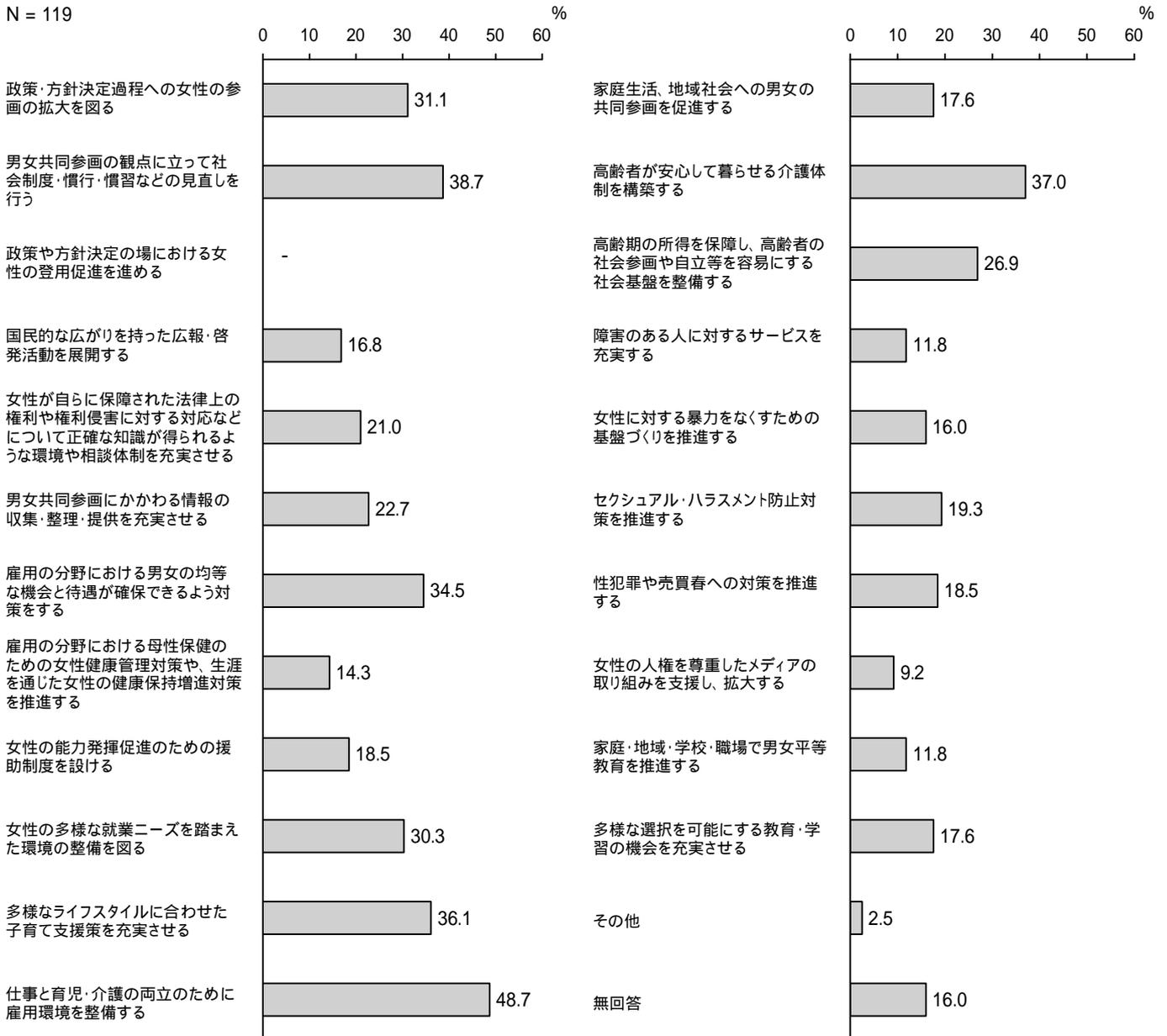
「仕事と育児・介護の両立のために雇用環境を整備する」の割合が54.7%と最も高く、次いで「雇用の分野における男女の均等な機会と待遇が確保できるよう対策をする」、「多様なライフスタイルに合わせた子育て支援策を充実させる」の割合が38.7%となっています。

N = 106



【平成 22 年調査】

平成 22 年調査と比較すると、「女性の多様な就業ニーズを踏まえた環境の整備を図る」「仕事と育児・介護の両立のために雇用環境を整備する」「家庭生活、地域社会への男女の共同参画を促進する」「家庭・地域・学校・職場で男女平等教育を推進する」「多様な選択を可能にする教育・学習の機会を充実させる」の割合が高くなっています。



平成 22 年調査では「政策や方針決定の場における女性の登用促進を進める」の選択肢はありませんでした。

## 自由回答

5 事業所から、次の意見がありました。

- ・ 自治体ベースで取り組む事業は、現場の実体とかけはなれている事が多いと思います。実体を調査するのはアンケートではないと思います。
- ・ 女性の社会進出が国の繁栄につながるか否かは疑問があります。子どもを生まない女性をさらに増やすことになりかねない。微妙な話です。
- ・ 男女共同参画、男女雇用機会均等法等、どこが男女の性差による違いかという基本的なことが、どこかよそにおき忘れられているような気がします。基本的に女性に優しい感じはしません。男女の性差は明らかで、双方に同じことは求められないと思います。極端な考え方のもとに動くことなく決める時も男女 50 / 50 で世代も多くの世代を交えて検討することも大事かと。
- ・ 今回の設問が全体に女性尊重を前提としている。このことは男性に対するセクハラではないか。性別を問わず、一人の人間として、どのように対処するかと言う視点から見べきである。性別は関係なし。
- ・ “ワーク・ライフ・バランス” の環境を整える一方、地域も企業も知識としてもっているだけでなく、活用する意識を根づかせることが最も大変だが有効であると思います。

## 第3章 ワークショップ

### ワークショップの概要

日時 平成27年6月20日(土)10時00分～12時00分

会場 宇治市男女共同参画支援センター

参加者 11名

テーマ

ワーク・ライフ・バランスについて(テーマ1)

女性のエンパワーメント支援について(テーマ2)

以上の2点をテーマとして、現状や課題を参加者から出していただきました。

### ワークショップの意見

テーマ1 ワーク・ライフ・バランスについて

【Aグループ】

ワーク・ライフ・バランスの考え方・理解について

- ・家庭での理解度が大事である。
- ・子どものころから(ワーク・ライフ・バランスの)考え方を教えることが必要だと思う。
- ・(ワーク・ライフ・バランスについて)正しく理解する力を身に付けることが大切である。

家事等の役割分担について

- ・家庭内での役割分担は、昔に比べて進んでいる。
- ・男性の家庭への参画は以前に比べ進んでいるが、若い男性が家事等を体験できる機会が必要である。

企業に対する意見について

- ・ノー残業デーの意味があるか。企業の意識で(運用に)差がある。
- ・会社内でワーク・ライフ・バランスの実現が難しい。
- ・アンケートにおいて、ワーク・ライフ・バランスが前進した割合が低いのは、仕事と子育ての両立が難しいことに問題があるのではないか。
- ・企業への広報活動が必要である。

個人・地域・企業が点で終わらせてはいけない

- ・企業・家庭・地域でのコミュニケーションがとれていない。コミュニケーションが必要。
- ・地域内のコミュニケーションが重要である。
- ・ワーク・ライフ・バランスを推進していくためには、企業の意識改革が必要で、さらに、個人・家庭・地域など社会全体で取り組むことが必要である。

#### 働き方、家庭・家事とのバランスについて

- ・共働きが増えたことにより、家事を負担に感じる女性が増えている。
- ・仕事と家庭のバランスをとるのは難しいと感じる。
- ・育児などの負担があり、仕事との両立が難しい。
- ・人により考え方が違うので、仕事と家庭・家事とのバランスについての理解にも差があるように思う。

#### その他の意見

- ・「ハラスメント」の認知度が高いのは、メディアで取り上げられたからではないか。メディアを活用することは有効だと思う。
- ・ジェネレーションギャップが価値観の差を生み、そのことにより、ワーク・ライフ・バランスに関する問題が起こる。
- ・家庭では男性優位が続いている。
- ・若年層と高齢者とは、仕事と家庭の認識に差がある。
- ・リタイアした世代では、女性の方が元気で活躍されている。

#### 【Bグループ】

##### 長期の休み（特に男性）は難しい

- ・営業職は長期の休みを取ると（職場内での）居場所がなくなるのではと不安。
- ・（共働きの場合でも）男性の給与の方が高いため、男性は育休が取れない。

##### 働き方の工夫（短時間・ワークシェア）について

- ・ワークシェアの充実が必要である。
- ・働き方のバランスが必要。女性は子どもがいると夜働きにくい。

##### 制度が利用できる企業を評価

- ・制度がある会社より、制度が利用できる会社を評価する。

##### 会社・経営者の意識の改革について

- ・会社の風土が大切であり、経営者の考え方が大切。

##### 保育料と収入について

- ・子どもを保育園に入れるにしても、年齢が低いと保育料が高いため、生活はギリギリ。

##### 年代によって考え方は異なる

- ・若い世代は、夫婦で家事を分担している。
- ・若い世代は、自治会に男性が参加している。（昔は母が参加していた）
- ・一方で、（若い世代でも）家事・育児を女性に求めることも多い。

##### その他

- ・育った環境によって、ワーク・ライフ・バランスに対する意識が異なる。

## テーマ2 女性のエンパワーメント支援について

### 【Aグループ】

#### 企業の意識を変えていくこと

- ・企業は、女性と男性とで仕事と家庭の比重に違いがあることを認識する必要がある。
- ・女性の働き方への企業の意識改革が必要。
- ・女性の地位の向上が必要である。
- ・職業によっては性別による役割分担意識が強い。女性の進出により意識を変えていくことが必要。
- ・(企業の意識を変えるため)社内で定期的にワークショップを実施した方が良い。

#### 企業間の連携について

- ・女性の働き方や企業の取組などについて共通認識を持つため、企業間での連携が必要である。
- ・(女性の登用などについては)中小企業でも取り組めることがあると思う。
- ・企業間の女性のエンパワーメントに関する連携は、女性の働き方へも影響してくるので、それが地域貢献にもつながる。

#### 企業の協力について

- ・女性への企業内研修はあるのか。
- ・女性の仕事の機会や量が増えても、給料・出世で(女性と男性の)差が大き過ぎる。
- ・企業が、女性が自己研鑽等のための時間を持てるよう支援することが必要である。(勉強や休憩する時間を作り出してあげる。)

#### その他

- ・女性の政策・方針決定過程への参画状況は民間企業に比べ行政が進んでいると思う。しかし、行政ではさらに女性の参画を進めることが可能ではないか。
- ・既婚女性で子どもがいない方が、(今後出産する可能性があり、企業から敬遠されるため)仕事を見つけにくい状態となっている。
- ・男性は会社では力が発揮できたが、リタイアして地域で活躍できない人がいる。

## 【Bグループ】

市では実際にいろいろ女性のエンパワーメント支援のための施策をやっているが知られていない

- ・宇治市のチャレンジ支援について、もっと広報が必要。
- ・具体的な支援の見える化が必要である。
- ・女性のエンパワーメント支援に関する情報入手方法がバラバラなので、これからはわかりやすく一本化することが必要である。

地域活動を通じた交流などについて

- ・男女共同参画支援センターの「市民企画事業」はいろんな人との出会いにつながる。
- ・女性の特技を活かしていくことで、地域において活躍する場ができる。

人と人のつながりについて

- ・様々な人との出会いやネットワークを大切にすることが、エンパワーメントにつながる。人と人との交流によるネットワークづくりが重要である。

女性の意識（自分のありたい姿）について

- ・家事・育児を自分の仕事と思っている女性が多く、受け身な女性が多い。
- ・責任ある仕事を希望しない女性もいる。
- ・女性自身が自分のありたい姿『思い』をしっかりとって、チャレンジしていけるような支援をしてほしい。

女性の能力が活かしきれていない

- ・男性よりも仕事のできる女性はたくさん存在！！
- ・（税制や社会保障制度など）制度のカベは大きい。

子育てによる仕事の中断

- ・（会社側は）「結婚 or 出産で辞職する」というイメージをもって（女性を）採用することが多いのではないか。
- ・女性が活躍してくためのキーワードは子育て。



# 調査票

市民意識・実態調査

## 宇治市男女共同参画に関する市民意識・実態調査

### 調査の趣旨とご協力をお願い

市民の皆様には、日頃から市政に対し、ご理解とご協力をいただき厚くお礼を申し上げます。本市では、2004年(平成16年)10月に「宇治市男女生き生きまちづくり条例」を制定するとともに、2011年(平成23年)3月には「宇治市男女共同参画計画(第3次U)Iあさぎりプラン」を策定して、さまざまな施策を推進していますが、この計画は2015年度(平成27年度)を以って計画期間が満了することから、引き続き男女共同参画社会の実現に向けた施策を推進していくため、新たな計画を策定することにしています。

つきましては、計画の策定にあたり市内に居住されている16歳以上の男女4,000人の方々を無作為に抽出したアンケート調査を実施し、男女共同参画社会に関する市民の皆様のご意見を聞かせていただき、計画策定の基礎資料にしていきたいと思います。

お忙しいところ誠に恐縮ではございますが、調査の趣旨をご理解いただき、アンケート調査にご協力いただきますようお願い申し上げます。

2015(平成27)年3月

宇治市長 山本 正

1. ご記入にあたっては、封筒のあて名のご本人がお答えください。  
(ご本人が病気などで回答いただけないときは、代理の方がご本人の意見を聞いてご回答いただければ幸いです。)
2. 回答は、ほとんどが選択式になっています。それぞれの質問にしたがってあてはまる番号に印をつけてください。「その他」の回答に をつけた場合は( )の中にその内容をご記入ください。
3. お答えいただいた内容は、すべて統計的に処理し、本計画の策定以外の目的で使用することは決してありませんので、率直な意見をご回答ください。また、個人情報の取り扱いについては、適正に実施しており、返信の封筒から個人の特定はできませんので、安心してご回答ください。
4. ご記入いただいた調査票は、4月2日(木)までに、同封の返信用封筒(切手不要)に入れて、お名前を書かずに、郵便ポストにご投函ください。

この調査に関するお問い合わせ先

宇治市市民環境部男女共同参画課

TEL 0774-39-9377

FAX 0774-39-9378

E-Mail : danjokyoudou@city.uji.kyoto.jp

## あなたご自身のことについておたずねします

問1 あなたの性別をお書きください

性別 ( )

性同一性障害などの人たちの人権問題を認識していますが、この調査では男女の意識や行動の違いを把握する必要があるためにお伺いしています。

問2 あなたの年齢をお書きください

年齢 ( ) 歳

問3 あなたの現在の配偶関係 ( 1つ選んでください )

- |                       |            |
|-----------------------|------------|
| 1. 結婚している             | 2. 事実婚     |
| 3. 過去に結婚していたが、離婚・死別した | 4. 結婚していない |

事実婚とは、婚姻届を出していないが事実上の婚姻状態にあることをいいます。

問4 あなたの家族構成 ( 1つ選んでください )

- |                          |                       |
|--------------------------|-----------------------|
| 1. 一人世帯                  | 2. 一世代家族 ( 夫婦のみ )     |
| 3. 二世世代家族 ( 夫婦と子、親と子など ) | 4. 三世世代家族 ( 親と子と孫など ) |
| 5. その他 ( )               |                       |

問5 あなたの職業は何ですか。( 複数の場合は主なものを1つ選んでください )

- |                              |                              |
|------------------------------|------------------------------|
| 1. 正規の職員・従業員 ( 雇われている人 )     | 2. 労働者派遣事業所の派遣社員 ( 雇われている人 ) |
| 3. パート・アルバイト・その他 ( 雇われている人 ) |                              |
| 4. 会社などの役員                   | 5. 自営業主 ( 雇い人あり )            |
| 6. 自営業主 ( 雇い人なし )            | 7. 家族従業者                     |
| 8. 家庭内の賃仕事 ( 内職 )            |                              |

## 男女共同参画の意識についておたずねします

問6 あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、どのように考えますか。( 1つ選んでください )

- |               |               |
|---------------|---------------|
| 1. 賛成         | 2. どちらかといえば賛成 |
| 3. どちらかといえば反対 | 4. 反対         |
| 5. わからない      |               |

問7 あなたは次の ~ で、男女の地位は平等になっていると思いますか。あなたの考えに最も近いものをお答えください。(それぞれ1つ選んでください)

	女性が優遇されている	どちらかと言えば女性が優遇されている	平等になっている	どちらかと言えば男性が優遇されている	男性が優遇されている
家庭生活	1	2	3	4	5
職場	1	2	3	4	5
地域	1	2	3	4	5
学校教育の場	1	2	3	4	5
政治の場	1	2	3	4	5
法律や制度の上	1	2	3	4	5
社会通念・慣習・しきたりなど	1	2	3	4	5

問8 あなたは社会全体でみた場合には、男女の地位は平等になっていると思いますか。  
(1つ選んでください)

- |               |                       |
|---------------|-----------------------|
| 1. 女性が優遇されている | 2. どちらかと言えば女性が優遇されている |
| 3. 平等になっている   | 4. どちらかと言えば男性が優遇されている |
| 5. 男性が優遇されている |                       |

皆様の意見を是非お聞かせください。  
設問が多いですが、最後までよろしく  
お願いします



宇治市宣伝大使 ちはや姫

問9 あなたは次の2つの相談窓口についてご存知ですか。(それぞれ1つ選んでください)

	知っている	知らない
宇治市男女共同参画支援センター (ゆめりあ うじ内)	1	2
京都府男女共同参画センター (京都テルサ内)	1	2

問10 あなたは次の ~ の「ことば」や「事柄」についてご存知ですか。  
(それぞれ1つ選んでください)

	内容まで知っている	言葉を見たり聞いたりしたことはある	全く知らない
男女共同参画社会	1	2	3
男女共同参画社会基本法	1	2	3
女子差別撤廃条約	1	2	3
男女雇用機会均等法	1	2	3
ポジティブ・アクション(積極的改善措置)	1	2	3
仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)	1	2	3
ジェンダー	1	2	3
モラル・ハラスメント	1	2	3
ドメスティック・バイオレンス(DV)	1	2	3
第3次UJIあさぎりプラン (宇治市男女共同参画計画)	1	2	3
宇治市男女生き生きまちづくり条例	1	2	3

**ポジティブ・アクション(積極的改善措置)**

「ポジティブ・アクション」とは、固定的な男女の役割分担意識やこれまでの慣習から、「営業職に女性がほとんどいない」「課長以上の管理職は男性が大半を占めている」等の男女差が生じている場合に、このような差を解消するために、個々の企業が行う自主的かつ積極的な取組をいいます。

**ジェンダー**

「社会的・文化的に形成された性別」を意味する言葉です。ジェンダーが、性差別や性別による固定的役割分担、偏見等につながってきたことから、ジェンダーが社会的・文化的に形成されたものであることをしっかりと認識することが必要です。

**モラル・ハラスメント**

言葉や態度などによって相手の人格や尊厳を傷つける、精神的な暴力や嫌がらせのことを言います。

**ドメスティック・バイオレンス(DV)**

10ページをご覧ください。

**仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)**

14ページをご覧ください。

問 11 この5年間で、宇治市では次の ~ がどの程度進んだと思いますか。  
(それぞれ1つ選んでください。)

	前進した	どちらかといえば前進した	変わらない	どちらかといえば後退した	後退した	わからない
男女平等の考え方	1	2	3	4	5	6
政策・方針決定の過程への女性の進出	1	2	3	4	5	6
会社などでの女性管理職の数	1	2	3	4	5	6
ワーク・ライフ・バランスの実現	1	2	3	4	5	6
セクシュアル・ハラスメント(*)やDVなど女性に対する暴力への市の対応	1	2	3	4	5	6
市の女性の健康保持に関する支援	1	2	3	4	5	6

(\*)セクシュアル・ハラスメント：詳しくは11ページをご覧ください

### 家庭での役割についておたずねします

問 12 次の事柄について、あなたのご家庭では誰が実際にその役割をされていますか。(単身世帯の方は、もとい家庭を想定してお答えください)(それぞれ1つ選んでください)

	(父) 主として夫	(母) 主として妻	妻(母)と 夫(父)と 分担	子ども	家族全員	その他の人
食事のしたく	1	2	3	4	5	6
食事のあとかたづけ	1	2	3	4	5	6
洗濯	1	2	3	4	5	6
掃除	1	2	3	4	5	6
日常の買い物	1	2	3	4	5	6
育児	1	2	3	4	5	6
介護	1	2	3	4	5	6
地域における活動	1	2	3	4	5	6
生活費の確保	1	2	3	4	5	6
日常の家計管理	1	2	3	4	5	6
家庭における重要な決定	1	2	3	4	5	6

問 13 次の事柄について、家庭では誰がその役割をするのが**理想だと思えますか**。(単身世帯の方はもとい家庭や今後の家庭を想定してお答えください)(それぞれ1つ選んでください)

	主に夫(父)	主に妻(母)	夫(父)と妻(母)で分担	子ども	家族全員	その他
食事のしたく	1	2	3	4	5	6
食事のあとかたづけ	1	2	3	4	5	6
洗濯	1	2	3	4	5	6
掃除	1	2	3	4	5	6
日常の買い物	1	2	3	4	5	6
育児	1	2	3	4	5	6
介護	1	2	3	4	5	6
地域における活動	1	2	3	4	5	6
生活費の確保	1	2	3	4	5	6
日常の家計管理	1	2	3	4	5	6
家庭における重要な決定	1	2	3	4	5	6

問 14 問 13 の回答について、その理由をお答えください。(いくつでも選んでください)

- |  |
|--|
| 1 . 男女の役割分担についての社会通念やしきたりがあるから<br>2 . 男性が仕事で、家庭にいる時間が少ないから<br>3 . 家庭内の仕事をするのは女性であるという意識が強いから<br>4 . 仕事と家庭を両立して家族で協力し合うという考え方があまりないから<br>5 . 男女ともに仕事をしている場合は、家族で役割分担すればよいから<br>6 . 家庭内の仕事は、就業の有無にかかわらず家族で協力すればよいから<br>7 . その他 ( ) |
|--|

## 教育についておたずねします

問 15 男女共同参画を推進するためには、学校教育の場において、どのような取り組みが必要だと思いますか。(いくつか選んでください)

1. 男女共同参画社会づくりに向けての教育を充実する
2. 教員に男女共同参画社会づくりに向けた研修を実施する
3. 教員を男女バランスよく配置する(中学での女性教員の比率向上など)
4. 多様な選択を可能にする進路指導を実施する
5. 性教育を充実する
6. その他( )

## 仕事についておたずねします

問 16 女性が仕事をする事についてあなたはどのようにお考えですか。(1つ選んでください)

1. 結婚・出産にかかわらず仕事を続ける方がよい
2. 出産後は一時家庭に入り、育児が終われば再び仕事に就く方がよい
3. 出産前までは仕事に就く方がよい
4. 結婚するまでは、仕事に就く方がよい
5. 女性は仕事に就かない方がよい
6. その他( )

問 17～問 20 は、現在就労している方のみお答えください

問 17 あなたの平日における平均的な時間の使い方をお答えください。

仕事に関する時間(仕事・通勤・職場での休憩時間など)	_____	時間	_____	分/日
家事に関する時間	_____	時間	_____	分/日
育児に関する時間	_____	時間	_____	分/日
介護に関する時間	_____	時間	_____	分/日
自由時間(社会参加、スポーツ、趣味・娯楽など)	_____	時間	_____	分/日
食事・入浴など	_____	時間	_____	分/日
睡眠	_____	時間	_____	分/日

問 18 働く目的や理由について、あてはまるものをお答えください。(いくつでも選んでください)

- |                    |                   |
|--------------------|-------------------|
| 1. 生活費を得るため        | 2. 将来にそなえて貯蓄するため  |
| 3. 自由でゆとりある生活をするため | 4. 自分の能力や技術を活かすため |
| 5. 働くことで視野を広げるため   | 6. 社会に貢献するため      |
| 7. 生きがい・やりがいを得るため  | 8. 家業を継承するため      |
| 9. その他( )          |                   |

問 19 あなたの職場で、下記の ~ の項目について、どのように感じますか。  
(それぞれ1つ選んでください)

	女性 が優遇 されて いる	男女 平等 である	男性 が優遇 されて いる	わ か ら な い
採用・募集	1	2	3	4
仕事内容	1	2	3	4
給与・賃金	1	2	3	4
昇格・降格	1	2	3	4
能力・成果の評価	1	2	3	4
研修・訓練の機会	1	2	3	4
勤務時間	1	2	3	4
福利厚生	1	2	3	4
解雇	1	2	3	4
再雇用	1	2	3	4
その他( )	1	2	3	4

問 20 あなた自身が、仕事と家庭を両立するためにはどのようなことが必要だと思いますか。  
(2つまで選んでください)

- |                         |                 |
|-------------------------|-----------------|
| 1. 家庭や職場における両立の考え方の浸透   | 2. 家族の積極的な支援や協力 |
| 3. 民間家事支援サービスの利用        | 4. 保育・託児サービスの充実 |
| 5. 労働環境の整備              | 6. 介護サービスの充実    |
| 7. 地域の支援センターなどでの相談体制の充実 | 8. 両立を推進する法律の整備 |
| 9. その他( )               |                 |
| 10. わからない               |                 |

ここからは、すべての方にお聞きします。

問 21 あなたは、育児を行うために育児休業の制度を利用したことがありますか。( 1 つ選んでください)

- 1 . 制度を利用したことがある
- 2 . 制度を利用したかったが、利用できなかった
- 3 . 育児休業取得が必要となったことがない
- 4 . 制度の対象になったことがない ( 制度ができる前に出産した、など )

問 22 あなたは、介護を行うために介護休業の制度を利用したことがありますか。( 1 つ選んでください)

- 1 . 制度を利用したことがある
- 2 . 制度を利用したかったが、利用できなかった
- 3 . 介護休業取得が必要となったことがない
- 4 . 制度の対象になったことがない ( 制度ができる前に介護を行った、など )

問 23 一般的に男性の育児休業、介護休業の取得が少ない現状がありますが、その理由は何だと思えますか。( いくつでも選んでください)

- 1 . 育児休業、介護休業制度が一般に浸透していないから
- 2 . 職場において取得しにくい状況があるから ( 男性の取得の前例がないなど )
- 3 . 育児休業、介護休業制度のしくみに問題があるから
- 4 . 収入が減るなど、経済的な理由から
- 5 . 取得する必要があるから
- 6 . その他 ( )

問 24 男性が育児休業や介護休業を取得することについて、あなたはどのように思いますか。  
(それぞれ 1 つ選んでください)

	方がよい	積極的に取った	いばど 取っど ったか 方がと いえ	いど えど ないち らと も	よいば ど 取ど ら ないか 方が いえ	よい取 ら ない 方が
育児休業	1	2	3	4	5	
介護休業	1	2	3	4	5	

問 25 問 24 のように回答された理由について、あてはまるものを選んでください。  
(いくつでも選んでください)

- 1 . 育児や介護は、家族で協力をするべきだから
- 2 . 男性にとって良い経験となるから
- 3 . それぞれの個人や家庭の問題だから
- 4 . 現実問題として、取得することが難しいから
- 5 . 男女で役割を分担するべきだから
- 6 . 男性は家庭にいる時間が少ないから
- 7 . その他 ( )

## 地域社会での生活と活動についておたずねします

問 26 あなたの、自治会・町内会やボランティアなどの地域活動への参加状況は次のうちどれですか。  
(1つ選んでください)

- |              |                 |
|--------------|-----------------|
| 1. 現在、参加している | 2. 過去に参加したことがある |
| 3. 参加したことがない |                 |

問 27 あなたの地域活動への参加意向は次のうちどれですか。(1つ選んでください)

- |                       |             |
|-----------------------|-------------|
| 1. 今後も参加したい(現在参加している) | 2. 今後は参加したい |
| 3. 地域活動への関心はない        | 4. その他( )   |

問 28 あなたが、地域活動に参加する際に、支障となることは何でしょうか。  
(いくつでも選んでください)

- |                    |                   |
|--------------------|-------------------|
| 1. 仕事が忙しいこと        | 2. 家事・育児・介護が忙しいこと |
| 3. 子どもを預けるところがないこと | 4. 健康・体力に自信がないこと  |
| 5. 経済的に余裕がないこと     | 6. 家族の理解や協力がでないこと |
| 7. 活動場所がないこと       | 8. 活動情報がないこと      |
| 9. その他( )          |                   |

問 29 あなたが住んでいる地域(自治会など)は男女で違いがあると思いますか。  
あると思うものに をつけてください。(いくつでも選んでください)

- |  |  |
|--|--|
| 1. 会議や行事などで女性が飲食の準備や後片付けをすることが多い           |  |
| 2. 会議や行事などで女性が意見を言いにくい、意見が取り上げてもらいにくい状況がある |  |
| 3. 役員選挙に女性がでにくい、また選ばれにくい状況がある              |  |
| 4. 地域の行事に女性が参加できない状況がある                    |  |
| 5. 地域の活動に女性が少ないため、逆に女性が優遇される               |  |
| 6. その他( )                                  |  |
| 7. 特にない                                    |  |

半分までできました。あと半分よろしく  
お願いします。



宇治市宣伝大使 ちはや姫

## ドメスティック・バイオレンスについておたずねします

### ドメスティック・バイオレンス（DV）

配偶者等からの暴力をドメスティック・バイオレンス（DV）といいます。

なぐる・けるなどの身体的な暴力だけでなく大声でおどすなどの精神的な暴力、その他にも性的な暴力・経済的に抑圧する行為・社会的な行動を妨げる行為なども含んでいます。

問 30 あなたは、配偶者や親しい異性（恋人等）から一度でも次のような行為を受けた経験がありますか。（いくつでも選んでください）

- 1．なぐる、ける、物を投げるなどの身体的暴力
- 2．たびたび無視するなどの精神的暴力
- 3．ののしる、おどす、ばかにするなどの言葉の暴力
- 4．性交渉を強要する、避妊に協力しないなどの性的暴力
- 5．生活費を出さない、生活費を持っていくなどの経済的暴力
- 6．外出や人との付き合いをきびしく制限するなどの精神的暴力
- 7．携帯電話を細かく監視し、行動を制限するなどの精神的暴力
- 8．受けたことがない

問 30 で、何らかの行為を受けた経験がある方にお聞きします

問 31 あなたは、そのことを誰かに話したり、相談したりしましたか。（いくつでも選んでください）

- |                  |                   |
|------------------|-------------------|
| 1．家族・親族に相談した     | 2．同僚や友人に相談した      |
| 3．職場の上司に相談した     | 4．学校・職場の相談窓口で相談した |
| 5．公的機関に相談した      | 6．その他（            |
| 7．誰にも話さず、相談していない | ）                 |

問 31 で、「7．誰にも話さず、相談していない」とお答えの方にお聞きします

問 32 相談しなかったのは、なぜですか。（いくつでも選んでください）

- 1．誰に相談してよいのかわからなかったから
- 2．人に知られたくないから
- 3．相談しても無駄だと思ったから
- 4．相談しても自分の責任にされと思ったから
- 5．相談したことが知れるとよりひどい暴力を受けると思ったから
- 6．自分にも悪いところがあると思ったから
- 7．相談するほどのことではないと思ったから
- 8．子どもや家族、他の人に危害が及ぶ、迷惑がかかると思ったから
- 9．恐怖感があるから
- 10．その他（

ここからは、すべての方にお聞きします。

問 33 配偶者や親しい異性（恋人等）からの暴力を防止し、解決するためには、どのようなことが必要だと思いますか。（いくつでも選んでください）

- 1．当事者同士がよく話し合い理解を深める
- 2．暴力をふるわないよう家族で説得する
- 3．友人・知人などに相談にのってもらう
- 4．暴力は人権侵害・犯罪であることを相手に啓発する
- 5．公的相談窓口の強化
- 6．弁護士と連携した相談体制の充実
- 7．身近な地域での相談窓口の整備
- 8．電話や FAX、メール等による相談体制の充実
- 9．警察など関係機関と連携した相談体制の充実
- 10．緊急避難施設・一時保護施設の充実
- 11．緊急避難時の生活支援・子どもの教育支援
- 12．被害者支援のカウンセラーやサポーターの育成
- 13．DV・デートDVに関する教育の充実
- 14．DV防止に関する啓発の強化
- 15．DVを許さない地域や社会の雰囲気づくり
- 16．その他（ )

## セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）についておたずねします

### セクシュアル・ハラスメント

相手の意に反する性的な言動により相手方の生活・職業・教育などの環境を害すること、または相手方に不利益を与えることをいいます。

問 34 あなたは、職場や学校、その他の活動の場で次のような不快と感じる行為を受けたことがありますか。（いくつでも選んでください）

- 1．身体に触る
- 2．ダンスや歌などを強要する
- 3．身体的な特徴を言う
- 4．男女間のうわさをたてる
- 5．既婚・未婚・年齢・子どもの有無などについて、詳しく聞く
- 6．「おじさん」「おばさん」「 ○ちゃん」などと呼ぶ
- 7．身体をじろじろ見る
- 8．わいせつな話をする
- 9．わいせつな雑誌・写真・ポスター などを見せる
- 10．交際や性的関係を強要する
- 11．その他（ )
- 12．不快と感じる行為を受けたことがない



問 39 もし、家族が介護を必要とする状態になった場合、あなたは、どのような方法でその家族の世話をすると思いますか。(1つ選んでください)

- |                           |                      |
|---------------------------|----------------------|
| 1. 自宅で、自分で                | 2. 自宅で、配偶者・パートナーに任せて |
| 3. 自宅で、配偶者・パートナー以外の家族に任せて |                      |
| 4. 自宅で、ヘルパーなどに任せて         |                      |
| 5. 病院・介護施設等で              | 6. その他( )            |
| 7. わからない                  | 8. 介護の必要な家族はいない      |

## 防災についておたずねします

問 40 防災・災害復興対策において、性別に配慮した対応が必要だと思いませんか。(1つ選んでください)

- |              |          |
|--------------|----------|
| 1. 思う        | 2. 思わない  |
| 3. どちらともいえない | 4. わからない |

問 40 で、「1. 思う」と答えた方にお聞きします

問 41 防災・災害復興対策において、性別に配慮した対応が必要なことは何だと思いませんか。(3つまで選んでください)

- |   |
|---|
| 1. 避難所の設備(男女別のトイレ、更衣室、洗たく干し場等)                  |
| 2. 避難所の設計・運営に男女がともに参画し、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること |
| 3. 災害時の救援医療体制(乳幼児、高齢者、障害者、妊産婦へのサポート事業)          |
| 4. 公的施設の備蓄品のニーズ把握、災害時に支給する際の配慮                  |
| 5. 被災者に対する相談体制                                  |
| 6. 防災に関する会議に男女がともに参画し、防災計画に男女両方の視点が入ること         |
| 7. 災害対策本部に男女がともに配置され、対策に男女両方の視点が入ること            |
| 8. 自主防災組織等に男女がともに参画し、地域で行われる防災活動に男女両方の視点が入ること   |
| 9. 災害復旧・復興対策計画の策定に男女がともに参画し、計画に男女両方の視点が入ること     |
| 10. その他( )                                      |

あと、もう少しで終わりです。  
最後までよろしくお願いします。



宇治市宣伝大使 ちはや姫

## ワーク・ライフ・バランスについておたずねします

### ワーク・ライフ・バランス

「仕事と生活の調和」と訳され、やりがいのある仕事と充実した個人生活の両者をうまく調和させ、個人が持っている能力を最大限に発揮できるようにすることをいいます。

問 42 生活における「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合い等）」の優先度について、あなたの現実に最も近いものはどれですか。（1つ選んでください）

- |                                     |                       |
|-------------------------------------|-----------------------|
| 1. 「仕事」を優先している                      | 2. 「家庭生活」を優先している      |
| 3. 「地域・個人の生活」を優先している                | 4. 「仕事」と「家庭生活」を両立している |
| 5. 「仕事」と「地域・個人の生活」を両立している           |                       |
| 6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」を両立している         |                       |
| 7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」すべてを並立している |                       |
| 8. その他（                             | ）                     |
| 9. わからない                            |                       |

問 43 生活における「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合い等）」の優先度について、あなたの希望に最も近いものはどれですか。（1つ選んでください）

- |                                     |                       |
|-------------------------------------|-----------------------|
| 1. 「仕事」を優先したい                       | 2. 「家庭生活」を優先したい       |
| 3. 「地域・個人の生活」を優先したい                 | 4. 「仕事」と「家庭生活」を両立させたい |
| 5. 「仕事」と「地域・個人の生活」を両立させたい           |                       |
| 6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」を両立させたい         |                       |
| 7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」すべてを並立させたい |                       |
| 8. その他（                             | ）                     |
| 9. わからない                            |                       |

## 政策・方針決定の場への参画についておたずねします

問 44 あなたは、宇治市における政策・方針決定において女性の意見が反映されていると思いますか。（1つ選んでください）

- |              |          |
|--------------|----------|
| 1. 思う        | 2. 思わない  |
| 3. どちらともいえない | 4. わからない |

問 44 で「2. 思わない」とお答えにお聞きします

問 45 政策・方針決定の過程に女性の参画が少ない理由は何だと思いませんか。（いくつでも選んでください）

- |                      |                       |
|----------------------|-----------------------|
| 1. 男性中心の組織運営         | 2. 家族の支援や理解が得られない     |
| 3. 性別役割分担や性差の意識      | 4. 女性自身の積極性が不十分       |
| 5. 女性の社会参画に対する施策が不十分 | 6. 政策や方針決定に参画できる場が少ない |
| 7. その他（              | ）                     |

問 46 あなたは政治・地域・職場などにおいて、政策・方針決定の場へ参画したいと思いますか。  
(1つ選んでください)

- |              |          |
|--------------|----------|
| 1. 思う        | 2. 思わない  |
| 3. どちらともいえない | 4. わからない |

### 今後の取り組みについておたずねします

問 47 あなたは、男女がともに仕事と生活の調和を図りながら、男女共同参画のまちづくりを推進するためには、どのような行政施策が必要であると思いますか。(いくつでも選んでください)

- |                                     |                     |
|-------------------------------------|---------------------|
| 1. 男女平等や男女共同参画に関する教育・啓発             | 2. 雇用における男女の格差是正の推進 |
| 3. 母性保護及び女性の健康対策                    | 4. 保育サービスの充実        |
| 5. 障害のある人に対するサービスの充実                | 6. 学童保育の充実          |
| 7. 介護・看護サービスの充実                     | 8. ボランティア活動に関する情報提供 |
| 9. 市民団体等と連携したまちづくり活動                |                     |
| 10. 男女共同参画やワーク・ライフ・バランスに関する市民交流会の開催 |                     |
| 11. 市民団体における女性リーダーの育成               |                     |
| 12. 審議会委員などへの女性委員の積極的登用             |                     |
| 13. 労働時間の見直しに関する啓発                  |                     |
| 14. 災害時における女性の視点を取り入れた防災(災害復興)体制の確立 |                     |
| 15. その他( )                          |                     |

問 48 最後に宇治市の男女共同参画施策に関するご意見等がありましたらご自由にお書きください。


ご協力ありがとうございました。

この調査票は、4月2日(木)までに、同封の返信用封筒に入れて、ポストに投函してください。

## 宇治市男女共同参画に関する事業所調査

### 調査の趣旨とご協力のお願い

日頃は市政に対し、ご理解とご協力をいただき厚くお礼を申し上げます。

本市では、男女共同参画社会を促進するため、2004年(平成16年)10月に「宇治市男女生き生きまちづくり条例」を制定するとともに、2011年(平成23年)3月には「宇治市男女共同参画計画(第3次UJIあさぎりプラン)」を策定して、さまざまな施策を推進していますが、この計画は2015年度(平成27年度)を以って計画期間が満了となることから、引き続き男女共同参画社会の実現に向けた施策を推進していくため、新たな計画を策定することにしています。

つきましては、計画の策定にあたり育児・介護休業や男女の雇用機会均等などに関して市内事業所の実態を把握いたしたく、約300事業所を対象にアンケート調査を実施し、計画策定の基礎資料にして参りたいと考えています。

お忙しいところ誠に恐縮ではございますが、調査の趣旨をご理解いただき、アンケート調査にご協力いただきますようお願い申し上げます。

2015(平成27)年3月

宇治市長 山本 正

1. この調査票は、原則として事業所を代表する方または総務・人事の担当管理職の方がお答えください。
2. 回答は、ほとんどが選択式になっています。それぞれの質問にしたがってあてはまる番号に印をつけてください。「その他」の回答に をつけた場合は( )の中にその内容をご記入ください。
3. お答えいただいた内容は、すべて統計的に処理し、本計画の策定以外の目的で使用することは決してありませんので、率直な意見をご回答ください。また、個人情報の取り扱いについては適正に実施しており、返信いただいた封筒から個人の特定はできませんので、安心してご回答ください。
4. 記入いただいた調査票は、4月2日(木)までに、同封の返信用封筒(切手不要)に入れて、事業所名を書かずに、郵便ポストにご投函ください。

この調査に関するお問い合わせ先

宇治市市民環境部男女共同参画課

TEL 0774-39-9377

FAX 0774-39-9378

E-Mail : danjokyoudou@city.uji.kyoto.jp

1 貴事業所の主な業種をお答えください。(1つ選んでください)

1. 製造業	2. 卸売業
3. 小売・飲食業	4. サービス業
5. 建設業	6. 教育・学習支援業
7. 金融・保険業	8. 不動産業
9. 水道・電気・熱供給業	10. 農林漁業
11. 医療・福祉	12. その他 ( )

問2 貴事業所の構成員についておたずねします。

	男性	女性
正規従業員数	人	人
パート従業員数	人	人
派遣従業員数	人	人
管理職数	人	人
障害者雇用者数(障害者雇用促進法で定める)	人	人
平成26年度の新規採用者(正規)数	人	人
正規従業員の平均勤務年数(平成27年3月31日現在)	年 月	年 月

問3 この調査票の記入者の役職をお答えください

1. 経営者・役員
2. 部長級
3. 課長級
4. その他 ( )



問5で「1. はい」とお答えの方にお聞きします

問5-2 介護休業の取得状況についておたずねします。

	男性	女性
平成26年度の介護休業の取得者数	人	人

問5で「2. いいえ」とお答えの方にお聞きします

問5-3 介護を支援する対策を講じていない理由をお答えください。(いくつ選んでも結構です)

- |                     |                   |
|---------------------|-------------------|
| 1. 制度を知らなかったから      | 2. 代替の要員の確保が困難だから |
| 3. 復帰後の職場の確保が難しいから  | 4. 人件費が増大するから     |
| 5. 他の従業員の負担が大きくなるから | 6. その他( )         |

すべての方にお聞きします

問6 貴事業所では育児を支援する対策を講じていますか。

- |               |                |
|---------------|----------------|
| 1. はい → 問6-1へ | 2. いいえ → 問6-3へ |
|---------------|----------------|

問6で「1. はい」とお答えの方にお聞きします

問6-1 育児を支援する対策はどのようなものですか。(いくつ選んでも結構です)

- |                                     |
|-------------------------------------|
| 1. 就業規則に育児支援に関する規定を定めている            |
| 2. 育児休業制度を導入している                    |
| 3. 育児のため休暇が必要な事業所従業員の希望は聞き入れている     |
| 4. 法律の枠を超える育児休業期間の取得を認めている          |
| 5. 給与に育児等の手当をつけている                  |
| 6. 勤務時間を短縮するなどの措置を講じている             |
| 7. 在宅勤務制度やフレックスタイム制の適用により間接的に支援している |
| 8. 施設やサービスを利用するための援助金を出している         |
| 9. 事業所内に託児施設を設けている(外部に委託している場合も含む)  |
| 10. その他( )                          |

問6で「1. はい」とお答えの方にお聞きします

問6-2 育児休業の取得状況についておたずねします。

	男性	女性
平成26年度の育児休業の取得者数	人	人

問6で「2.いいえ」とお答えの方にお聞きします

問6-3 育児を支援する対策を講じていない理由をお答えください。(いくつ選んでも結構です)

- |                     |                  |
|---------------------|------------------|
| 1. 制度の存在を知らなかったから   | 2. 代替要員の確保が困難だから |
| 3. 復帰後の職場の確保が難しいから  | 4. 人件費が増大するから    |
| 5. 他の従業員の負担が大きくなるから | 6. その他( )        |

すべての方にお聞きします

問7 貴事業所では、次世代育成支援対策推進法に基づく事業主行動計画を策定していますか。  
(1つ選んでください)

- |                  |                       |
|------------------|-----------------------|
| 1. 策定済みである       | 2. 現在策定中、または策定を予定している |
| 3. 今のところ策定の予定はない | 4. その他( )             |

問8 どのような行為をセクシュアル・ハラスメントだと思いますか。(いくつ選んでも結構です)

- |                                |                 |
|--------------------------------|-----------------|
| 1. 身体に触る                       | 2. ダンスや歌などを強要する |
| 3. 身体的な特徴を言う                   | 4. 男女間のうわさをたてる  |
| 5. 既婚・未婚・年齢・子どもの有無などについて、詳しく聞く |                 |
| 6. 「おじさん」「おばさん」「ちゃん」などと呼ぶ      |                 |
| 7. 身体をじろじろ見る                   | 8. わいせつな話をする    |
| 9. わいせつな雑誌・写真・ポスター などを見せる      |                 |
| 10. 交際や性的関係を強要する               | 11. その他( )      |

問9 セクシュアル・ハラスメントが発生する原因は何だと思われますか。(いくつ選んでも結構です)

- |   |
|---|
| 1. 職場で、「女は家庭、男は仕事」といった性的な固定観念の押しつけ(パートナー意識の欠如)があるから |
| 2. 公的な場所である職場へ私的な性的関心を持ち込むから                        |
| 3. プライベートな事柄まで干渉する従業員がいるから                          |
| 4. 男女間には、性的な言動に対する大きな意識の差があるから                      |
| 5. 職場が、雇用管理において男性中心の発想から抜け出せていないから                  |
| 6. その他( )   |



問 11 で「 1 . 取り組んでいる」とお答えの方にお聞きします

問 11- 1 具体的な取り組み内容はどのようなものですか。(いくつ選んでも結構です)

- 1 . 女性従業員比率の数値目標を設けるなど女性の採用が増えるよう努めている
  - 2 . これまで女性が少なかった職種や職務に積極的に女性を配置するようにしている
  - 3 . 公正な人事考課を行い、能力のある女性の昇任・昇格に努めている
  - 4 . 各種研修、教育機会への女性の参加を奨励している
  - 5 . 昇任・昇格試験の受験を女性に奨励している
  - 6 . 職業生活と家庭生活とを両立させ、長く勤められるように、制度の工夫など職場の環境づくりに努めている
  - 7 . 女性の提案や発言を求めるなど、女性の責任感や意識を向上させるために配慮している
  - 8 . 男女平等な職場環境となるよう、社内の意識改革を進めている
  - 9 . 女性の役員・管理職への登用について数値目標を定めている
- ( 内容 : )
- 10 . その他 ( )

問 11 で「 2 . 取り組んでいない」とお答えの方にお聞きします

問 11- 2 取り組んでいない理由をお答えください。(いくつ選んでも結構です)

- 1 . ポジティブ・アクションを知らなかった
- 2 . ポジティブ・アクションは知っているが、取り組めるだけの余裕がない
- 3 . 女性だけあるいは男性だけの事業所なので取り組む必要がない
- 4 . 家族経営の事業所なので取り組んでいない
- 5 . その他 ( )

すべての方にお聞きします

問 12 「ワーク・ライフ・バランス」について貴事業所の状況をお聞きします。貴事業所では「ワーク・ライフ・バランス」に取り組んでいますか。( 1 つ選んでください)

ワーク・ライフ・バランス

「仕事と生活の調和」と訳され、やりがいのある仕事と充実した個人生活の両者をうまく調和させ、個人が持っている能力を最大限に発揮できるようにすることをいいます。

- 1 . 積極的に、ワーク・ライフ・バランスを実践している
- 2 . 今後、積極的に取り組んでいきたい
- 3 . 労働関係法等で定められた範囲で取り組んでいる
- 4 . 取り組んでいきたいが余裕がない
- 5 . ワーク・ライフ・バランスが何かを知らない
- 6 . ワーク・ライフ・バランスには反対

問 12 で、「1」「2」「3」とお答えの方にお聞きします。

問 12-1 貴事業所では、ワーク・ライフ・バランスの取り組みとして、どのようなことを実施していますか。(いくつか選んでも結構です)

1. 経営戦略等にワーク・ライフ・バランスを進める趣旨を盛り込んでいる
2. 法律で禁止されている育児休業や短時間勤務制度の利用による不利益取り扱いについて、社内でもこれに準じた規則を設けている
3. ワーク・ライフ・バランスに関する情報提供・相談を行う組織・担当を設けている
4. 家庭の事情によっては、勤務地を考慮している
5. ノー残業デーを設ける等長時間労働を行わないような意識改革を促している
6. 従業員相互で業務を共有するなど作業の効率化を図っている
7. 従業員一人ひとりに対して、定期的に面談を実施している
8. ワーク・ライフ・バランスに関する研修を実施している
9. その他( )

すべての方にお聞きします。

問 13 ワーク・ライフ・バランスの取り組みとして、どのようなものが効果があると思いますか。(いくつか選んでも結構です)

1. 経営戦略等にワーク・ライフ・バランスを進める趣旨を盛り込む
2. 法律で禁止されている育児休業や短時間勤務制度の利用による不利益取り扱いについて、社内でもこれに準じた規則を設ける
3. ワーク・ライフ・バランスに関する情報提供・相談を行う組織・担当を設ける
4. 家庭の事情によっては、勤務地を考慮する
5. ノー残業デーを設ける等長時間労働を行わないような意識改革を促す
6. 従業員相互で業務を共有するなど作業の効率化を図る
7. 従業員一人ひとりに対して、定期的に面談を実施する
8. ワーク・ライフ・バランスに関する研修を実施する
9. その他( )

問 14 ワーク・ライフ・バランスを進めることにより、事業所としてどのような効果が期待できると思いますか。(主なもの3つを選んでください)

1. 優秀な人材を採用できる
2. 中途退職する従業員が減少する
3. 人件費コスト・募集コストを軽減できる
4. 地域社会への貢献度が高い企業、先駆的な企業など企業イメージ向上につなげることができる
5. 従業員の意欲が高まり、生産性の向上につながる
6. チームや組織で助け合う雰囲気醸成される
7. 従業員全体の業務効率化に向けての意識改革を図ることができる
8. 組織・業務体制の見直しにより、業務効率が向上する
9. 多様な価値観や生活者の視点・消費者の視点を本業に活かすことができる
10. その他( )
11. 特にない

問 15 今後、男女共同参画社会の形成へ向けてどのようなことが重要だと思いますか。  
(いくつ選んでも結構です)

1. 政策・方針決定過程への女性の参画の拡大を図る
2. 男女共同参画の観点に立って社会制度・慣行・慣習などの見直しを行う
3. 政策や方針決定の場における女性の登用促進を進める
4. 国民的な広がりを持った広報・啓発活動を展開する
5. 女性が自らに保障された法律上の権利や権利侵害に対する対応などについて正確な知識が得られるような環境や相談体制を充実させる
6. 男女共同参画にかかわる情報の収集・整理・提供を充実させる
7. 雇用の分野における男女の均等な機会と待遇が確保できるよう対策をする
8. 雇用の分野における母性保健のための女性健康管理対策や、生涯を通じた女性の健康保持増進対策を推進する
9. 女性の能力発揮促進のための援助制度を設ける
10. 女性の多様な就業ニーズを踏まえた環境の整備を図る
11. 多様なライフスタイルに合わせた子育て支援策を充実させる
12. 仕事と育児・介護の両立のために雇用環境を整備する
13. 家庭生活、地域社会への男女の共同参画を促進する
14. 高齢者が安心して暮らせる介護体制を構築する
15. 高齢期の所得を保障し、高齢者の社会参画や自立等を容易にする社会基盤を整備する
16. 障害のある人に対するサービスを充実する
17. 女性に対する暴力をなくすための基盤づくりを推進する
18. セクシュアル・ハラスメント防止対策を推進する
19. 性犯罪や売買春への対策を推進する
20. 女性の人権を尊重したメディアの取り組みを支援し、拡大する
21. 家庭・地域・学校・職場で男女平等教育を推進する
22. 多様な選択を可能にする教育・学習の機会を充実させる
23. その他 ( )



宇治市男女共同参画に関する  
市民意識・実態調査および事業所調査  
結果報告書

2015(平成 27)年 9 月

編集・発行 宇治市市民環境部男女共同参画課  
〒611-0021 宇治市宇治里尻 5-9  
JR 宇治駅前市民交流プラザ「ゆめりあうじ」内  
(0774) 39-9377 Fax (0774) 39-9378